

## IV 調査結果

### 1 社会における制度・慣行について

#### 1 静岡県における男女共同参画の機会の確保

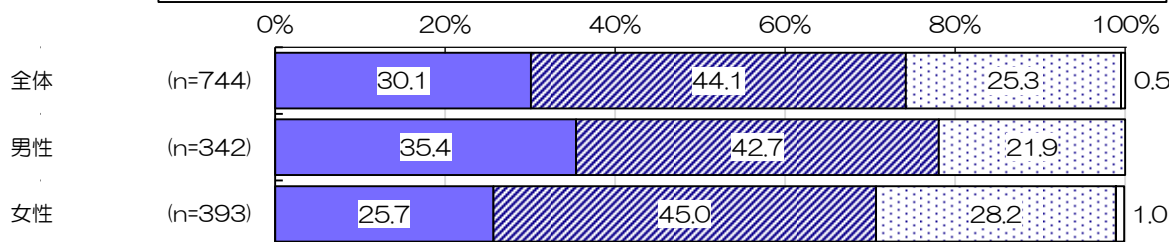
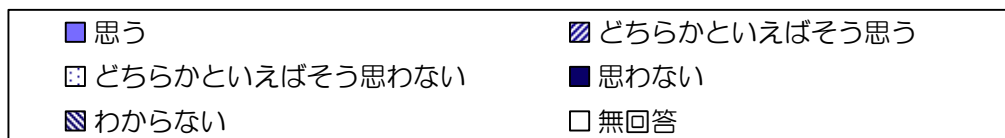
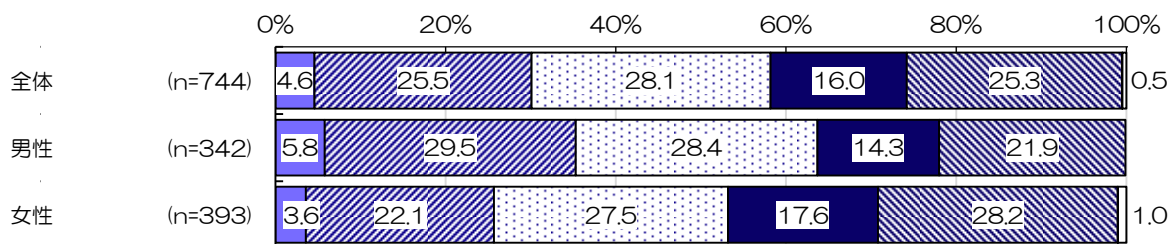
問1 本県において、男女が性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができる機会が確保されていると思いますか。(1つに○)

確保されていると『思う』人は30.1%、『思わない』人は44.1%

性別関係なく能力等を発揮できる場の有無では、『思わない』(44.1%、「思わない」+「どちらかといえばそう思わない」)が最も多く、次に『思う』(30.1%、「思う」+「どちらかといえばそう思う」)となっています。

性・年代別で見ると、20代男性は、『思う』(53.3%、「思う」+「どちらかといえばそう思う」)が多くなっています。60代男性は、『思わない』(54.5%、「思わない」+「どちらかといえばそう思わない」)が多くなっています。50代女性は、『思わない』(48.3%、「思わない」+「どちらかといえばそう思わない」)が多くなっています。60代女性は、『思わない』(59.7%、「思わない」+「どちらかといえばそう思わない」)が多くなっています。

20代男性は同年代の女性よりも『思う』が多くなっています。

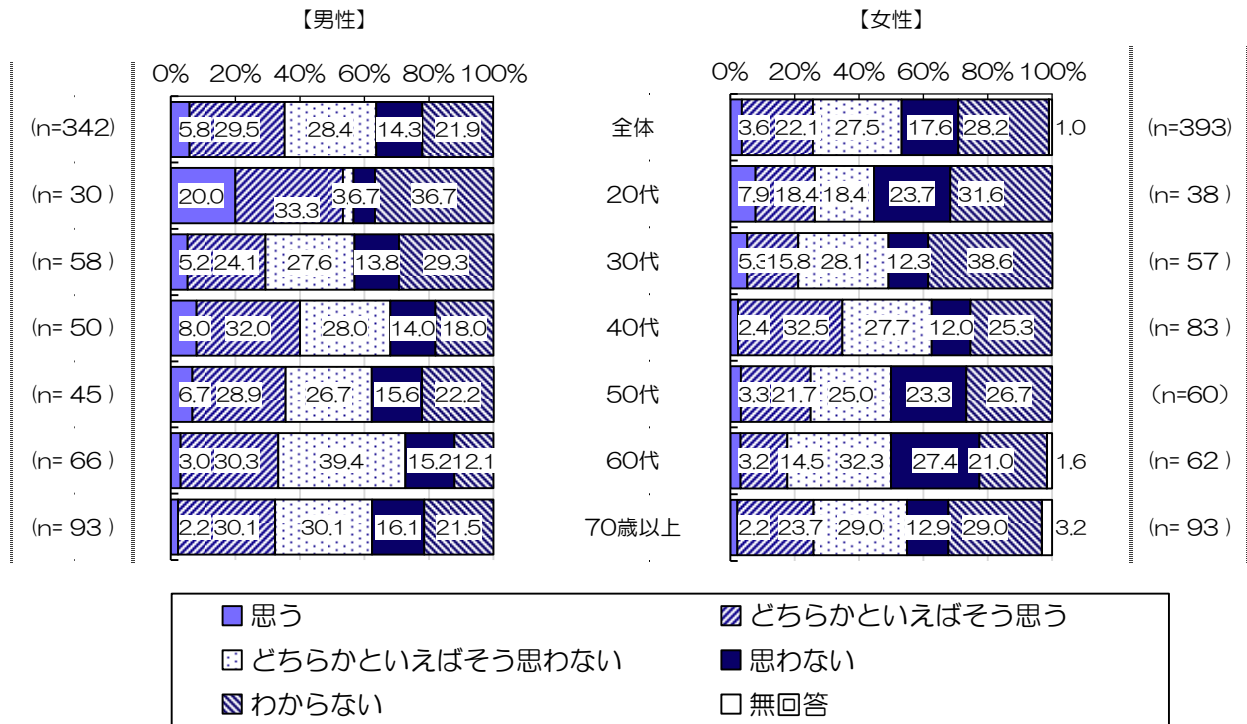


IV 調査結果

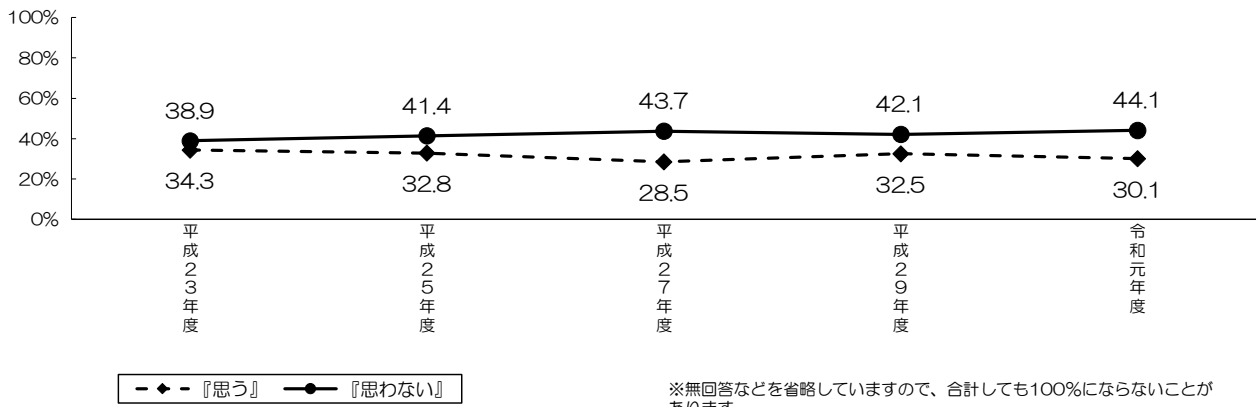
1 社会における制度・慣行について

1 静岡県における男女共同参画の機会の確保

【性・年代別】



【経年比較】



	調査数	思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	思わない	わからない	無回答
平成23年度	577	8.1%	26.2%	26.9%	12.0%	25.3%	1.6%
平成25年度	793	6.9%	25.9%	27.2%	14.2%	23.7%	2.0%
平成27年度	899	7.7%	20.8%	29.5%	14.2%	26.9%	0.9%
平成29年度	782	5.4%	27.1%	28.5%	13.6%	25.3%	0.1%
令和元年度	744	4.6%	25.5%	28.1%	16.0%	25.3%	0.5%

- 1 社会における制度・慣行について
- 2 社会全体における男女平等感

## 2 社会全体における男女平等感

問2 あなたは、社会全体で見た場合、男女は平等になっていると思いますか。(1つに○)

『男性が優遇されている』と感じている人は67.1%。男性では、20代、30代、40代で『女性が優遇されている』と回答する人が多くなっています。

社会全体での男女平等についての現状認識では、『男性が優遇されている』(67.1%、「男性が非常に優遇されている」+「どちらかといえば男性が優遇されている」)が最も多く、次に『平等』(9.8%)、『女性が優遇されている』(9.3%、「女性が非常に優遇されている」+「どちらかといえば女性が優遇されている」)となっています。

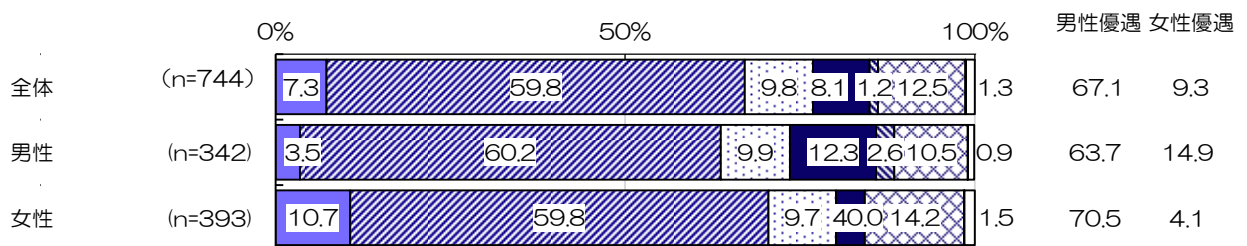
年代別でみると、60代は、『男性が優遇されている』(79.7%、「男性が非常に優遇されている」+「どちらかといえば男性が優遇されている」)が多くなっています。

経年比較でみると、『男性優遇』(「男性が非常に優遇されている」+「どちらかといえば男性が優遇されている」)が緩やかに減少しています。

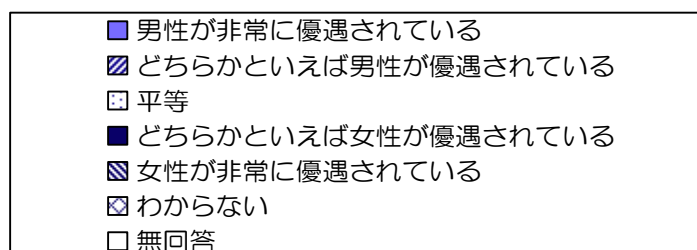
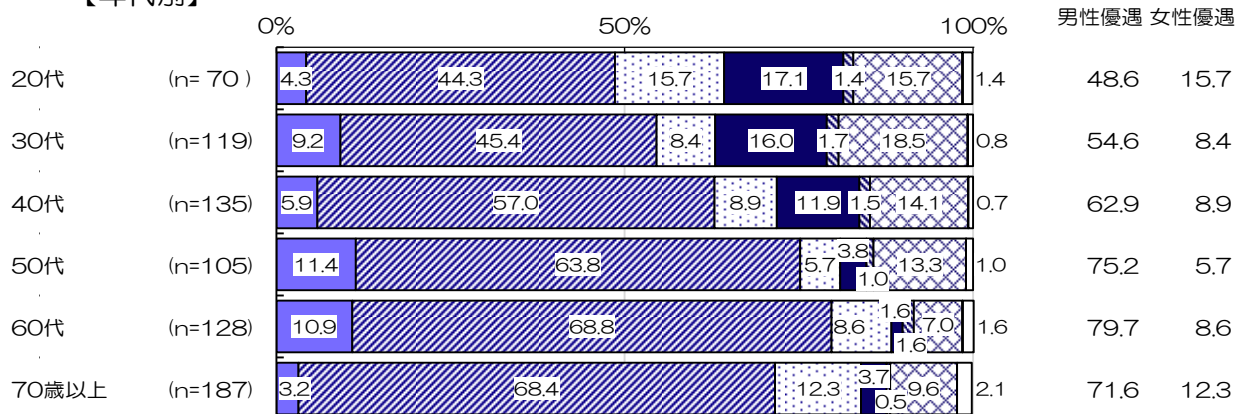
平成27年度以降、「どちらかといえば男性が優遇されている」が減少傾向にあります。

性・年代別で得点をみると、男性は女性よりも30代では0.55点少なく、やや『女性優遇』寄りになっています。

子どもの有無別で得点をみると、男性は女性よりも子どもはいる人では0.58点少なく、やや『女性優遇』寄りになっています。



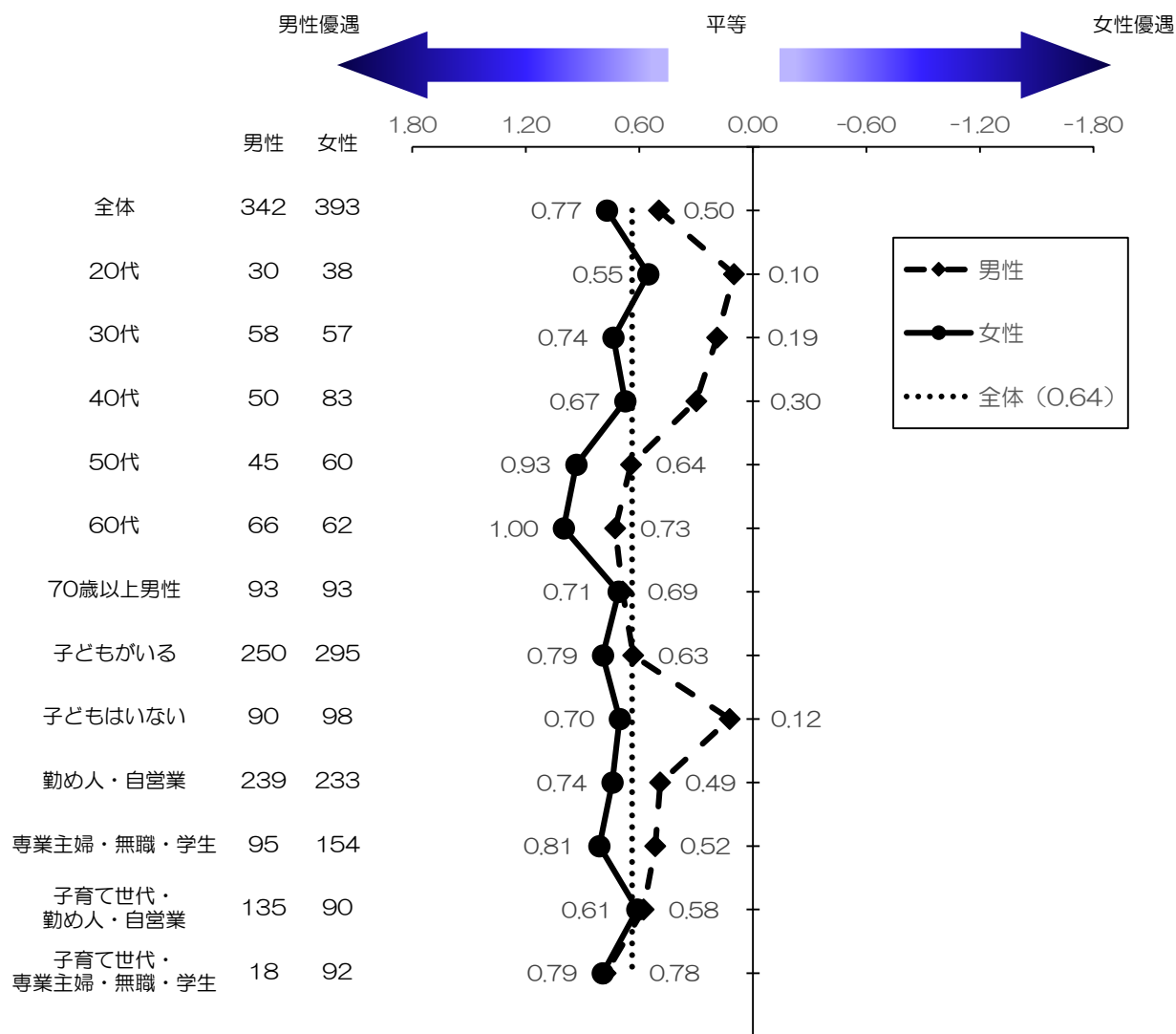
### 【年代別】



#### IV 調査結果

- 1 社会における制度・慣行について
- 2 社会全体における男女平等感

#### 【属性別 得点】



#### 【得点算出方法】

各選択肢を

男性が非常に優遇	2点
どちらかといえば男性が優遇	1点
平等	0点
どちらかといえば女性が優遇	-1点
女性が非常に優遇	-2点

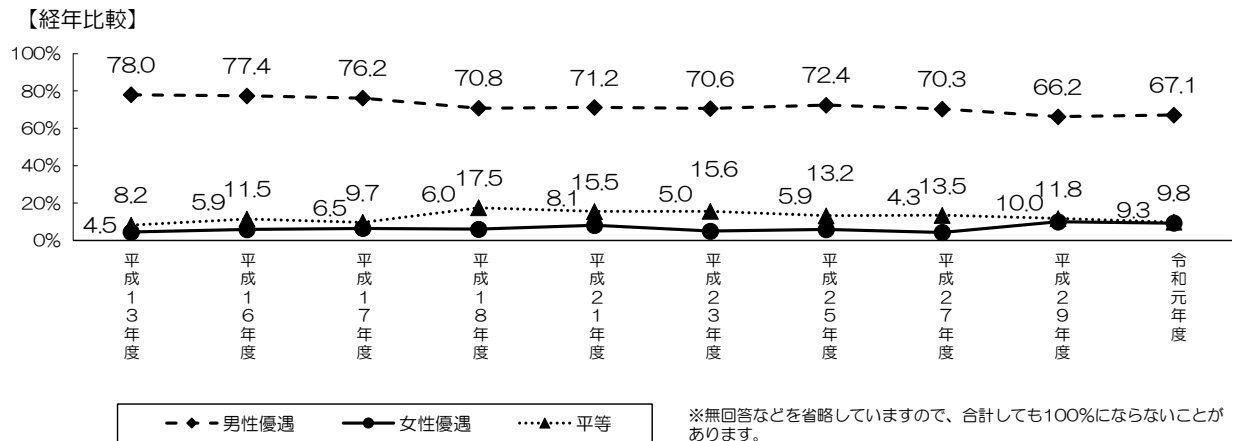
とし、平均点を算出しました。

※ 「子育て世代」とは「20～50代」で「子どもがいる」と回答した対象者を指します。

#### IV 調査結果

##### 1 社会における制度・慣行について

##### 2 社会全体における男女平等感



	調査数	男性が非常に優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている	平等	どちらかといえば女性が優遇されている	女性が非常に優遇されている	わからない	無回答
平成13年度	1,133	10.7%	67.3%	8.2%	4.0%	0.5%	5.8%	3.4%
平成16年度	800	6.9%	70.5%	11.5%	5.6%	0.3%	4.5%	0.8%
平成17年度	836	6.5%	69.7%	9.7%	5.9%	0.6%	6.5%	1.2%
平成18年度	570	7.5%	63.3%	17.5%	5.6%	0.4%	5.1%	0.5%
平成21年度	653	7.8%	63.4%	15.5%	7.5%	0.6%	4.4%	0.8%
平成23年度	577	6.1%	64.5%	15.6%	4.3%	0.7%	8.1%	0.7%
平成25年度	793	7.2%	65.2%	13.2%	5.0%	0.9%	7.4%	1.0%
平成27年度	899	7.1%	63.2%	13.5%	3.7%	0.6%	11.3%	0.7%
平成29年度	782	5.5%	60.7%	11.8%	9.0%	1.0%	11.6%	0.4%
令和元年度	744	7.3%	59.8%	9.8%	8.1%	1.2%	12.5%	1.3%

IV 調査結果

- 1 社会における制度・慣行について
- 3 各分野における男女平等感

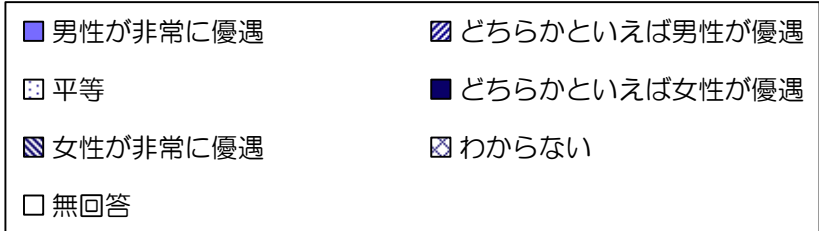
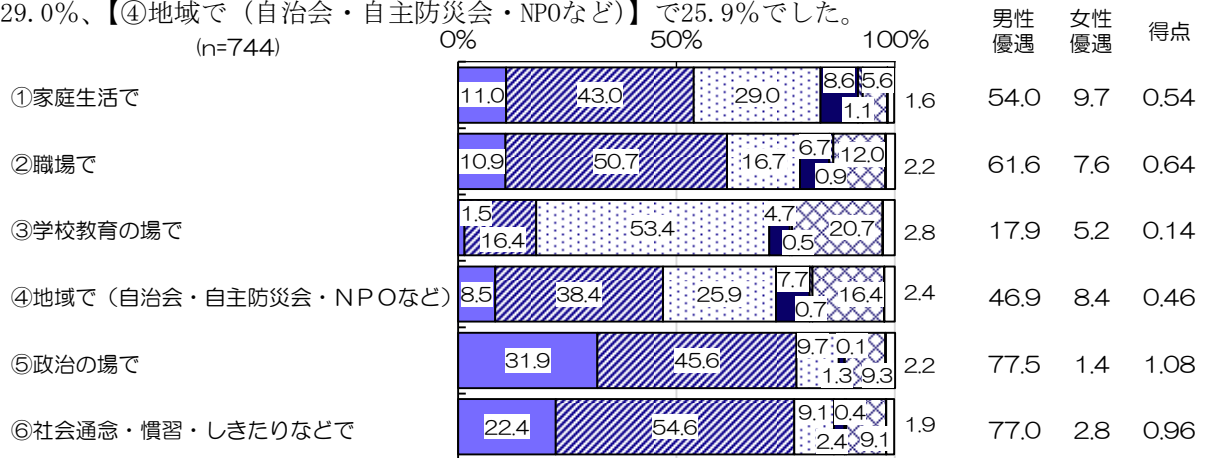
3 各分野における男女平等感

問3 あなたは、次の分野で男女が平等であると思いますか。(それぞれ1つに○)

【③学校教育の場で】以外の分野では『男性優位』と感じる割合が高くなっています。

男女平等感に関することがらで最も「男性が非常に優遇」が多かったのは【⑤政治の場で】で31.9%でした。次に、【⑥社会通念・慣習・しきたりなどで】が22.4%でした。

最も「平等」が多かったのは【③学校教育の場で】で53.4%でした。次に、【①家庭生活で】で29.0%、【④地域で(自治会・自主防災会・NPOなど)】で25.9%でした。



① 家庭生活で

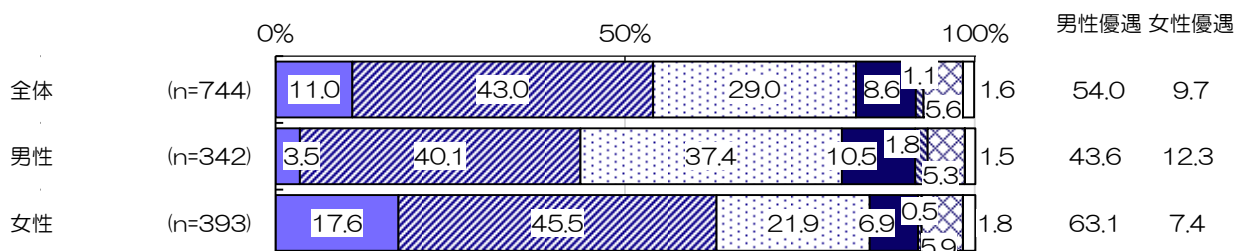
男性全体では『平等』だと感じている人が多くなっています。

性・年代別でみると、20代男性は、『平等』(40.0%)、『女性優遇』(30.0%、「女性が非常に優遇」+「どちらかといえば女性が優遇」)が多くなっています。30代男性は、『平等』(44.8%)が多くなっています。40代男性は、『女性優遇』(24.0%、「女性が非常に優遇」+「どちらかといえば女性が優遇」)が多くなっています。30代女性は、『男性優遇』(64.9%、「男性が非常に優遇」+「どちらかといえば男性が優遇」)が多くなっています。

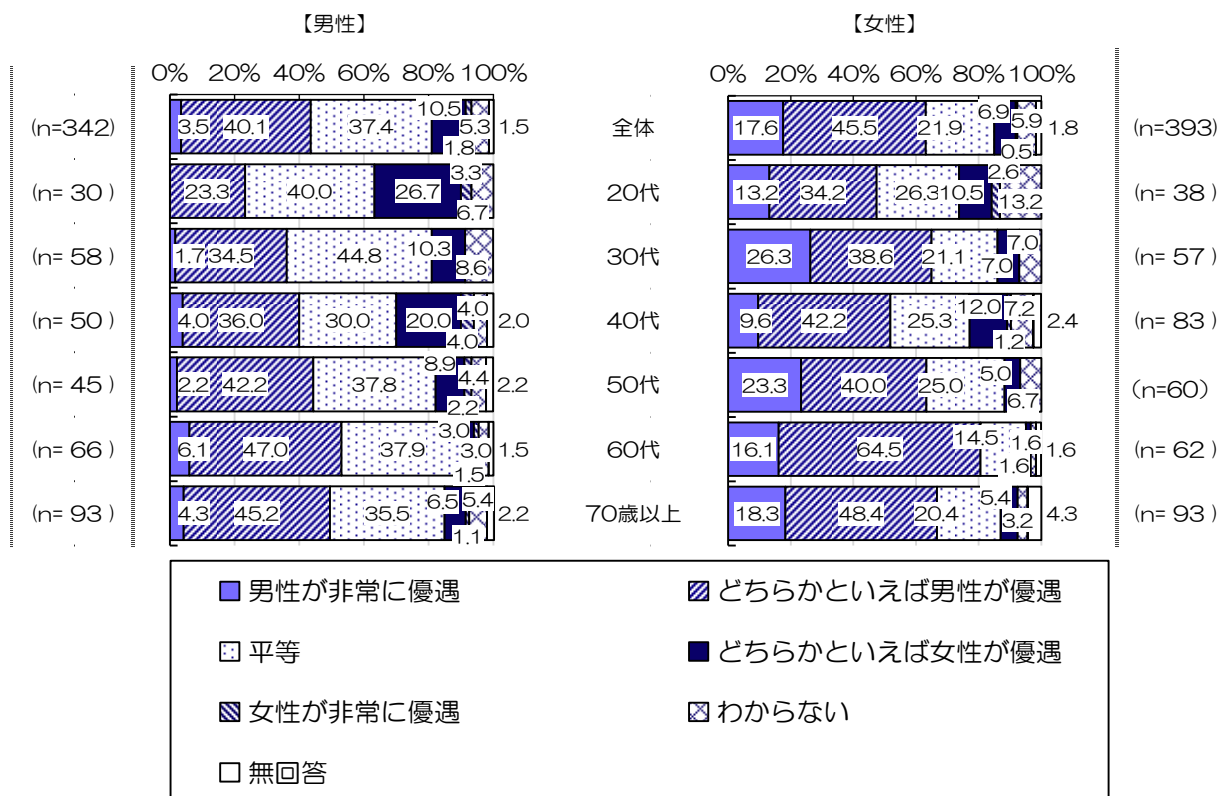
60代女性は、『男性優遇』(80.6%、「男性が非常に優遇」+「どちらかといえば男性が優遇」)が多くなっています。70歳以上女性は、『男性優遇』(66.7%、「男性が非常に優遇」+「どちらかといえば男性が優遇」)が多くなっています。

30代男性、60代男性は同年代の女性よりも『平等』が多くなっています。

性・年代別で得点をみると、男性は女性よりも20代では0.55点少なく、30代では0.56点少なく、やや『女性優遇』寄りになっています。



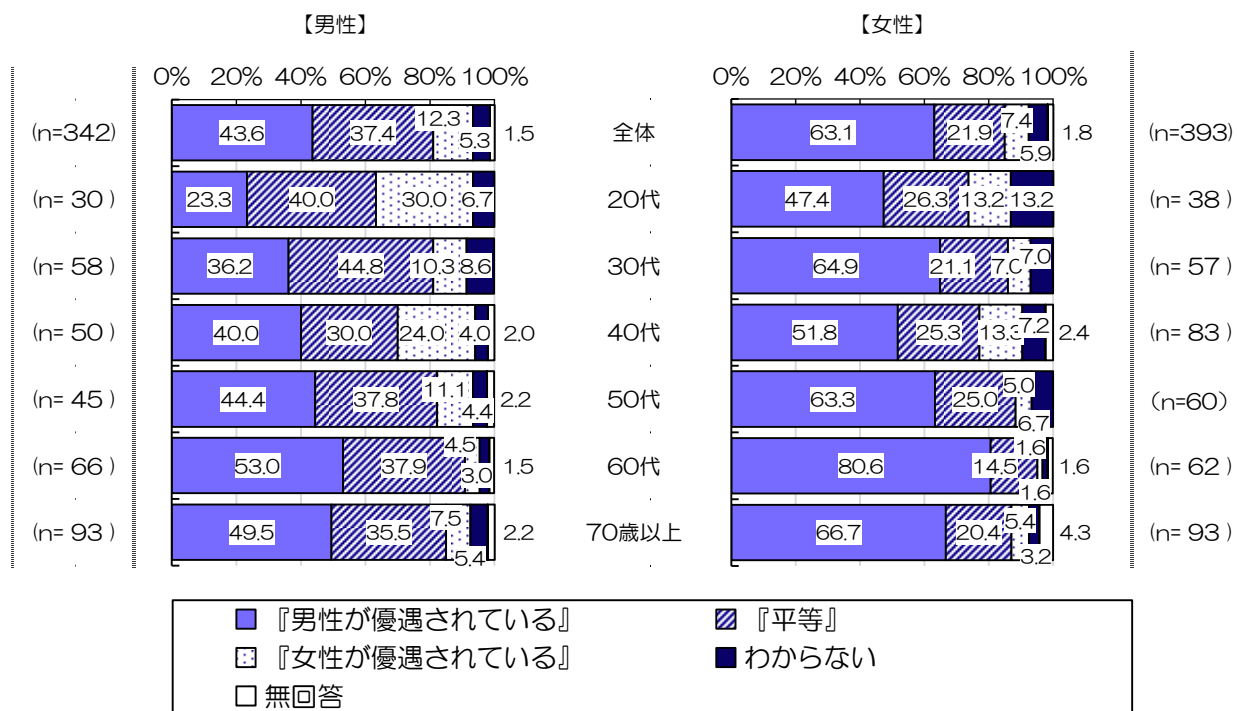
【性・年代別】



IV 調査結果

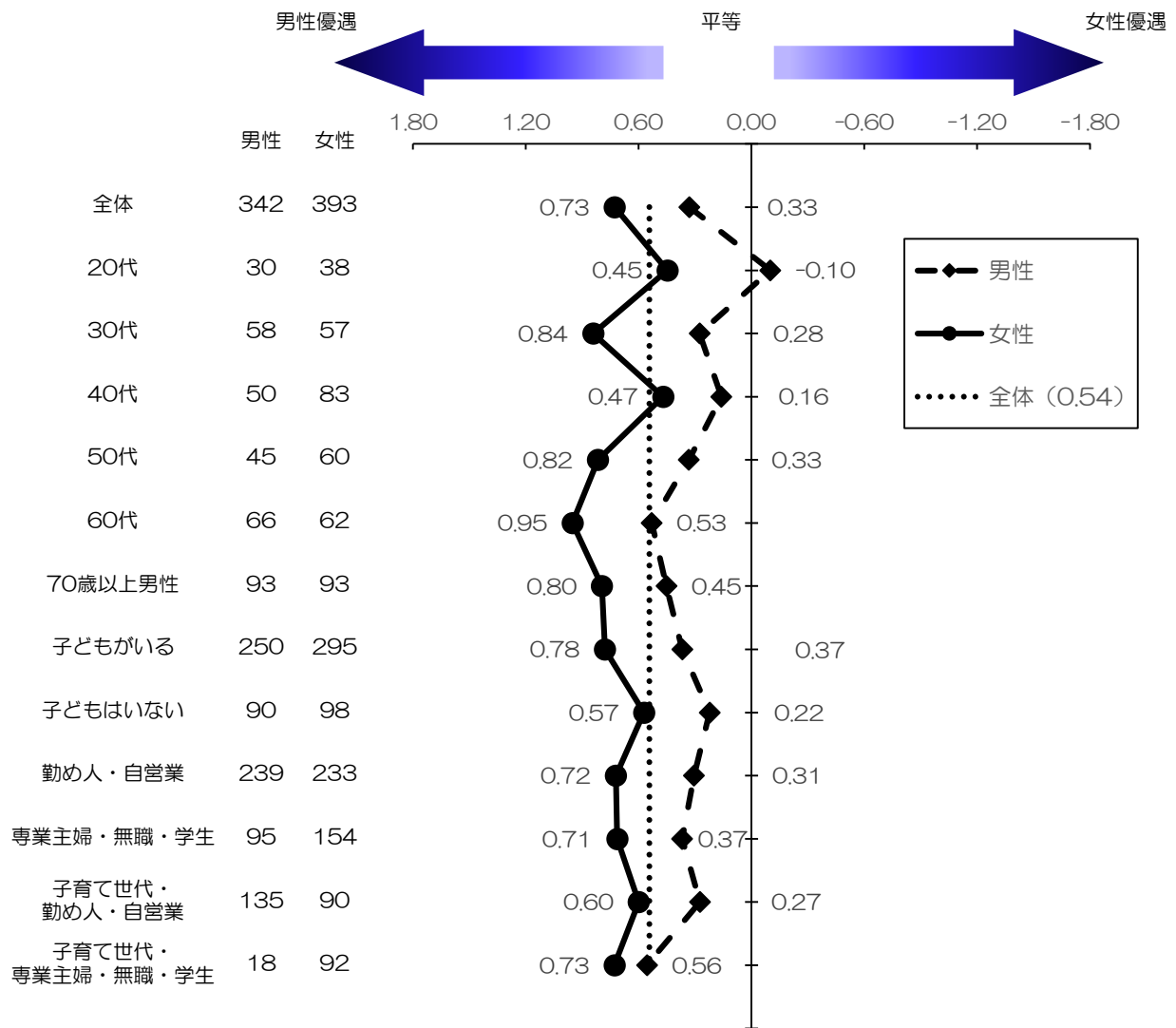
- 1 社会における制度・慣行について
- 3 各分野における男女平等感

【性・年代別】





【属性別 得点】



【得点算出方法】

各選択肢を

- 男性が非常に優遇 2点
- どちらかといえば男性が優遇 1点
- 平等 0点
- どちらかといえば女性が優遇 -1点
- 女性が非常に優遇 -2点

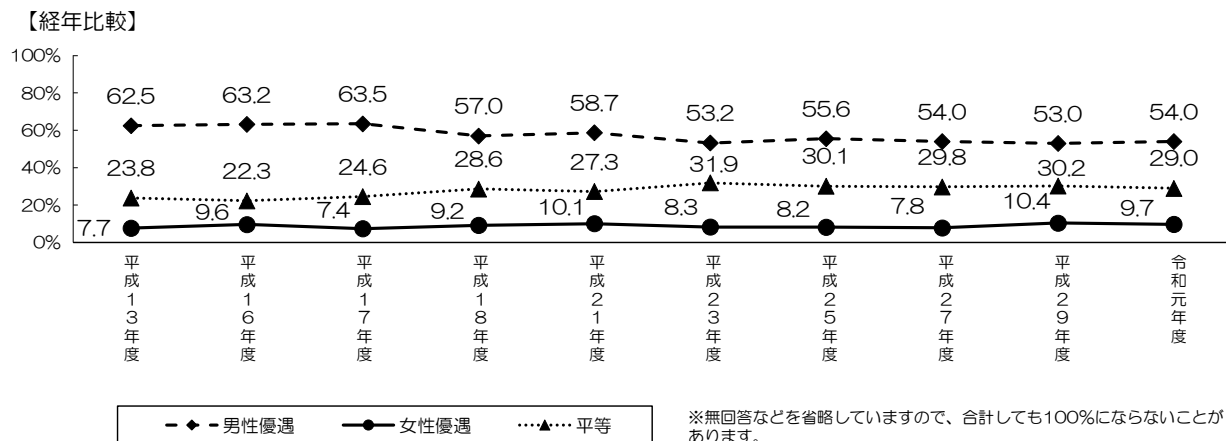
とし、平均点を算出しました。

※ 「子育て世代」とは「20～50代」で「子どもがいる」と回答した対象者を指します。

#### IV 調査結果

##### 1 社会における制度・慣行について

##### 3 各分野における男女平等感

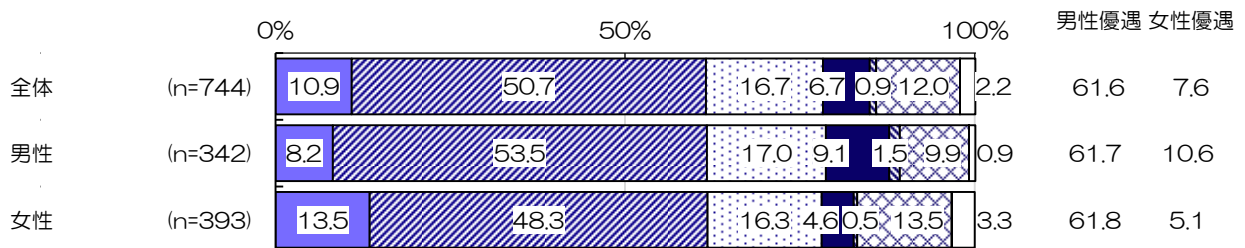


	調査数	男性が非常に優遇	どちらかといえば男性が優遇	平等	どちらかといえば女性が優遇	女性が非常に優遇	わからない	無回答
平成13年度	1,133	12.4%	50.1%	23.8%	7.1%	0.6%	3.7%	2.2%
平成16年度	800	10.1%	53.1%	22.3%	8.6%	1.0%	2.9%	2.0%
平成17年度	836	11.0%	52.5%	24.6%	6.1%	1.3%	2.9%	1.6%
平成18年度	570	9.1%	47.9%	28.6%	8.1%	1.1%	2.8%	2.5%
平成21年度	653	10.6%	48.1%	27.3%	8.6%	1.5%	2.5%	1.5%
平成23年度	577	9.5%	43.7%	31.9%	6.6%	1.7%	5.0%	1.6%
平成25年度	793	10.5%	45.1%	30.1%	7.3%	0.9%	4.2%	1.9%
平成27年度	899	12.0%	42.0%	29.8%	6.8%	1.0%	5.8%	2.6%
平成29年度	782	10.4%	42.6%	30.2%	8.7%	1.7%	5.4%	1.2%
令和元年度	744	11.0%	43.0%	29.0%	8.6%	1.1%	5.6%	1.6%

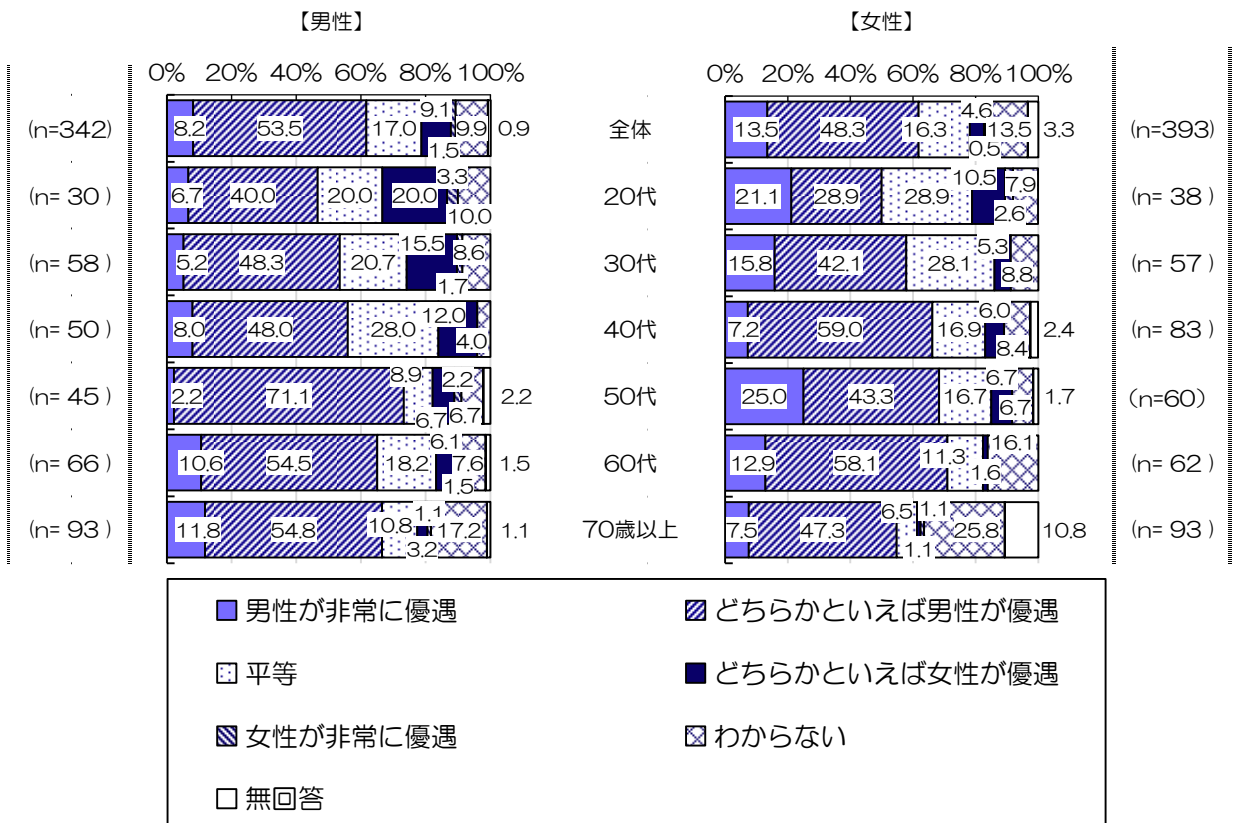
② 職場で

『男性優遇』だと感じている人は半数を超えています。

性・年代別でみると、20代男性は、『女性優遇』（23.3%、「女性が非常に優遇」+「どちらかといえば女性が優遇」）が多くなっています。40代男性は、『平等』（28.0%）が多くなっています。50代男性は、『男性優遇』（73.3%、「男性が非常に優遇」+「どちらかといえば男性が優遇」）が多くなっています。20代、30代女性は、『平等』が多くなっています。



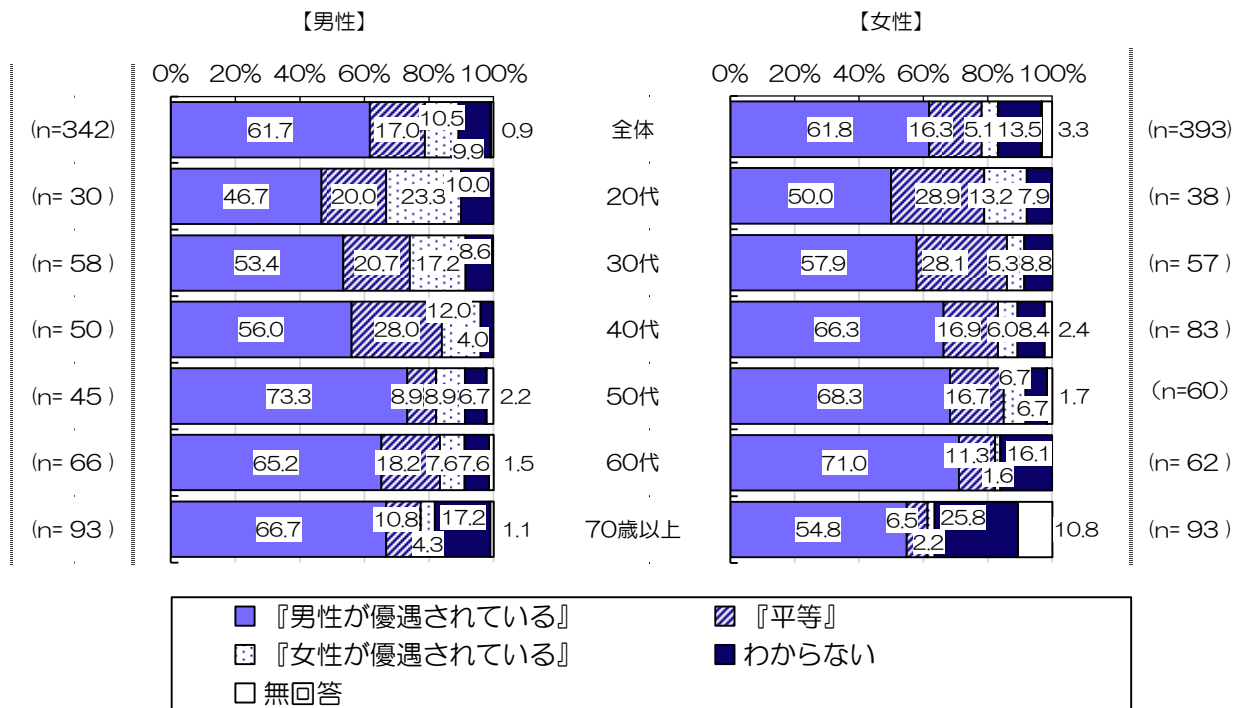
【性・年代別】



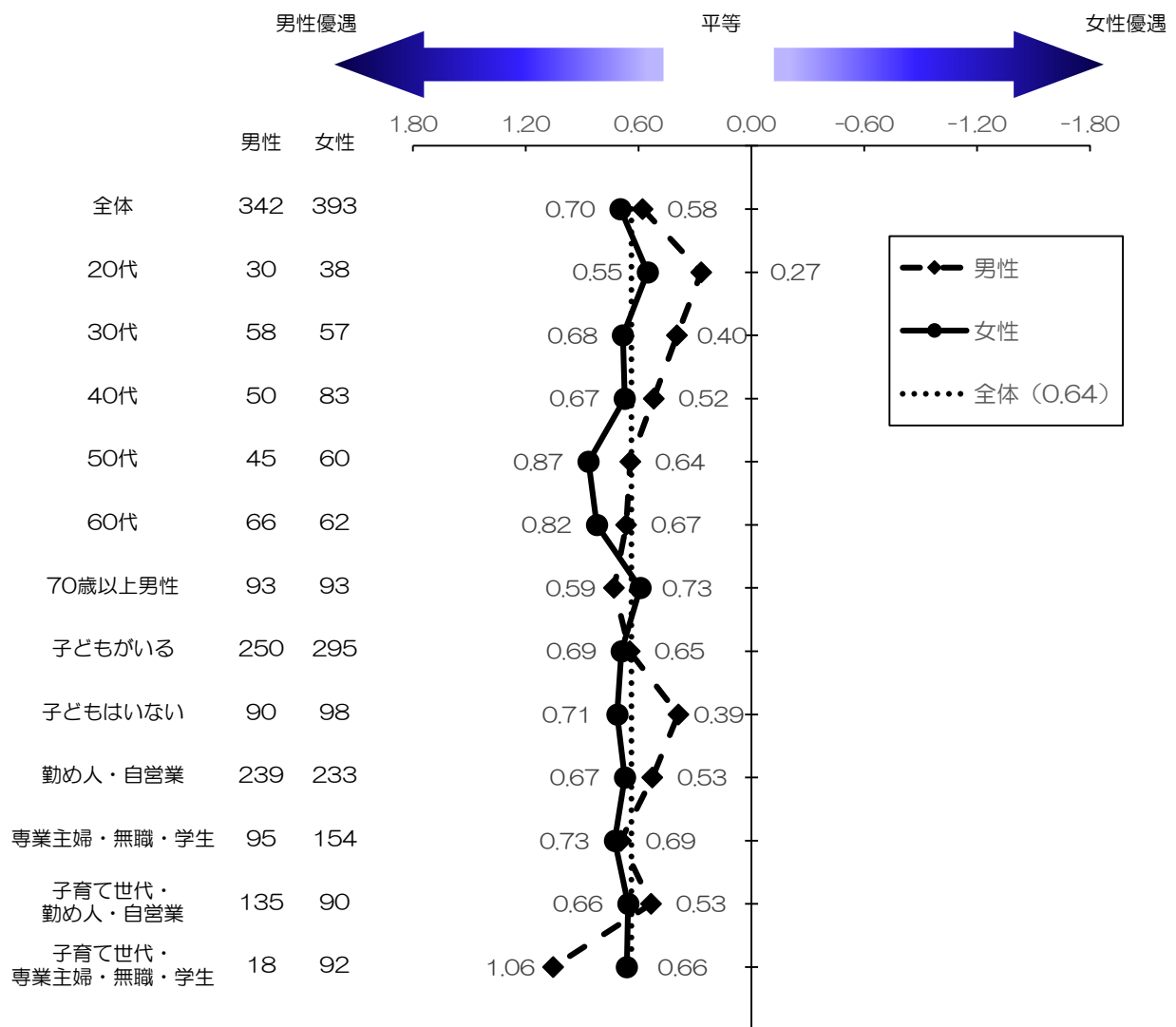
IV 調査結果

- 1 社会における制度・慣行について
- 3 各分野における男女平等感

【性・年代別】



【属性別 得点】



【得点算出方法】

各選択肢を

- 男性が非常に優遇 2点
- どちらかといえば男性が優遇 1点
- 平等 0点
- どちらかといえば女性が優遇 -1点
- 女性が非常に優遇 -2点

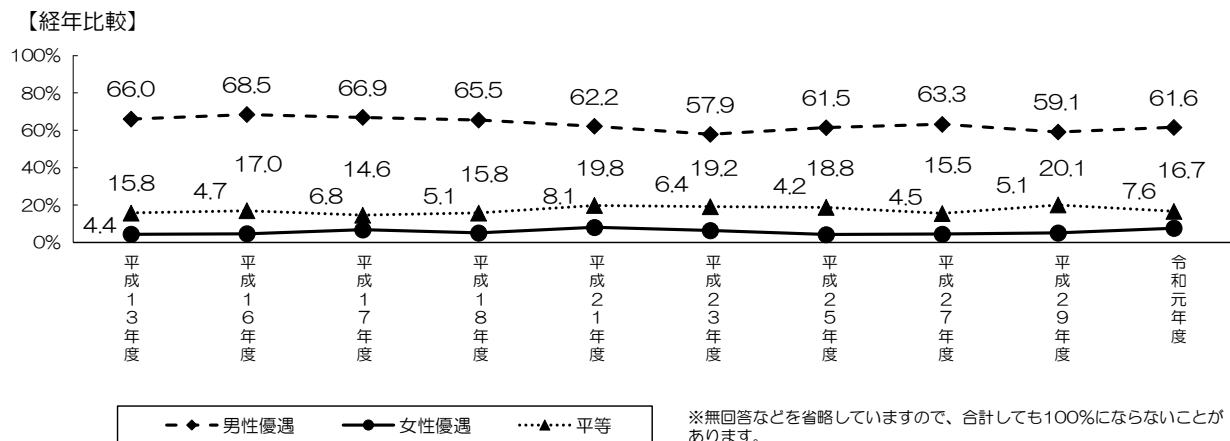
とし、平均点を算出しました。

※ 「子育て世代」とは「20～50代」で「子どもがいる」と回答した対象者を指します。

#### IV 調査結果

##### 1 社会における制度・慣行について

##### 3 各分野における男女平等感

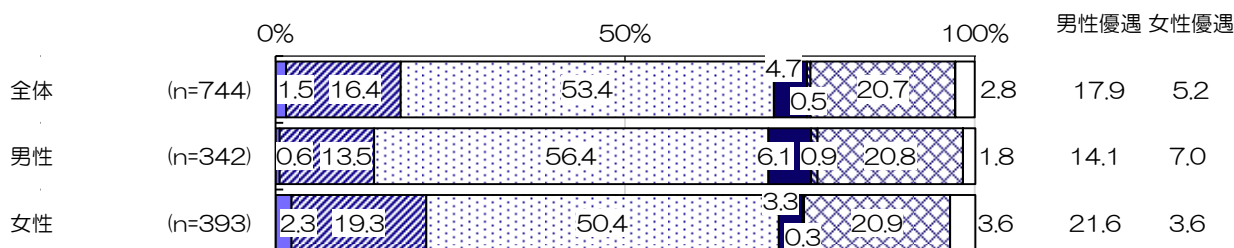


	調査数	男性が非常に優遇	どちらかといえば男性が優遇	平等	どちらかといえば女性が優遇	女性が非常に優遇	わからない	無回答
平成13年度	1,133	19.2%	46.8%	15.8%	4.0%	0.4%	9.2%	4.8%
平成16年度	800	18.5%	50.0%	17.0%	4.6%	0.1%	6.3%	3.5%
平成17年度	836	15.9%	51.0%	14.6%	6.1%	0.7%	7.8%	3.9%
平成18年度	570	17.4%	48.1%	15.8%	4.2%	0.9%	8.9%	4.7%
平成21年度	653	16.1%	46.1%	19.8%	7.2%	0.9%	7.7%	2.3%
平成23年度	577	13.5%	44.4%	19.2%	5.2%	1.2%	11.3%	5.2%
平成25年度	793	16.6%	44.9%	18.8%	3.4%	0.8%	10.5%	5.0%
平成27年度	899	15.1%	48.2%	15.5%	4.1%	0.4%	12.5%	4.2%
平成29年度	782	13.2%	45.9%	20.1%	4.3%	0.8%	12.3%	3.5%
令和元年度	744	10.9%	50.7%	16.7%	6.7%	0.9%	12.0%	2.2%

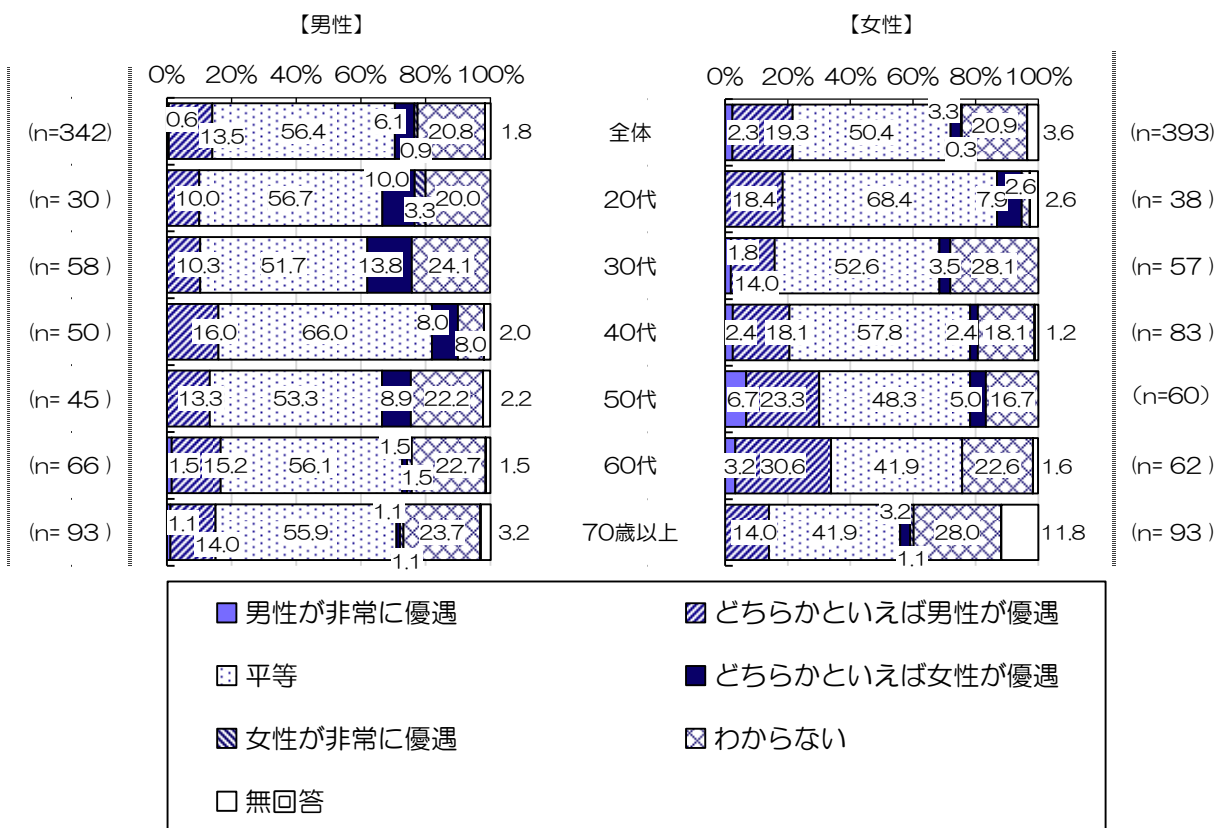
③ 学校教育の場で

『平等』だと感じている人は半数を超えています。

性・年代別でみると、40代男性は、『平等』(66.0%)が多くなっています。20代女性は、『平等』(68.4%)が多くなっています。50代女性は、『男性優遇』(30.0%、「男性が非常に優遇」+「どちらかといえば男性が優遇」)が多くなっています。60代女性は、『男性優遇』(33.9%、「男性が非常に優遇」+「どちらかといえば男性が優遇」)が多くなっています。



【性・年代別】

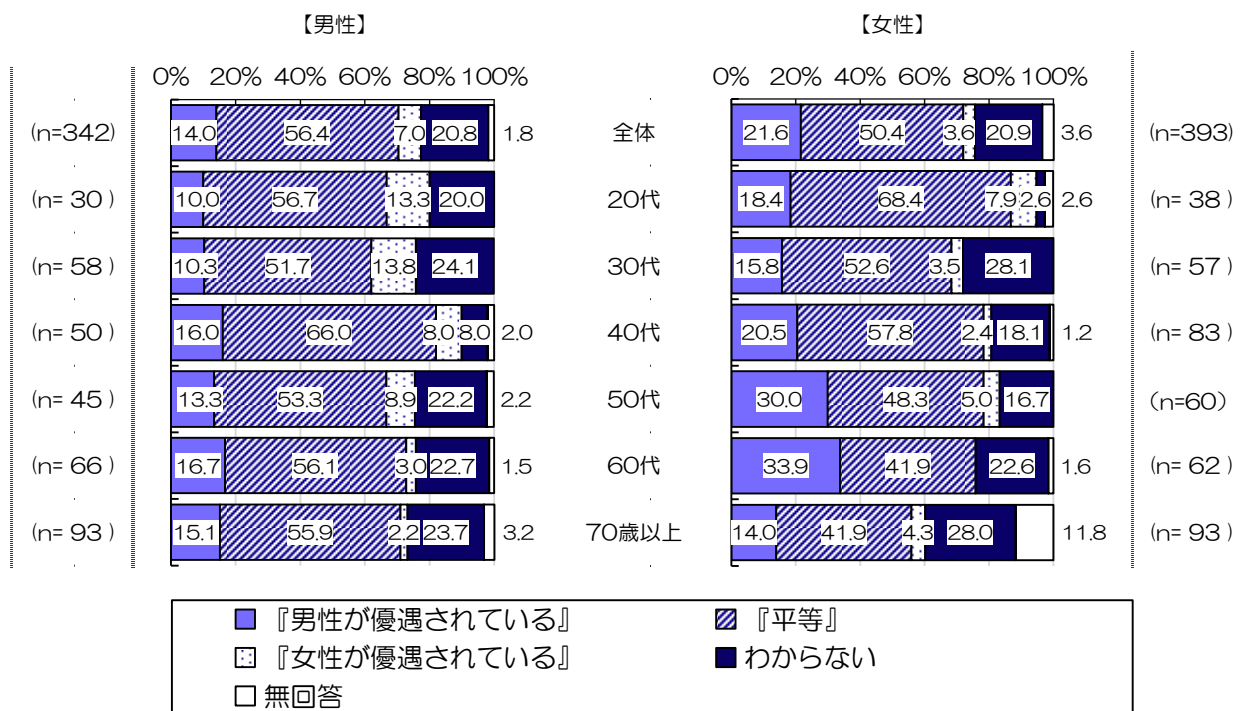


IV 調査結果

1 社会における制度・慣行について

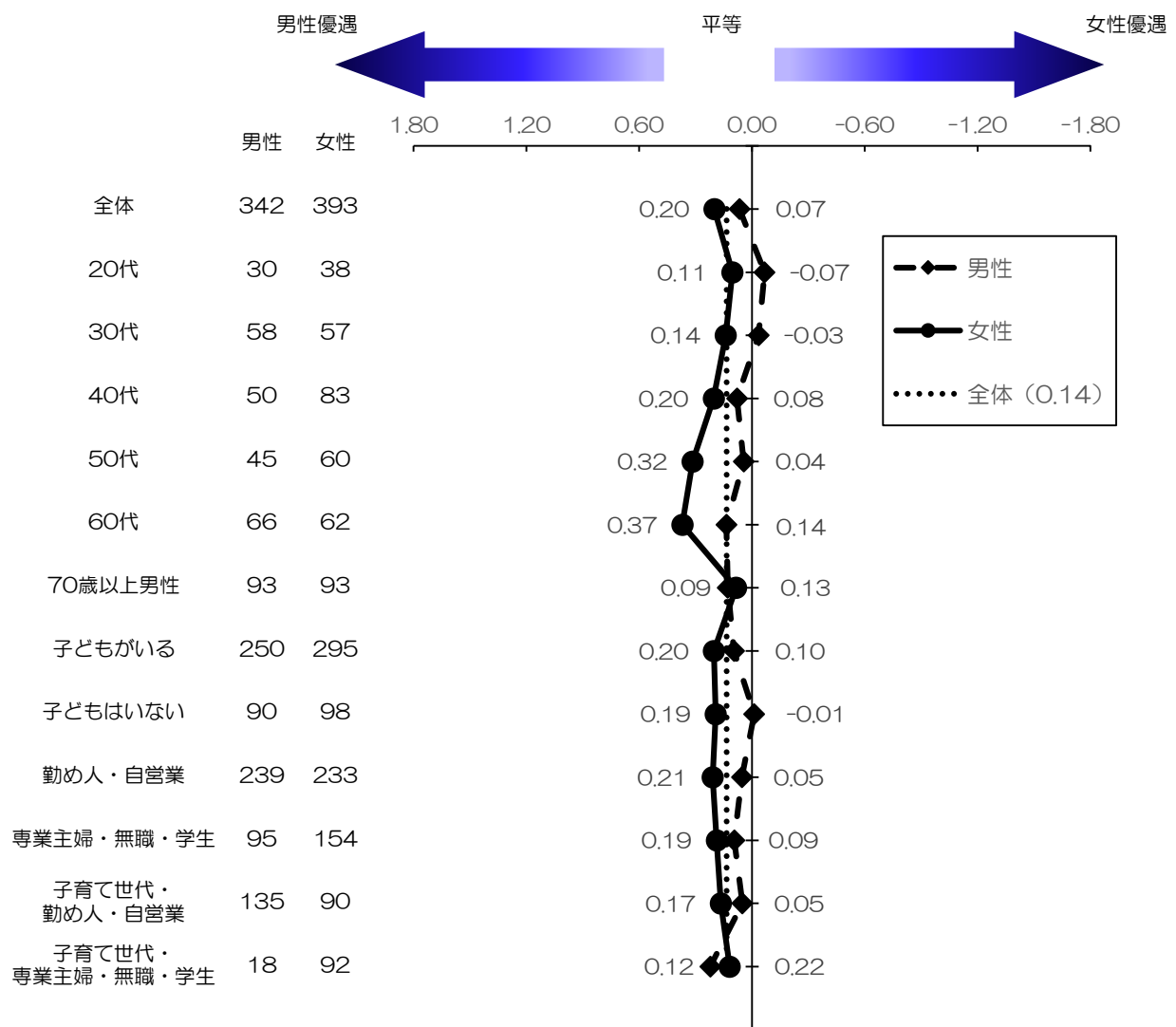
3 各分野における男女平等感

【性・年代別】





【属性別 得点】



【得点算出方法】

各選択肢を

- 男性が非常に優遇 2点
- どちらかといえば男性が優遇 1点
- 平等 0点
- どちらかといえば女性が優遇 -1点
- 女性が非常に優遇 -2点

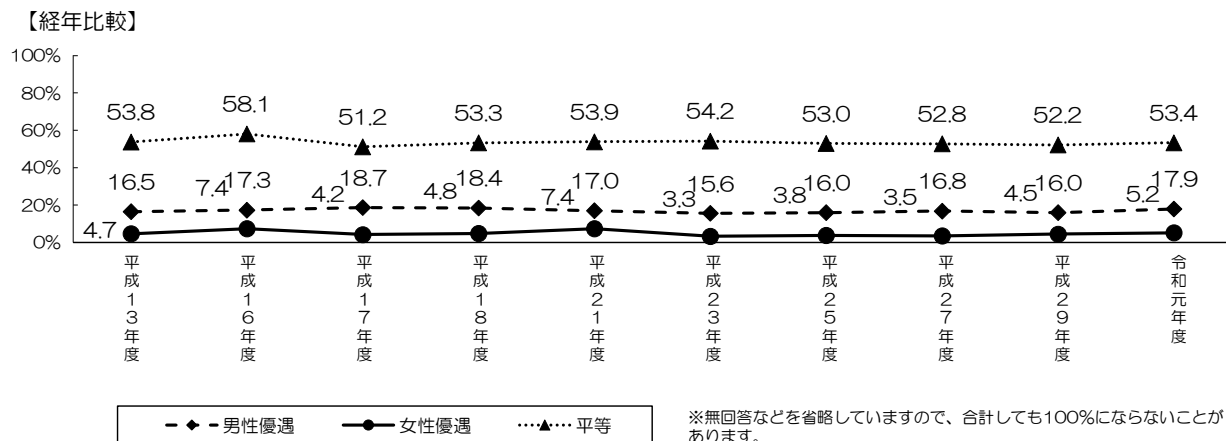
とし、平均点を算出しました。

※ 「子育て世代」とは「20～50代」で「子どもがいる」と回答した対象者を指します。

#### IV 調査結果

##### 1 社会における制度・慣行について

##### 3 各分野における男女平等感



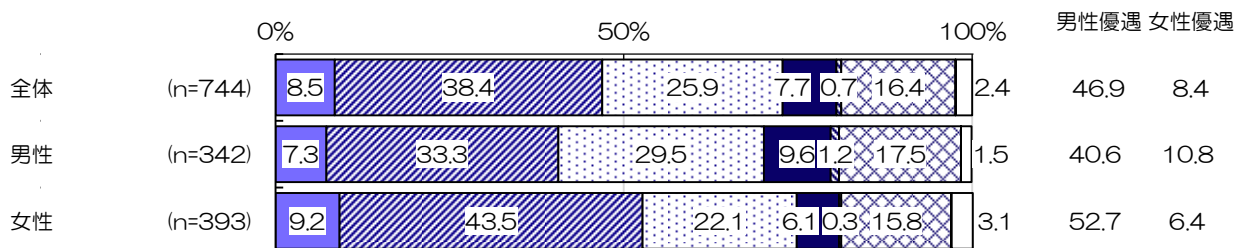
	調査数	男性が非常に優遇	どちらかといえば男性が優遇	平等	どちらかといえば女性が優遇	女性が非常に優遇	わからない	無回答
平成13年度	1,133	1.8%	14.7%	53.8%	4.3%	0.4%	18.1%	6.8%
平成16年度	800	2.4%	14.9%	58.1%	6.5%	0.9%	14.1%	3.1%
平成17年度	836	1.7%	17.0%	51.2%	3.8%	0.4%	20.9%	5.0%
平成18年度	570	1.9%	16.5%	53.3%	3.9%	0.9%	18.1%	5.4%
平成21年度	653	1.7%	15.3%	53.9%	6.9%	0.5%	18.1%	3.7%
平成23年度	577	1.6%	14.0%	54.2%	2.8%	0.5%	20.6%	6.2%
平成25年度	793	2.4%	13.6%	53.0%	3.2%	0.6%	21.2%	6.1%
平成27年度	899	1.9%	14.9%	52.8%	3.3%	0.2%	22.1%	4.7%
平成29年度	782	2.6%	13.4%	52.2%	3.6%	0.9%	24.2%	3.2%
令和元年度	744	1.5%	16.4%	53.4%	4.7%	0.5%	20.7%	2.8%

④ 地域で（自治会・自主防災会・NPOなど）

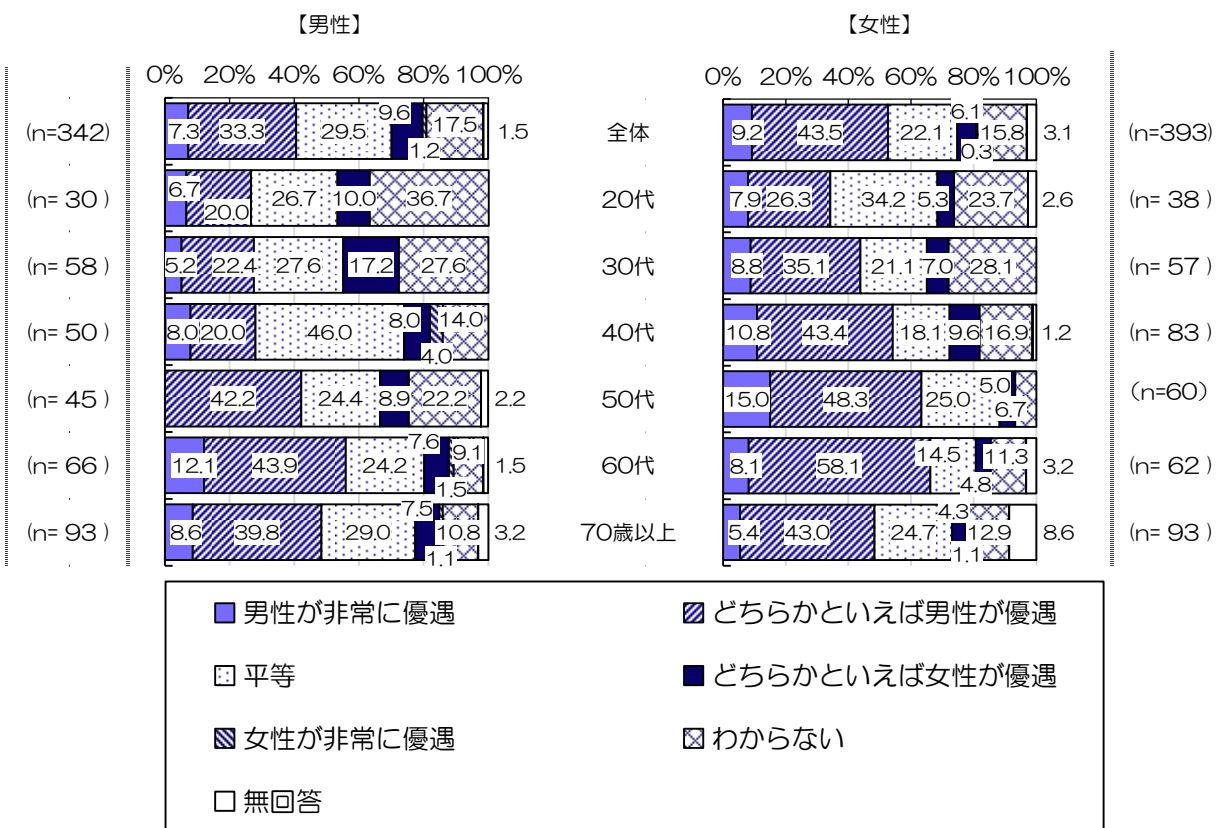
『男性優遇』だと感じている人は46.9%で、50代、60代の女性が特に『男性優遇』と感じています。

性・年代別でみると、40代男性は、『平等』（46.0%）が多くなっています。50代女性は、『男性優遇』（63.3%、「男性が非常に優遇」+「どちらかといえば男性が優遇」）が多くなっています。60代女性は、『男性優遇』（66.1%、「男性が非常に優遇」+「どちらかといえば男性が優遇」）が多くなっています。

40代男性は同年代の女性よりも『平等』が多くなっています。



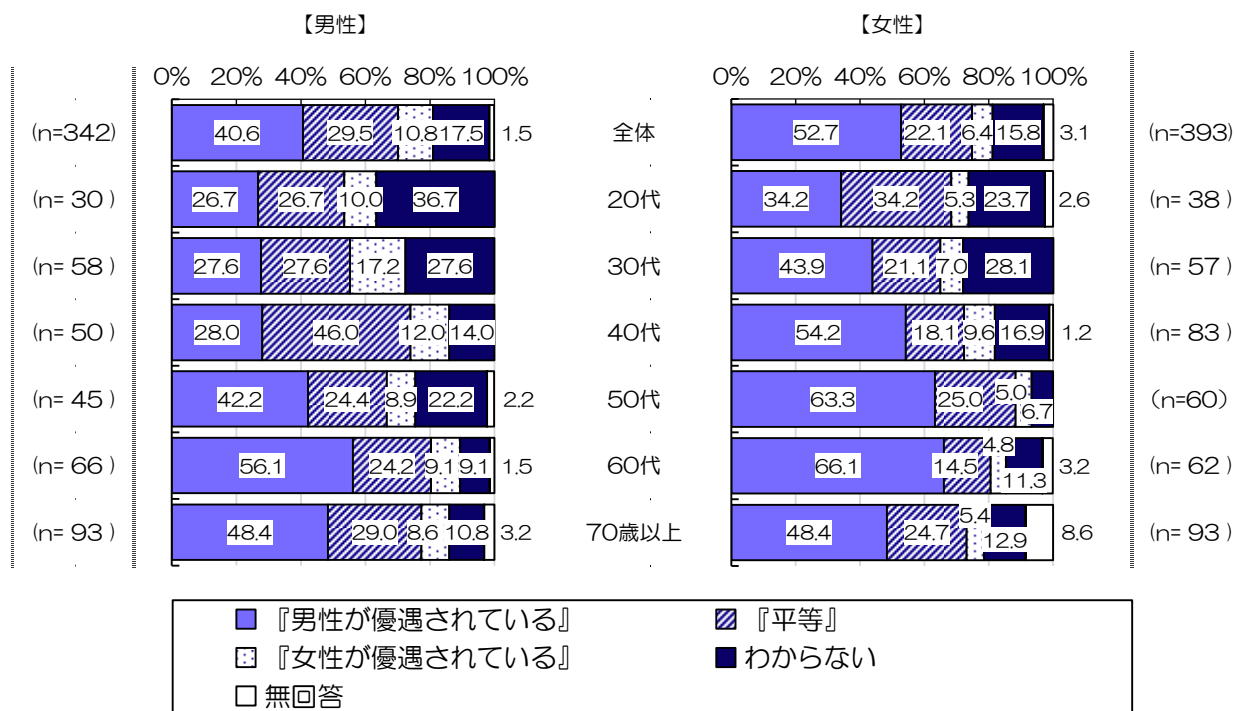
【性・年代別】



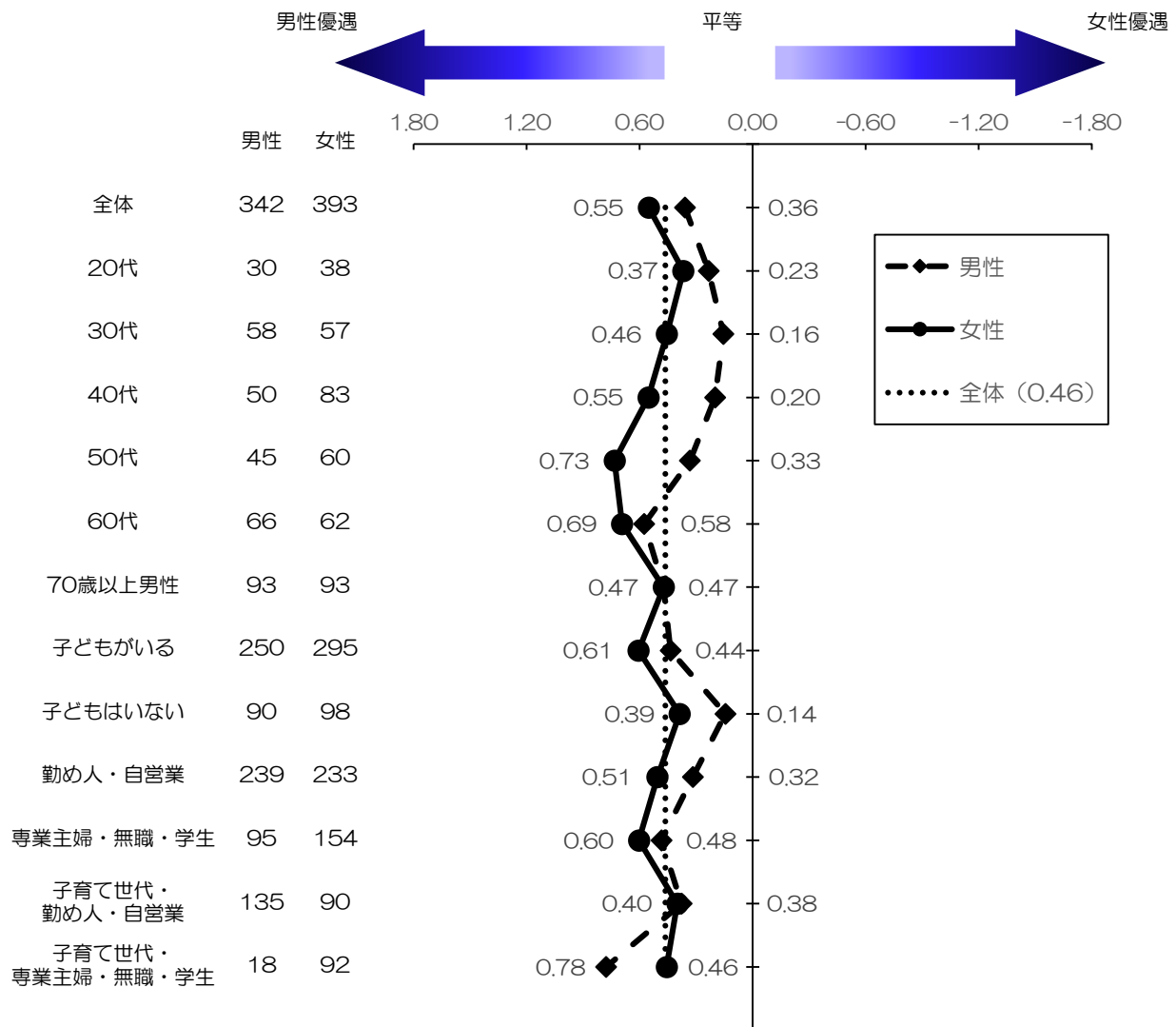
IV 調査結果

- 1 社会における制度・慣行について
- 3 各分野における男女平等感

【性・年代別】



【属性別 得点】



【得点算出方法】

各選択肢を

- 男性が非常に優遇 2点
- どちらかといえば男性が優遇 1点
- 平等 0点
- どちらかといえば女性が優遇 -1点
- 女性が非常に優遇 -2点

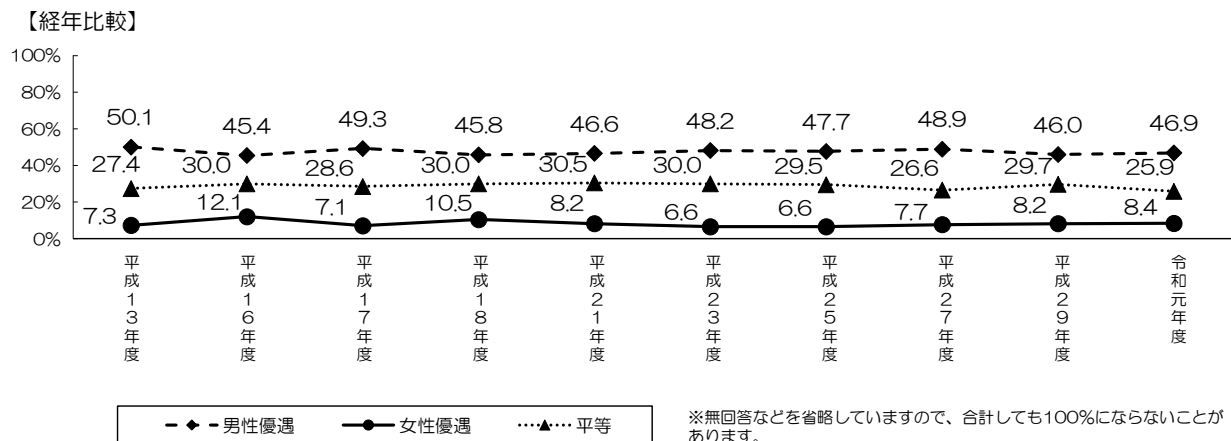
とし、平均点を算出しました。

※ 「子育て世代」とは「20～50代」で「子どもがいる」と回答した対象者を指します。

#### IV 調査結果

##### 1 社会における制度・慣行について

##### 3 各分野における男女平等感



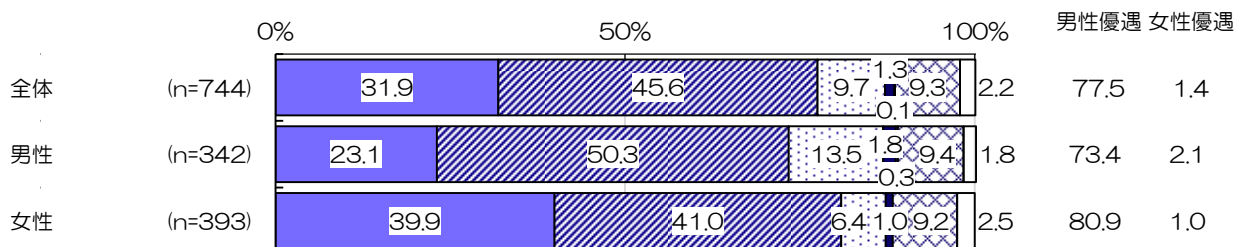
	調査数	男性が非常に優遇	どちらかといえば男性が優遇	平等	どちらかといえば女性が優遇	女性が非常に優遇	わからない	無回答
平成13年度	1,133	8.9%	41.2%	27.4%	6.7%	0.6%	11.1%	4.0%
平成16年度	800	7.5%	37.9%	30.0%	11.6%	0.5%	9.4%	3.1%
平成17年度	836	7.9%	41.4%	28.6%	6.6%	0.5%	11.8%	3.2%
平成18年度	570	8.8%	37.0%	30.0%	9.8%	0.7%	10.5%	3.2%
平成21年度	653	7.5%	39.1%	30.5%	7.7%	0.5%	11.5%	3.4%
平成23年度	577	9.7%	38.5%	30.0%	5.2%	1.4%	12.1%	3.1%
平成25年度	793	9.7%	38.0%	29.5%	6.1%	0.5%	12.5%	3.8%
平成27年度	899	10.3%	38.6%	26.6%	7.3%	0.4%	13.8%	2.9%
平成29年度	782	10.1%	35.9%	29.7%	7.0%	1.2%	15.1%	1.0%
令和元年度	744	8.5%	38.4%	25.9%	7.7%	0.7%	16.4%	2.4%

⑤ 政治の場で

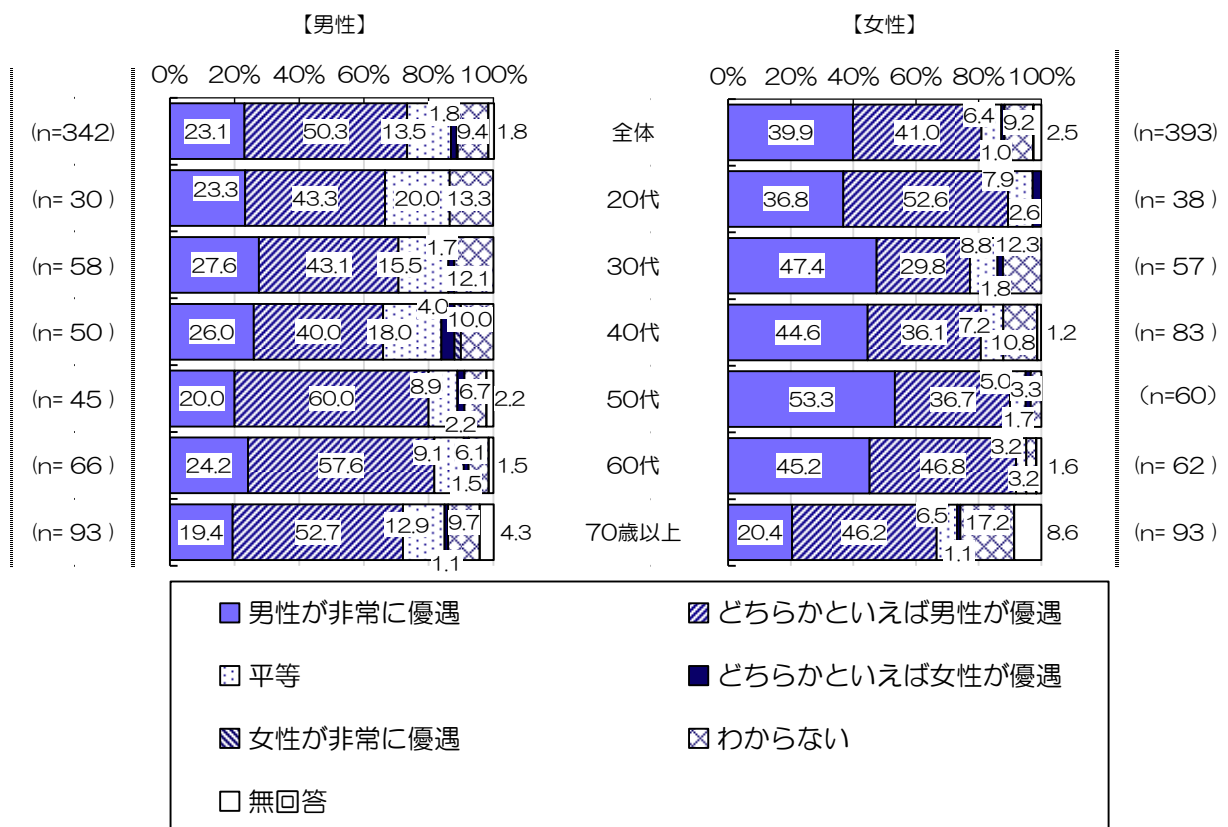
『男性優遇』だと感じている人は77.5%で、20代では男性では『平等』、女性では『男性優遇』と感じている人が多くなっています。

性・年代別でみると、20代男性は、『平等』(20.0%)が多くなっています。20代女性は、『男性優遇』(89.5%、「男性が非常に優遇」+「どちらかといえば男性が優遇」)が多くなっています。50代女性は、『男性優遇』(90.0%、「男性が非常に優遇」+「どちらかといえば男性が優遇」)が多くなっています。60代女性は、『男性優遇』(91.9%、「男性が非常に優遇」+「どちらかといえば男性が優遇」)が多くなっています。

平成27年度以降、『男性優遇』が増加傾向にあります。



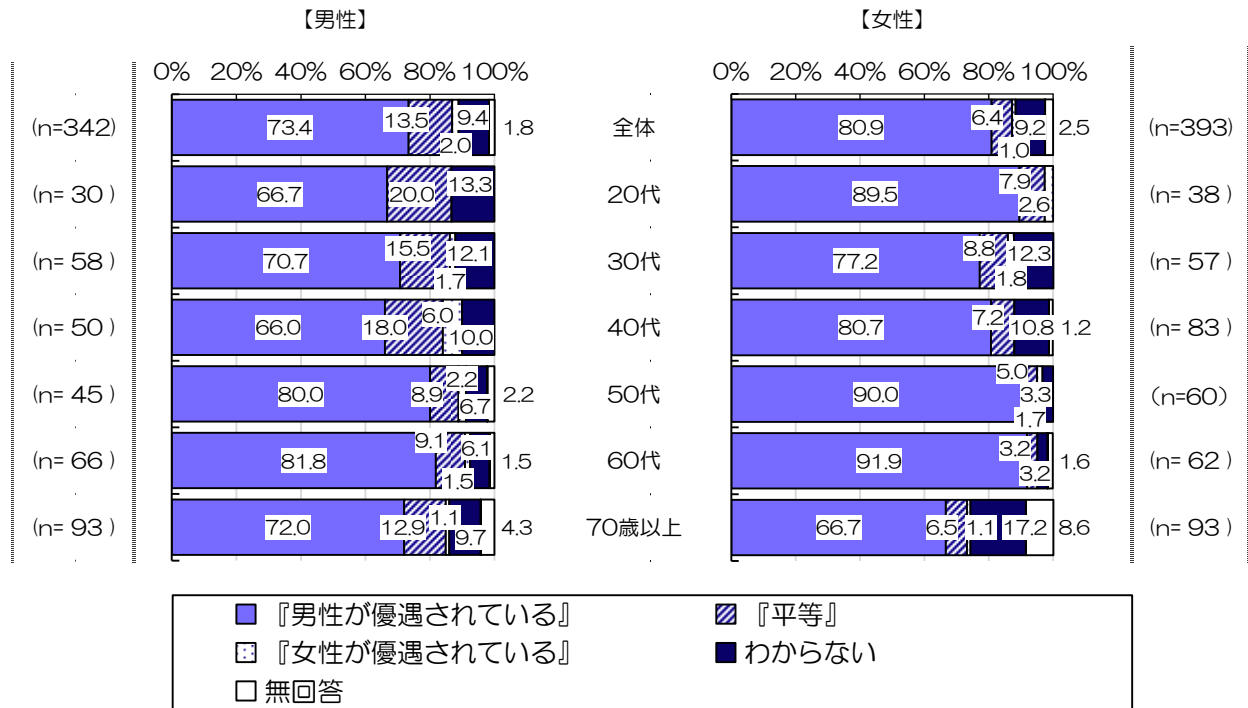
【性・年代別】



IV 調査結果

- 1 社会における制度・慣行について
- 3 各分野における男女平等感

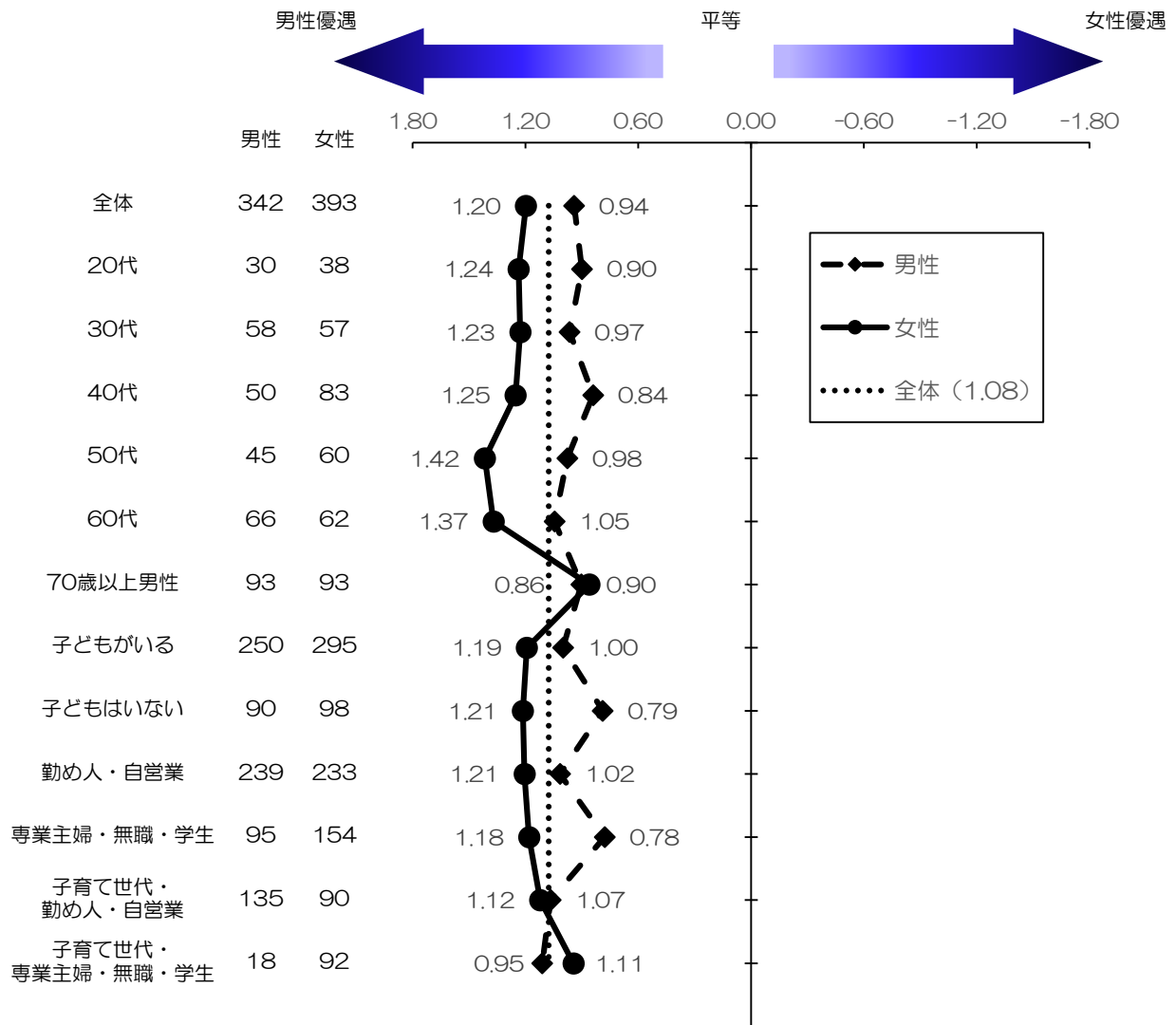
【性・年代別】





1 社会における制度・慣行について  
3 各分野における男女平等感

【属性別 得点】



【得点算出方法】

各選択肢を

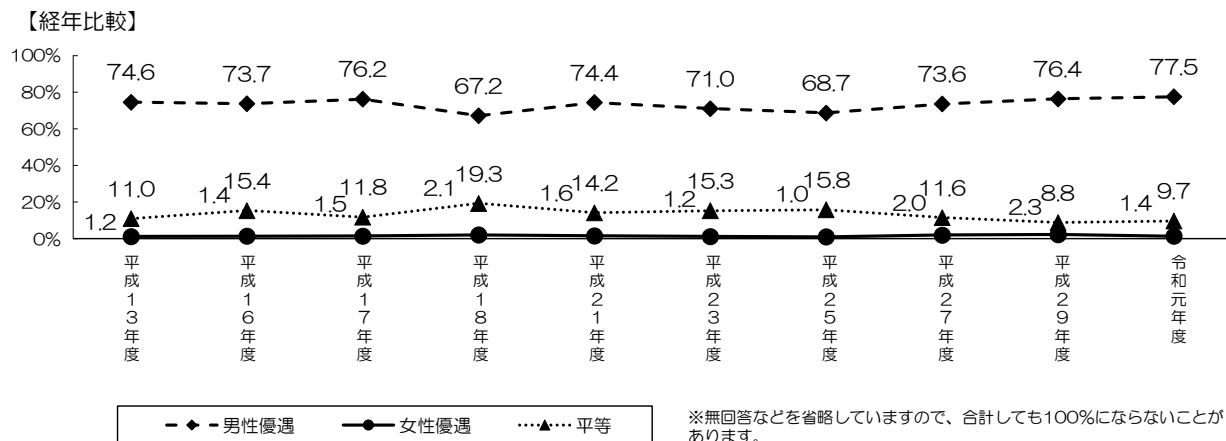
- 男性が非常に優遇 2点
- どちらかといえば男性が優遇 1点
- 平等 0点
- どちらかといえば女性が優遇 -1点
- 女性が非常に優遇 -2点

とし、平均点を算出しました。

※ 「子育て世代」とは「20～50代」で「子どもがいる」と回答した対象者を指します。

#### IV 調査結果

- 1 社会における制度・慣行について
- 3 各分野における男女平等感



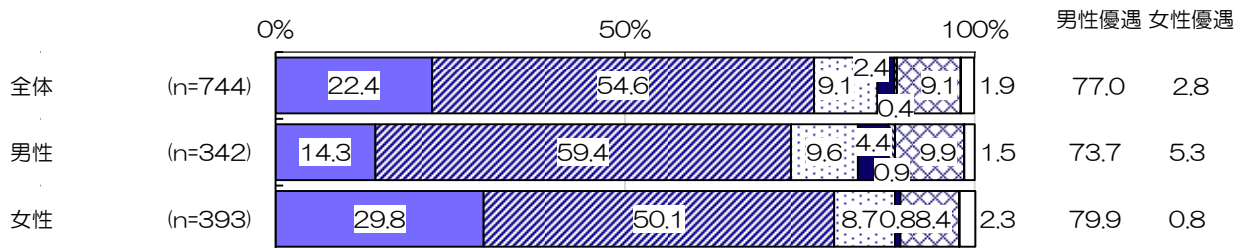
	調査数	男性が非常に優遇	どちらかといえば男性が優遇	平等	どちらかといえば女性が優遇	女性が非常に優遇	わからない	無回答
平成13年度	1,133	29.9%	44.7%	11.0%	1.1%	0.1%	9.4%	3.8%
平成16年度	800	30.3%	43.4%	15.4%	1.3%	0.1%	7.1%	2.5%
平成17年度	836	31.3%	44.9%	11.8%	1.1%	0.4%	7.1%	3.5%
平成18年度	570	25.3%	41.9%	19.3%	1.9%	0.2%	8.1%	3.3%
平成21年度	653	29.4%	45.0%	14.2%	1.4%	0.2%	7.8%	2.0%
平成23年度	577	27.2%	43.8%	15.3%	1.0%	0.2%	9.2%	3.3%
平成25年度	793	25.7%	43.0%	15.8%	0.9%	0.1%	10.3%	4.2%
平成27年度	899	30.9%	42.7%	11.6%	1.6%	0.4%	9.6%	3.2%
平成29年度	782	28.6%	47.8%	8.8%	2.0%	0.3%	11.1%	1.3%
令和元年度	744	31.9%	45.6%	9.7%	1.3%	0.1%	9.3%	2.2%

⑥ 社会通念・慣習・しきたりなどで

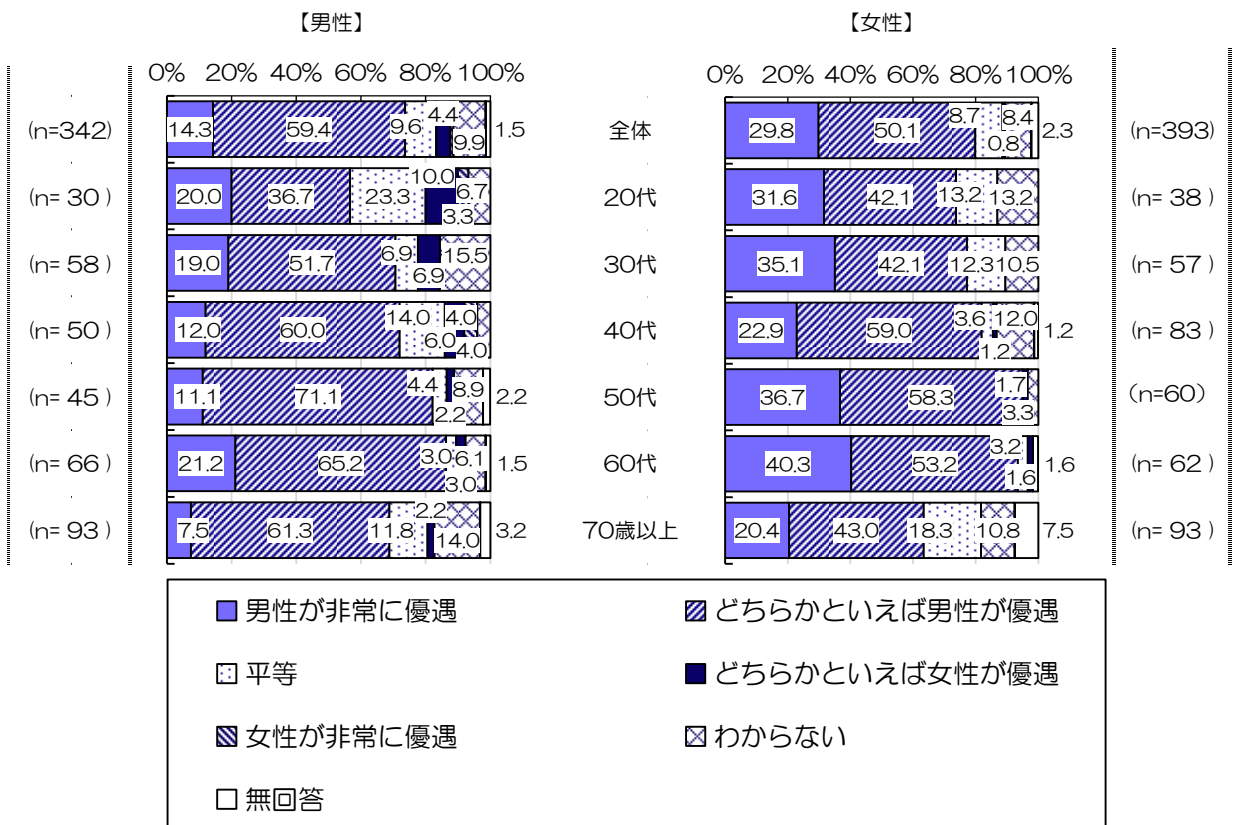
『男性優遇』だと感じている人は77.0%で、50代、60代の女性が特に『男性優遇』と感じています。

性・年代別でみると、20代男性は、『平等』(23.3%)、『女性優遇』(13.3%、「女性が非常に優遇」+「どちらかといえば女性が優遇」)が多くなっています。50代女性は、『男性優遇』(95.0%、「男性が非常に優遇」+「どちらかといえば男性が優遇」)が多くなっています。60代女性は、『男性優遇』(93.5%、「男性が非常に優遇」+「どちらかといえば男性が優遇」)が多くなっています。

『男性優遇』は増加傾向でしたが、令和元年度ではやや減少しています。



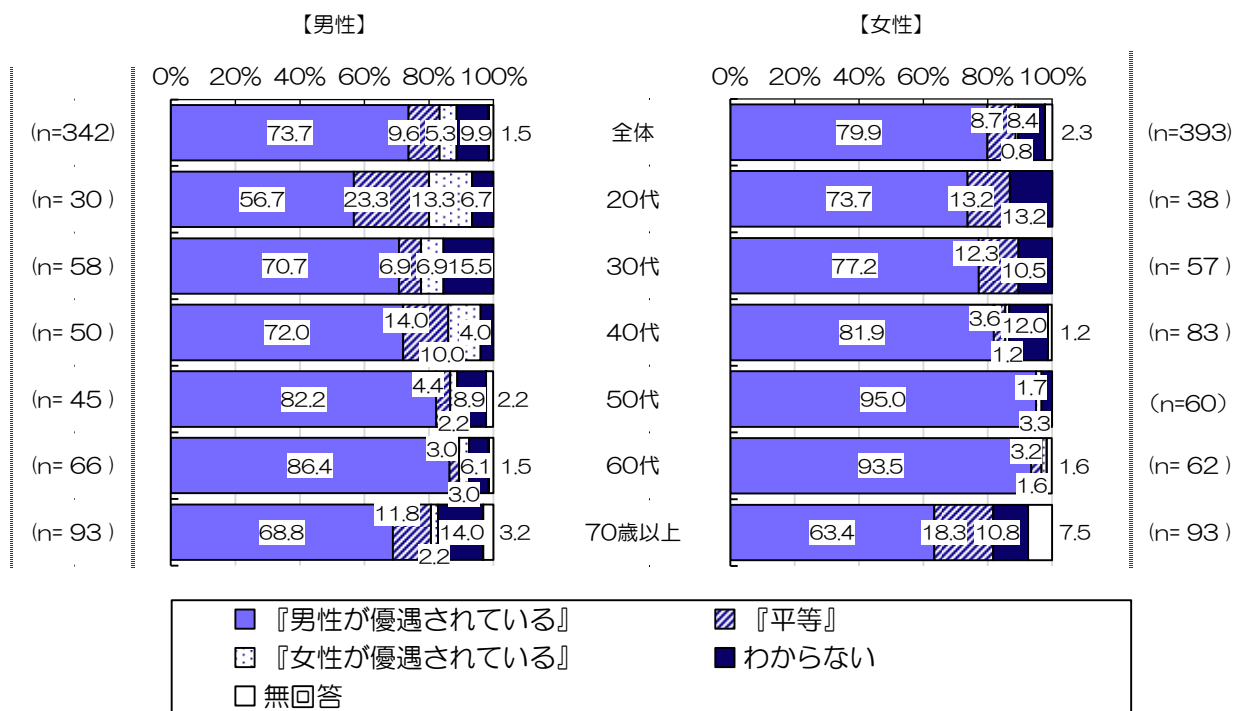
【性・年代別】



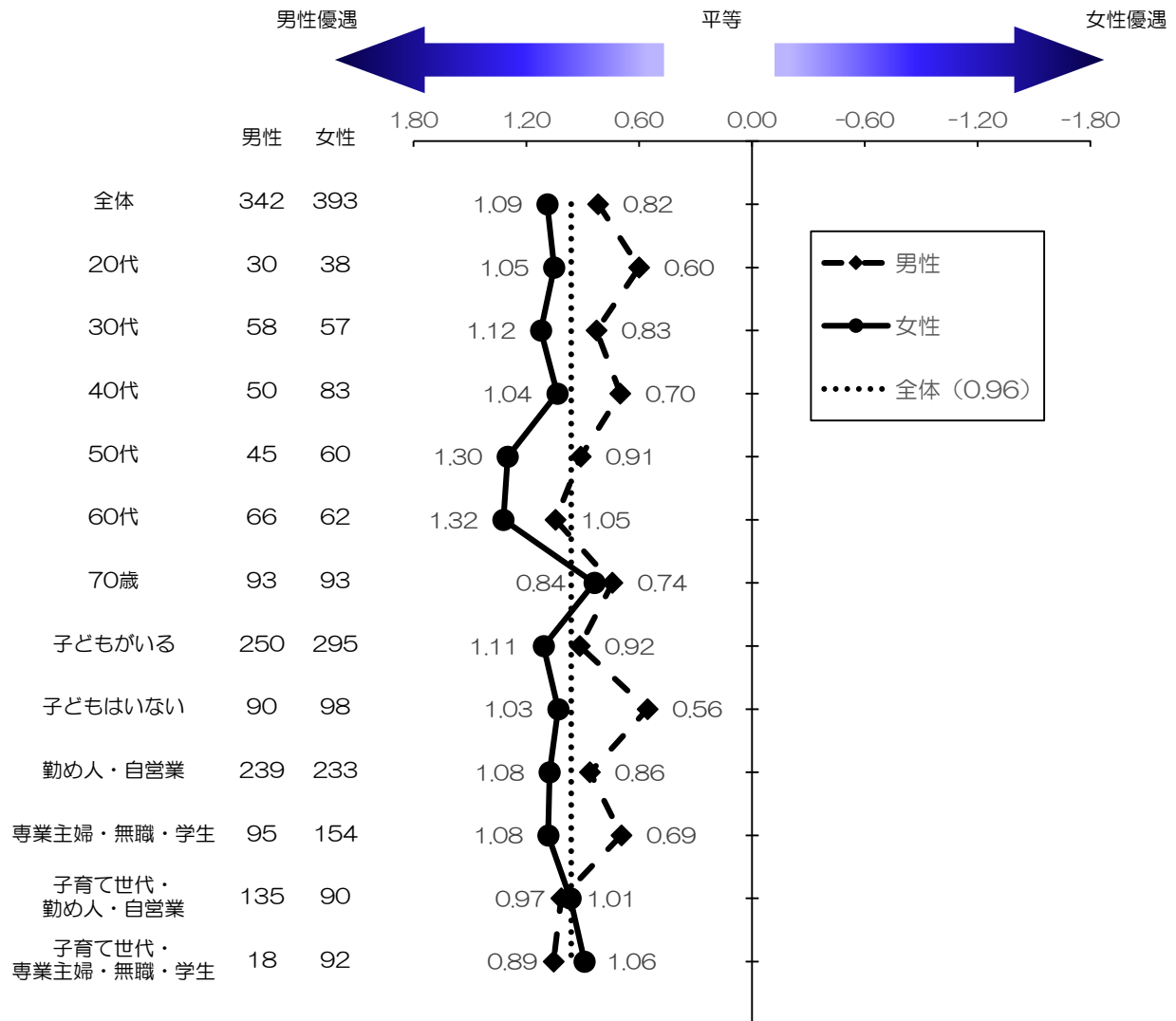
IV 調査結果

- 1 社会における制度・慣行について
- 3 各分野における男女平等感

【性・年代別】



【属性別 得点】



【得点算出方法】

各選択肢を

- 男性が非常に優遇 2点
- どちらかといえば男性が優遇 1点
- 平等 0点
- どちらかといえば女性が優遇 -1点
- 女性が非常に優遇 -2点

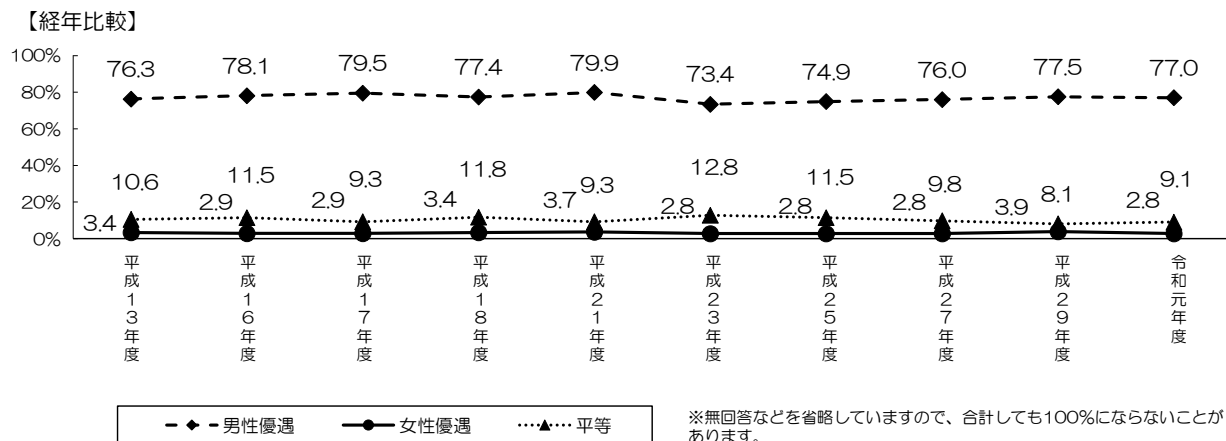
とし、平均点を算出しました。

※ 「子育て世代」とは「20～50代」で「子どもがいる」と回答した対象者を指します。

#### IV 調査結果

##### 1 社会における制度・慣行について

##### 3 各分野における男女平等感



	調査数	男性が非常に優遇	どちらかといえば男性が優遇	平等	どちらかといえば女性が優遇	女性が非常に優遇	わからない	無回答
平成13年度	1,133	23.9%	52.4%	10.6%	2.5%	0.9%	6.6%	3.1%
平成16年度	800	23.0%	55.1%	11.5%	2.5%	0.4%	5.1%	2.4%
平成17年度	836	25.2%	54.3%	9.3%	2.4%	0.5%	5.5%	2.8%
平成18年度	570	22.1%	55.3%	11.8%	3.2%	0.2%	4.6%	3.0%
平成21年度	653	20.8%	59.1%	9.3%	3.5%	0.2%	5.5%	1.5%
平成23年度	577	23.1%	50.3%	12.8%	2.3%	0.5%	8.3%	2.8%
平成25年度	793	19.7%	55.2%	11.5%	2.4%	0.4%	6.9%	3.9%
平成27年度	899	21.9%	54.1%	9.8%	2.2%	0.6%	8.7%	2.8%
平成29年度	782	22.3%	55.2%	8.1%	2.9%	1.0%	9.5%	1.0%
令和元年度	744	22.4%	54.6%	9.1%	2.4%	0.4%	9.1%	1.9%

## 「各分野の男女平等まとめ」

### 要旨

各分野の特徴を下表にまとめました。多くの分野で、男性より女性が『男性優遇』（「男性が非常に優遇」＋「どちらかといえば男性が優遇」）と感じる傾向があり、男女間の意識の違いが見られます。

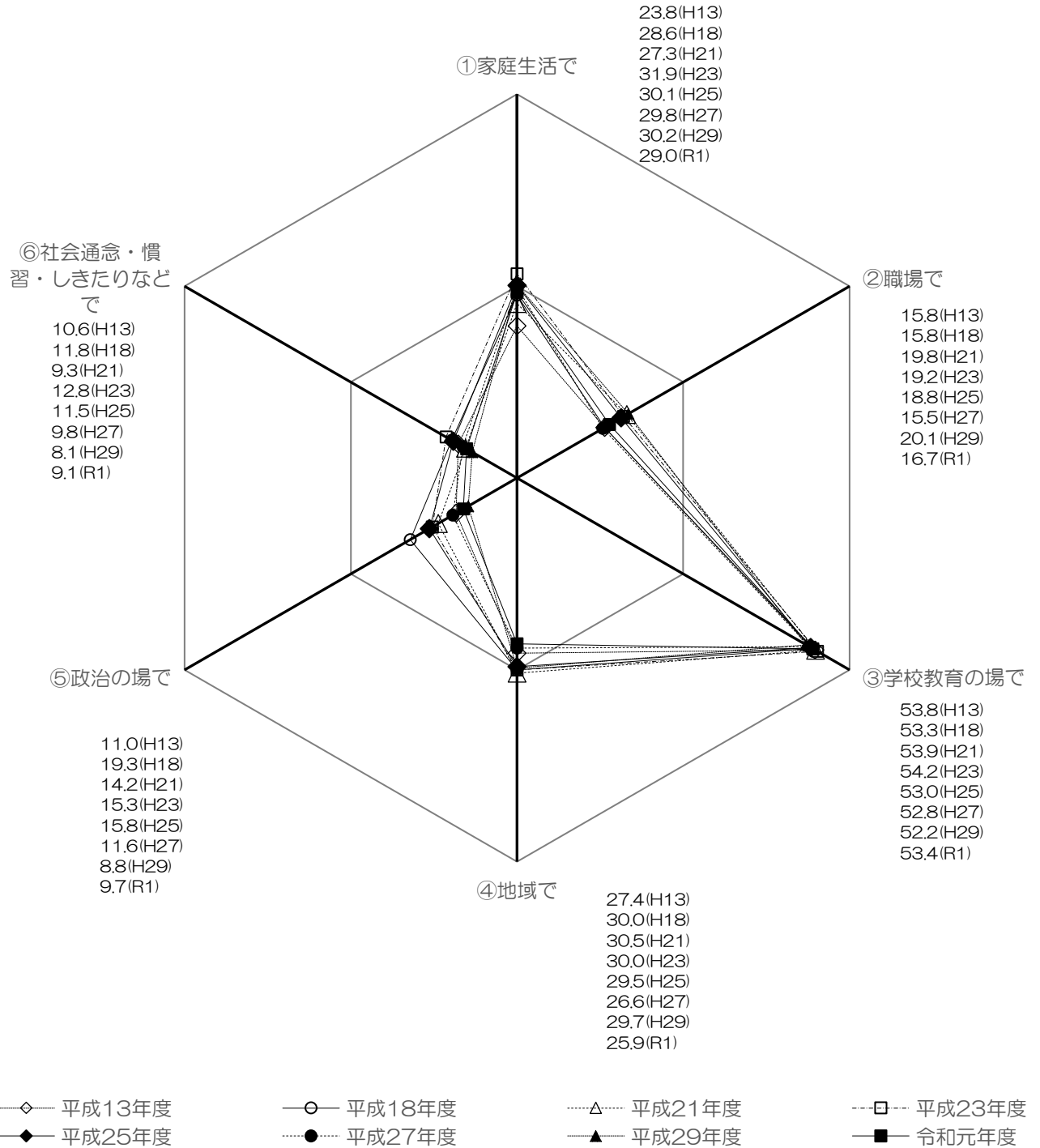
性別でみると、女性は【③学校教育の場で】以外ではすべて5割以上が『男性優遇』（「男性が非常に優遇」＋「どちらかといえば男性が優遇」）と感じています。男性は【②職場で】、【⑤政治の場で】、【⑥社会通念・慣習・しきたりなどで】では『男性優遇』（「男性が非常に優遇」＋「どちらかといえば男性が優遇」）と感じています。

また、経年比較では、平成13年から大きな変化がありません。

	① 家庭生活で	② 職場で	③ 学校教育の場で	④ 地域で（自治会・自主防 災会・NPOなど）	⑤ 政治の場で	⑥ 社会通念・慣習・しきた りなどで	
全体の傾向	・『男性優遇』が 5割以上	・『男性優遇』が 6割強	・『男性優遇』が およそ2割	・『男性優遇』が およそ5割	・『男性優遇』が およそ8割	・『男性優遇』が およそ8割	
『男性優遇』と 感じる傾向が強い 属性	性別	・女性	・男性 ・女性	・なし	・女性	・男性 ・女性	
	性・年齢別	・男性 60代 ・女性 30代以上	・男性 30代以上 ・女性 すべての年代	・なし	・男性 60代 ・女性 40代から60代	・男性 すべての年代 ・女性 すべての年代	
	子どもの有無別	・女性 子どもがいる	・女性 両方	・女性 両方	・女性 子どもがいる	・女性 両方	・女性 子どもがいる
	職業の有無別	・女性 両方	・女性 専業主婦、 無職、学生	・女性 両方	・女性 専業主婦、 無職、学生	・女性 両方	・女性 両方
	子育て世代別	・女性 専業主婦、 無職、学生	・男性 専業主婦、 無職、学生	・女性 勤め人、 自営業	・男性 専業主婦、 無職、学生	・女性 勤め人、 自営業	・男性 専業主婦、 無職、学生
経年比較	・『男性優遇』 緩やかな減少	・『男性優遇』 緩やかな減少	・大きな変化はない	・「平等」 増減の繰り返し	・『男性優遇』 緩やかな増加	・『男性優遇』 緩やかな増加	

IV 調査結果

- 1 社会における制度・慣行について
- 3 各分野における男女平等感





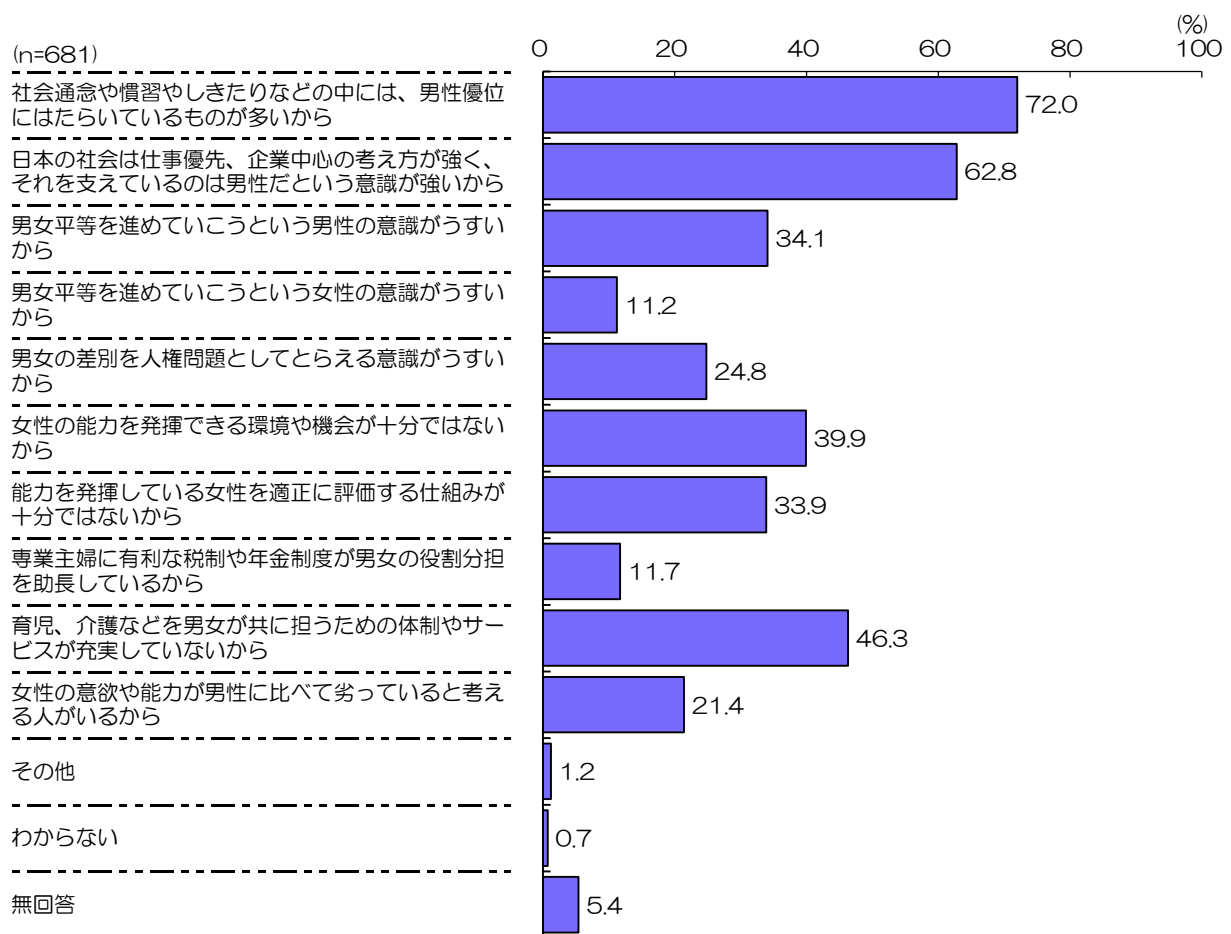
## 4 男性が優遇される原因

問3-2 問3で「1. 男性が非常に優遇されている」または「2. どちらかといえば男性が優遇されている」とお答えの方に伺います。男性が優遇されている原因は何だと思いますか。

(あてはまるもの全てに○)

7割以上の方が“社会通念や慣習やしきたり”、6割以上の方が“仕事優先社会”を男性優遇の原因だと思っています。

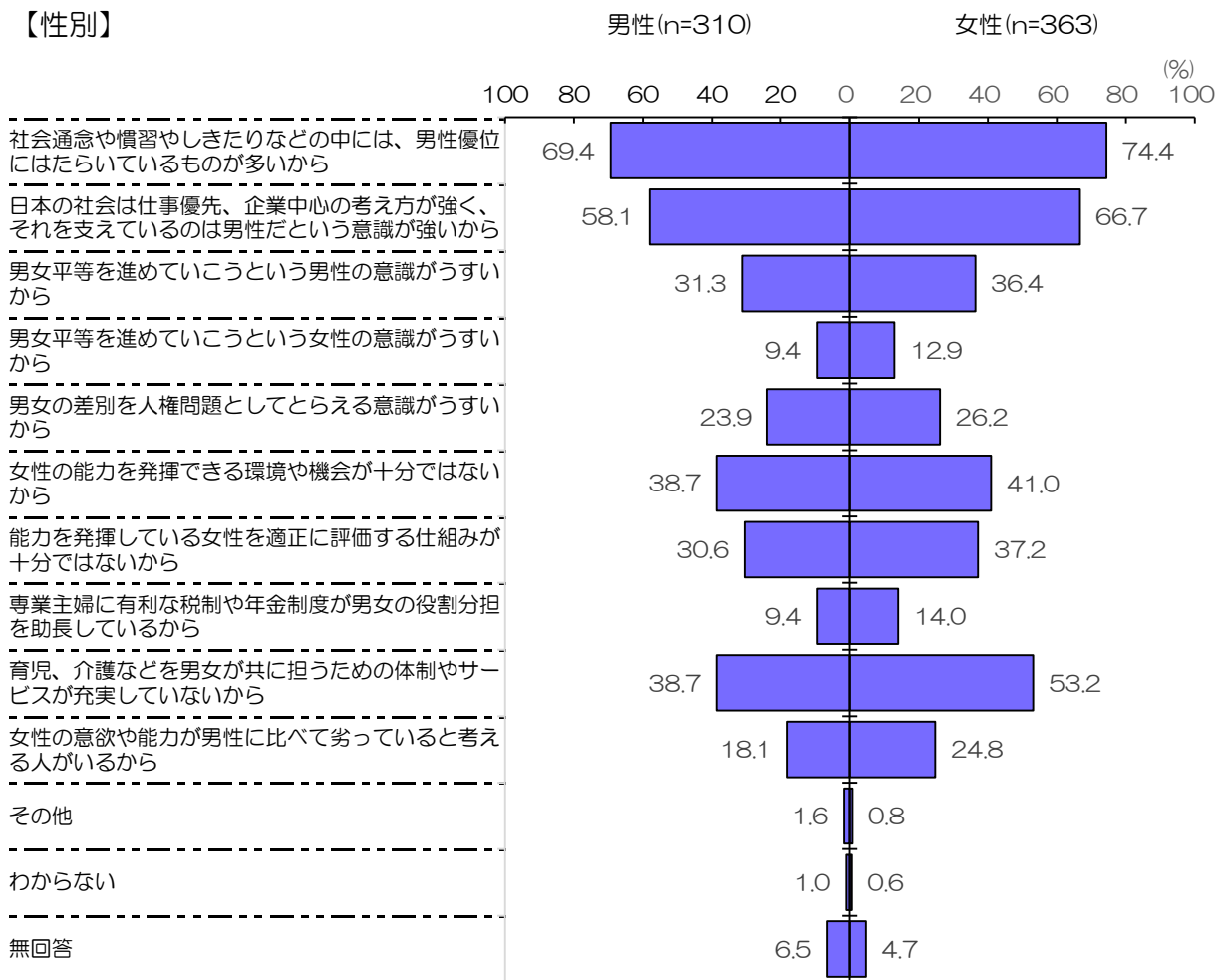
男性が優遇されている原因についての現状認識では、「社会通念や慣習やしきたりなどの中には、男性優位にはたらいているものが多いから」(72.0%)が最も多く、次に「日本の社会は仕事優先、企業中心の考え方が強く、それを支えているのは男性だという意識が強いから」(62.8%)、「育児、介護などを男女が共に担うための体制やサービスが充実していないから」(46.3%)、「女性の能力を發揮できる環境や機会が十分ではないから」(39.9%)、「男女平等を進めていこうという男性の意識がうすいから」(34.1%)となっています。



#### IV 調査結果

##### 1 社会における制度・慣行について

##### 4 男性が優遇される原因



5 男女の役割を固定的に考えることに関する意識

問4 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」というような男女の役割を固定的に考えることについて、どのように思いますか。(1つに〇)

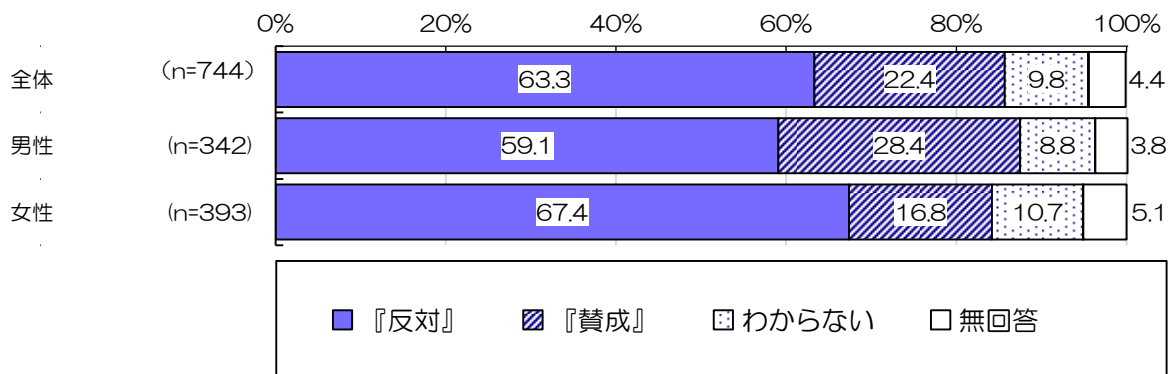
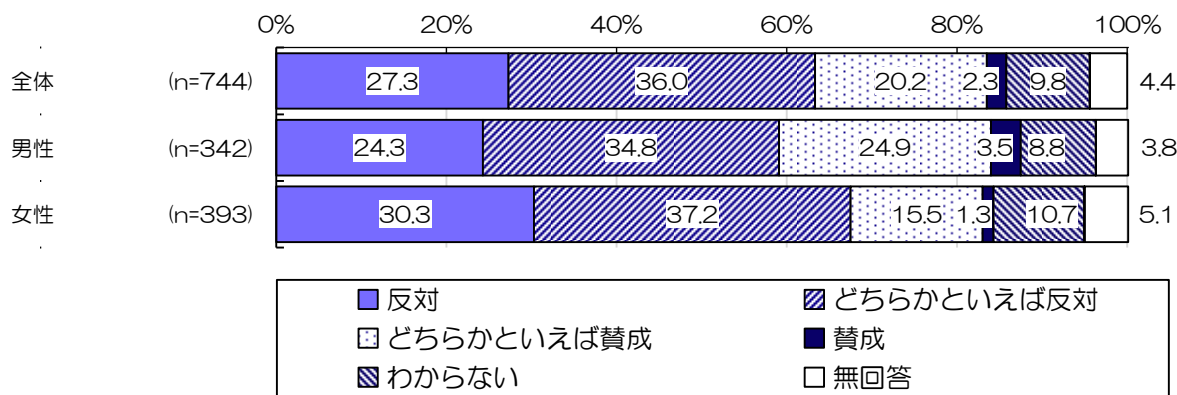
「反対」と「どちらかといえば反対」の合計が6割以上。

性別役割分業への賛否では、「どちらかといえば反対」(36.0%)が最も多く、次に「反対」(27.3%)、「どちらかといえば賛成」(20.2%)となっています。

全体で見ると、『反対』(63.3%、「反対」+「どちらかといえば反対」)が最も多く、次に『賛成』(22.4%、「賛成」+「どちらかといえば賛成」)となっています。

「反対」はやや増加傾向でしたが、令和元年度では減少しています。さらに、「どちらかといえば反対」は増加しています。「どちらかといえば賛成」はやや減少しています。

性・年代別で得点をみると、男性は女性よりも20代では0.52点少なく、やや『賛成』寄りになっています。

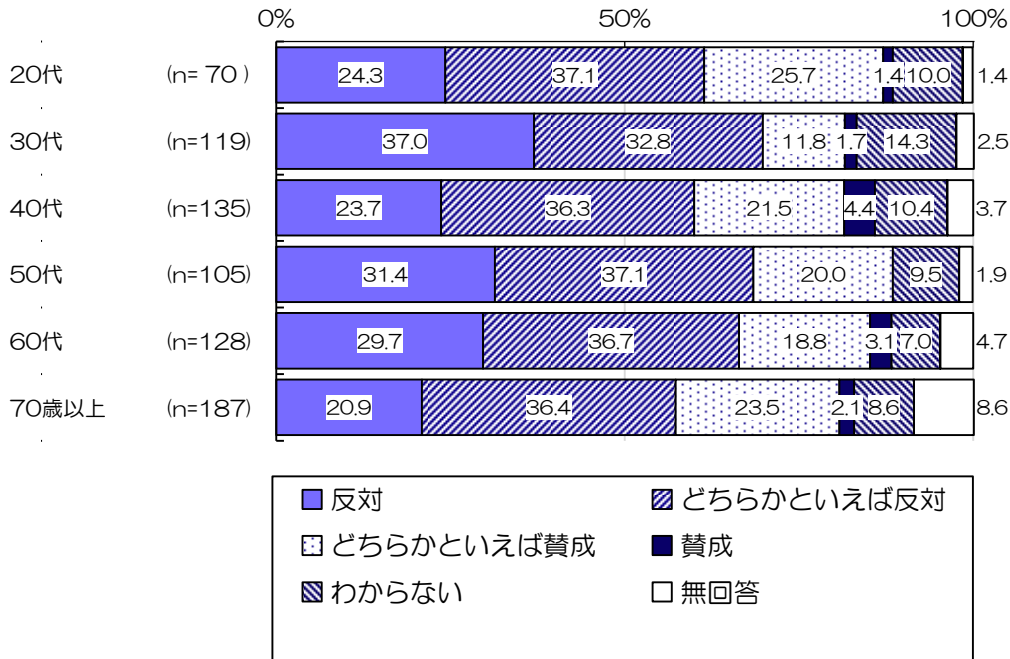


IV 調査結果

1 社会における制度・慣行について

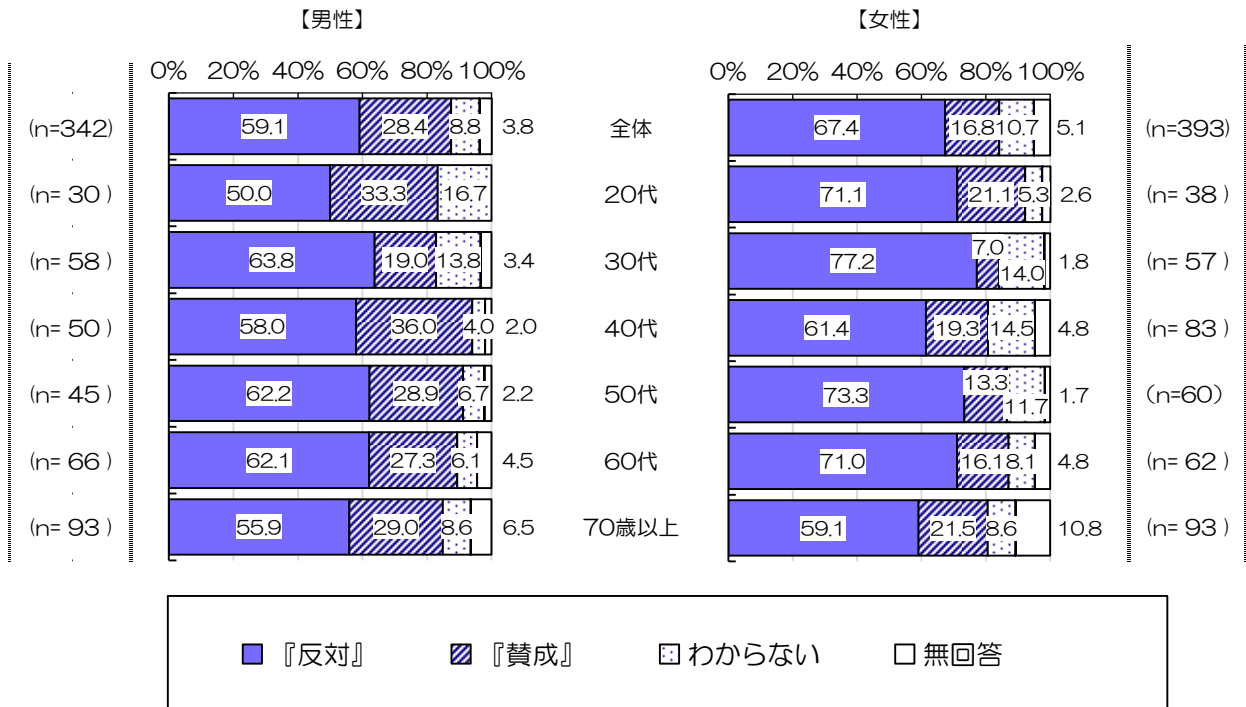
5 男女の役割を固定的に考えることに関する意識

【年代別】

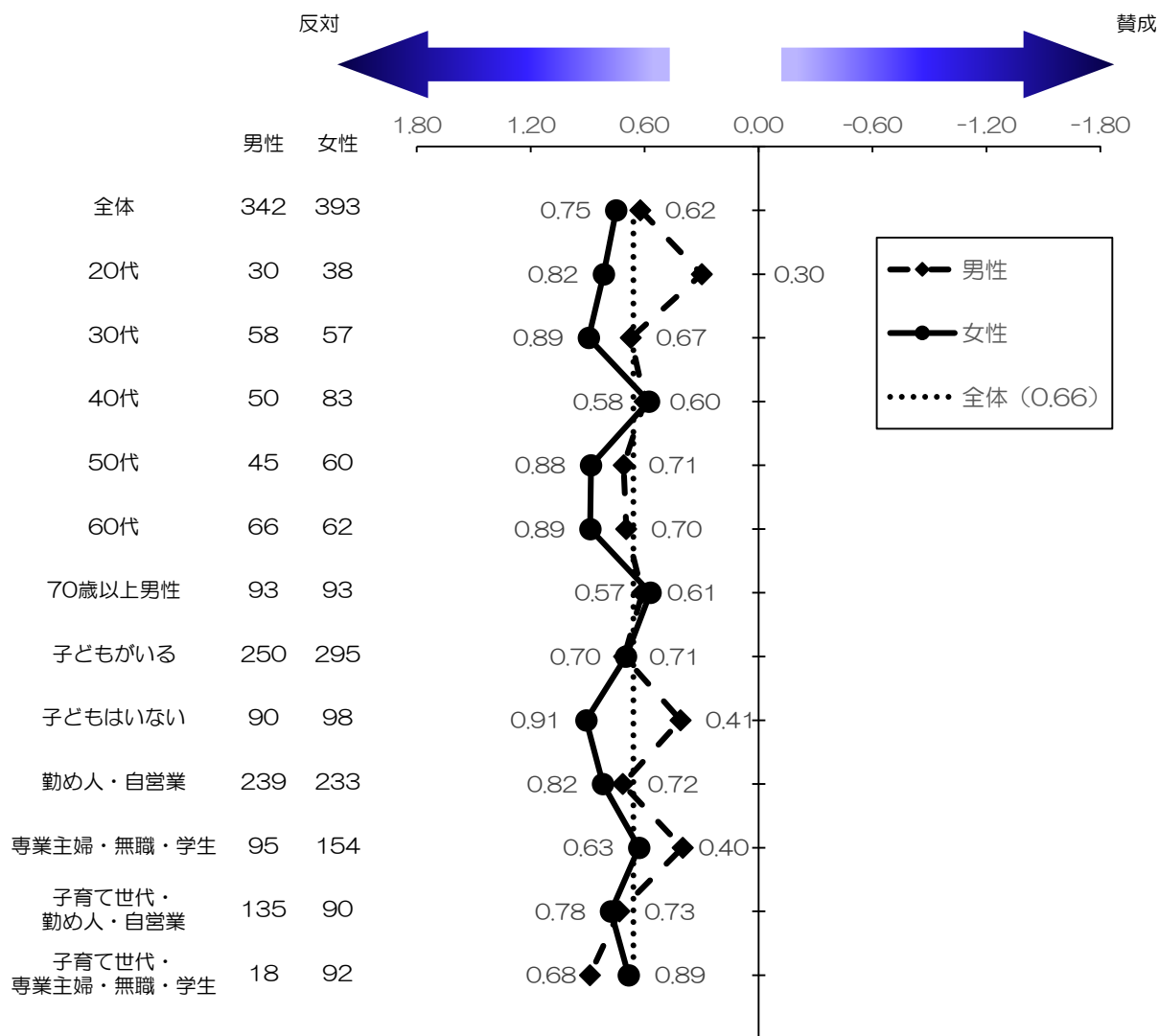


(n=60)

【性・年代別】



【属性別 得点】



【得点算出方法】

各選択肢を

反対	2点
どちらかといえば反対	1点
どちらかといえば賛成	-1点
賛成	-2点

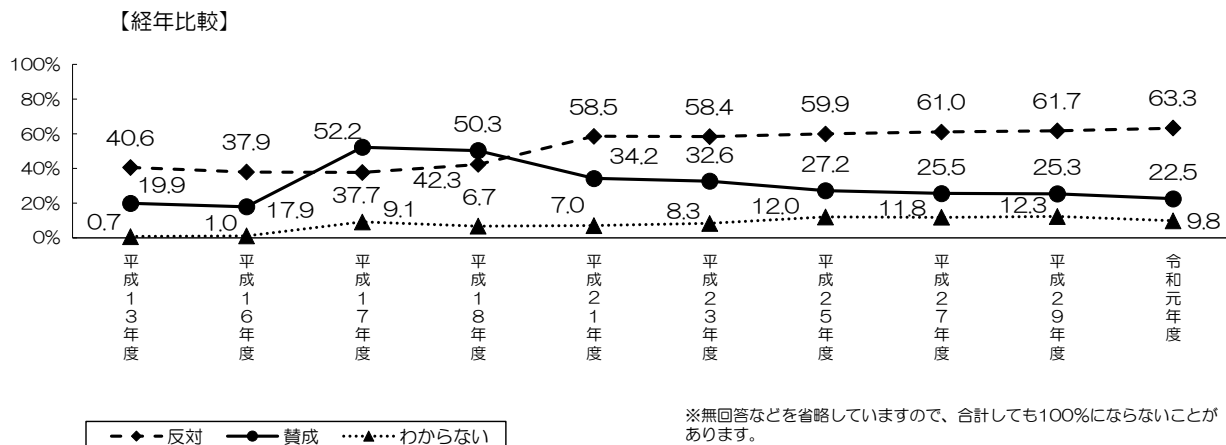
とし、平均点を算出しました。

※ 「子育て世代」とは「20～50代」で「子どもがいる」と回答した対象者を指します。

#### IV 調査結果

##### 1 社会における制度・慣行について

##### 5 男女の役割を固定的に考えることに関する意識



	調査数	同感しないほう	同感するほう	どちらともいえない	わからない	無回答
平成13年度	1,133	40.6%	19.9%	34.2%	0.7%	4.6%
平成16年度	800	37.9%	17.9%	40.9%	1.0%	2.4%

	調査数	反対	どちらかといえば反対	どちらかといえば賛成	賛成	わからない	無回答
平成17年度	836	13.5%	24.2%	43.2%	9.0%	9.1%	1.1%
平成18年度	570	18.1%	24.2%	41.4%	8.9%	6.7%	0.7%
平成21年度	653	21.3%	37.2%	27.3%	6.9%	7.0%	0.3%
平成23年度	577	21.7%	36.7%	27.2%	5.4%	8.3%	0.7%
平成25年度	793	22.1%	37.8%	23.0%	4.2%	12.0%	1.0%
平成27年度	899	23.1%	37.9%	21.5%	4.0%	11.8%	1.7%
平成29年度	782	24.0%	37.7%	22.1%	3.2%	12.3%	0.6%
令和元年度	744	27.3%	36.0%	20.2%	2.3%	9.8%	4.4%

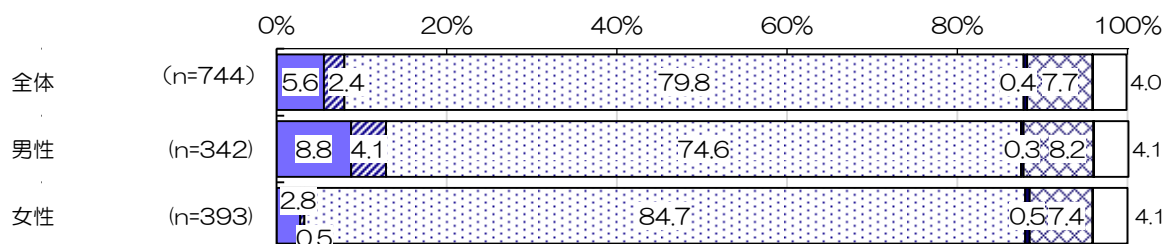
※ 平成13年度、16年度の選択肢は「同感しないほう」、「同感するほう」、「どちらともいえない」、「わからない」となっています。「同感しないほう」を『反対』、「同感するほう」を『賛成』として経年比較をしています。

6 仕事、家事、育児、介護への男女のかかわり方について

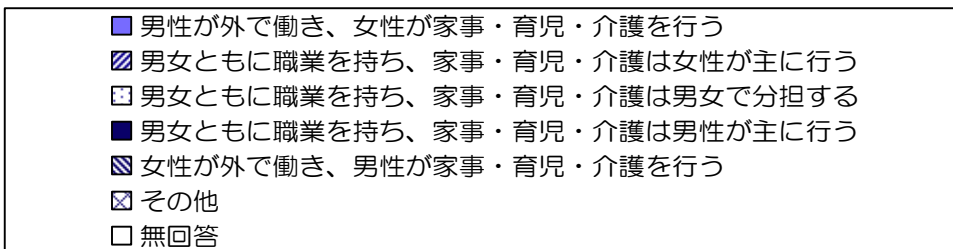
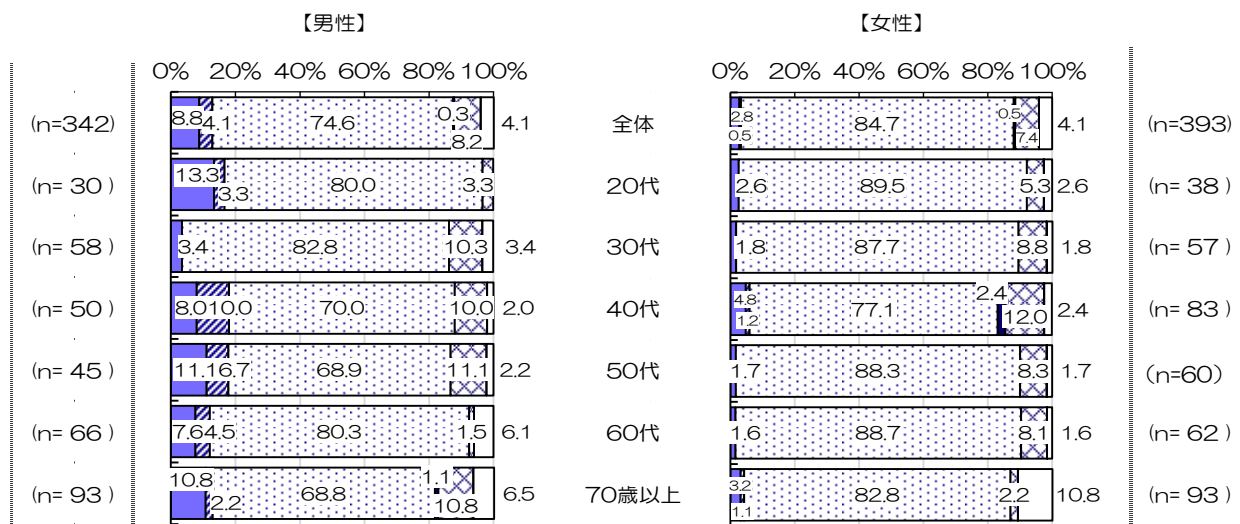
問4-2 仕事、家事、育児、介護について男女がどのようにかかわるべきだと思いますか。(1つに○)

「男女ともに職業を持ち、家事・育児・介護は男女で分担する」がおよそ8割。

仕事、家事、育児、介護への男女のかかわり方では、「男女ともに職業を持ち、家事・育児・介護は男女で分担する」(79.8%)が最も多く、次に「男性が外で働き、女性が家事・育児・介護を行う」(5.6%)、「男女ともに職業を持ち、家事・育児・介護は女性が主に行う」(2.4%)となっています。



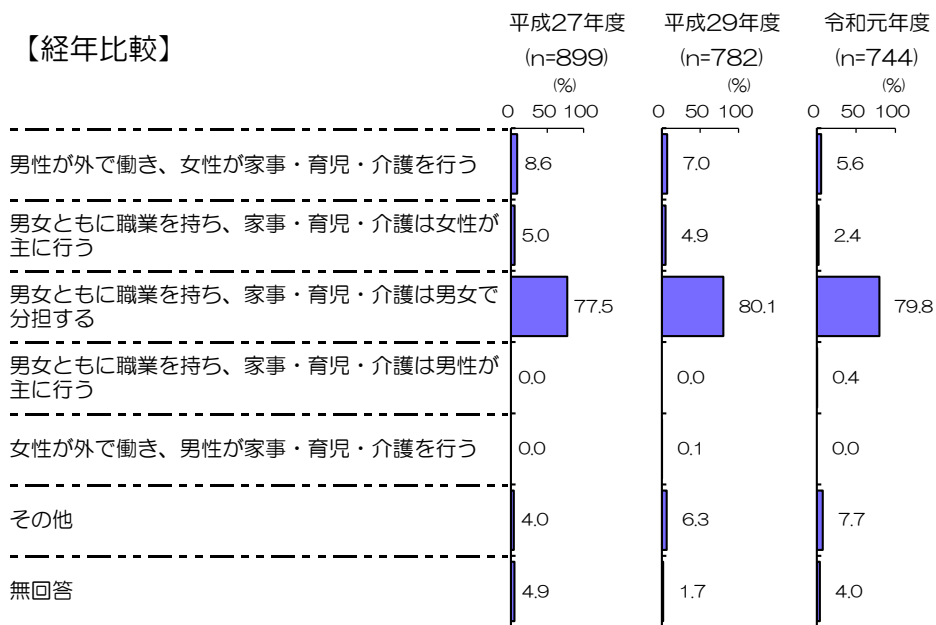
【性・年代別】



#### IV 調査結果

##### 1 社会における制度・慣行について

##### 6 仕事、家事、育児、介護への男女のかかわり方について





## 2 男女共同参画に関する教育・学習について

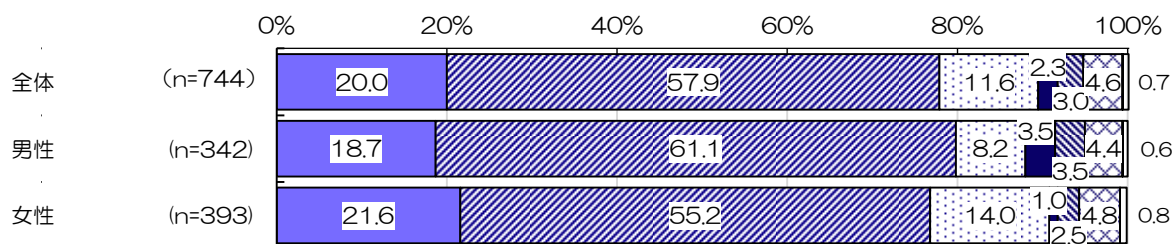
### 1 人権の尊重、男女平等を推進する教育

問5 あなたは、人権の尊重、男女平等を推進する教育を主にどこで行うべきだと思いますか。  
(1つに○)

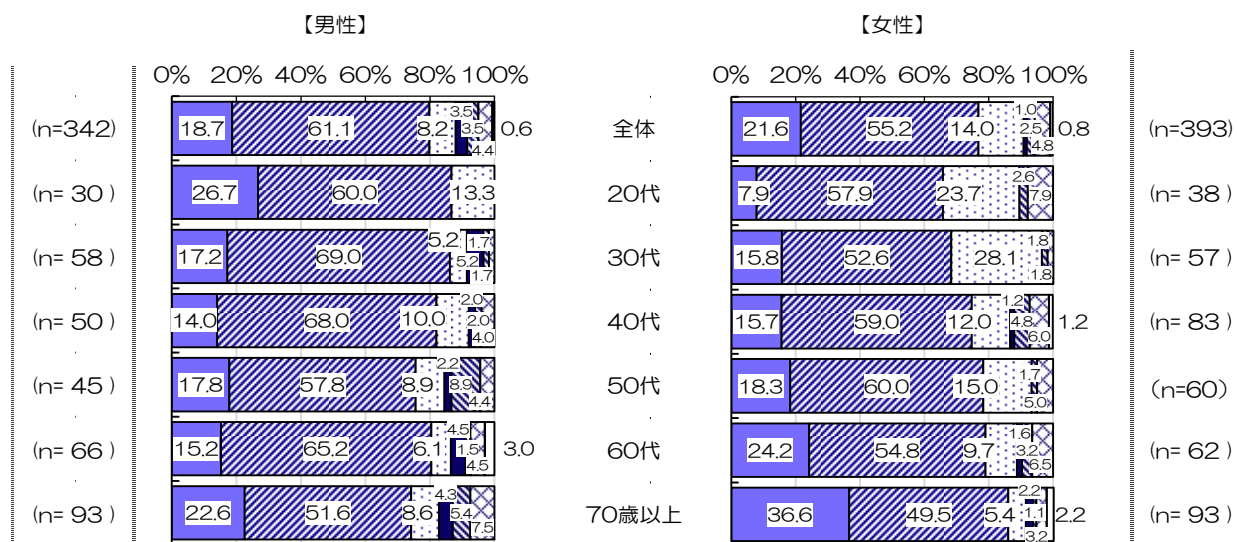
“学校教育”が5割以上、“家庭教育”が2割。

人権の尊重、男女平等を推進する教育を行うべき場では、「幼稚園、小学校、中学校、高等学校などの学校教育の場において行う」(57.9%)が最も多く、次に「家族による家庭教育の場において行う」(20.0%)、「職場などの社内教育の場において行う」(11.6%)となっています。

30代男性は同年代の女性よりも「職場などの社内教育の場において行う」が少なくなっています。



【性・年代別】

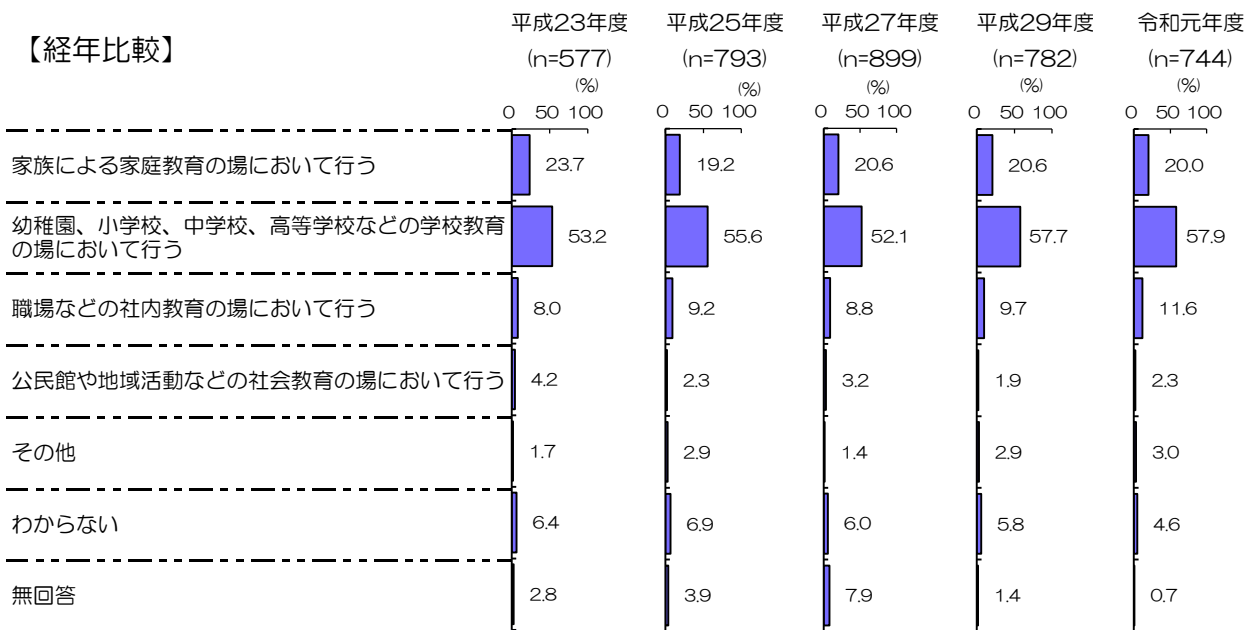
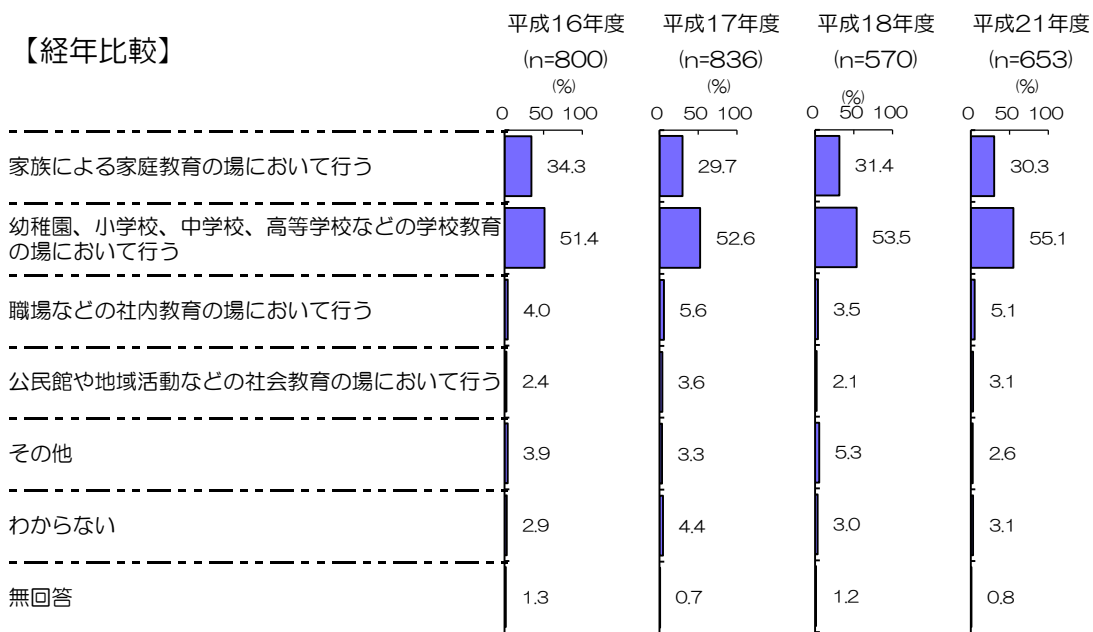


- 家族による家庭教育の場において行う
- 幼稚園、小学校、中学校、高等学校などの学校教育の場において行う
- 職場などの社内教育の場において行う
- 公民館や地域活動などの社会教育の場において行う
- その他
- わからない
- 無回答

IV 調査結果

2 男女共同参画に関する教育・学習について

1 人権の尊重、男女平等を推進する教育



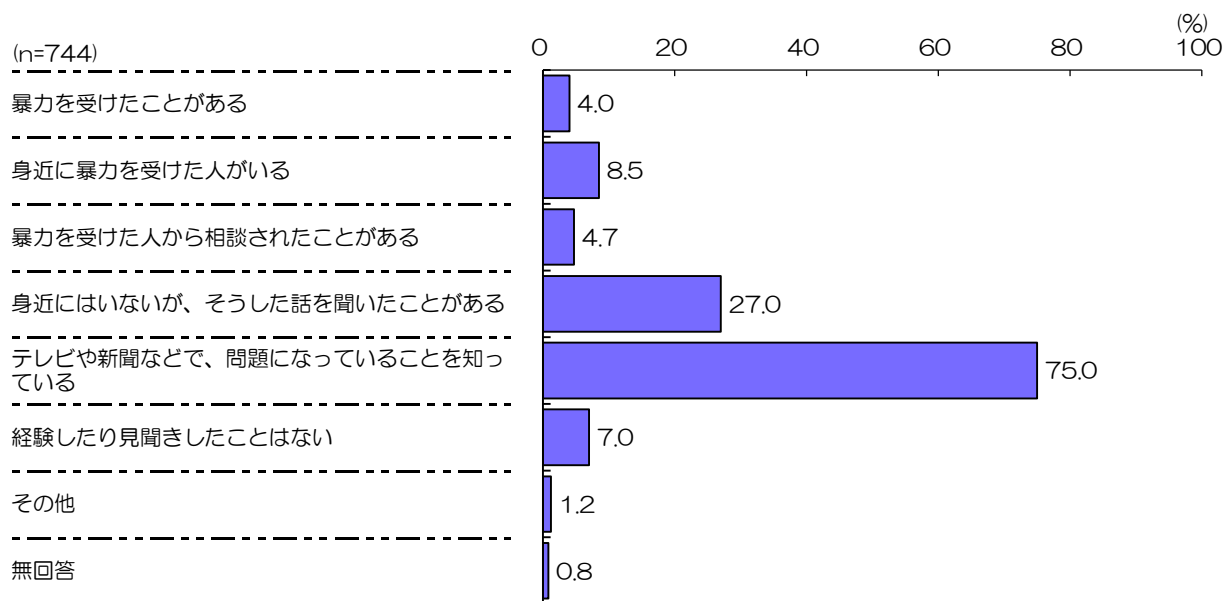
### 3 男女間の暴力やセクシュアル・ハラスメントについて

#### 1 ドメスティック・バイオレンスの経験

問6 過去1年間に、「夫や妻・恋人など親しい間柄にある男女間の暴力」(ドメスティック・バイオレンス)について、経験したり見聞きしたことがありますか。(あてはまるもの全てに○)

「テレビや新聞などで、問題になっていることを知っている」が7割以上。

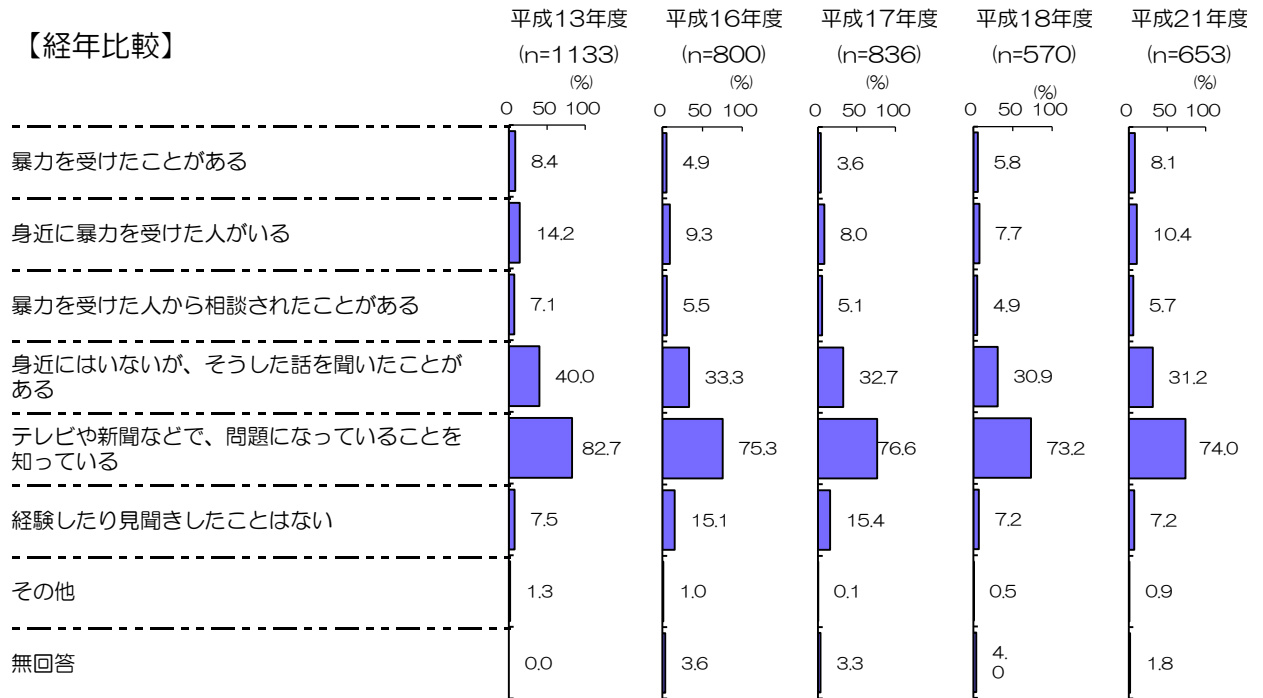
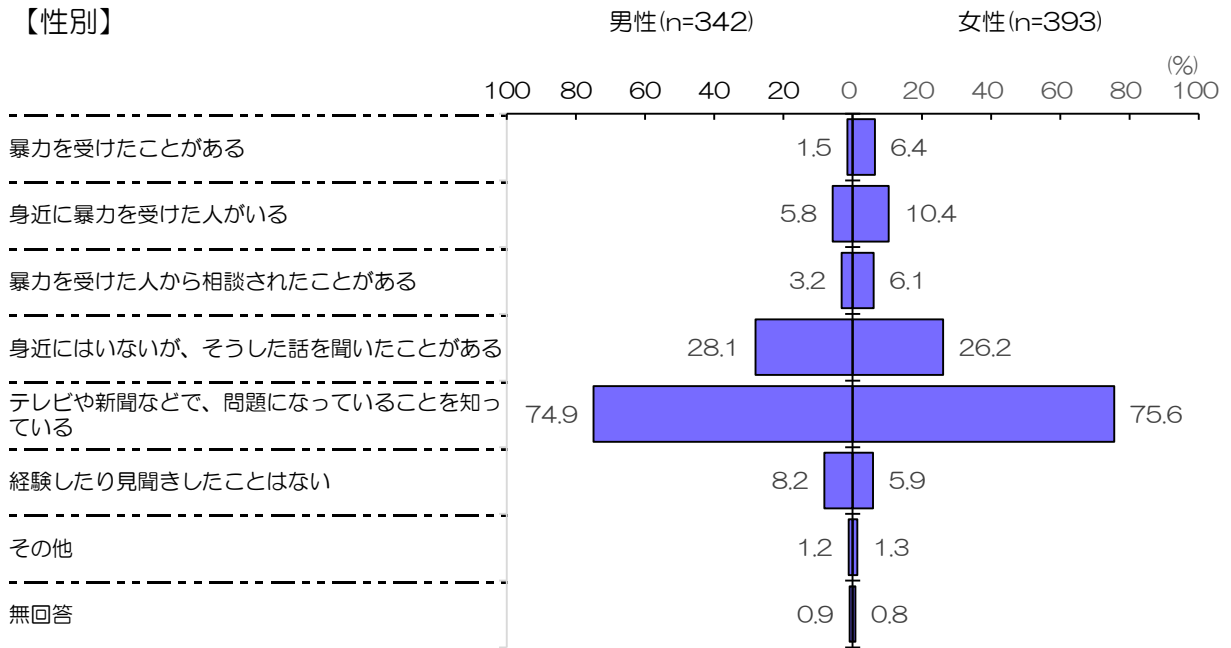
過去1年間でのドメスティック・バイオレンスの経験または見聞きしたことで、「テレビや新聞などで、問題になっていることを知っている」(75.0%)が最も多く、次に「身近にはいないが、そうした話を聞いたことがある」(27.0%)、「身近に暴力を受けた人がいる」(8.5%)、「経験したり見聞きしたことはない」(7.0%)、「暴力を受けた人から相談されたことがある」(4.7%)となっています。



IV 調査結果

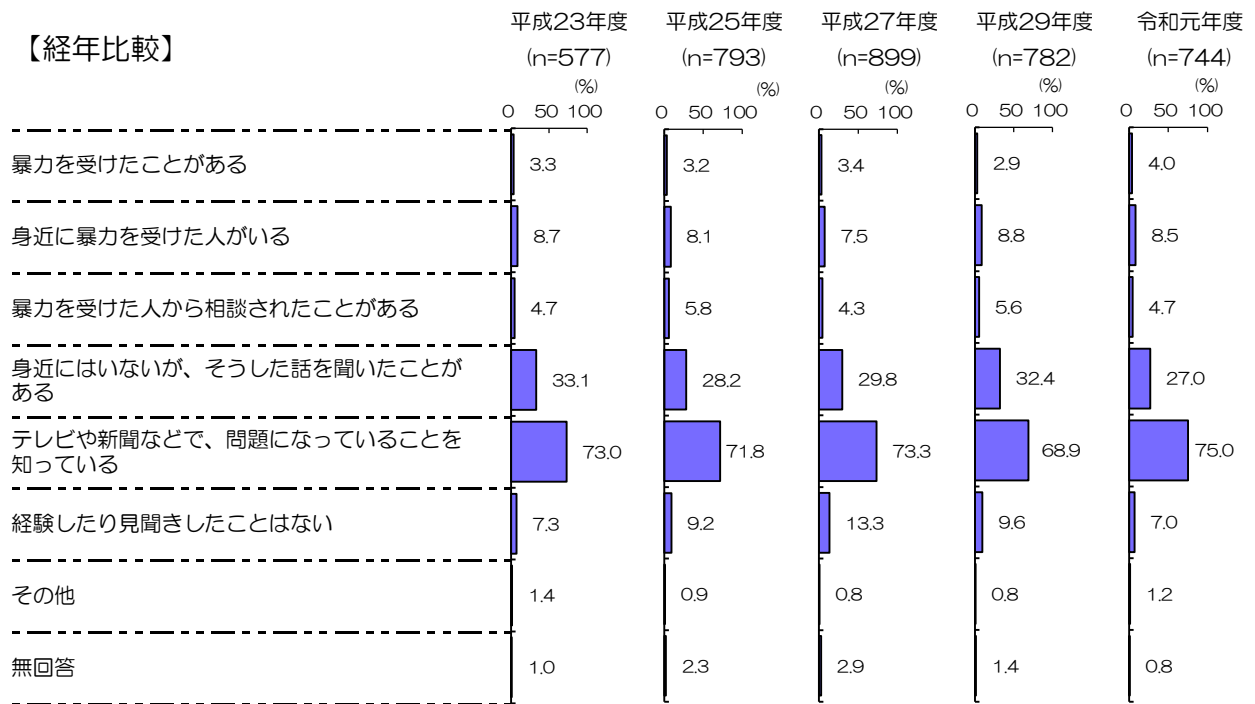
3 男女間の暴力やセクシュアル・ハラスメントについて

1 ドメスティック・バイオレンスの経験



3 男女間の暴力やセクシュアル・ハラスメントについて

1 ドメスティック・バイオレンスの経験



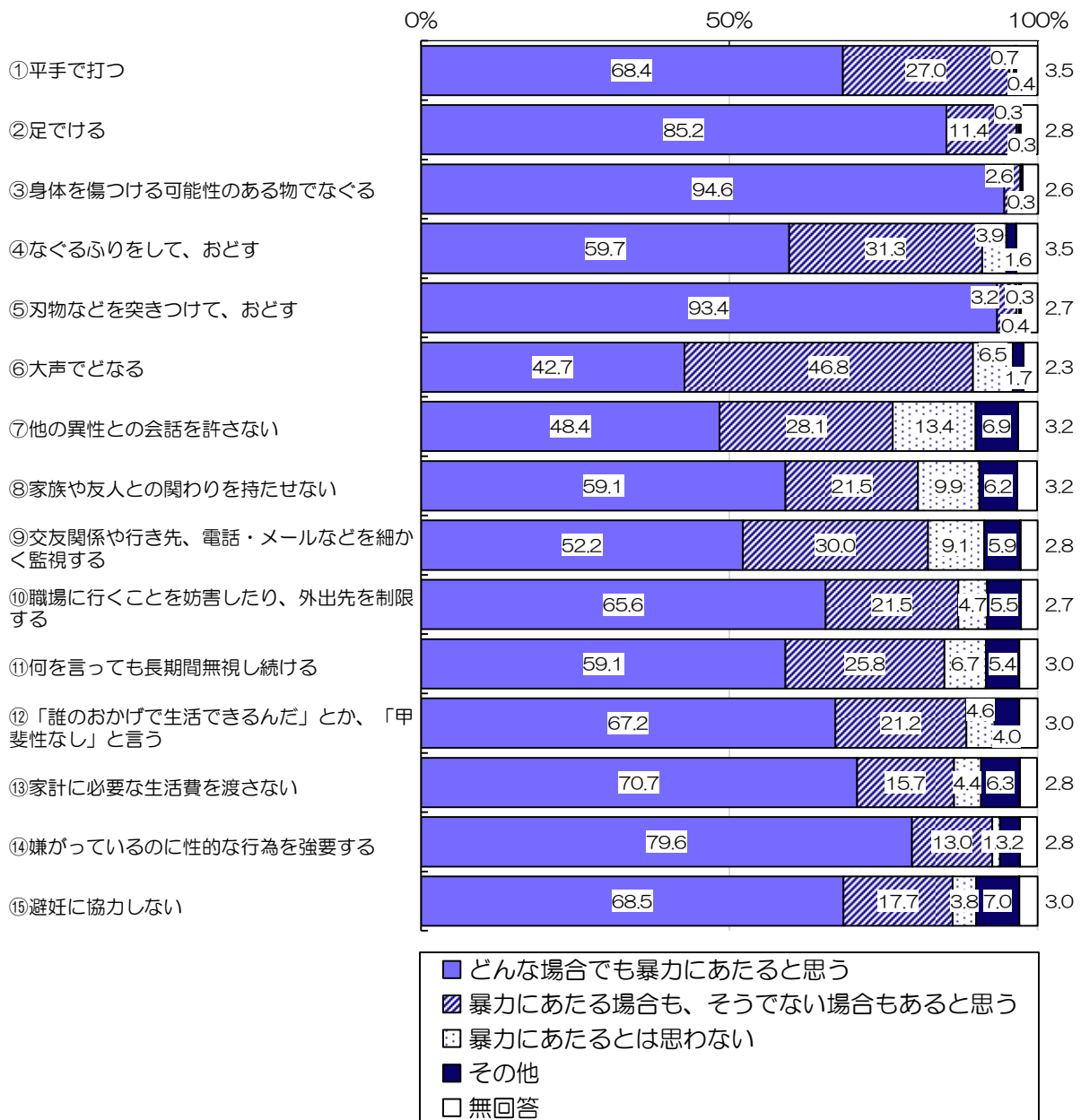
IV 調査結果

- 3 男女間の暴力やセクシュアル・ハラスメントについて
- 2 ドメスティック・バイオレンスだと思ふ行為

2 ドメスティック・バイオレンスだと思ふ行為

問6-2 あなたは、次のようなことが夫妻・恋人など親しい間柄にある男女間で行われた場合、それを暴力だと思ひますか。①～⑮のそれぞれについて、「1」から「4」のうちあなたの考えに近い番号をお選びください。なお、ここでの「夫婦」には、婚姻届を出していない事実婚や別居中の夫婦も含まれます。

ドメスティック・バイオレンスだと思ふ行為が6割を以上となるのは、有形力の行使や身体の危機に関連する行為、生殖に関連する行為となっています。威嚇や人間関係・社会的な立場を破壊する行為もドメスティック・バイオレンスであると理解している人は比較的少なくなっています。



3 男女間の暴力やセクシュアル・ハラスメントについて

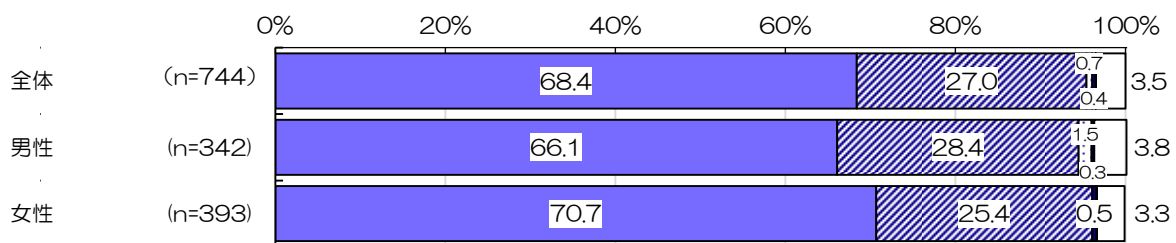
2 ドメスティック・バイオレンスだと思う行為

① 平手で打つ

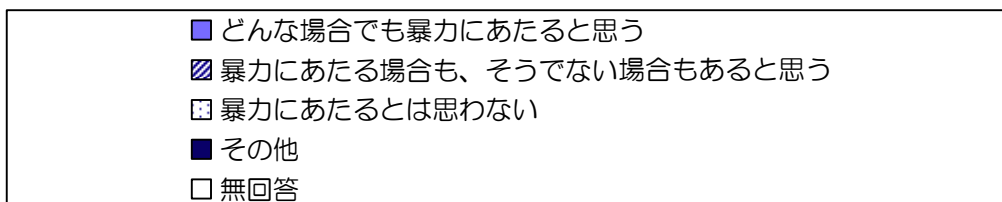
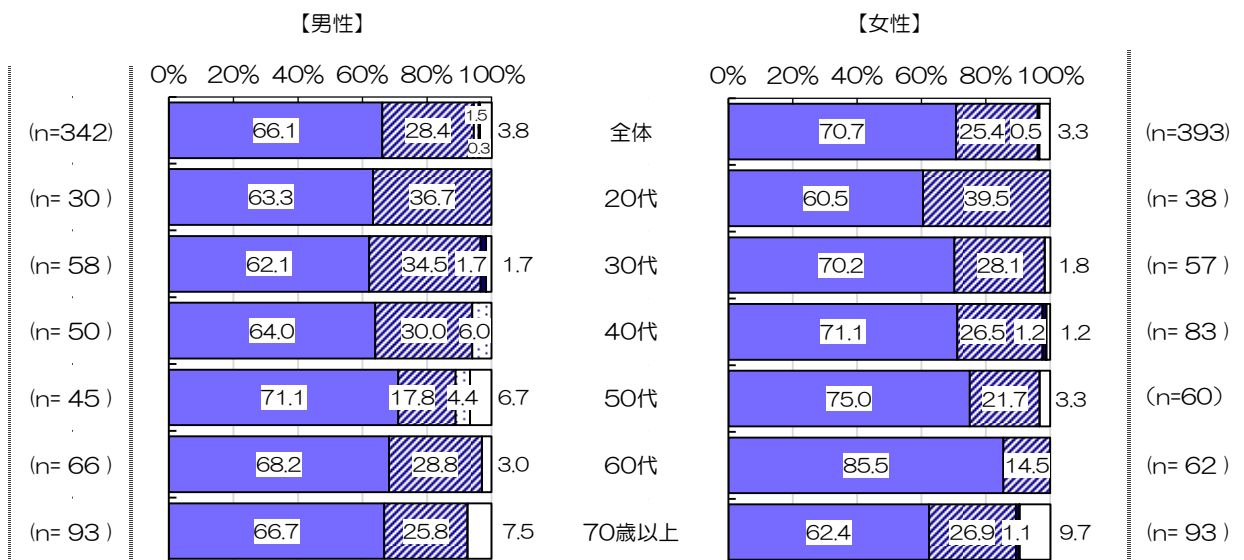
「どんな場合でも暴力にあたると思う」がおよそ7割。20代女性では、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が多くなっています。

【①平手で打つ】では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」(68.4%)が最も多く、次に「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」(27.0%)となっています。

性・年代別でみると、20代女性は、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」(39.5%)が多くなっています。60代女性は、「どんな場合でも暴力にあたると思う」(85.5%)が多くなっています。



【性・年代別】



IV 調査結果

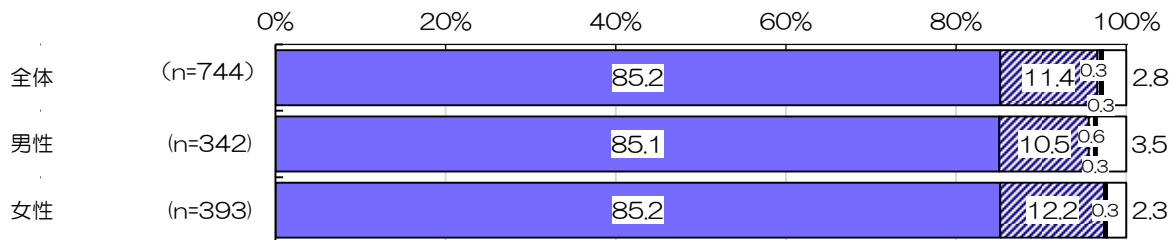
- 3 男女間の暴力やセクシュアル・ハラスメントについて
- 2 ドメスティック・バイオレンスだと思う行為

② 足でける

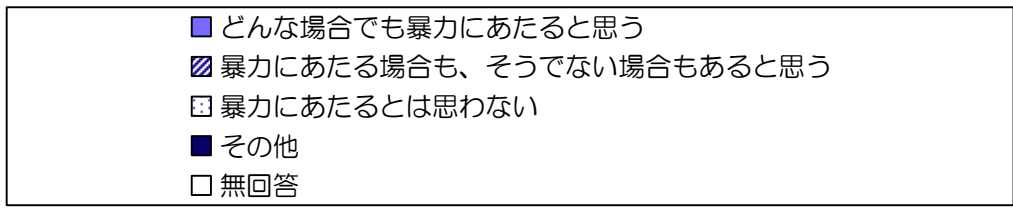
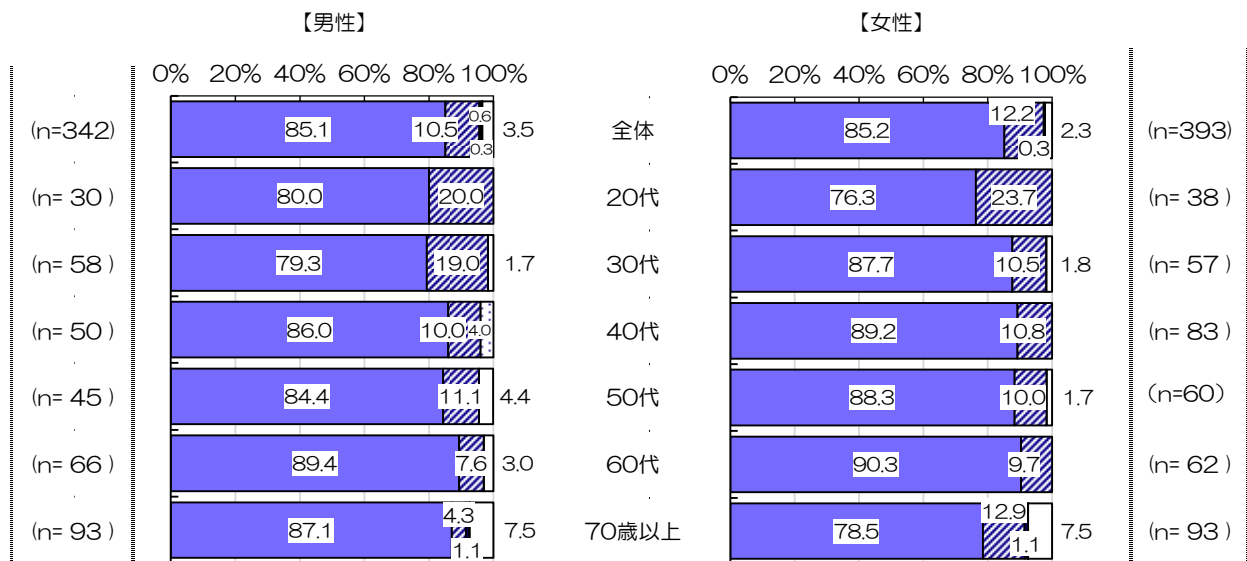
「どんな場合でも暴力にあたると思う」が8割以上。20代女性では、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が多くなっています。

【②足でける】では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」(85.2%)が最も多く、次に「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」(11.4%)となっています。

性・年代別でみると、20代女性は、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」(23.7%)が多くなっています。



【性・年代別】





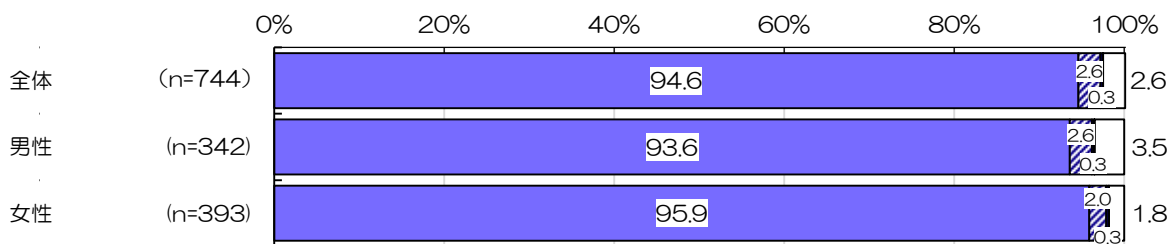
3 男女間の暴力やセクシュアル・ハラスメントについて

2 ドメスティック・バイオレンスだと思う行為

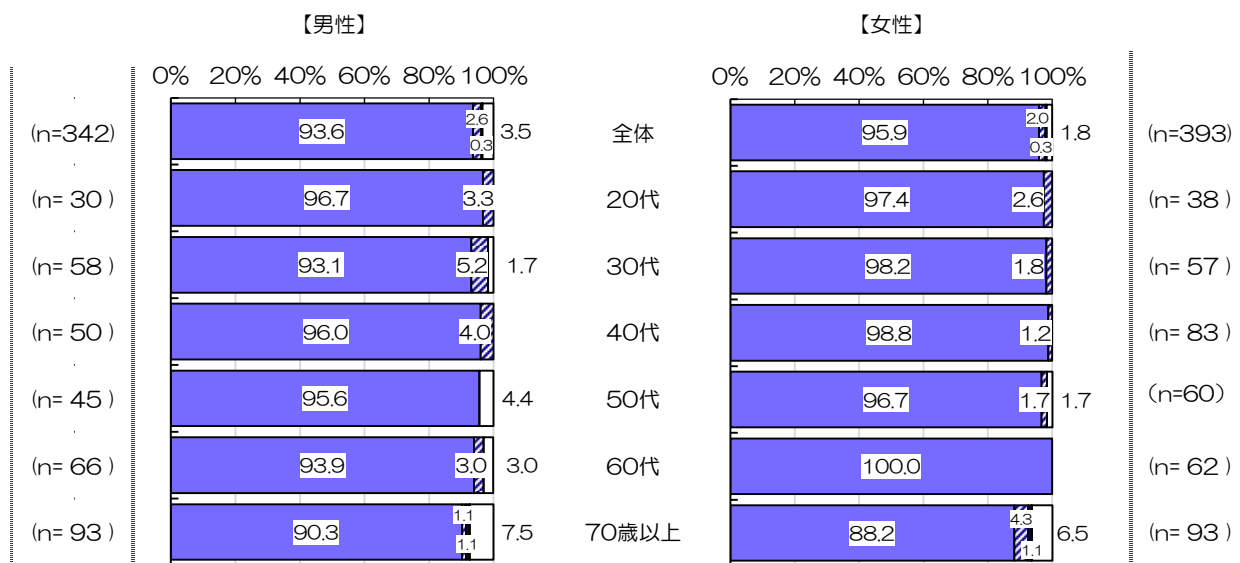
③ 身体を傷つける可能性のある物でなく

「どんな場合でも暴力にあたると思う」が9割。

【③身体を傷つける可能性のある物でなく】では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」(94.6%)が最も多くなっています。



【性・年代別】



- どんな場合でも暴力にあたると思う
- ▨ 暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う
- 暴力にあたるとは思わない
- その他
- 無回答

IV 調査結果

- 3 男女間の暴力やセクシュアル・ハラスメントについて
- 2 ドメスティック・バイオレンスだと思ふ行為

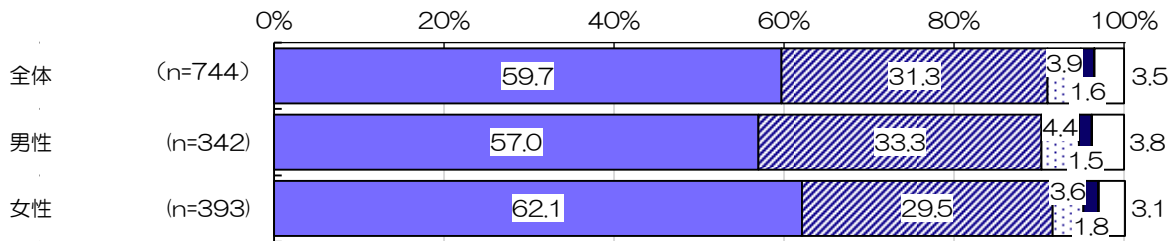
④ なぐるふりをして、おどす

「どんな場合でも暴力にあたると思う」がおよそ6割。30代、40代女性ではおよそ7割。

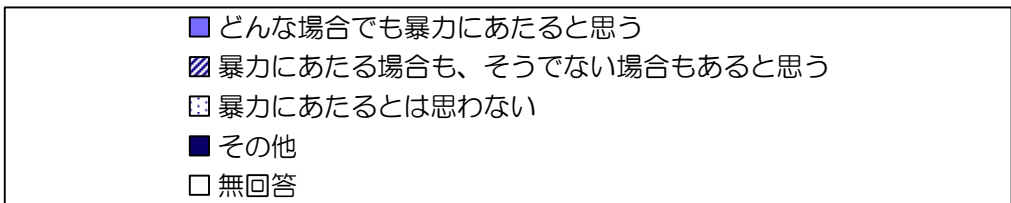
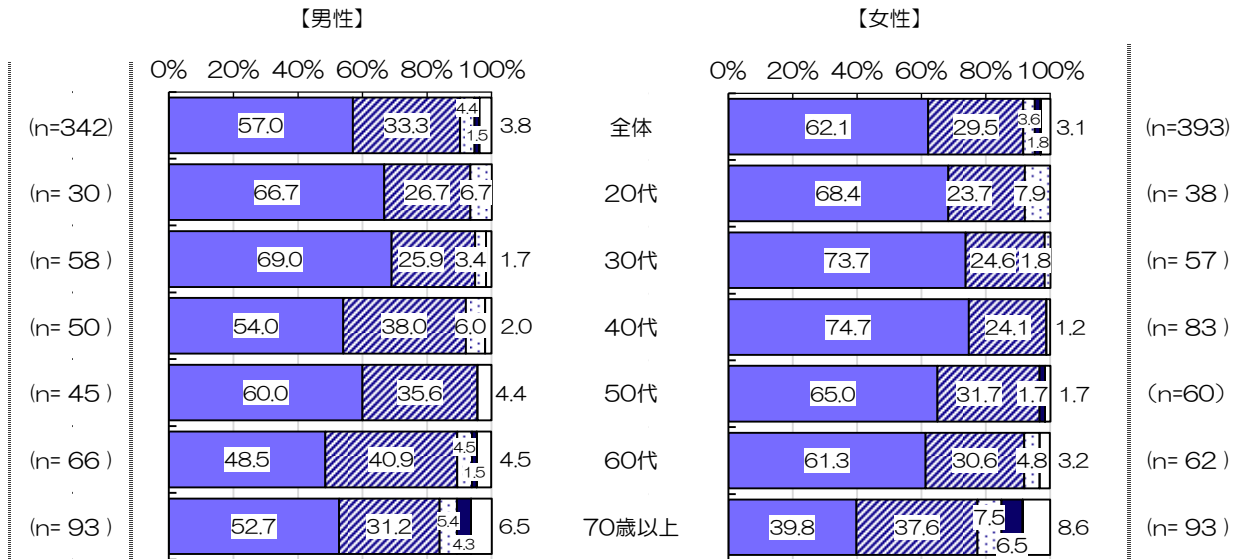
【④なぐるふりをして、おどす】では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」(59.7%)が最も多く、次に「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」(31.3%)となっています。

性・年代別でみると、30代女性は、「どんな場合でも暴力にあたると思う」(73.7%)が多くなっています。40代女性は、「どんな場合でも暴力にあたると思う」(74.7%)が多くなっています。

40代男性は同年代の女性よりも「どんな場合でも暴力にあたると思う」が少なくなっています。



【性・年代別】

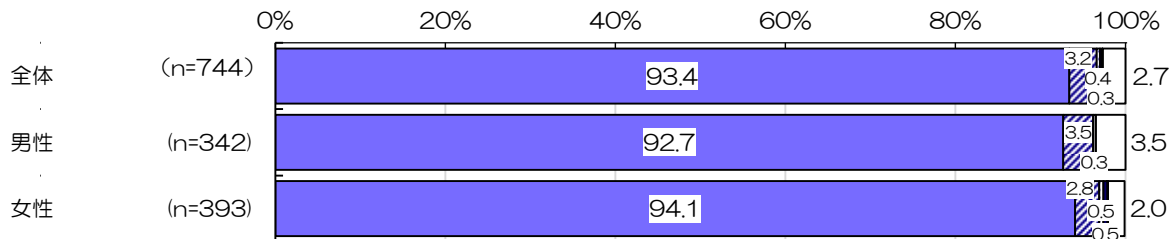


3 男女間の暴力やセクシュアル・ハラスメントについて  
2 ドメスティック・バイオレンスだと思う行為

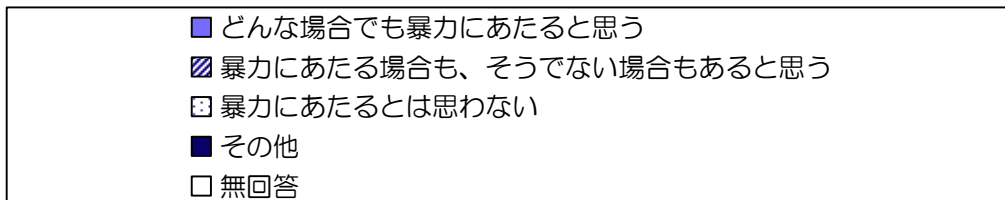
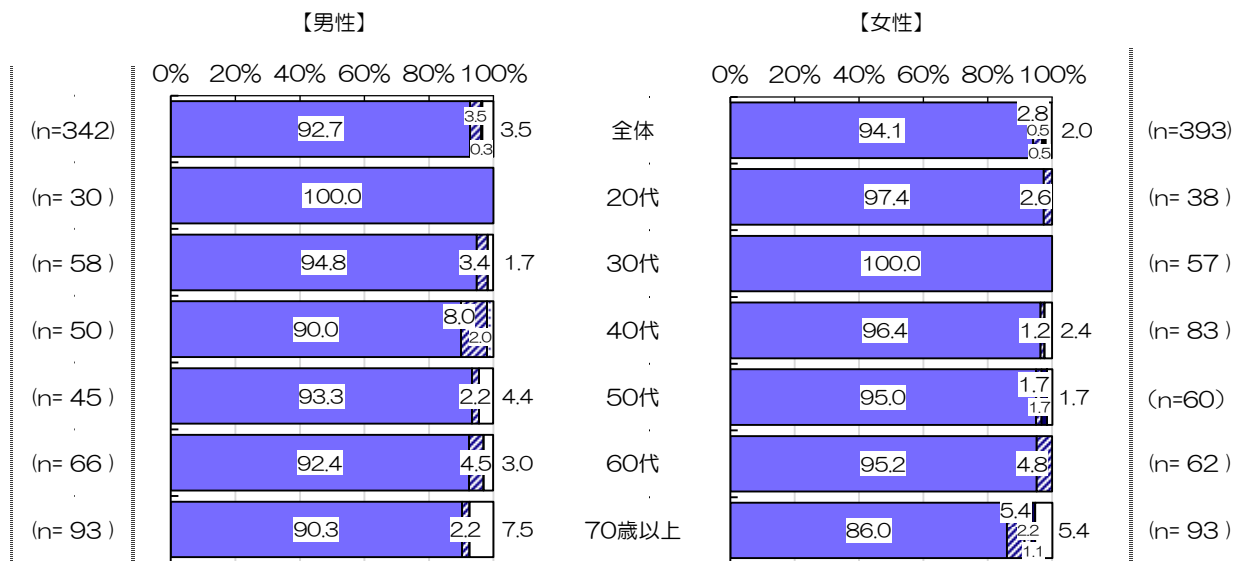
⑤ 刃物などを突きつけて、おどす

「どんな場合でも暴力にあたると思う」が9割以上。

【⑤刃物などを突きつけて、おどす】では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」(93.4%)が最も多くなっています。



【性・年代別】



IV 調査結果

3 男女間の暴力やセクシュアル・ハラスメントについて

2 ドメスティック・バイオレンスだと思う行為

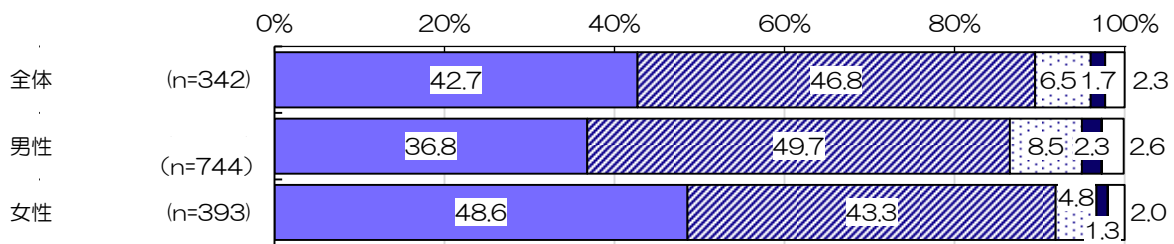
⑥ 大声でどなる

「どんな場合でも暴力にあたると思う」が4割以上。20代男性、50代男性では、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が多くなっています。

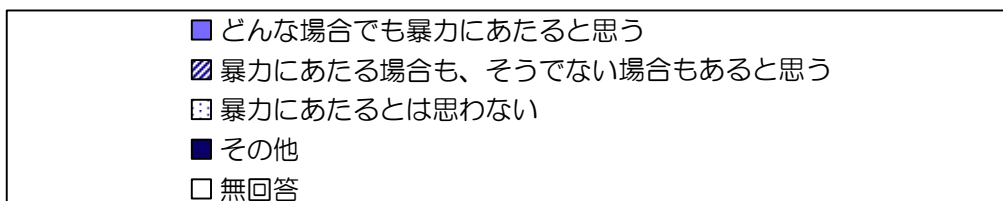
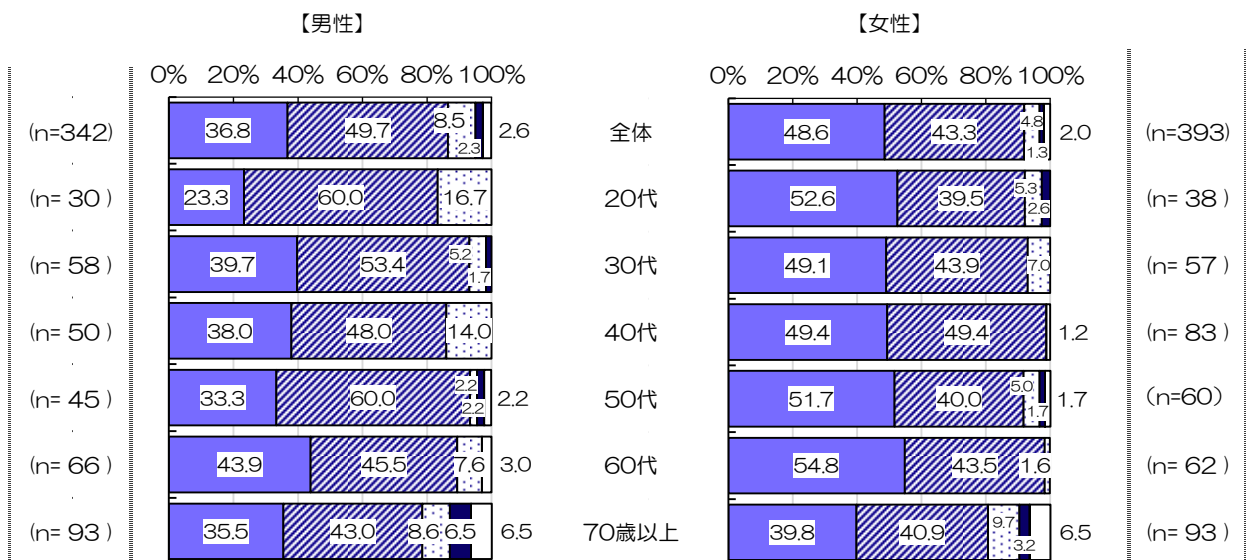
【⑥大声でどなる】では、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」(46.8%)が最も多く、次に「どんな場合でも暴力にあたると思う」(42.7%)となっています。

性・年代別でみると、20代男性は、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」(60.0%)、「暴力にあたるとは思わない」(16.7%)が多くなっています。50代男性は、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」(60.0%)が多くなっています。60代女性は、「どんな場合でも暴力にあたると思う」(54.8%)が多くなっています。

20代男性、50代男性は同年代の女性よりも「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」が多くなっています。20代男性は同年代の女性よりも「どんな場合でも暴力にあたると思う」が少なくなっています。



【性・年代別】



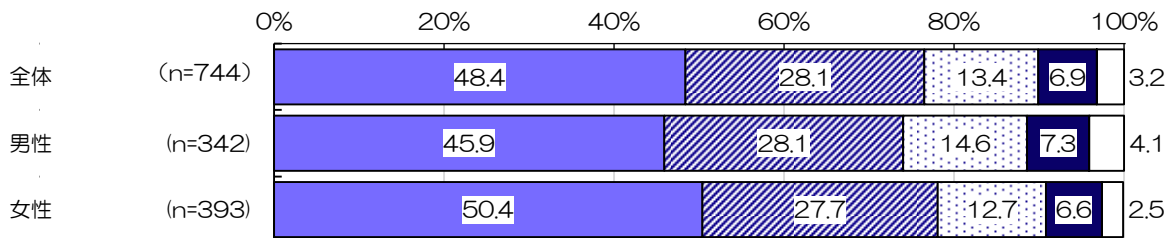
3 男女間の暴力やセクシュアル・ハラスメントについて  
2 ドメスティック・バイオレンスだと思う行為

⑦ 他の異性との会話を許さない

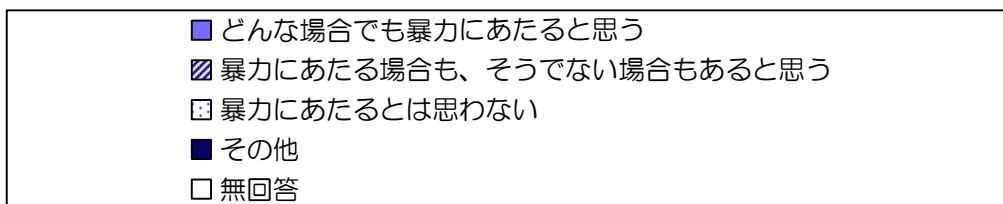
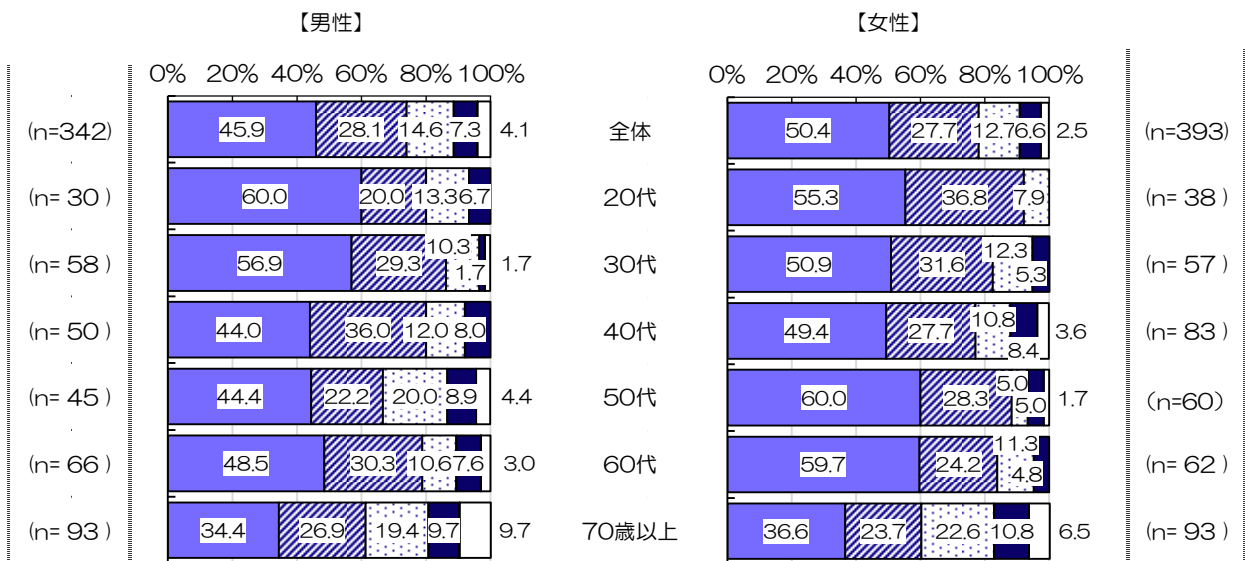
「どんな場合でも暴力にあたると思う」がおよそ5割。

【⑦他の異性との会話を許さない】では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」(48.4%)が最も多く、次に「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」(28.1%)となっています。

性・年代別でみると、20代男性は、「どんな場合でも暴力にあたると思う」(60.0%)が多くなっています。50代女性は、「どんな場合でも暴力にあたると思う」(60.0%)が多くなっています。60代女性は、「どんな場合でも暴力にあたると思う」(59.7%)が多くなっています。



【性・年代別】



IV 調査結果

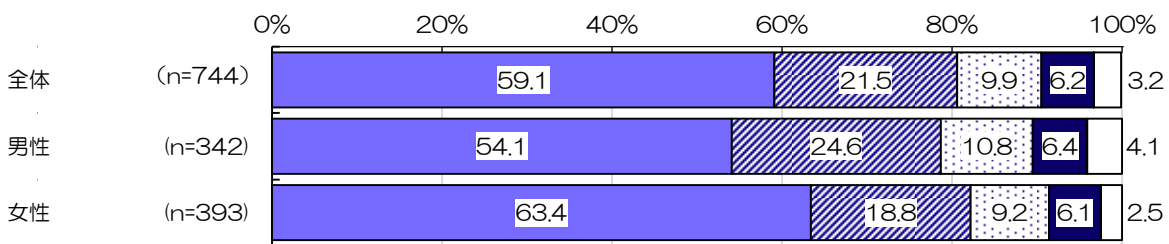
- 3 男女間の暴力やセクシュアル・ハラスメントについて
- 2 ドメスティック・バイオレンスだと思う行為

⑧ 家族や友人との関わりを持たせない

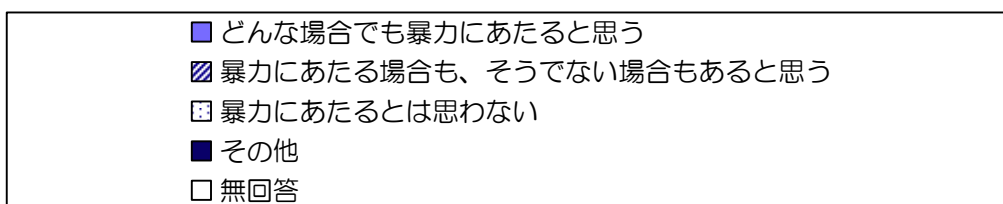
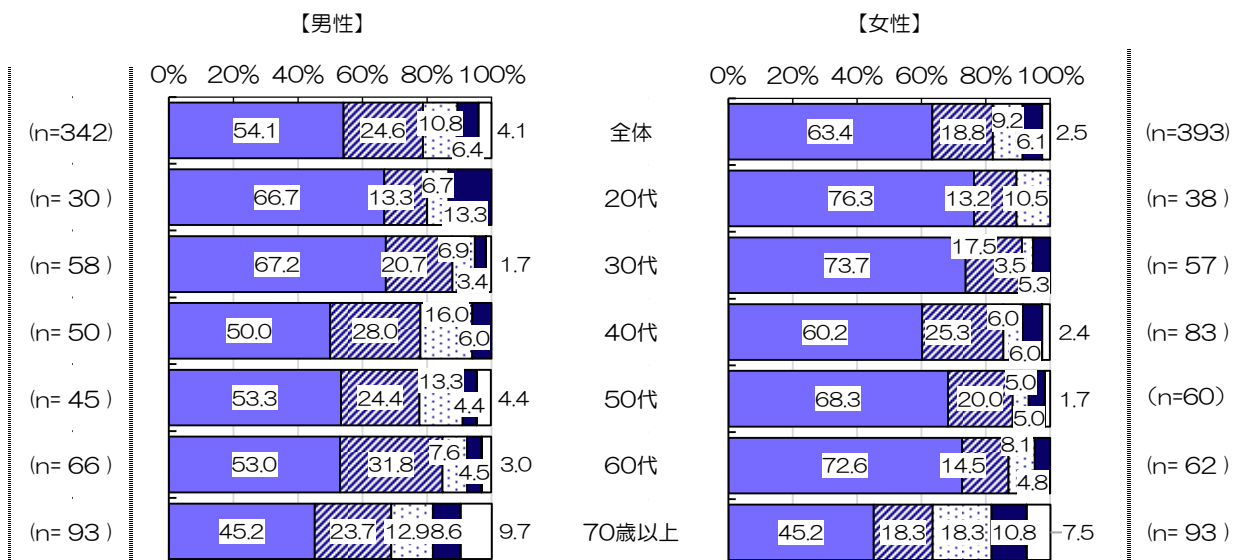
「どんな場合でも暴力にあたると思う」がおよそ6割。20代女性、30代女性、60代女性では7割以上。

【⑧家族や友人との関わりを持たせない】では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」(59.1%)が最も多く、次に「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」(21.5%)となっています。

性・年代別でみると、60代男性は、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」(31.8%)が多くなっています。20代女性は、「どんな場合でも暴力にあたると思う」(76.3%)が多くなっています。30代女性は、「どんな場合でも暴力にあたると思う」(73.7%)が多くなっています。60代女性は、「どんな場合でも暴力にあたると思う」(72.6%)が多くなっています。



【性・年代別】



3 男女間の暴力やセクシュアル・ハラスメントについて

2 ドメスティック・バイオレンスだと思う行為

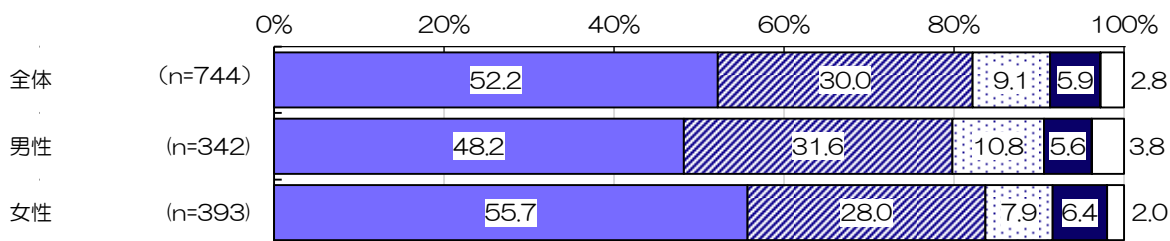
⑨ 交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する

「どんな場合でも暴力にあたると思う」が5割以上。

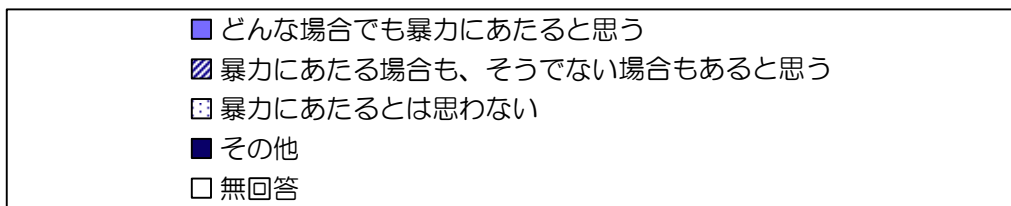
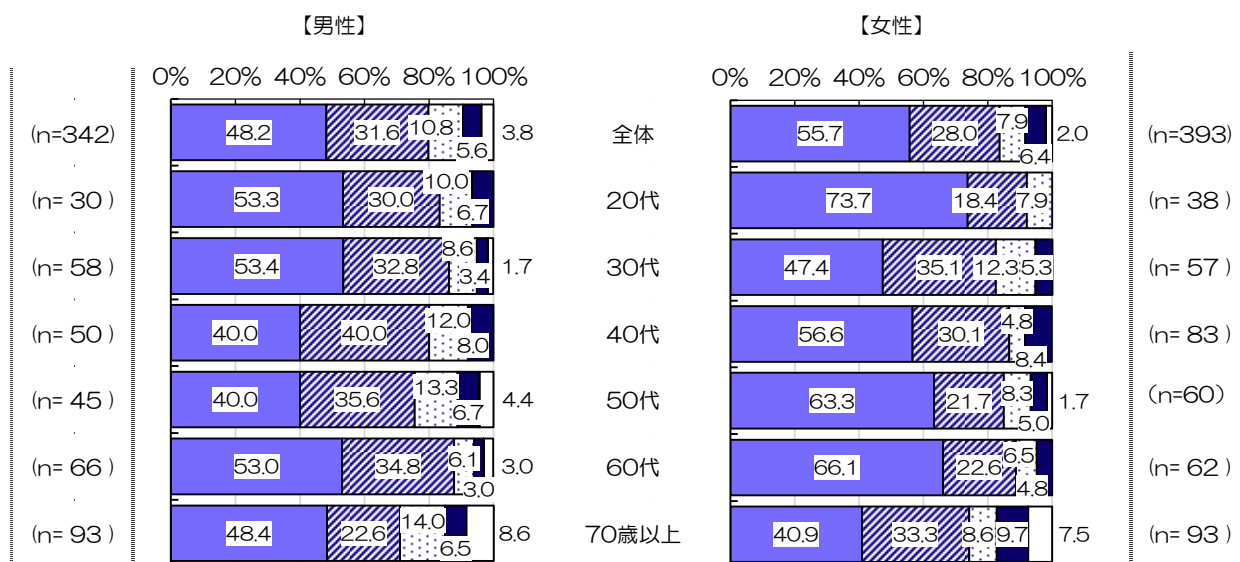
【⑨交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する】では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」(52.2%)が最も多く、次に「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」(30.0%)となっています。

性・年代別でみると、20代女性は、「どんな場合でも暴力にあたると思う」(73.7%)が多くなっています。50代女性は、「どんな場合でも暴力にあたると思う」(63.3%)が多くなっています。60代女性は、「どんな場合でも暴力にあたると思う」(66.1%)が多くなっています。

20代男性、50代男性は同年代の女性よりも「どんな場合でも暴力にあたると思う」が少なくなっています。



【性・年代別】



IV 調査結果

- 3 男女間の暴力やセクシュアル・ハラスメントについて
- 2 ドメスティック・バイオレンスだと思ふ行為

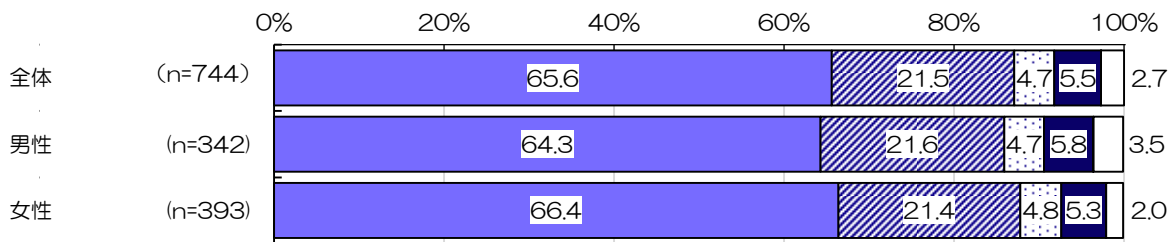
⑩ 職場に行くことを妨害したり、外出先を制限する

「どんな場合でも暴力にあたると思う」が6割以上。

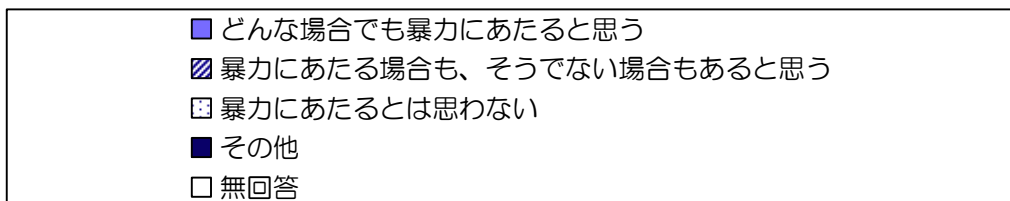
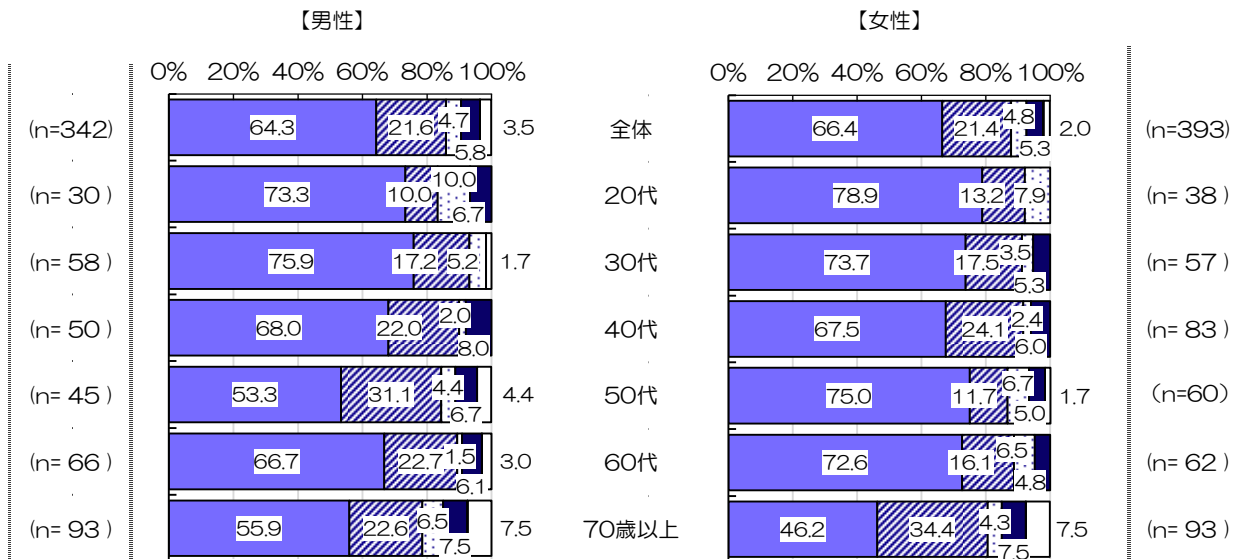
【⑩職場に行くことを妨害したり、外出先を制限する】では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」(65.6%)が最も多く、次に「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」(21.5%)となっています。

性・年代別でみると、30代男性は、「どんな場合でも暴力にあたると思う」(75.9%)が多くなっています。20代女性は、「どんな場合でも暴力にあたると思う」(78.9%)が多くなっています。70歳以上女性は、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」(34.4%)が多くなっています。

50代男性は同年代の女性よりも「どんな場合でも暴力にあたると思う」が少なくなっています。



【性・年代別】





3 男女間の暴力やセクシュアル・ハラスメントについて

2 ドメスティック・バイオレンスだと思う行為

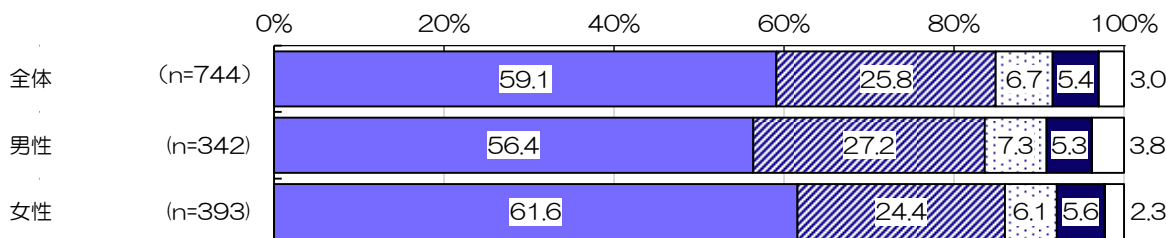
⑪ 何を言っても長期間無視し続ける

「どんな場合でも暴力にあたると思う」がおおよそ6割。50代女性、60代女性では7割以上。

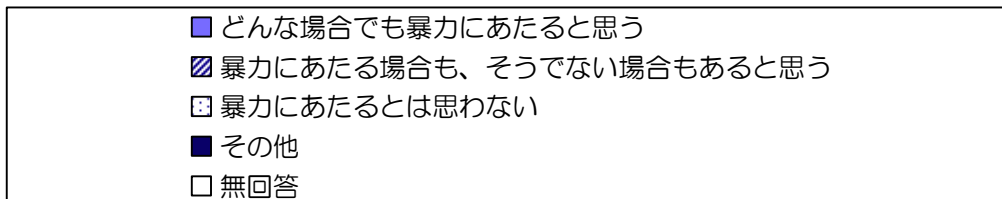
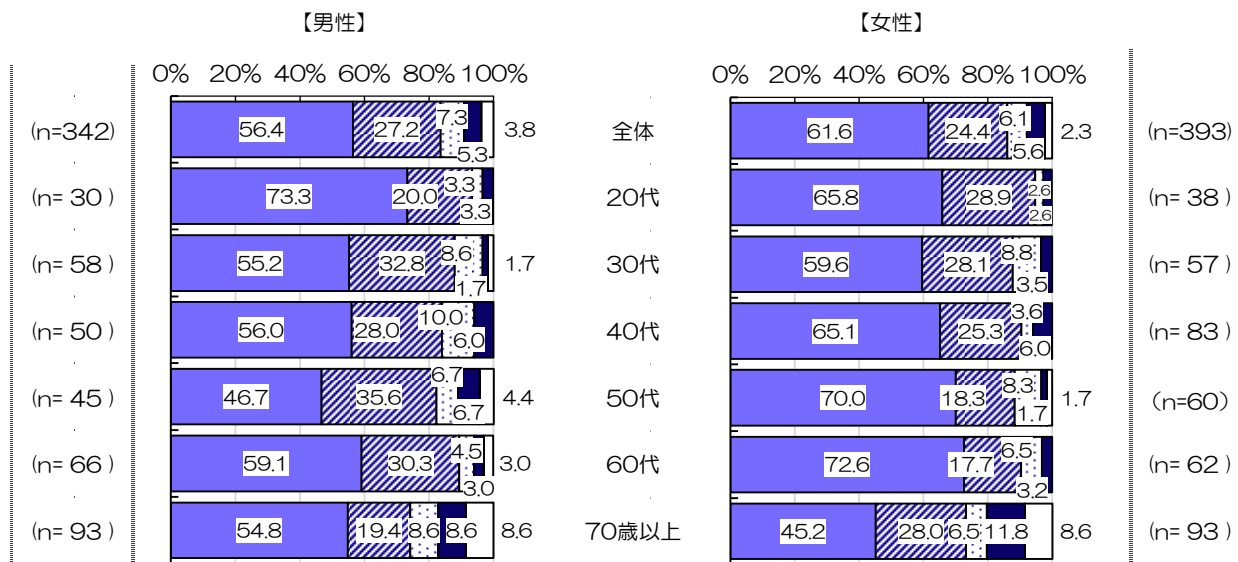
【⑪何を言っても長期間無視し続ける】では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」(59.1%)が最も多く、次に「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」(25.8%)となっています。

性・年代別でみると、20代男性は、「どんな場合でも暴力にあたると思う」(73.3%)が多くなっています。50代女性は、「どんな場合でも暴力にあたると思う」(70.0%)が多くなっています。60代女性は、「どんな場合でも暴力にあたると思う」(72.6%)が多くなっています。

50代男性は同年代の女性よりも「どんな場合でも暴力にあたると思う」が少なくなっています。



【性・年代別】



IV 調査結果

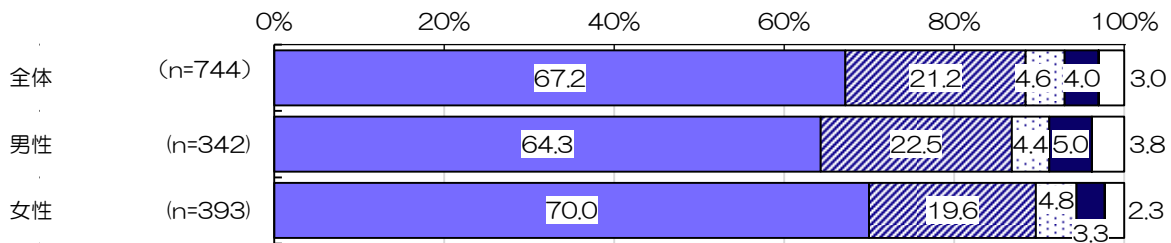
- 3 男女間の暴力やセクシュアル・ハラスメントについて
- 2 ドメスティック・バイオレンスだと思ふ行為

⑫ 「誰のおかげで生活できるんだ」とか、「甲斐性なし」と言う

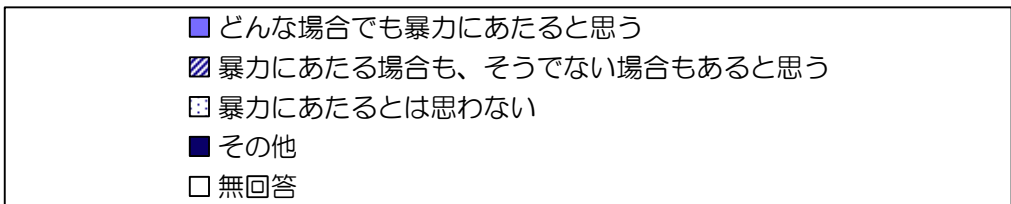
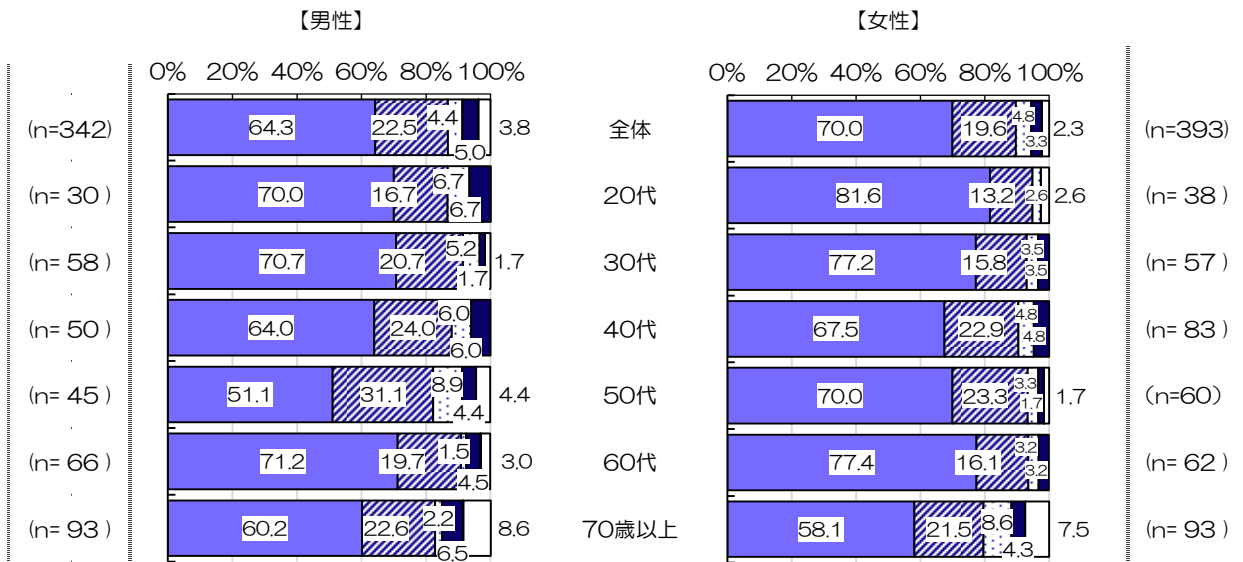
「どんな場合でも暴力にあたると思う」が6割以上。

【⑫「誰のおかげで生活できるんだ」とか、「甲斐性なし」と言う】では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」(67.2%)が最も多く、次に「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」(21.2%)となっています。

性・年代別でみると、20代女性は、「どんな場合でも暴力にあたると思う」(81.6%)が多くなっています。60代女性は、「どんな場合でも暴力にあたると思う」(77.4%)が多くなっています。



【性・年代別】



3 男女間の暴力やセクシュアル・ハラスメントについて  
2 ドメスティック・バイオレンスだと思う行為

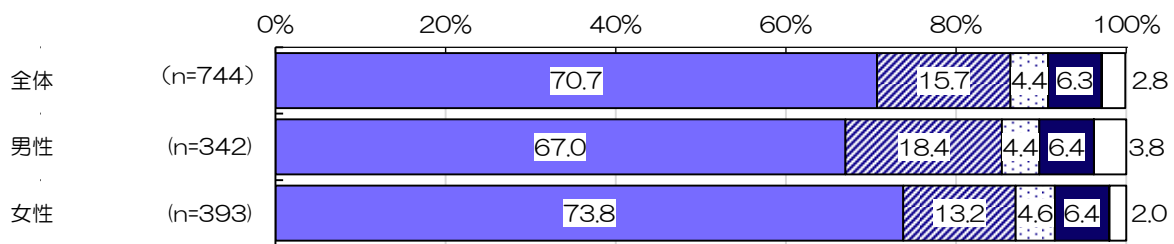
⑬ 家計に必要な生活費を渡さない

「どんな場合でも暴力にあたると思う」が7割以上。

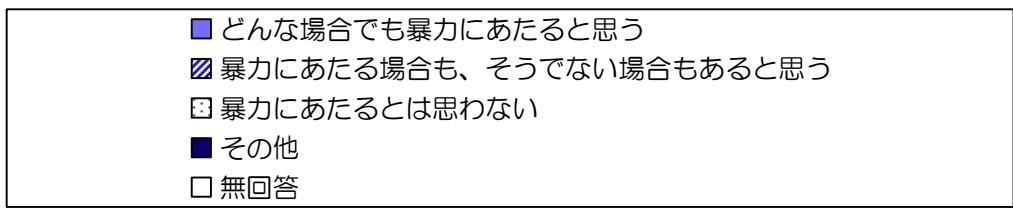
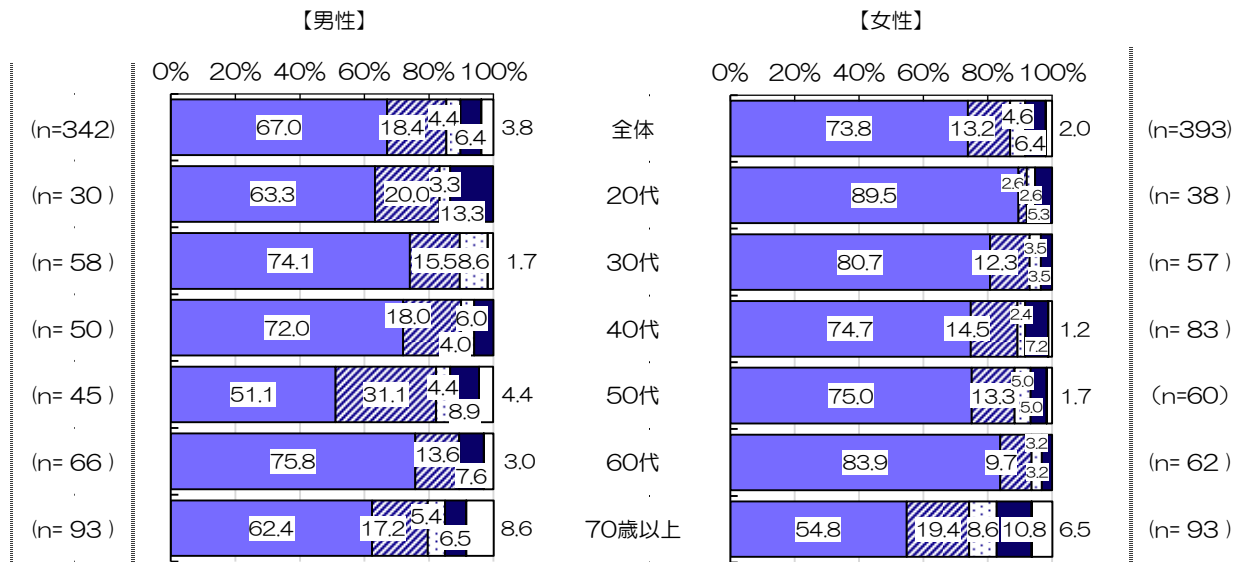
【⑬家計に必要な生活費を渡さない】では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」(70.7%)が最も多くなっています。

性・年代別でみると、50代男性は、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」(31.1%)が多くなっています。20代女性は、「どんな場合でも暴力にあたると思う」(89.5%)が多くなっています。60代女性は、「どんな場合でも暴力にあたると思う」(83.9%)が多くなっています。

20代男性、50代男性は同年代の女性よりも「どんな場合でも暴力にあたると思う」が少なくなっています。



【性・年代別】



IV 調査結果

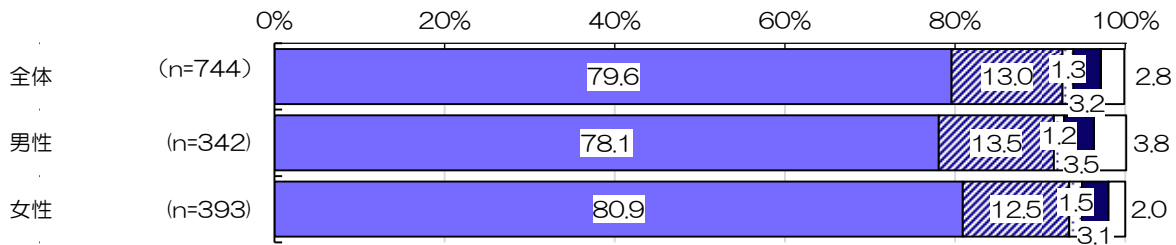
- 3 男女間の暴力やセクシュアル・ハラスメントについて
- 2 ドメスティック・バイオレンスだと思いう行為

⑭ 嫌がっているのに性的な行為を強要する

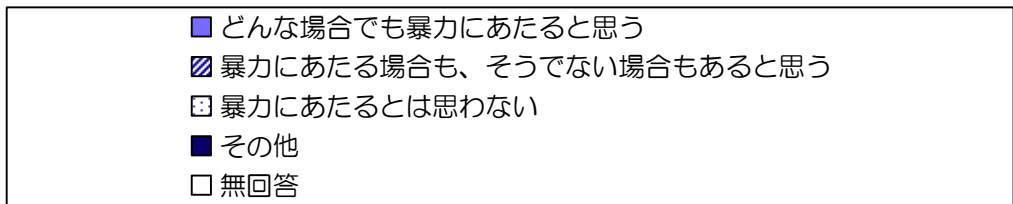
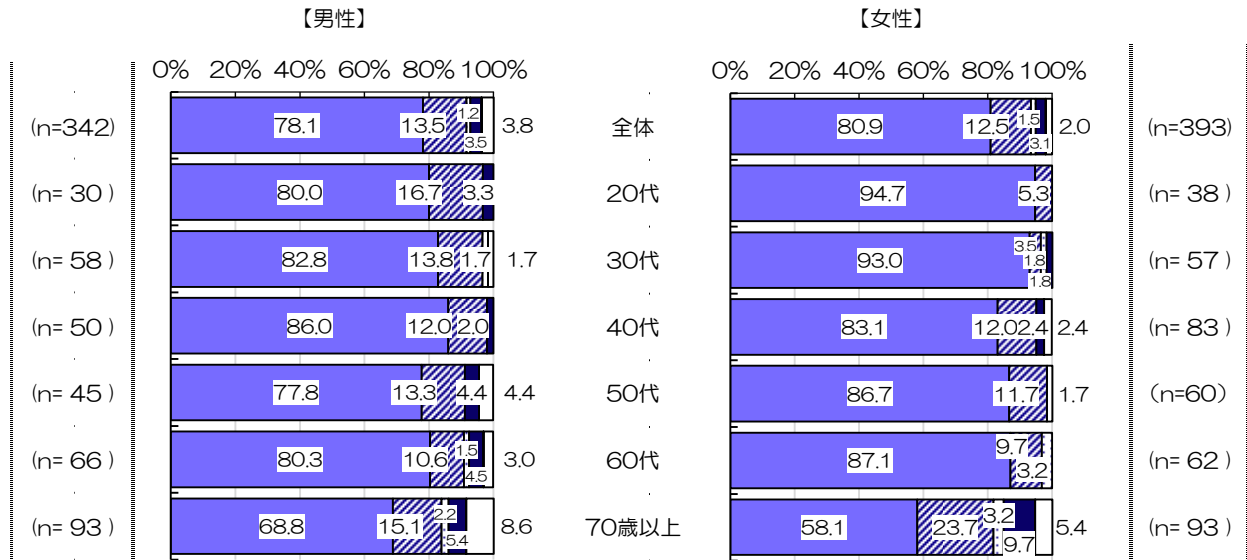
「どんな場合でも暴力にあたると思う」がおおよそ8割。20代女性、30代女性では9割以上。

【⑭嫌がっているのに性的な行為を強要する】では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」(79.6%)が最も多くなっています。

性・年代別でみると、20代女性は、「どんな場合でも暴力にあたると思う」(94.7%)が多くなっています。30代女性は、「どんな場合でも暴力にあたると思う」(93.0%)が多くなっています。70歳以上女性は、「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」(23.7%)が多くなっています。



【性・年代別】



3 男女間の暴力やセクシュアル・ハラスメントについて  
2 ドメスティック・バイオレンスだと思う行為

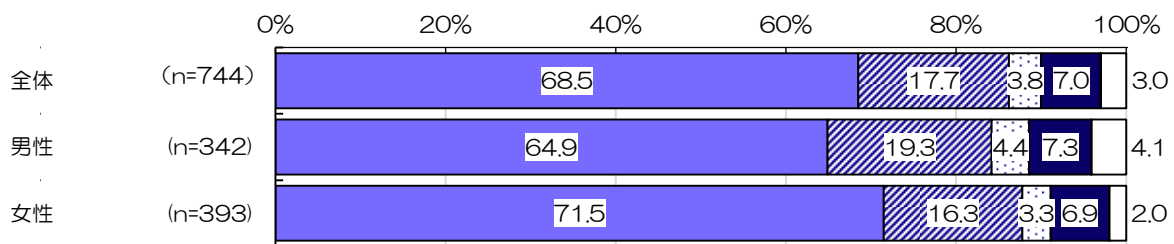
⑮ 避妊に協力しない

「どんな場合でも暴力にあたると思う」がおよそ7割。20代女性、30代女性、50代女性では8割以上。

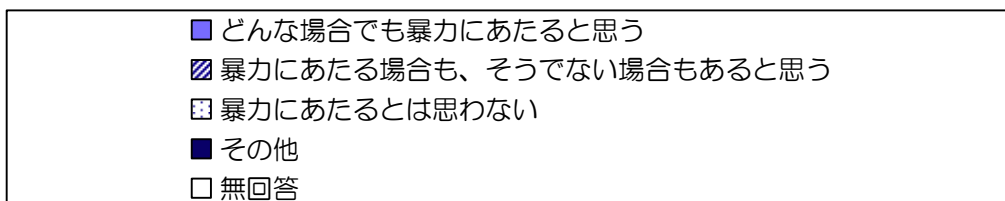
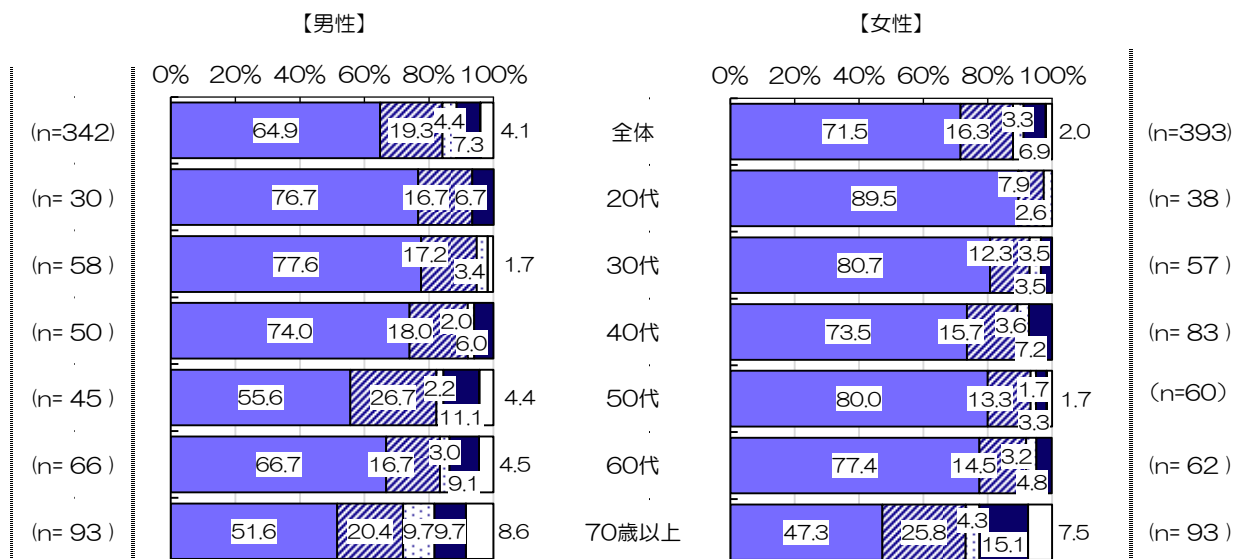
【⑮避妊に協力しない】では、「どんな場合でも暴力にあたると思う」(68.5%)が最も多くなっています。

性・年代別でみると、20代女性は、「どんな場合でも暴力にあたると思う」(89.5%)が多くなっています。30代女性は、「どんな場合でも暴力にあたると思う」(80.7%)が多くなっています。50代女性は、「どんな場合でも暴力にあたると思う」(80.0%)が多くなっています。

50代男性は同年代の女性よりも「どんな場合でも暴力にあたると思う」が少なくなっています。



【性・年代別】



IV 調査結果

3 男女間の暴力やセクシュアル・ハラスメントについて

2 ドメスティック・バイオレンスだと思いう行為

《ドメスティック・バイオレンスだと思いう行為まとめ》

経済に関わるもの以外の精神的なドメスティック・バイオレンスは「どんな場合でも暴力にあたると思う」が他と比べて比較的少なくなっています。

各分野の特徴を下表にまとめました。【⑥大声でどなる】、【⑦ 他の異性との会話を許さない】以外の分野で「どんな場合でも暴力にあたると思う」が半数を超えています。

性別でみると、【⑦ 他の異性との会話を許さない】、【⑨ 交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する】では女性のみが「どんな場合でも暴力にあたると思う」が半数を超えています。

		① 平手で打つ	② 足でける	③ 身体を傷つける可能性のある物でなぐる	④ なぐるふりをして、おどす	⑤ 刃物などを突きつけて、おどす
全体の傾向		・「どんな場合でも暴力にあたると思う」と感じるのは7割弱	・「どんな場合でも暴力にあたると思う」と感じるのは8割以上	・「どんな場合でも暴力にあたると思う」と感じるのは9割以上	・「どんな場合でも暴力にあたると思う」と感じるのは6割弱	・「どんな場合でも暴力にあたると思う」と感じるのは9割以上
「どんな場合でも暴力にあたると思う」と感じる傾向が強い属性	性別	・男性 ・女性	・男性 ・女性	・男性 ・女性	・男性 ・女性	・男性 ・女性
	性・年代別	・男性 すべての年代 ・女性 すべての年代	・男性 すべての年代 ・女性 すべての年代	・男性 すべての年代 ・女性 すべての年代	・男性 すべての年代 ・女性 すべての年代	・男性 60代以外の年代 ・女性 70歳以上以外の年代

IV 調査結果

3 男女間の暴力やセクシュアル・ハラスメントについて

2 ドメスティック・バイオレンスだと思う行為

		⑥ 大声でどなる	⑦ 他の異性との会話を許さない	⑧ 家族や友人との関わりを持たせない	⑨ 交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する	⑩ 職場に行くことを妨害したり、外出先を制限する
全体の傾向		・「どんな場合でも暴力にあたると思う」と感じるのは4割強	・「どんな場合でも暴力にあたると思う」と感じるのは5割弱	・「どんな場合でも暴力にあたると思う」と感じるのは6割弱	・「どんな場合でも暴力にあたると思う」と感じるのは5割強	・「どんな場合でも暴力にあたると思う」と感じるのは6割以上
「どんな場合でも暴力にあたると思う」と感じる傾向が強い属性	性別	・なし	・女性	・男性 ・女性	・女性	・男性 ・女性
	性・年代別	・女性 20代 50代 60代	・男性 20代 30代 ・女性 20代 30代 50代 60代	・男性 70歳以上以外の年代 ・女性 70歳以上以外の年代	・男性 20代 30代 60代 ・女性 20代 40代から60代	・男性 すべての年代 ・女性 70歳以上以外の年代

IV 調査結果

3 男女間の暴力やセクシュアル・ハラスメントについて

2 ドメスティック・バイオレンスだと思う行為

		⑪ 何を言っても長期間無視し続ける	⑫ 「誰のおかげで生活できるんだ」とか、「甲斐性なし」と言う	⑬ 家計に必要な生活費を渡さない	⑭ 嫌がっているのに性的な行為を強要する	⑮ 避妊に協力しない
全体の傾向		・「どんな場合でも暴力にあたると思う」と感じるのは6割弱	・「どんな場合でも暴力にあたると思う」と感じるのはおよそ7割	・「どんな場合でも暴力にあたると思う」と感じるのは7割	・「どんな場合でも暴力にあたると思う」と感じるのは8割弱	・「どんな場合でも暴力にあたると思う」と感じるのは7割弱
「どんな場合でも暴力にあたると思う」と感じる傾向が強い属性	性別	・男性 ・女性	・男性 ・女性	・男性 ・女性	・男性 ・女性	・男性 ・女性
	性・年代別	・男性 50代以外のすべての年代 ・女性 70歳以上以外のすべての年代	・男性 すべての年代 ・女性 すべての年代	・男性 すべての年代 ・女性 すべての年代	・男性 すべての年代 ・女性 すべての年代	・男性 すべての年代 ・女性 70歳以上以外の年代



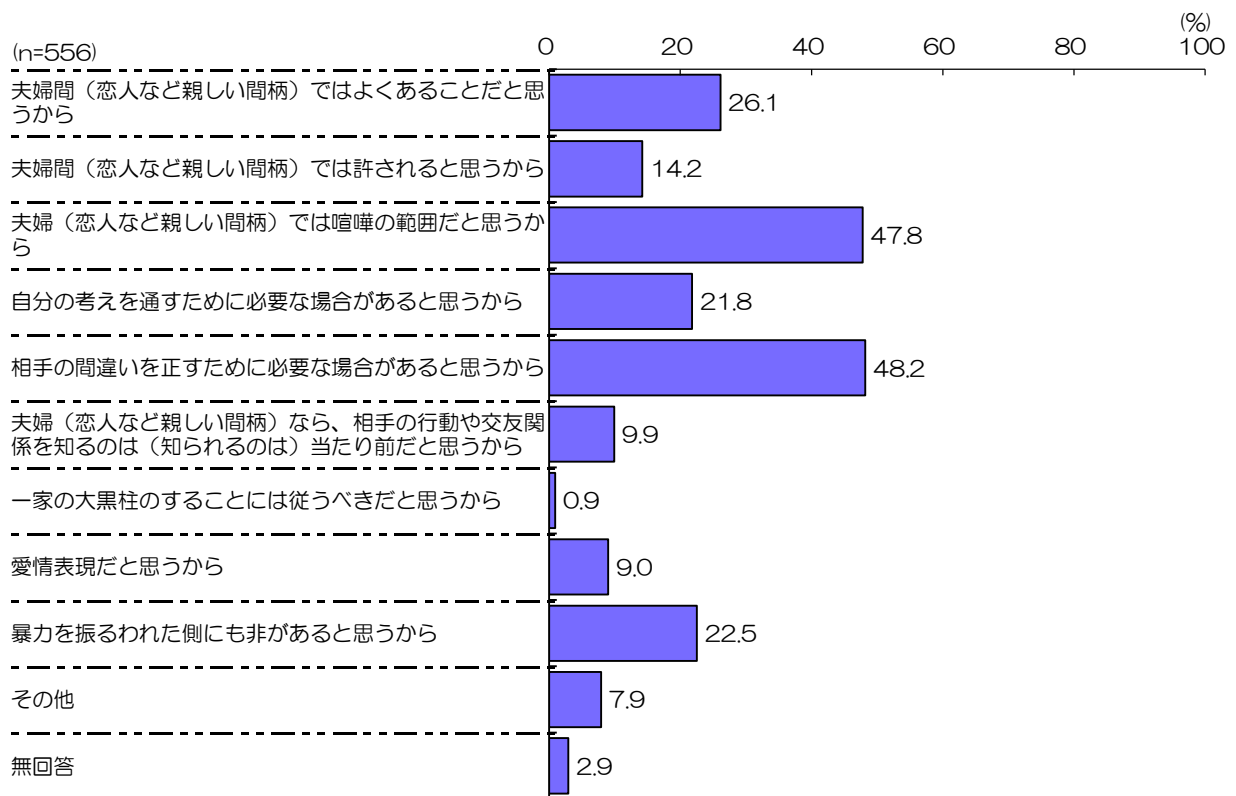
3 男女間の暴力やセクシュアル・ハラスメントについて  
3 ドメスティック・バイオレンスだと思わない理由

3 ドメスティック・バイオレンスだと思わない理由

問6-3 問6-2の①から⑮のうち1つでも「2」、「3」と答えた方にお聞きします。そのような行為が「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」、「暴力にあたるとは思わない」と思ったのはなぜですか。あてはまる番号すべてをお選びください。  
(あてはまるもの全てに○)

「相手の間違いを正すために必要な場合があると思うから」、「夫婦（恋人など親しい間柄）では喧嘩の範囲だと思うから」が4割以上。

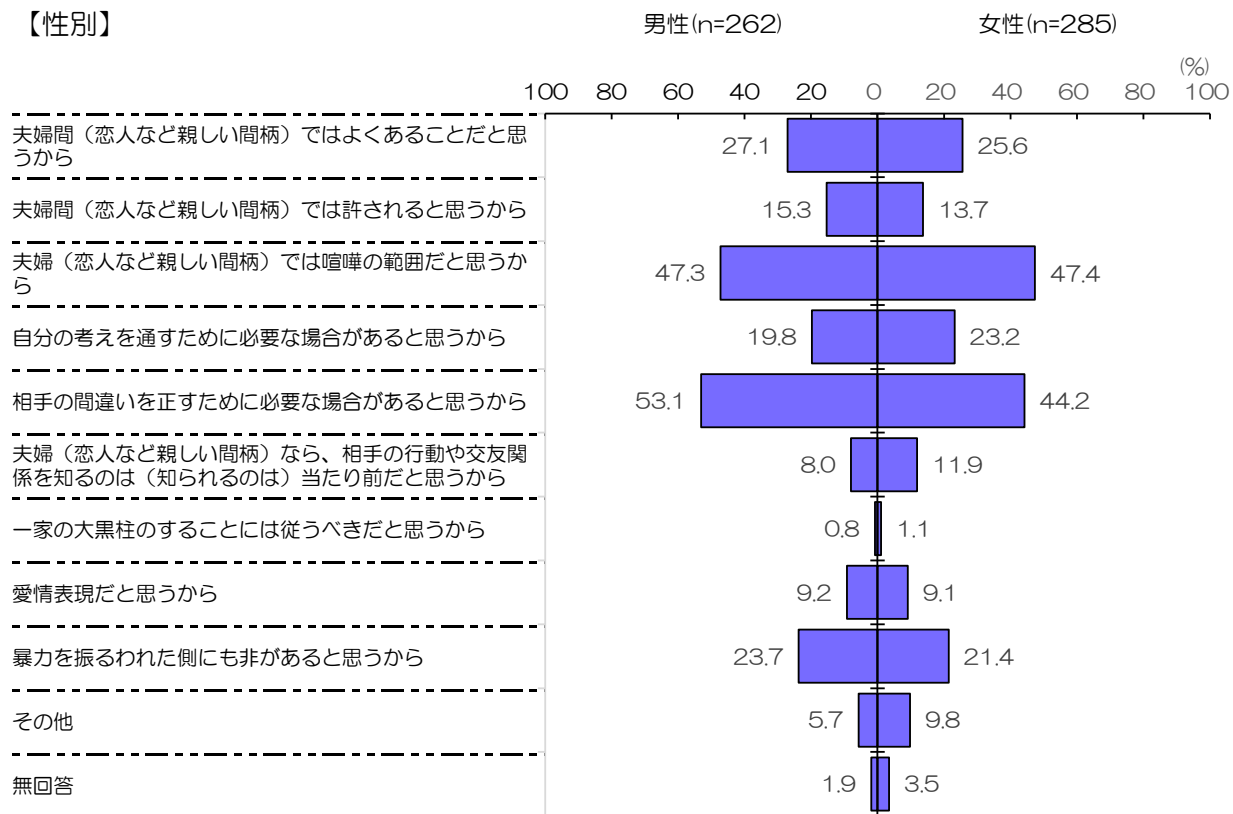
暴力だと思わない理由では、「相手の間違いを正すために必要な場合があると思うから」(48.2%)が最も多く、次に「夫婦（恋人など親しい間柄）では喧嘩の範囲だと思うから」(47.8%)、「夫婦間（恋人など親しい間柄）ではよくあることだと思うから」(26.1%)、「暴力を振るわれた側にも非があると思うから」(22.5%)、「自分の考えを通すために必要な場合があると思うから」(21.8%)となっています。



IV 調査結果

3 男女間の暴力やセクシュアル・ハラスメントについて

3 ドメスティック・バイオレンスだと思わない理由



3 男女間の暴力やセクシュアル・ハラスメントについて  
 4 ドメスティック・バイオレンスをなくすために重要なこと

4 ドメスティック・バイオレンスをなくすために重要なこと

問7 「夫や妻・恋人など親しい間柄にある男女間の暴力」(ドメスティック・バイオレンス)をなくすためには、どうしたらよいとお考えになりますか。あなたが、重要であるとお考えのものをお選びください。(3つまでに○)

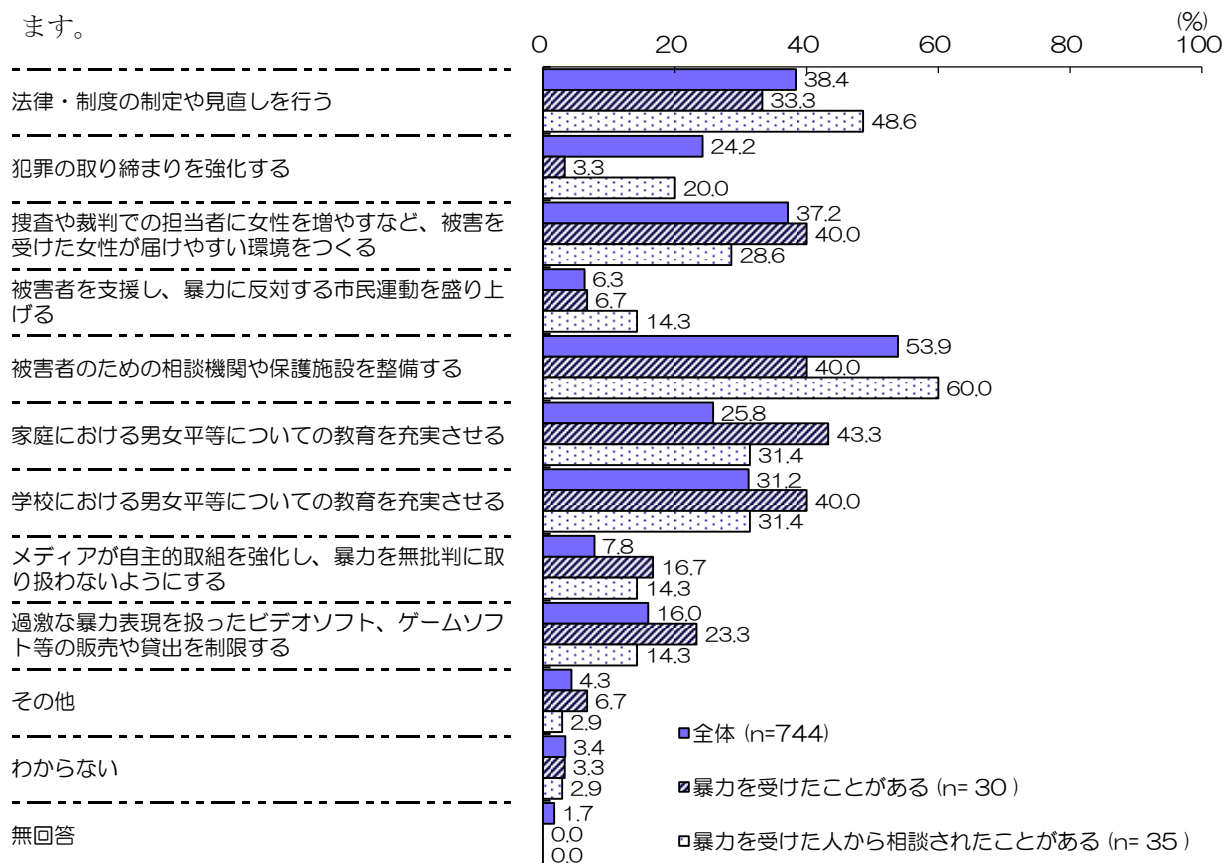
“被害者保護の環境整備”が5割以上、“法律・制度の制定や見直し”、“被害者が届けやすい環境整備”、“学校における男女平等についての教育の充実”が3割以上で、メディアや市民によるものではなく、自治体や国による被害者への積極的で具体的な対応が求められています。

ドメスティック・バイオレンスをなくすために重要だと考えるものでは、「被害者のための相談機関や保護施設を整備する」(53.9%)が最も多く、次に「法律・制度の制定や見直しを行う」(38.4%)、「捜査や裁判での担当者に女性を増やすなど、被害を受けた女性が届けやすい環境をつくる」(37.2%)、「学校における男女平等についての教育を充実させる」(31.2%)、「家庭における男女平等についての教育を充実させる」(25.8%)となっています。

過去1年間でのドメスティック・バイオレンスの経験・見聞別でみると、「暴力を受けたことがある」では、「家庭における男女平等についての教育を充実させる」(43.3%)が多くなっています。

「暴力を受けた人から相談されたことがある」では、被害者のための相談機関や保護施設を整備する」(60.0%)が最も多く、次に「法律・制度の制定や見直しを行う」(48.6%)が多くなっています。

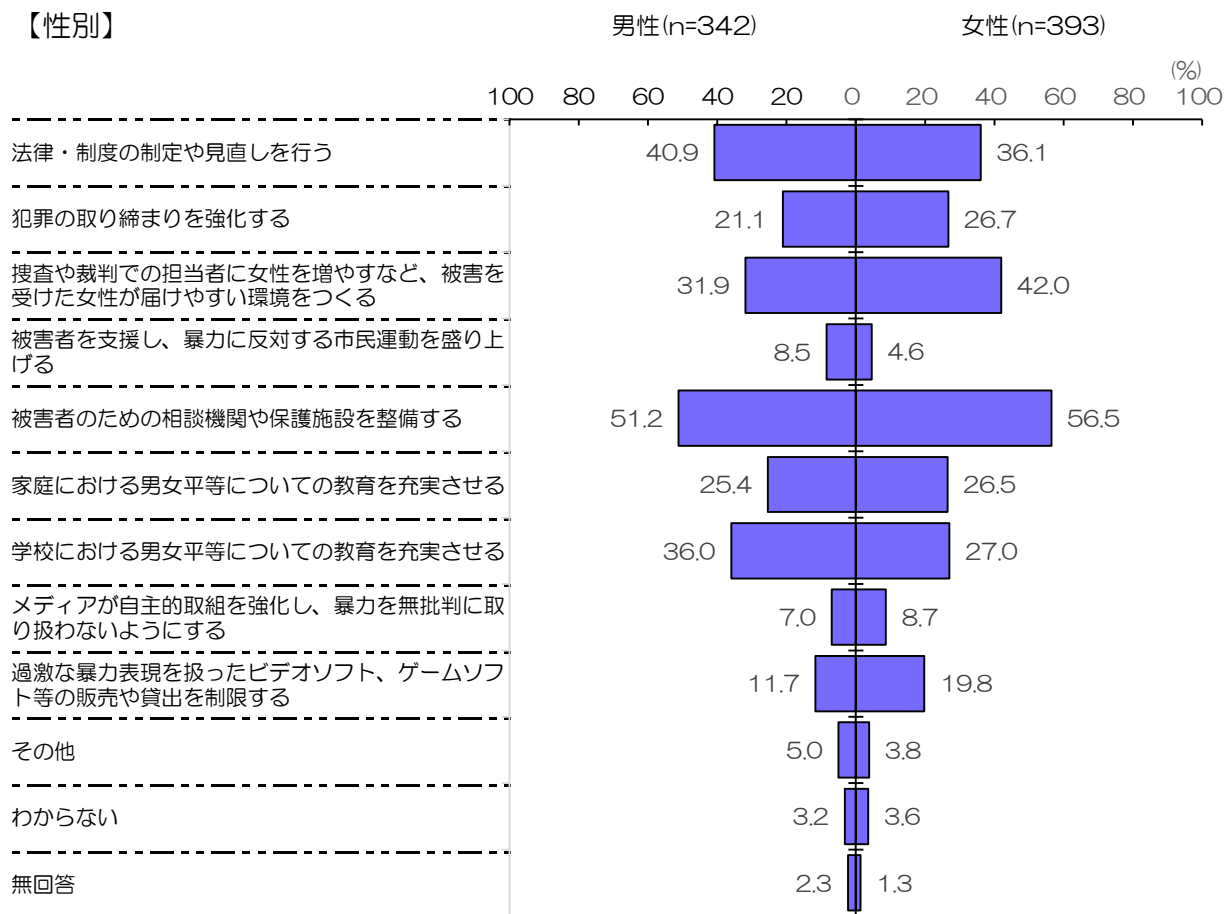
平成27年度以降、「メディアが自主的取組を強化し、暴力を無批判に取り扱わないようにする」「過激な暴力表現を扱ったビデオソフト、ゲームソフト等の販売や貸出を制限する」が減少傾向にあります。



IV 調査結果

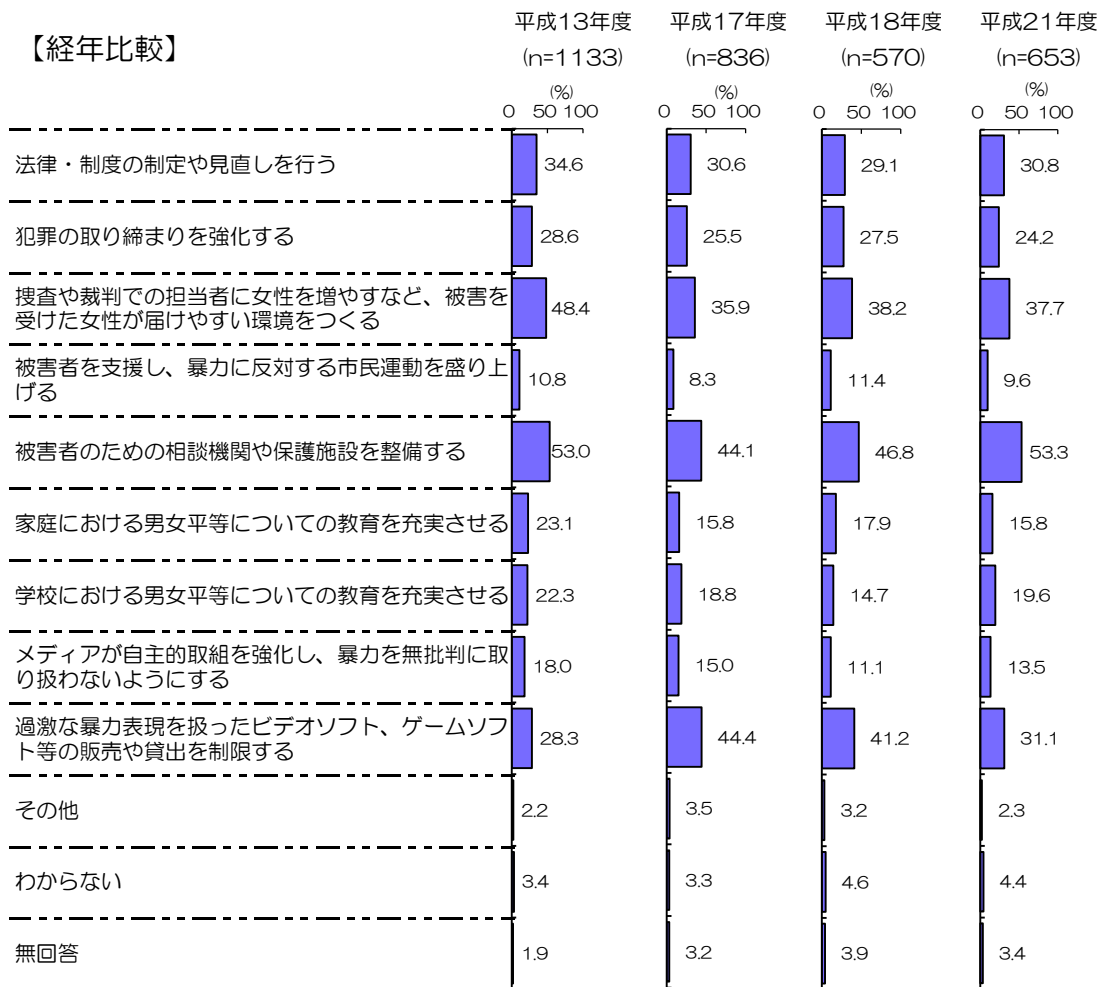
3 男女間の暴力やセクシュアル・ハラスメントについて

4 ドメスティック・バイオレンスをなくすために重要なこと



## IV 調査結果

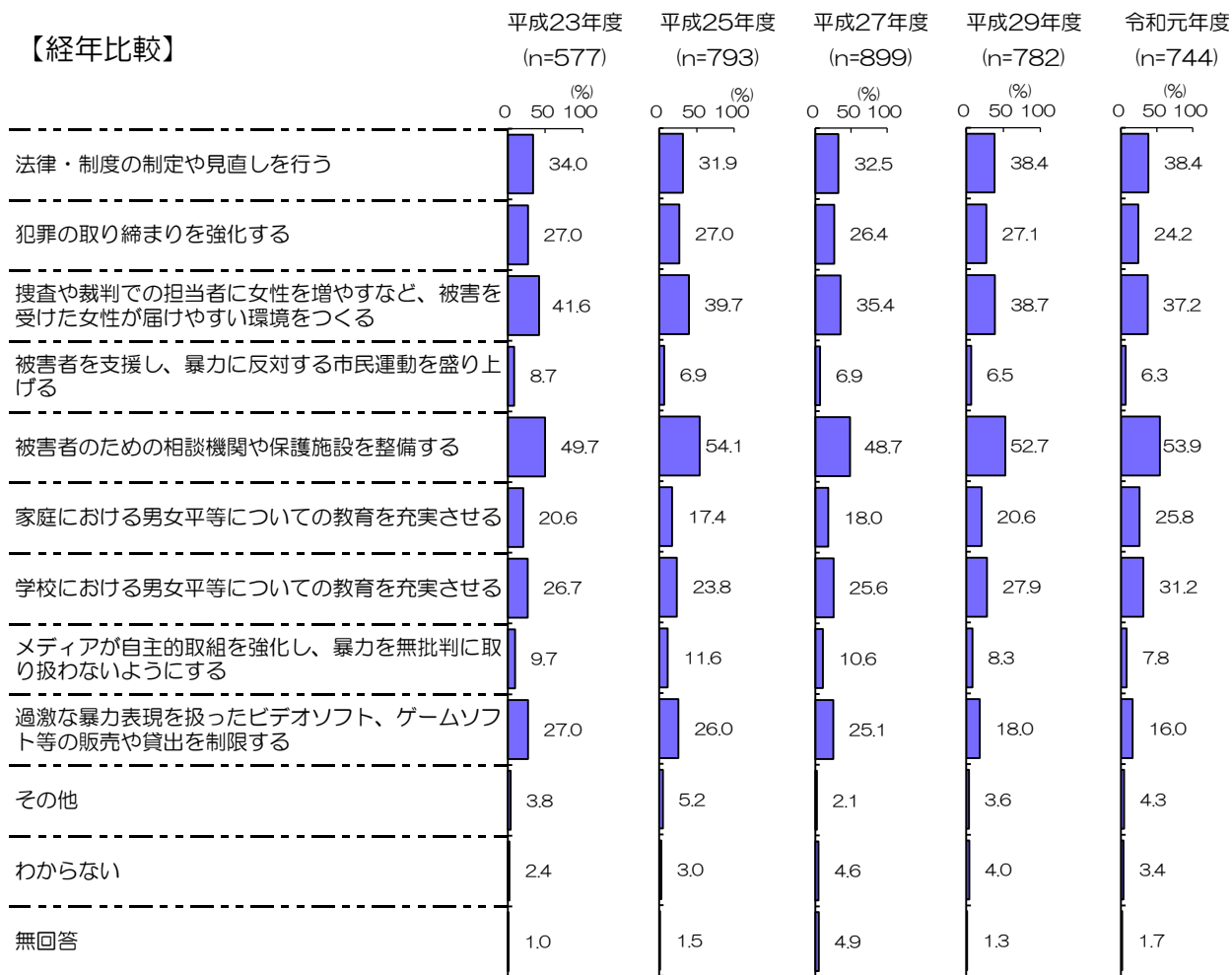
### 3 男女間の暴力やセクシュアル・ハラスメントについて 4 ドメスティック・バイオレンスをなくすために重要なこと



#### IV 調査結果

##### 3 男女間の暴力やセクシュアル・ハラスメントについて

##### 4 ドメスティック・バイオレンスをなくすために重要なこと

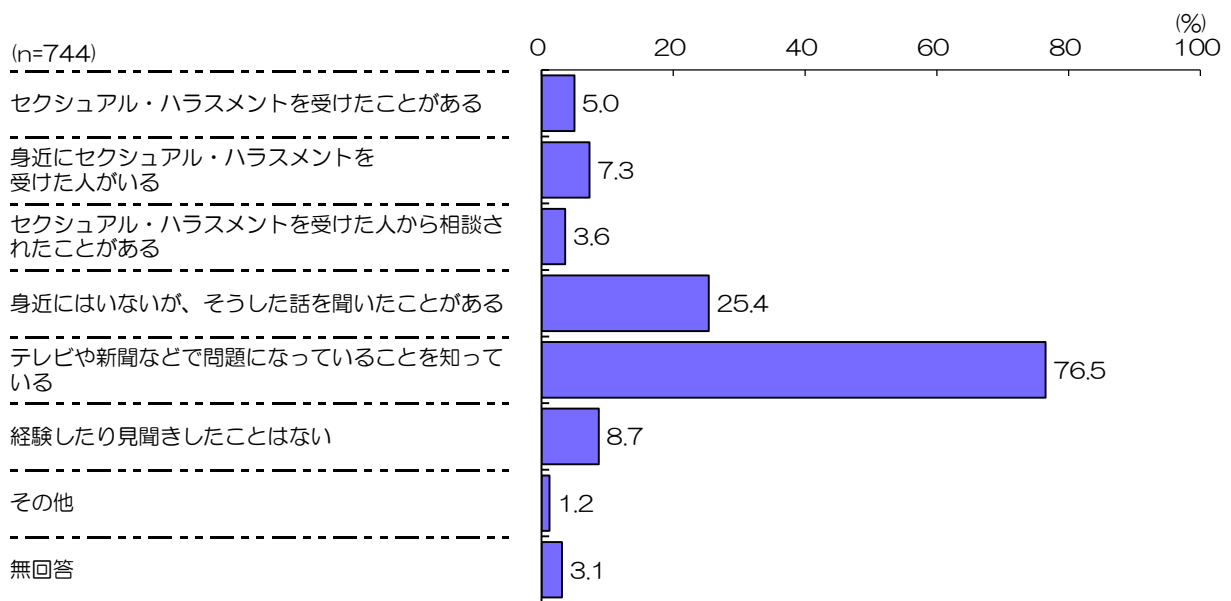


## 5 セクシュアル・ハラスメントの経験

問8 過去1年間に、セクシュアル・ハラスメント（セクハラ・性的嫌がらせ）について、経験したり見聞きしたことがありますか。（あてはまるもの全てに○）

過去1年間に、20人に1人の女性がセクシュアル・ハラスメントを経験しています。一方、男性では80人に1人で、被害に関して男女で乖離しています。

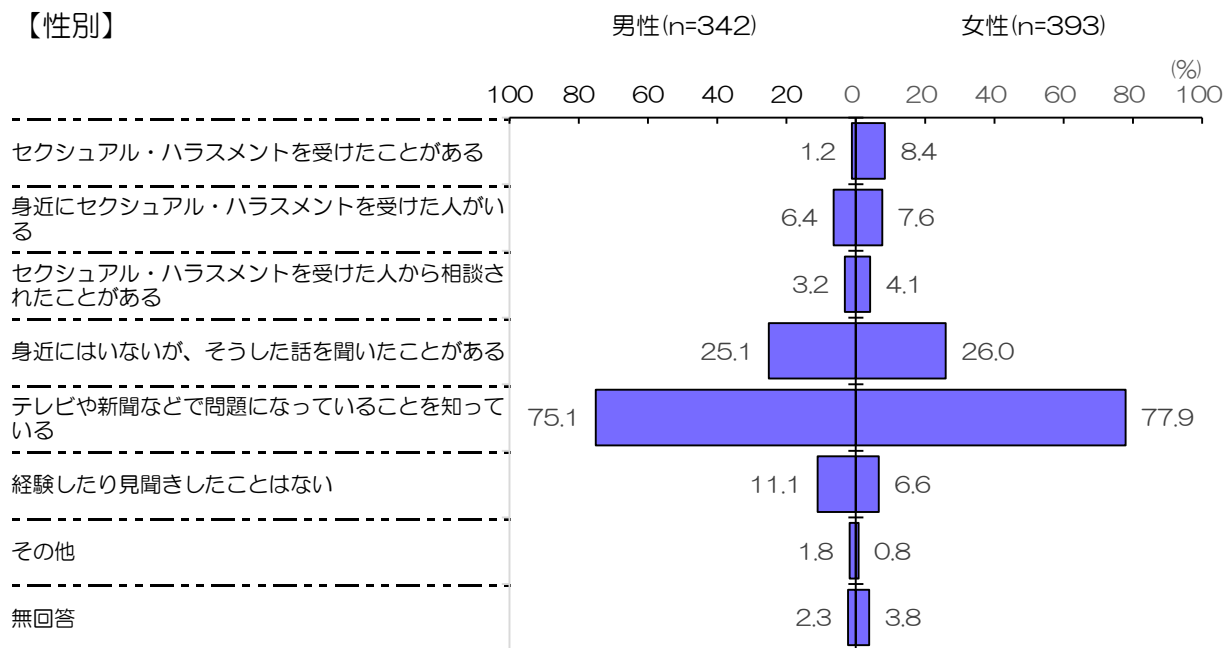
過去1年間でのセクシュアル・ハラスメントの経験または見聞きしたことでは、「テレビや新聞などで問題になっていることを知っている」（76.5%）が最も多く、次に「身近にはいないが、そうした話を聞いたことがある」（25.4%）、「経験したり見聞きしたことはない」（8.7%）、「身近にセクシュアル・ハラスメントを受けた人がある」（7.3%）、「セクシュアル・ハラスメントを受けたことがある」（5.0%）となっています。



IV 調査結果

3 男女間の暴力やセクシュアル・ハラスメントについて

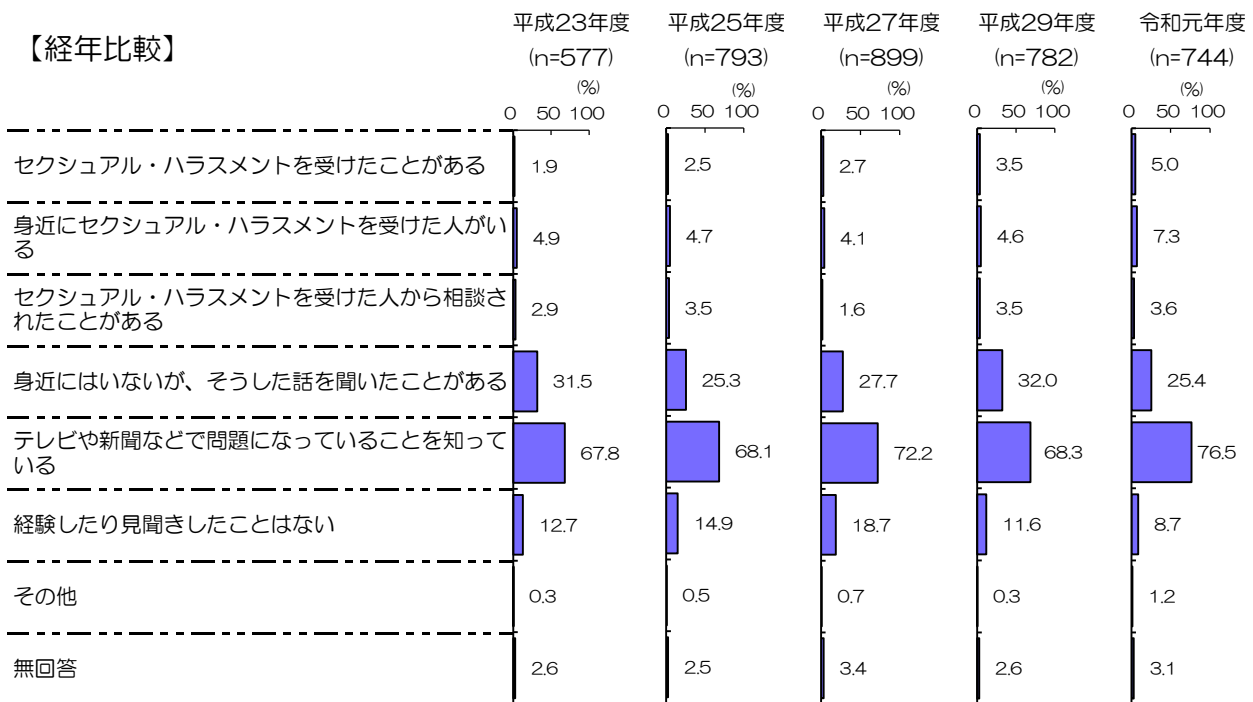
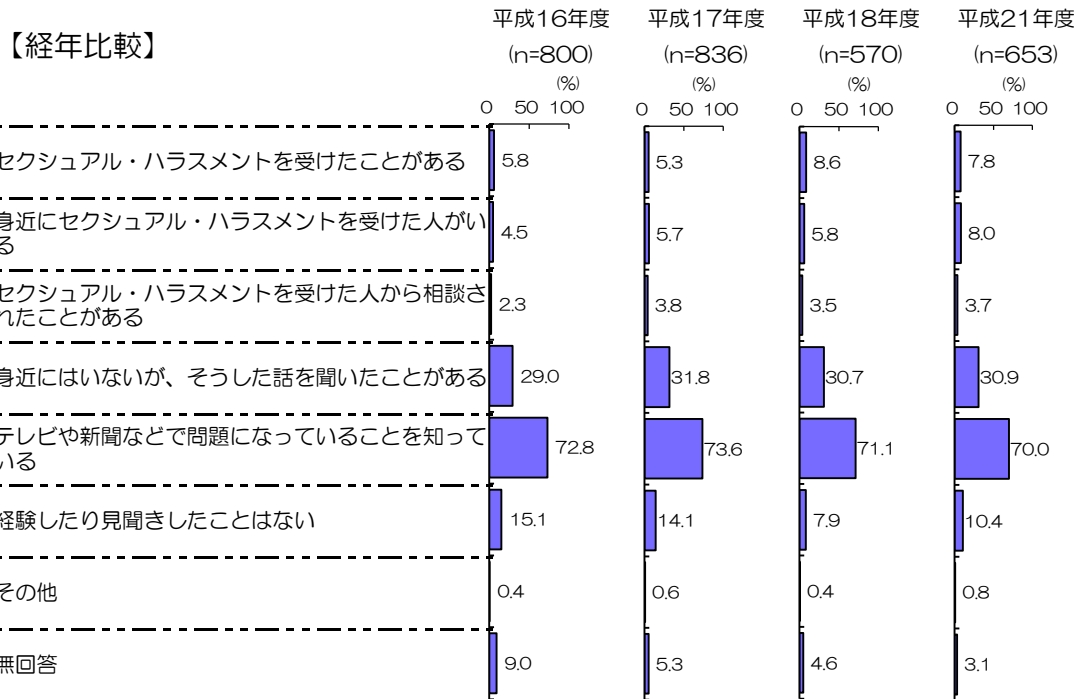
5 セクシュアル・ハラスメントの経験





3 男女間の暴力やセクシュアル・ハラスメントについて

5 セクシュアル・ハラスメントの経験



#### IV 調査結果

##### 3 男女間の暴力やセクシュアル・ハラスメントについて

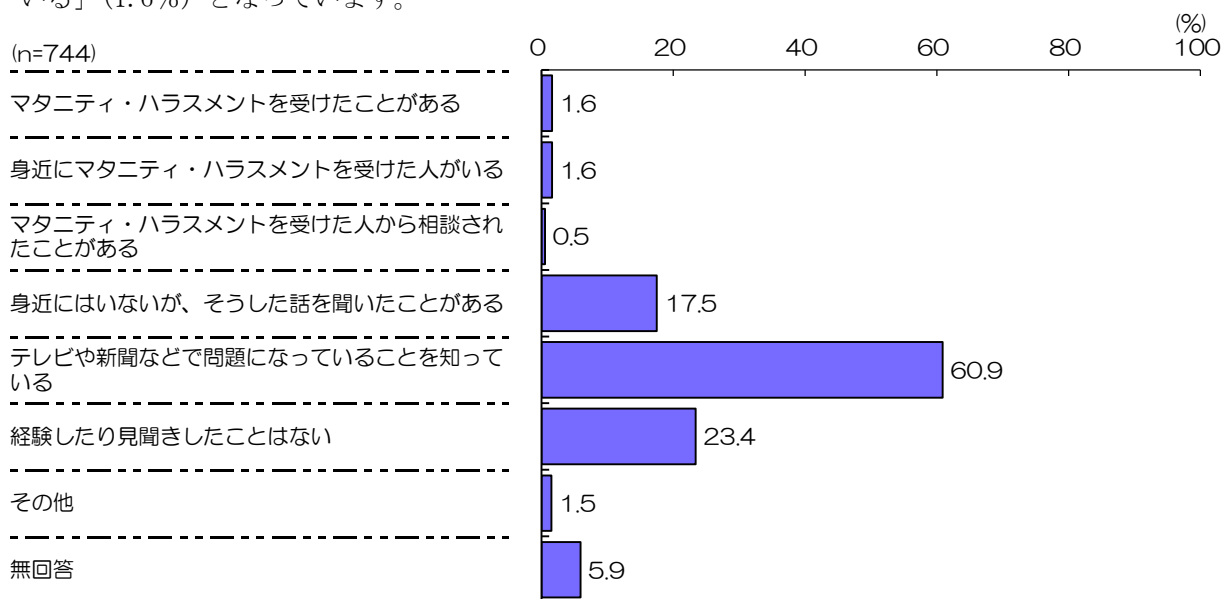
##### 6 マタニティ・ハラスメントの経験

### 6 マタニティ・ハラスメントの経験

問9 過去1年間に、マタニティ・ハラスメント（妊婦・出産・育児等に関する嫌がらせ）について経験したり見聞きしたことがありますか。（あてはまるもの全てに○）

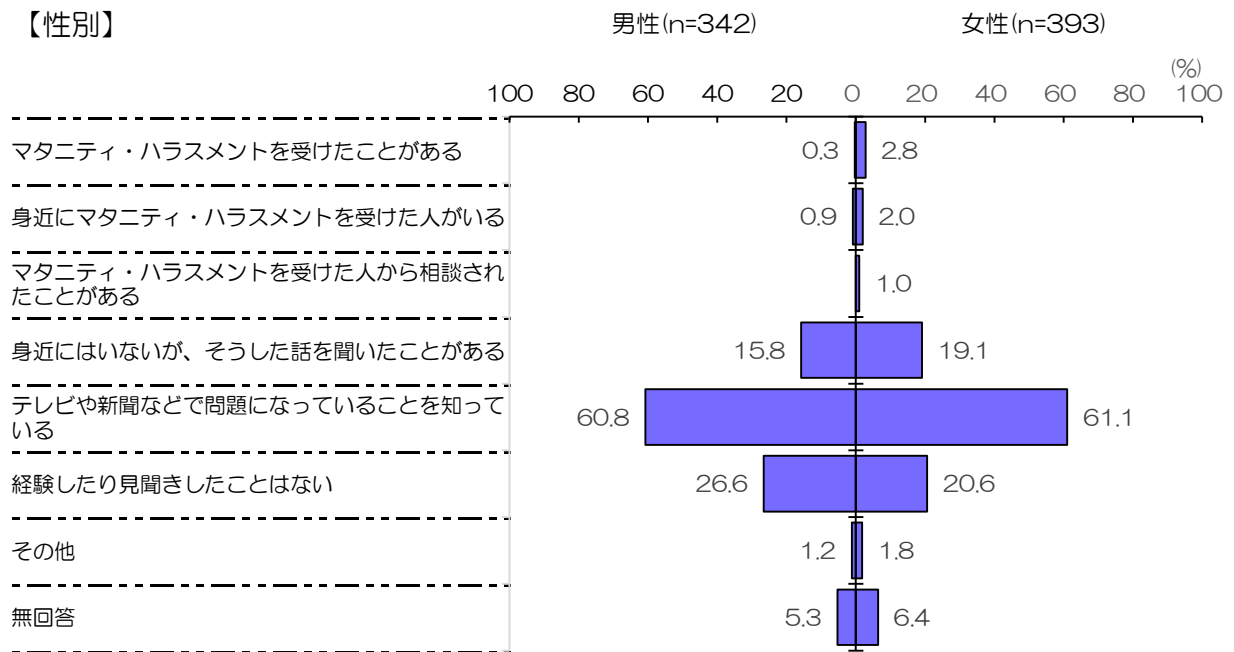
過去1年間に、20代女性の20人に1人、30代女性の10人に1人がマタニティ・ハラスメントを経験しています。対して、男性でマタニティ・ハラスメントを経験しているのは、30代の1.7%のみで、被害に関して男女で乖離しています。

過去1年間でマタニティ・ハラスメントの経験または見聞きしたことで、「テレビや新聞などで問題になっていることを知っている」（60.9%）が最も多く、次に「経験したり見聞きしたことはない」（23.4%）、「身近にはいないが、そうした話を聞いたことがある」（17.5%）、「マタニティ・ハラスメントを受けたことがある」（1.6%）、「身近にマタニティ・ハラスメントを受けた人がいる」（1.6%）となっています。



3 男女間の暴力やセクシュアル・ハラスメントについて

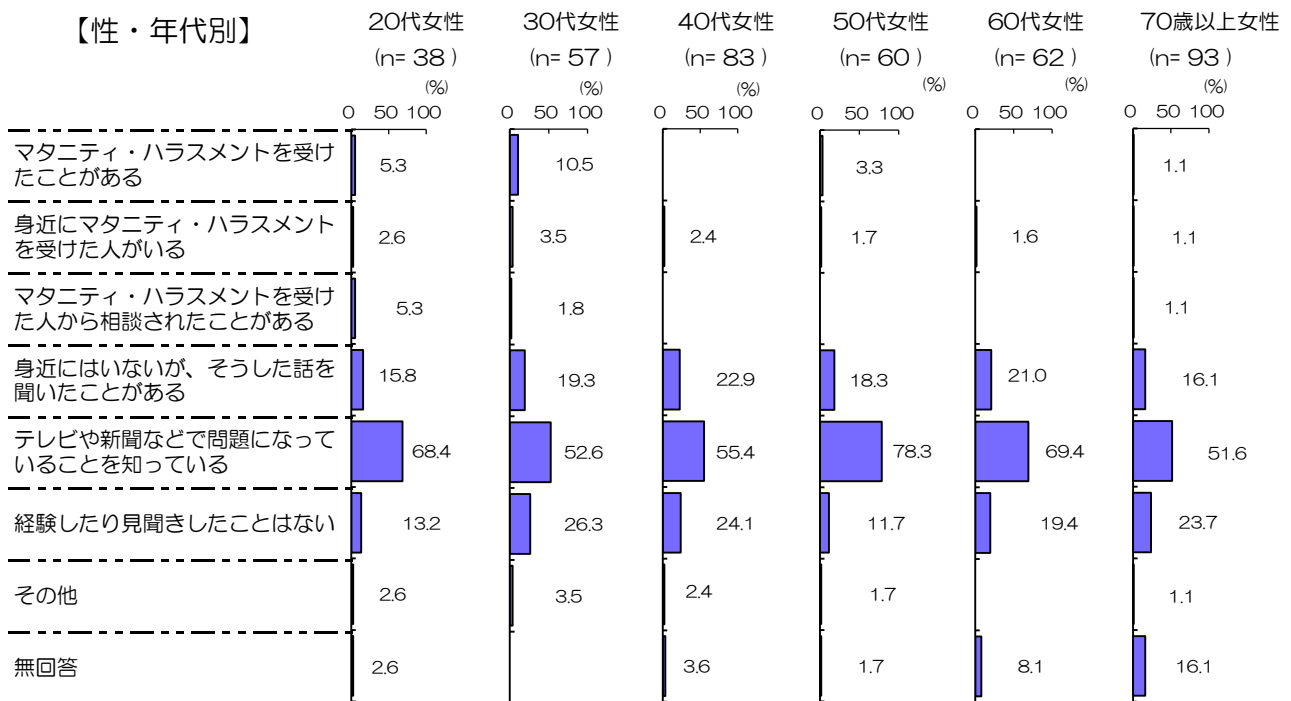
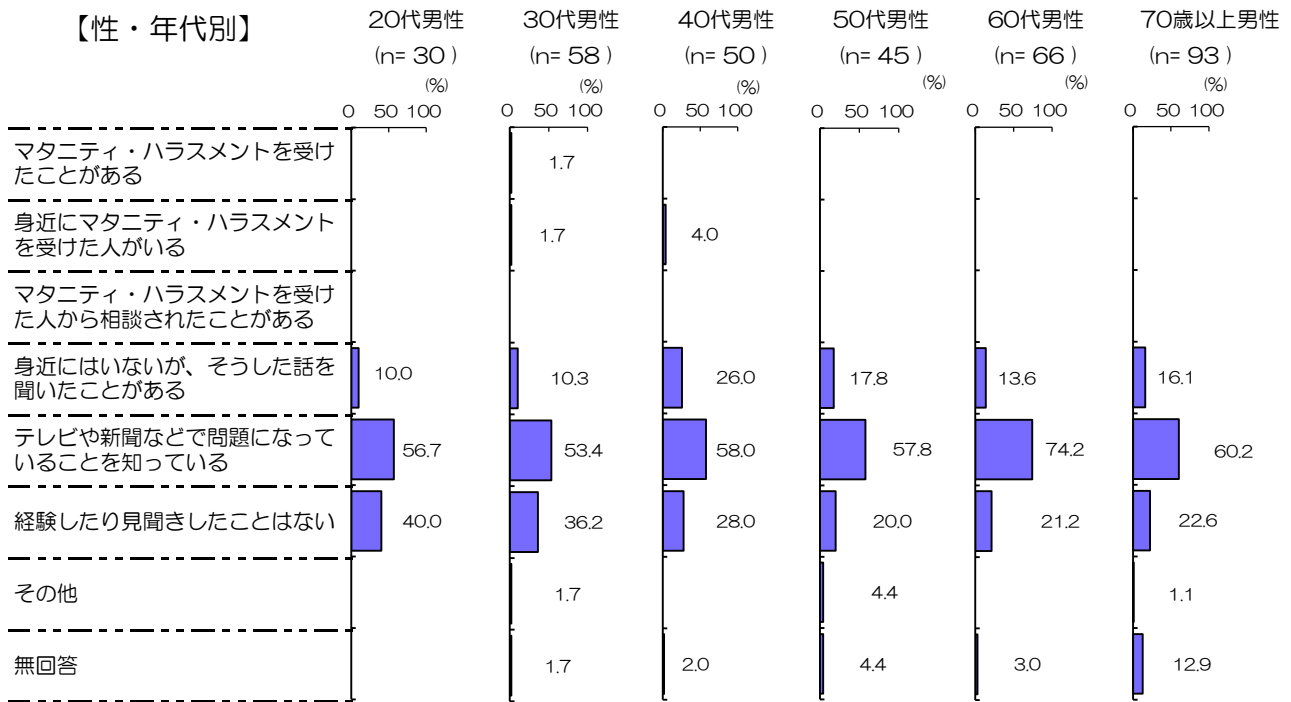
6 マタニティ・ハラスメントの経験



IV 調査結果

3 男女間の暴力やセクシュアル・ハラスメントについて

6 マタニティ・ハラスメントの経験



4 男女が共に子育てや介護等に主体的に関わることができる環境について

1 家庭での役割分担

**4 男女が共に子育てや介護等に主体的に関わることができる環境について**

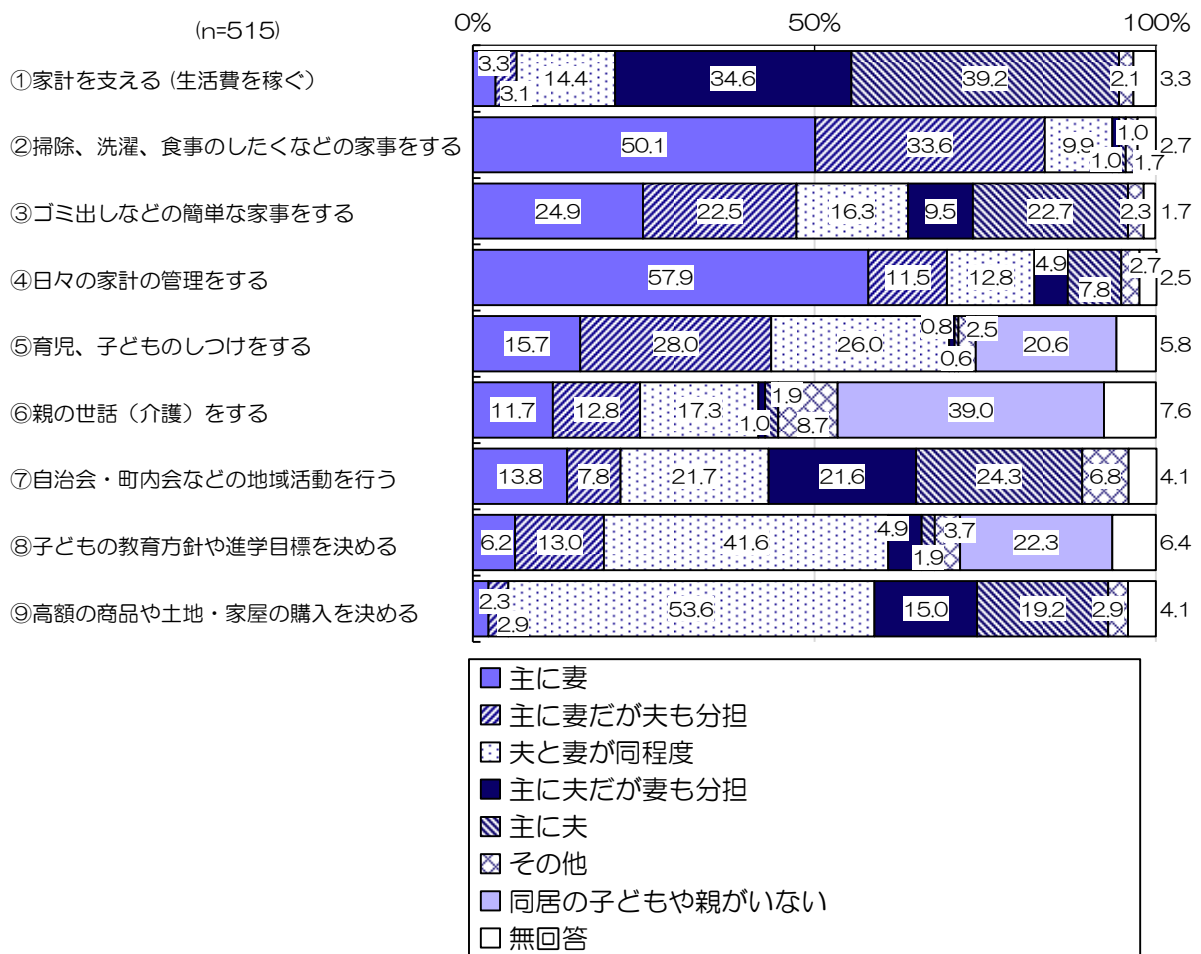
1 家庭での役割分担

問10 現在、配偶者（事実婚を含む）のいる方に伺います。あなたのご家庭では、次にあげる家庭での役割を、主にどなたが担っていますか。（それぞれ1つに○）

「夫は外で働き（家計を支える、地域活動を行う）、妻は家庭を守る（家事をする）べきである」という家庭内での性別役割分業の状況が未だに現れています。

【①家計を支える（生活費を稼ぐ）】では、「主に夫」が39.2%、【⑦自治会・町内会などの地域活動を行う】が24.3%と「主に妻」を超えています。

【②掃除、洗濯、食事のしたくなどの家事をする】で「主に妻」が50.1%、【④日々の家計の管理をする】で「主に妻」が57.9%と過半数を超えています。



IV 調査結果

4 男女が共に子育てや介護等に主体的に関わることができる環境について

1 家庭での役割分担

① 家計を支える(生活費を稼ぐ)

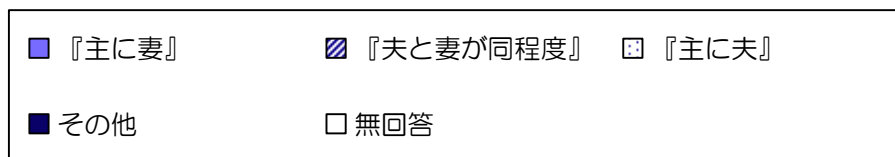
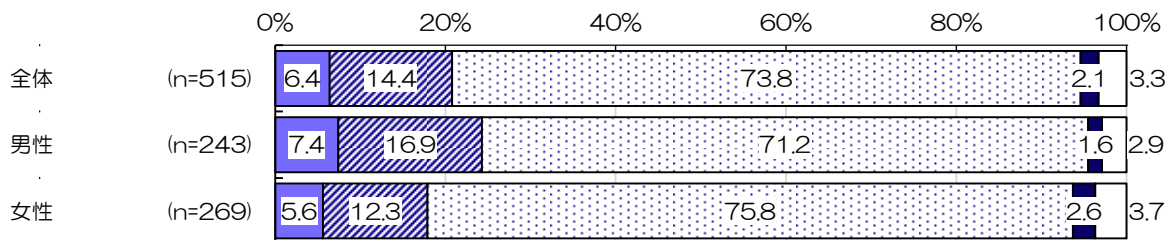
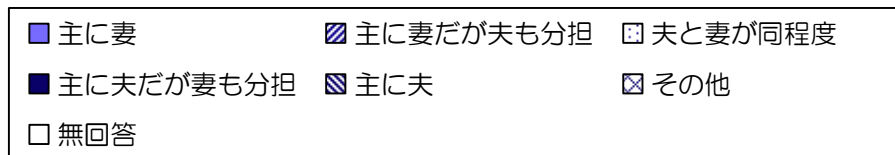
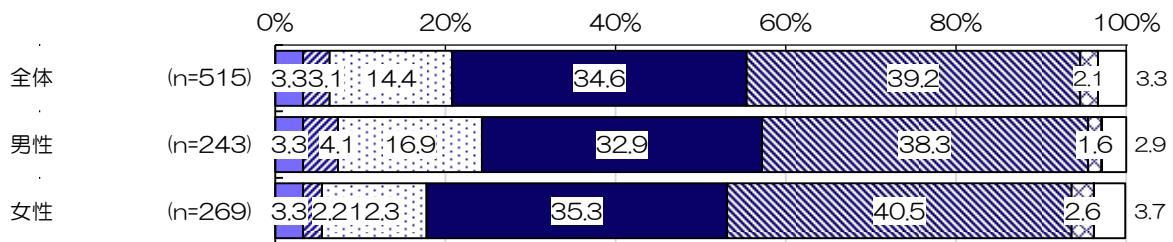
『主に夫』が7割以上、60代は、『主に夫』が6割以上。

【①家計を支える(生活費を稼ぐ)】では『主に夫』(73.8%、「主に夫」+「主に夫だが妻も分担」)が最も多く、次に『夫と妻が同程度』(14.4%)、『主に妻』(6.4%、「主に妻」+「主に妻だが夫も分担」)となっています。

性・年代別で見ると、30代男性は、『夫と妻が同程度』(25.8%)が多くなっています。40代男性は、『主に夫』(86.7%、「主に夫」+「主に夫だが妻も分担」)が多くなっています。20代女性は、『夫と妻が同程度』(30.0%)が多くなっています。30代女性は、『主に夫』(85.4%、「主に夫」+「主に夫だが妻も分担」)が多くなっています。

経年比較で見ると、『主に夫』(「主に夫」+「主に夫だが妻も分担」)が70.0%から80.0%前後の間で推移しています。

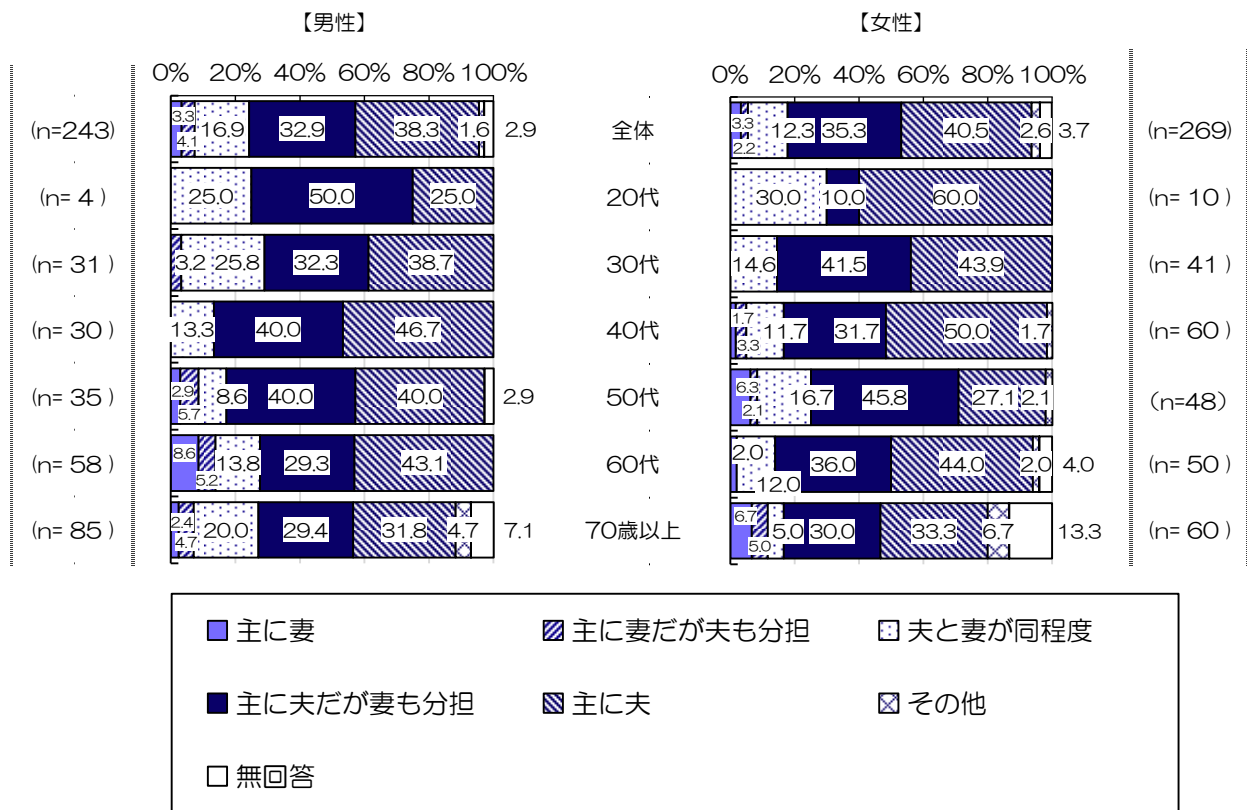
「主に夫だが妻も分担」はやや増加傾向でしたが、令和元年度では減少しています。



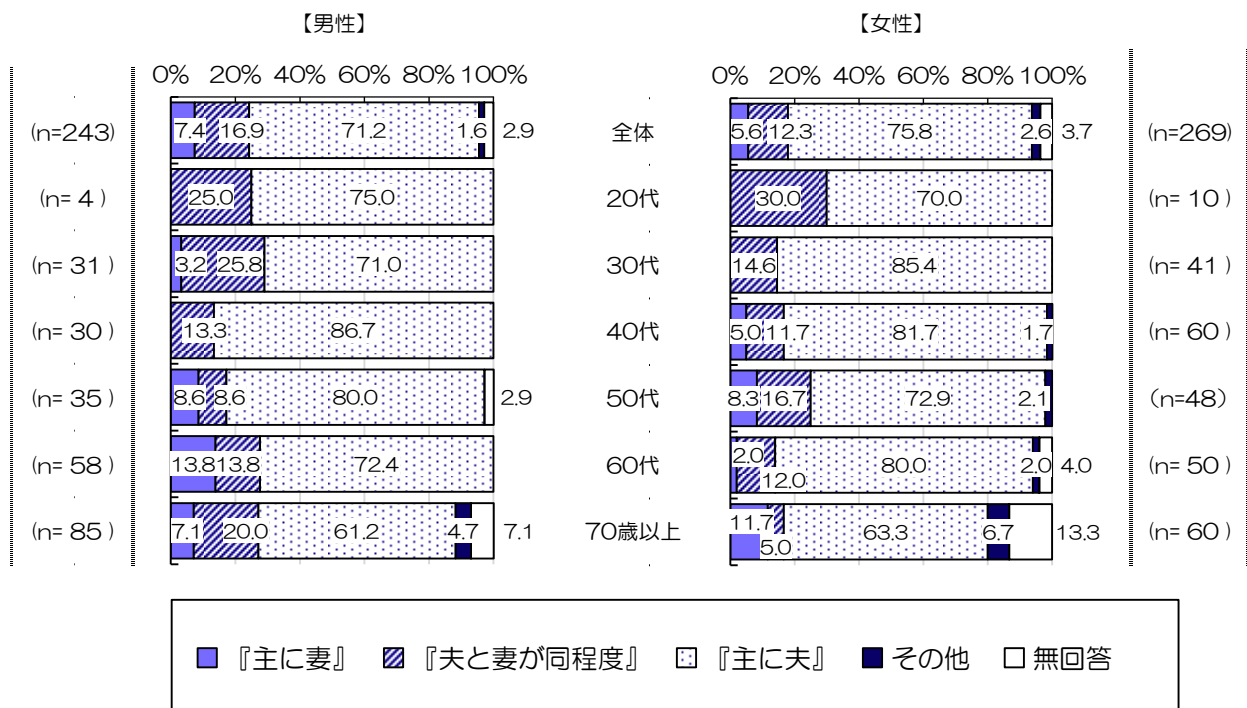
4 男女が共に子育てや介護等に主体的に関わることができる環境について

1 家庭での役割分担

【性・年代別】



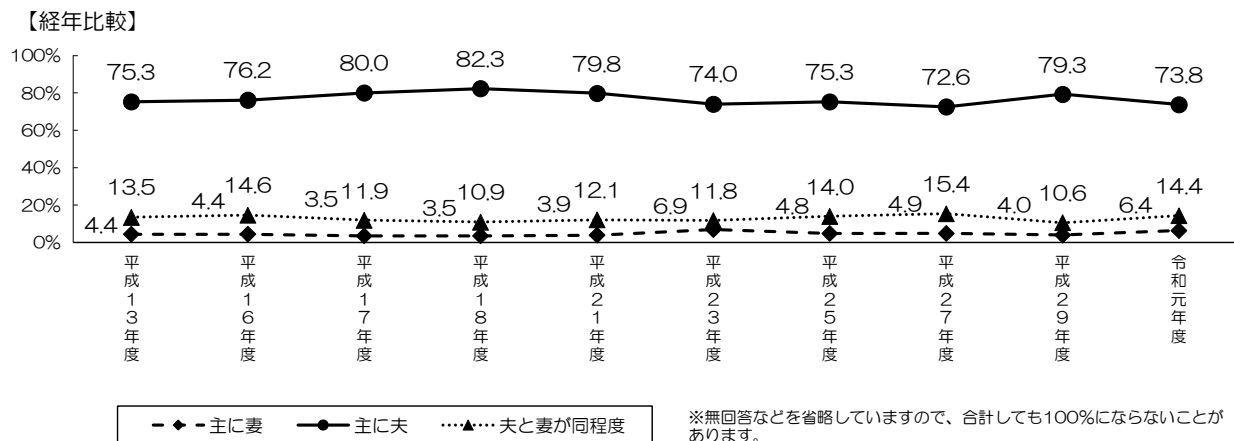
【性・年代別】



IV 調査結果

4 男女が共に子育てや介護等に主体的に関わることができる環境について

1 家庭での役割分担



	調査数	主に妻	主に妻だが夫も分担	夫と妻が同程度	主に夫だが妻も分担	主に夫	その他	無回答
平成13年度	916	3.4%	1.0%	13.5%	35.0%	40.3%	2.0%	4.8%
平成16年度	636	3.1%	1.3%	14.6%	30.8%	45.4%	1.3%	3.5%
平成17年度	637	1.9%	1.6%	11.9%	30.5%	49.5%	1.3%	3.5%
平成18年度	457	2.4%	1.1%	10.9%	31.5%	50.8%	0.9%	2.4%
平成21年度	536	1.5%	2.4%	12.1%	35.8%	44.0%	1.7%	2.4%
平成23年度	424	3.8%	3.1%	11.8%	32.3%	41.7%	2.8%	4.5%
平成25年度	571	2.5%	2.3%	14.0%	33.3%	42.0%	2.1%	3.9%
平成27年度	637	2.2%	2.7%	15.4%	33.8%	38.8%	1.9%	5.3%
平成29年度	547	2.9%	1.1%	10.6%	37.1%	42.2%	2.2%	3.8%
令和元年度	515	3.3%	3.1%	14.4%	34.6%	39.2%	2.1%	3.3%



4 男女が共に子育てや介護等に主体的に関わることができる環境について

1 家庭での役割分担

② 掃除、洗濯、食事のしたくなどの家事をする

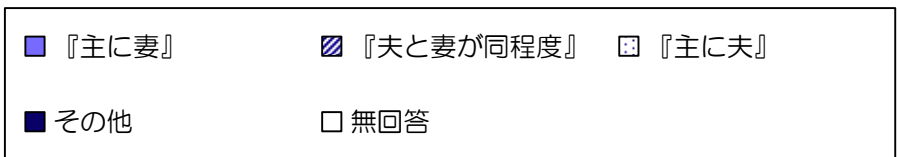
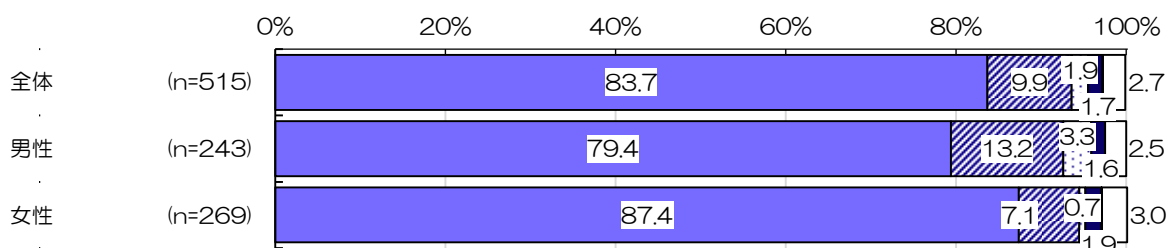
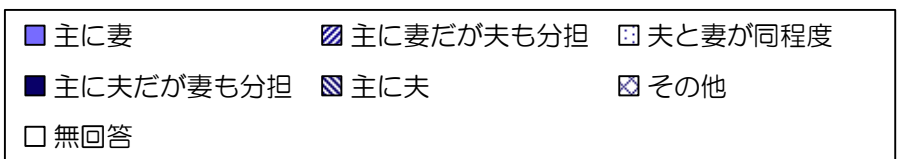
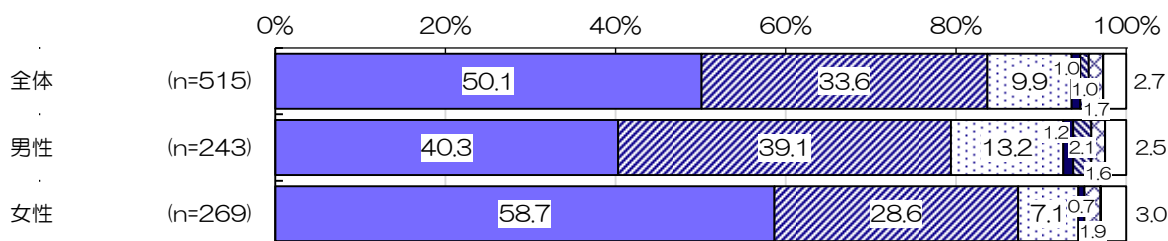
『主に妻』が8割以上、50代、60代ではおよそ7割。

【②掃除、洗濯、食事のしたくなどの家事をする】では、『主に妻』（83.7%、「主に妻」＋「主に妻だが夫も分担」）が最も多く、次に『夫と妻が同程度』（9.9%）、『主に夫』（1.9%、「主に夫」＋「主に夫だが妻も分担」）となっています。

性・年代別でみると、20代女性は、『夫と妻が同程度』（40.0%）が多くなっています。

50代女性は、『主に妻』（93.8%、「主に妻」＋「主に妻だが夫も分担」）が多くなっています。

平成25年度以降、「主に妻」がやや減少傾向にあります。

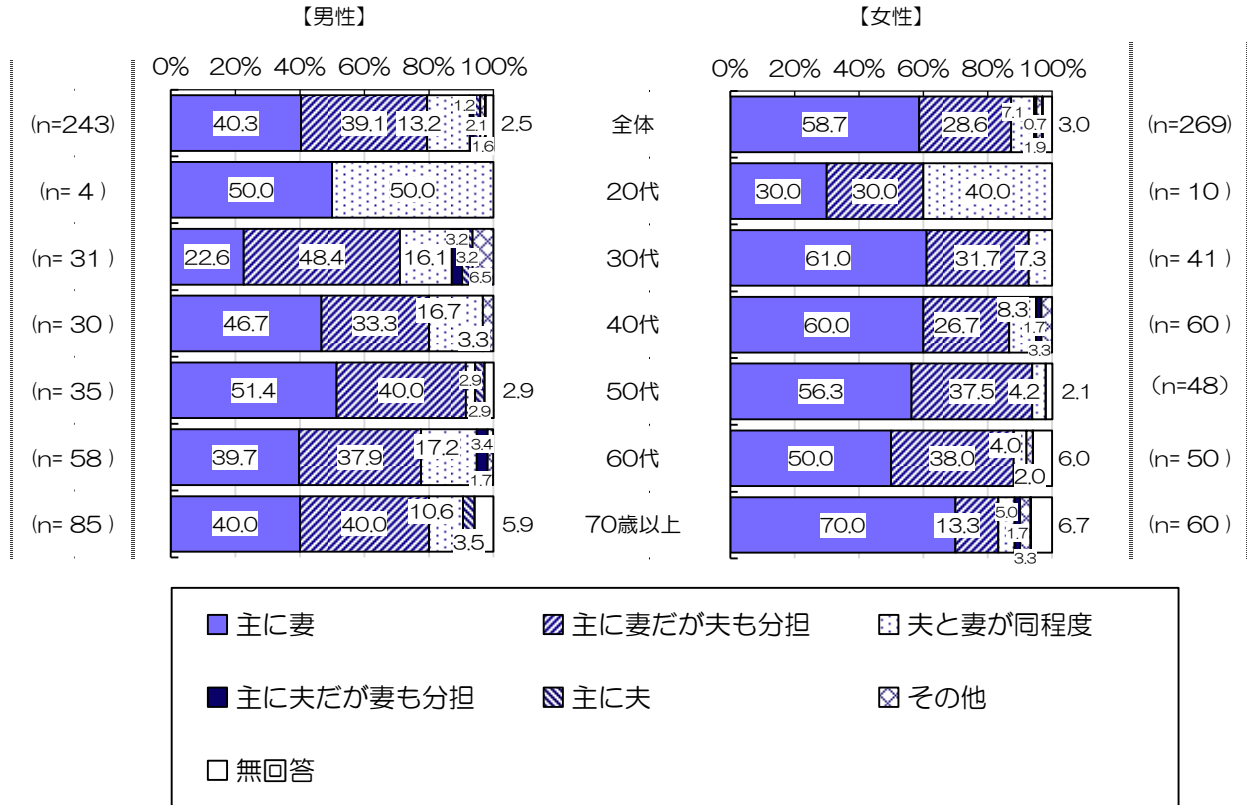


IV 調査結果

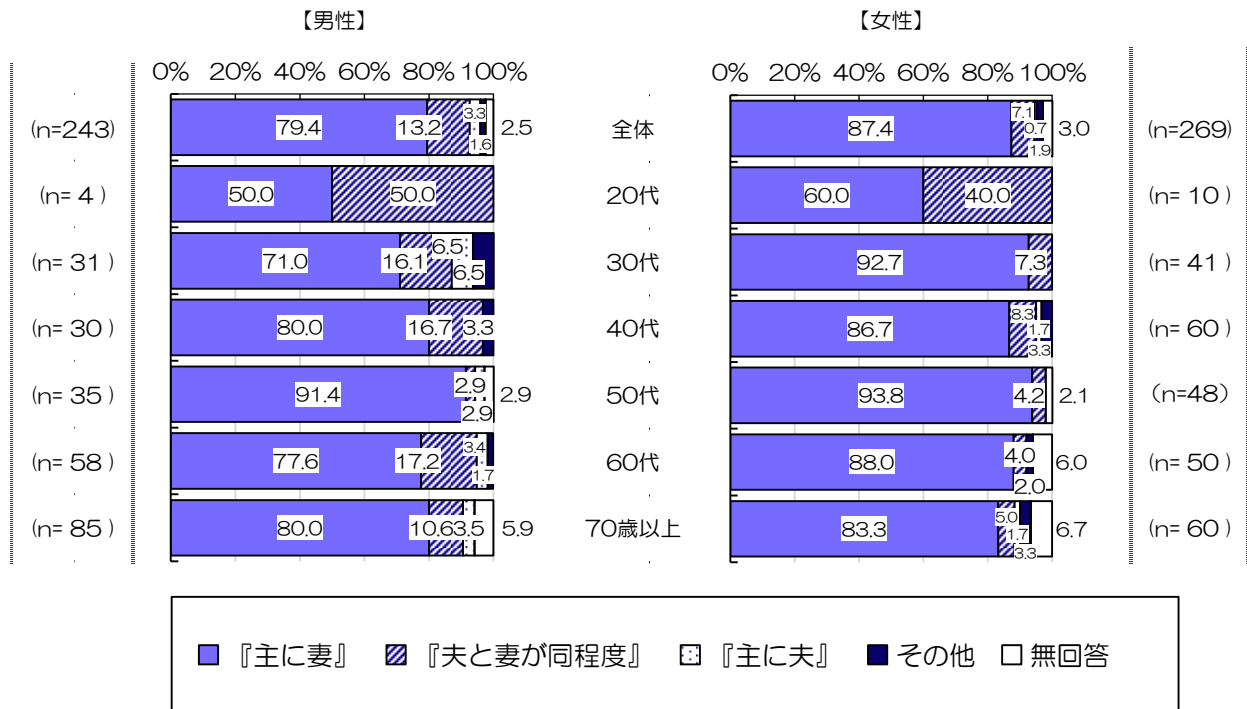
4 男女が共に子育てや介護等に主体的に関わることができる環境について

1 家庭での役割分担

【性・年代別】

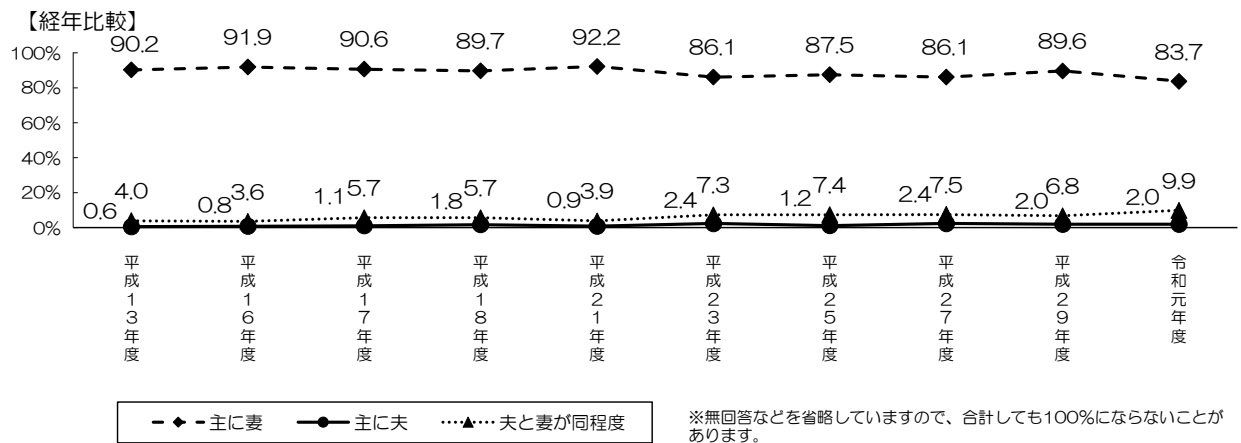


【性・年代別】



4 男女が共に子育てや介護等に主体的に関わることができる環境について

1 家庭での役割分担



	調査数	主に妻	主に妻だが夫も分担	夫と妻が同程度	主に夫だが妻も分担	主に夫	その他	無回答
平成13年度	916	68.9%	21.3%	4.0%	0.3%	0.3%	1.4%	3.7%
平成16年度	636	68.6%	23.3%	3.6%	0.2%	0.6%	1.1%	2.7%
平成17年度	637	67.8%	22.8%	5.7%	0.8%	0.3%	0.9%	1.7%
平成18年度	457	64.3%	25.4%	5.7%	1.1%	0.7%	0.7%	2.2%
平成21年度	536	60.1%	32.1%	3.9%	0.7%	0.2%	0.9%	2.1%
平成23年度	424	62.0%	24.1%	7.3%	0.5%	1.9%	0.5%	3.8%
平成25年度	571	58.3%	29.2%	7.4%	1.2%	0.0%	0.9%	3.0%
平成27年度	637	56.4%	29.7%	7.5%	1.3%	1.1%	1.1%	3.0%
平成29年度	547	56.1%	33.5%	6.8%	1.5%	0.5%	0.4%	1.3%
令和元年度	515	50.1%	33.6%	9.9%	1.0%	1.0%	1.7%	2.7%

IV 調査結果

4 男女が共に子育てや介護等に主体的に関わることができる環境について

1 家庭での役割分担

③ ゴミ出しなどの簡単な家事をする

『主に妻』がおよそ5割弱。

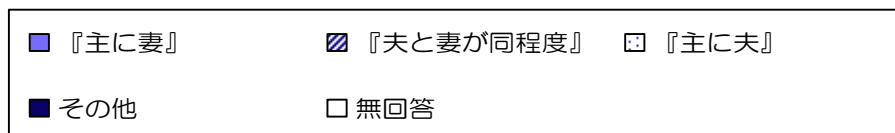
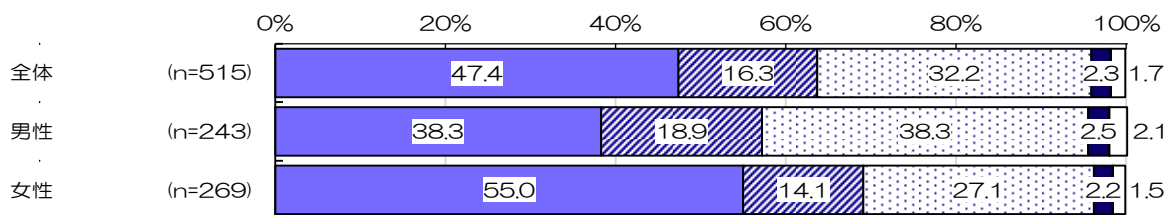
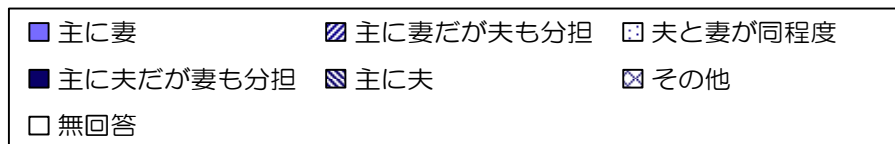
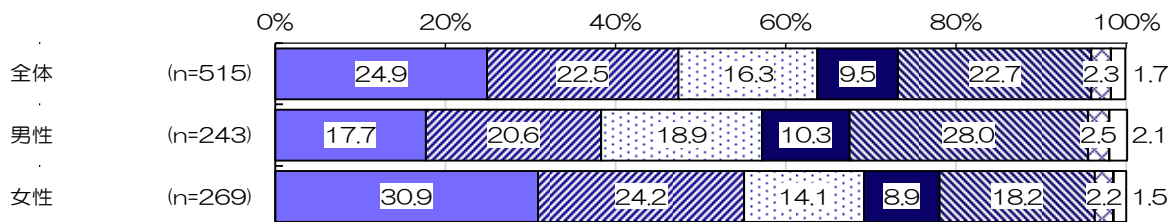
【③ゴミ出しなどの簡単な家事をする】では、『主に妻』（47.4%、「主に妻」＋「主に妻だが夫も分担」）が最も多く、次に『主に夫』（32.2%、「主に夫」＋「主に夫だが妻も分担」）、『夫と妻が同程度』（16.3%）となっています。

性・年代別でみると、30代男性は、『夫と妻が同程度』（29.0%）が多くなっています。40代男性は、『夫と妻が同程度』（30.0%）が多くなっています。60代男性は、『主に夫』（44.8%、「主に夫」＋「主に夫だが妻も分担」）が多くなっています。70歳以上男性は、『主に夫』（44.7%、「主に夫」＋「主に夫だが妻も分担」）が多くなっています。20代女性は、『夫と妻が同程度』（30.0%）が多くなっています。40代女性は、『主に妻』（60.0%、「主に妻」＋「主に妻だが夫も分担」）が多くなっています。50代女性は、『主に妻』（62.5%、「主に妻」＋「主に妻だが夫も分担」）が多くなっています。60代女性は、『主に妻』（66.0%、「主に妻」＋「主に妻だが夫も分担」）が多くなっています。

経年比較でみると、『主に夫』（「主に夫」＋「主に夫だが妻も分担」）が緩やかに増加し、『主に妻』（「主に妻」＋「主に妻だが夫も分担」）が緩やかに減少しています。

20代男性は同年代の女性よりも『夫と妻が同程度』が多くなっています。60代男性は同年代の女性よりも『主に夫』が多くなっています。

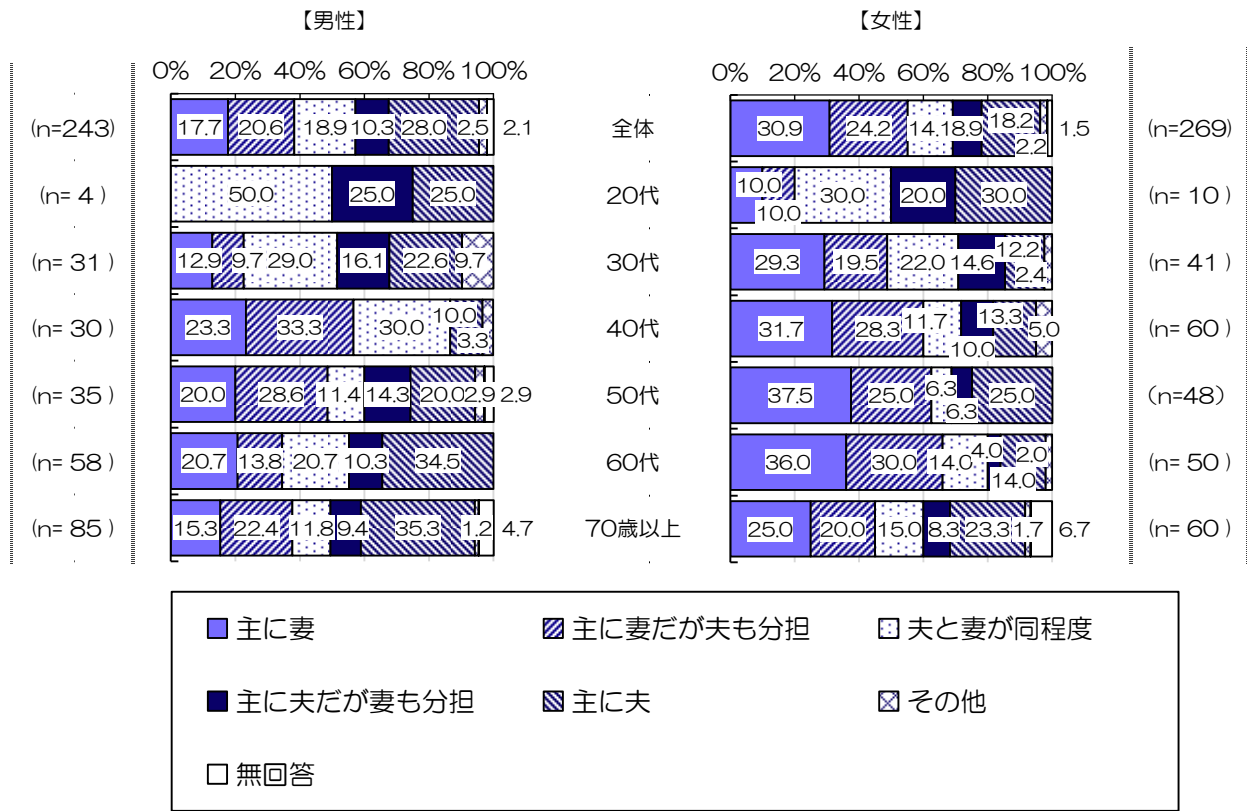
平成25年度以降、「主に妻」がやや減少傾向にあります。また、「主に夫」は増加傾向でしたが、平成29年度以降では減少しています。



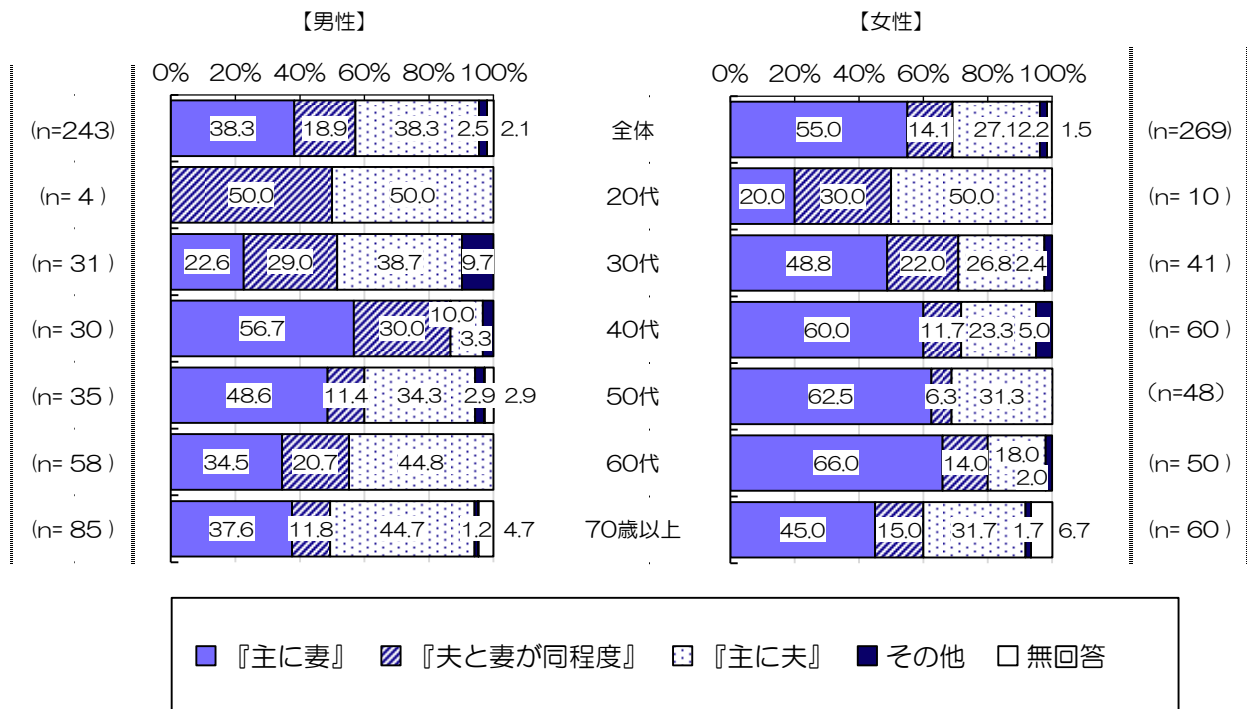
4 男女が共に子育てや介護等に主体的に関わることができる環境について

1 家庭での役割分担

【性・年代別】



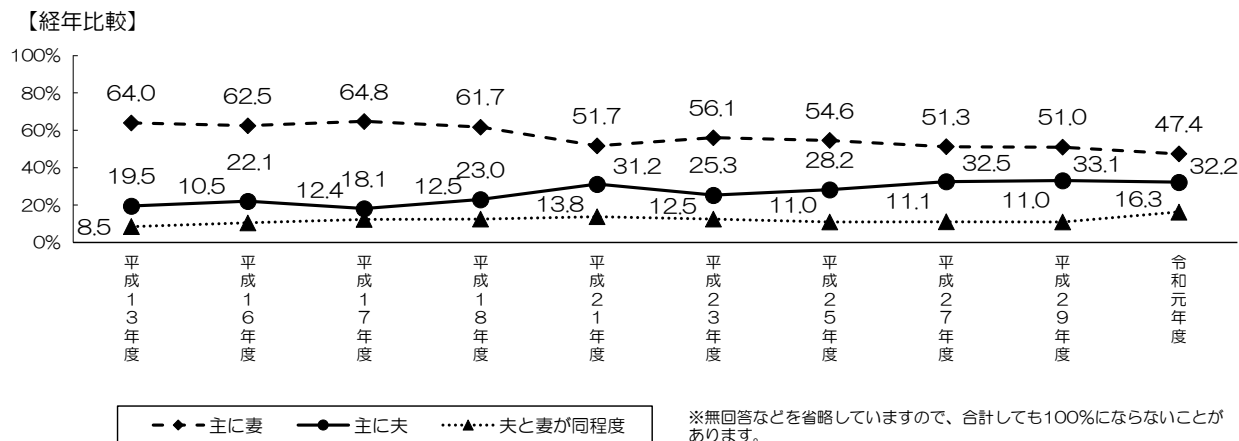
【性・年代別】



#### IV 調査結果

#### 4 男女が共に子育てや介護等に主体的に関わることができる環境について

#### 1 家庭での役割分担



	調査数	主に妻	主に妻だが夫も分担	夫と妻が同程度	主に夫だが妻も分担	主に夫	その他	無回答
平成13年度	916	41.2%	22.8%	8.5%	7.3%	12.2%	3.8%	4.1%
平成16年度	636	38.1%	24.4%	10.5%	7.5%	14.6%	1.4%	3.5%
平成17年度	637	39.1%	25.7%	12.4%	5.5%	12.6%	2.7%	2.0%
平成18年度	457	36.8%	24.9%	12.5%	7.7%	15.3%	0.9%	2.0%
平成21年度	536	33.0%	18.7%	13.8%	11.2%	20.0%	2.1%	1.3%
平成23年度	424	36.8%	19.3%	12.5%	8.3%	17.0%	1.7%	4.5%
平成25年度	571	32.0%	22.6%	11.0%	9.3%	18.9%	2.3%	3.9%
平成27年度	637	28.9%	22.4%	11.1%	8.0%	24.5%	2.4%	2.7%
平成29年度	547	29.1%	21.9%	11.0%	9.5%	23.6%	2.7%	2.2%
令和元年度	515	24.9%	22.5%	16.3%	9.5%	22.7%	2.3%	1.7%

4 男女が共に子育てや介護等に主体的に関わることができる環境について

1 家庭での役割分担

④ 日々の家計の管理をする

『主に妻』がおよそ7割。

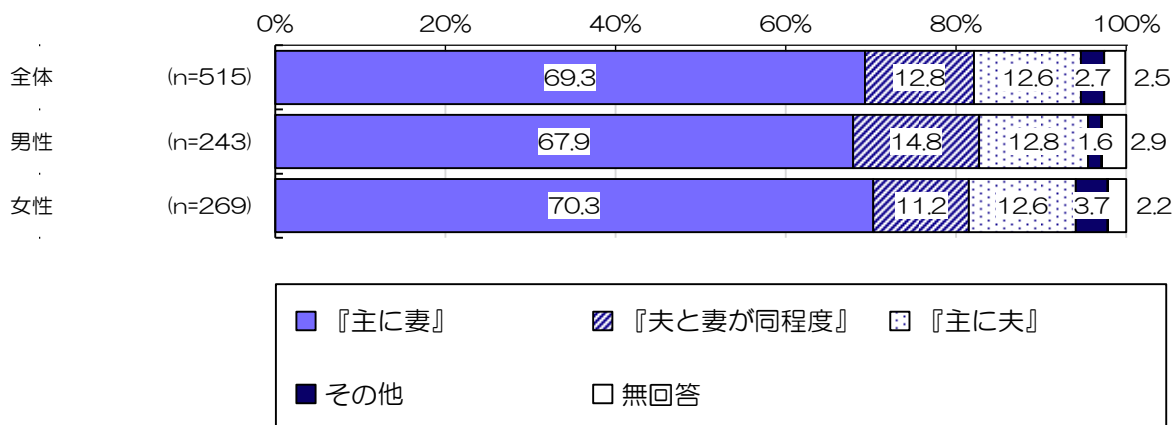
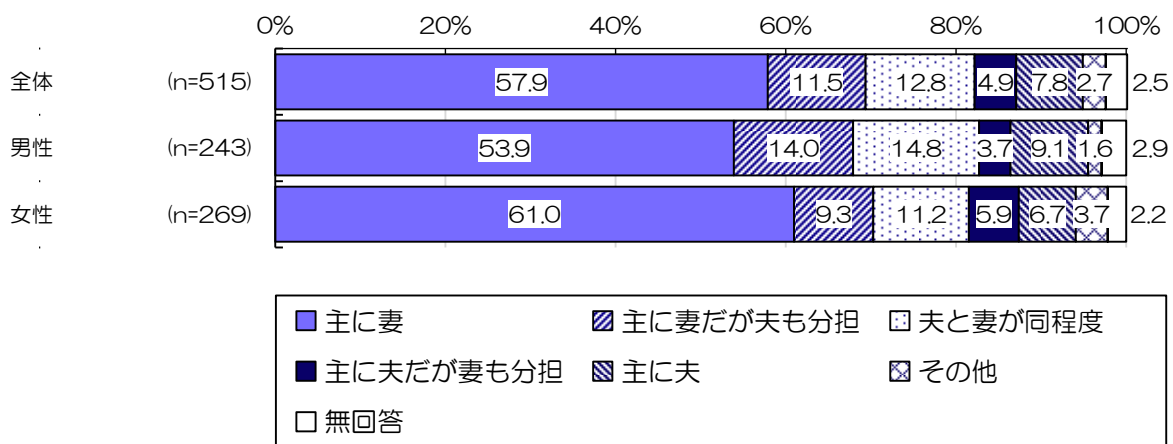
【④日々の家計の管理をする】では、『主に妻』（69.3%、「主に妻」＋「主に妻だが夫も分担」）が最も多く、次に『夫と妻が同程度』（12.8%）、『主に夫』（12.6%、「主に夫」＋「主に夫だが妻も分担」）となっています。

性・年代別で見ると、30代男性は、『主に夫』（25.8%、「主に夫」＋「主に夫だが妻も分担」）が多くなっています。50代男性は、『主に妻』（80.0%、「主に妻」＋「主に妻だが夫も分担」）が多くなっています。20代女性は、『主に夫』（40.0%、「主に夫」＋「主に夫だが妻も分担」）が多くなっています。30代女性は、『主に夫』（26.8%、「主に夫」＋「主に夫だが妻も分担」）が多くなっています。50代女性は、『主に妻』（85.4%、「主に妻」＋「主に妻だが夫も分担」）が多くなっています。

経年比較で見ると、前回調査より「主に妻」が5ポイント以上減少しています。

20代男性は同年代の女性よりも『主に妻』がかなり多くなっています。

平成25年度以降、「主に妻」がやや減少傾向にあります。平成27年度以降、「主に夫」が増加傾向にあります。

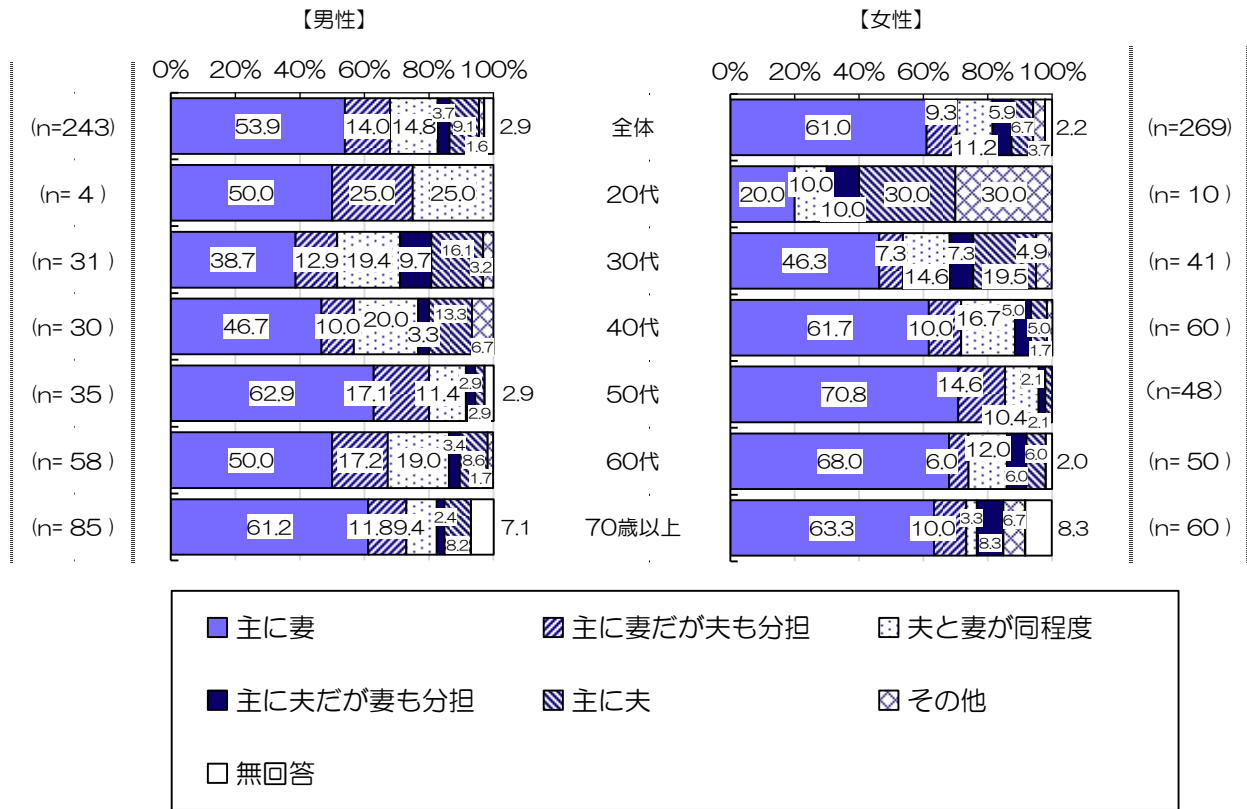


IV 調査結果

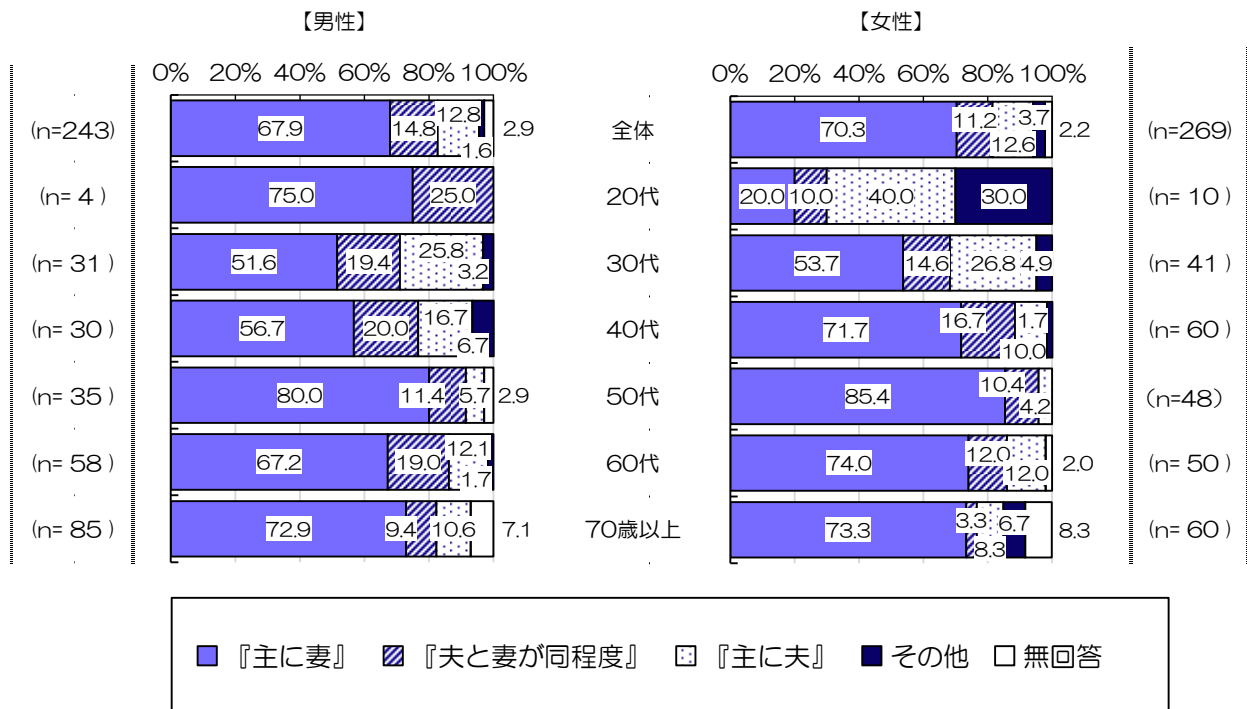
4 男女が共に子育てや介護等に主体的に関わることができる環境について

1 家庭での役割分担

【性・年代別】



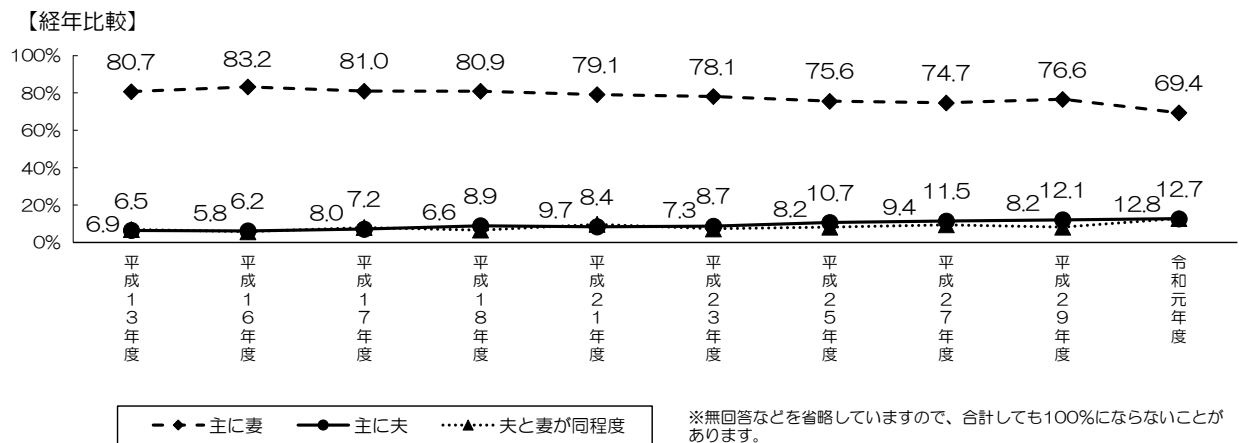
【性・年代別】





4 男女が共に子育てや介護等に主体的に関わることができる環境について

1 家庭での役割分担



	調査数	主に妻	主に妻だが夫も分担	夫と妻が同程度	主に夫だが妻も分担	主に夫	その他	無回答
平成13年度	916	71.1%	9.6%	6.9%	3.8%	2.7%	1.4%	4.5%
平成16年度	636	70.6%	12.6%	5.8%	3.5%	2.7%	1.3%	3.6%
平成17年度	637	70.0%	11.0%	8.0%	3.0%	4.2%	1.1%	2.7%
平成18年度	457	66.7%	14.2%	6.6%	3.9%	5.0%	0.7%	2.8%
平成21年度	536	65.7%	13.4%	9.7%	4.9%	3.5%	1.3%	1.5%
平成23年度	424	68.4%	9.7%	7.3%	3.3%	5.4%	1.4%	4.5%
平成25年度	571	65.8%	9.8%	8.2%	5.1%	5.6%	1.1%	4.4%
平成27年度	637	63.9%	10.8%	9.4%	4.4%	7.1%	1.1%	3.3%
平成29年度	547	63.6%	13.0%	8.2%	4.8%	7.3%	2.0%	1.1%
令和元年度	515	57.9%	11.5%	12.8%	4.9%	7.8%	2.7%	2.5%

IV 調査結果

4 男女が共に子育てや介護等に主体的に関わることができる環境について

1 家庭での役割分担

⑤ 育児、子どものしつけをする

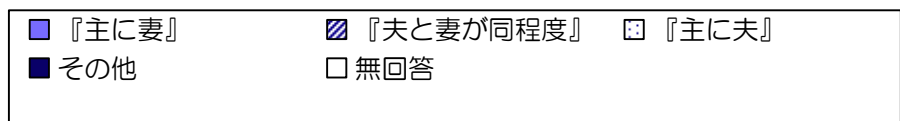
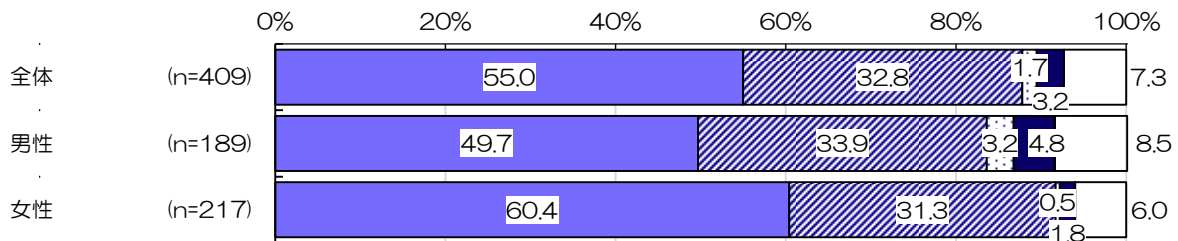
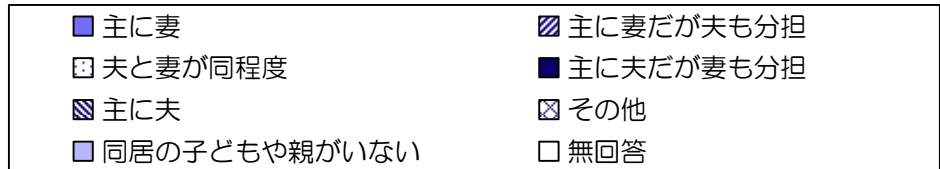
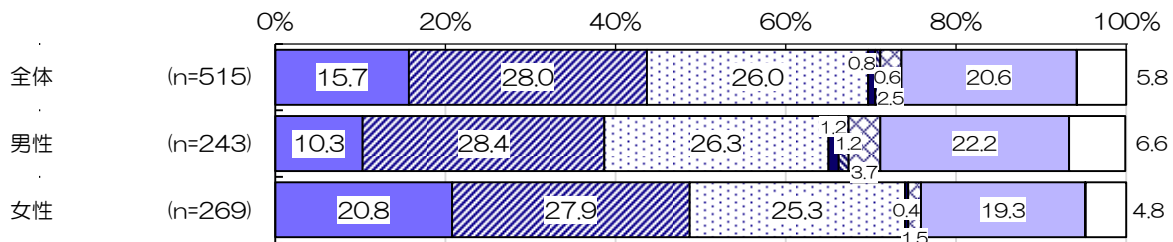
『主に妻』が5割以上。

【⑤育児、子どものしつけをする】では、『主に妻』(55.0%、「主に妻」+「主に妻だが夫も分担」)、『夫と妻が同程度』(32.8%)となっています。

性・年代別でみると、40代男性は、『夫と妻が同程度』(43.3%)が多くなっています。40代女性は、『主に妻』(70.4%、「主に妻」+「主に妻だが夫も分担」)が多くなっています。50代女性は、『主に妻』(65.9%、「主に妻」+「主に妻だが夫も分担」)が多くなっています。

経年比較でみると、『夫と妻が同程度』が緩やかな増加傾向にあり、前回調査から5ポイント以上増加しています。

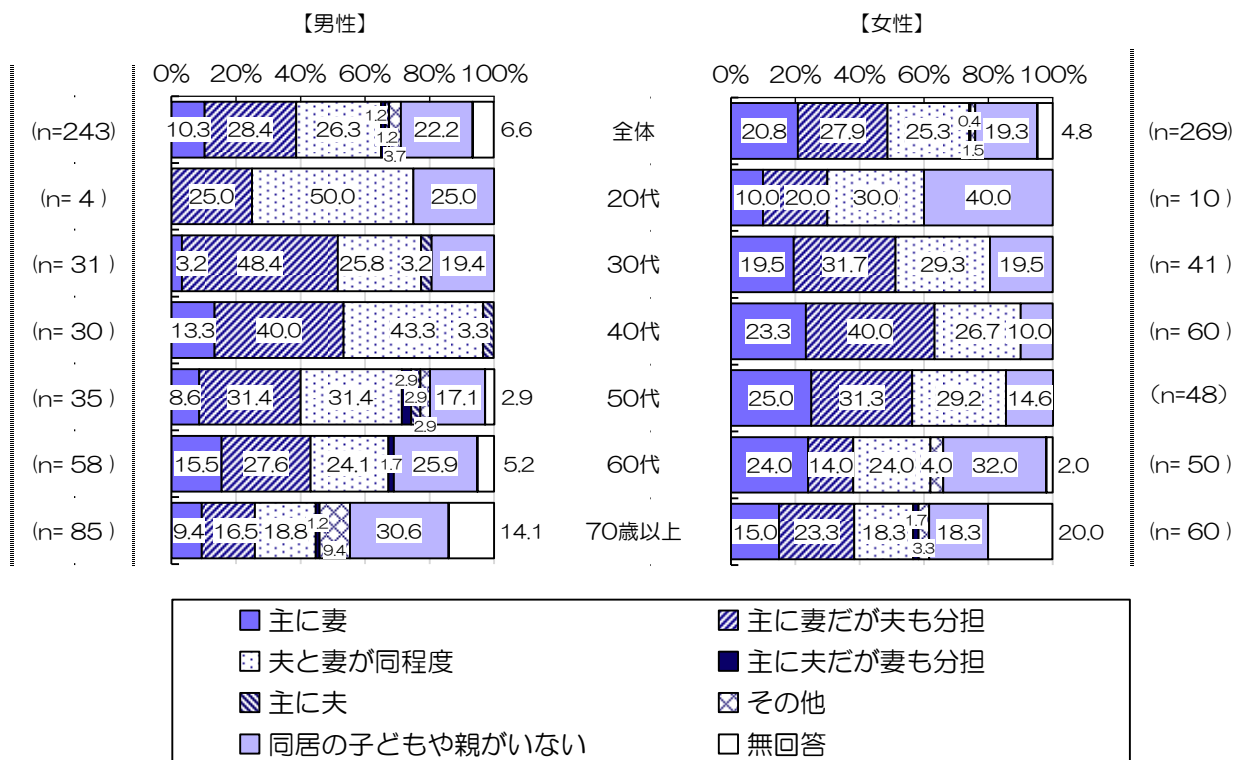
平成27年度以降、「夫と妻が同程度」が増加傾向にあります。平成27年度以降、『主に妻』『主に妻』が減少傾向にあります。



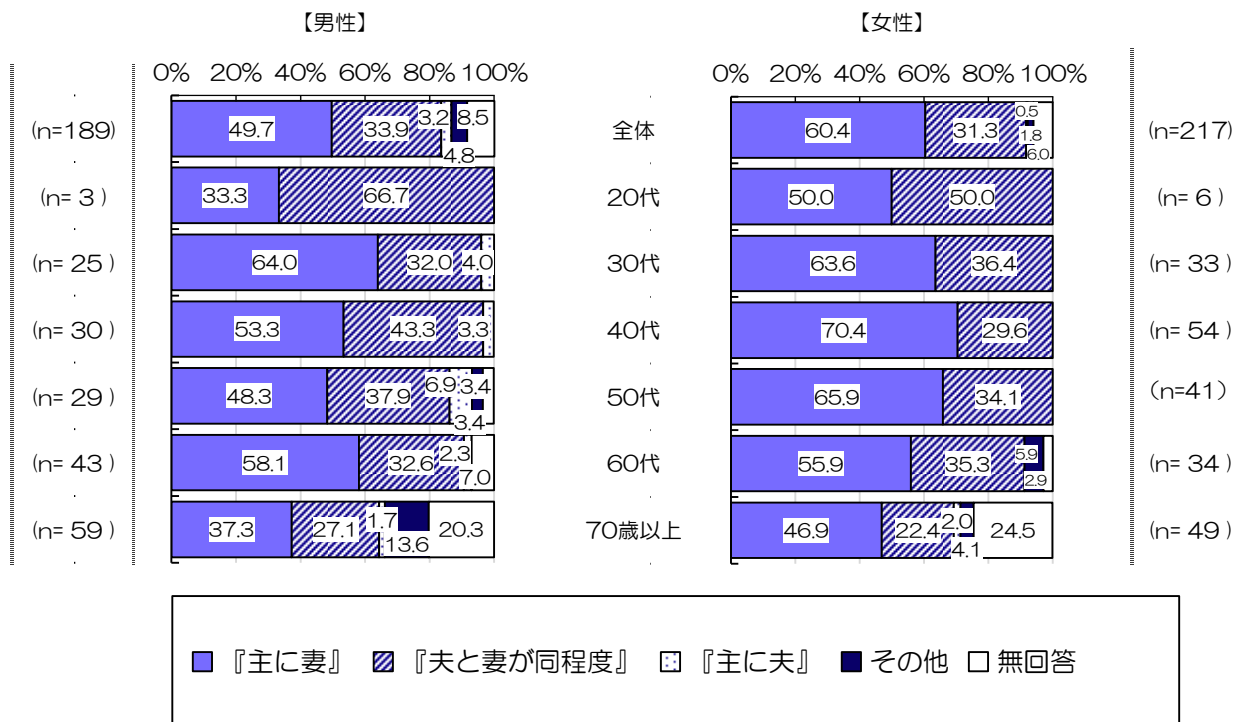
4 男女が共に子育てや介護等に主体的に関わることができる環境について

1 家庭での役割分担

【性・年代別】



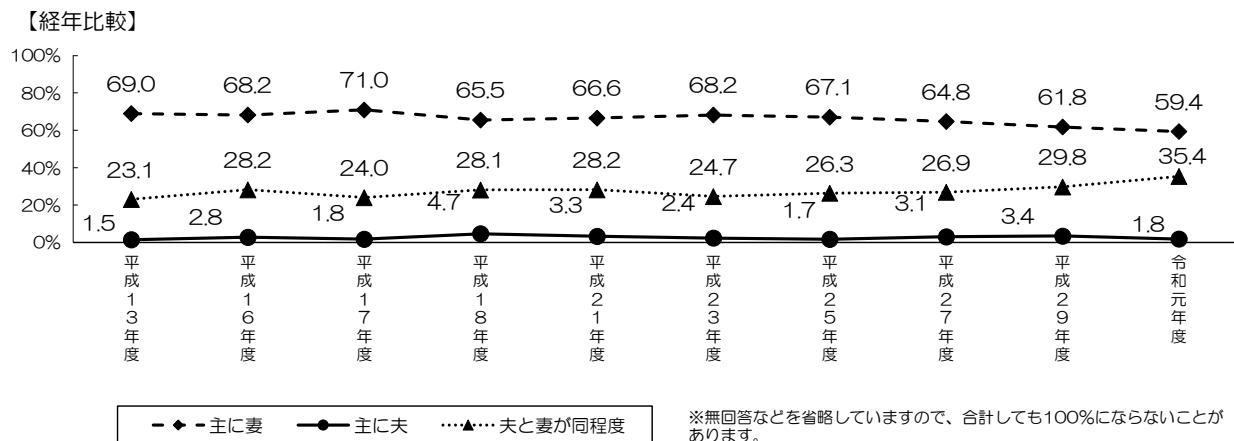
【性・年代別】



#### IV 調査結果

#### 4 男女が共に子育てや介護等に主体的に関わることができる環境について

#### 1 家庭での役割分担



	調査数	主に妻	主に妻だが夫も分担	夫と妻が同程度	主に夫だが妻も分担	主に夫	その他
平成13年度	689	33.5%	35.5%	23.1%	0.4%	1.1%	6.4%
平成16年度	494	31.8%	36.4%	28.2%	2.2%	0.6%	0.8%
平成17年度	497	30.0%	41.0%	24.0%	1.4%	0.4%	3.2%
平成18年度	356	25.8%	39.7%	28.1%	3.3%	1.4%	1.7%
平成21年度	425	30.1%	36.5%	28.2%	2.8%	0.5%	1.9%
平成23年度	296	30.7%	37.5%	24.7%	1.4%	1.0%	4.7%
平成25年度	410	31.2%	35.9%	26.3%	1.5%	0.2%	4.9%
平成27年度	457	26.7%	38.1%	26.9%	2.4%	0.7%	5.3%
平成29年度	406	24.6%	37.2%	29.8%	3.2%	0.2%	4.9%
令和元年度	379	21.4%	38.0%	35.4%	1.1%	0.8%	3.4%

※問10の全ての項目の条件を揃えるため、全体から「同居の子どもや親がいない」、「無回答」を除いて集計しています。

4 男女が共に子育てや介護等に主体的に関わることができる環境について

1 家庭での役割分担

⑥ 親の世話（介護）をする

『主に妻』がおよそ4割。60代女性では『主に妻』が5割以上。

【⑥親の世話（介護）をする】では、『主に妻』（40.1%、「主に妻」＋「主に妻だが夫も分担」）が最も多く、次に『夫と妻が同程度』（28.3%）となっています。

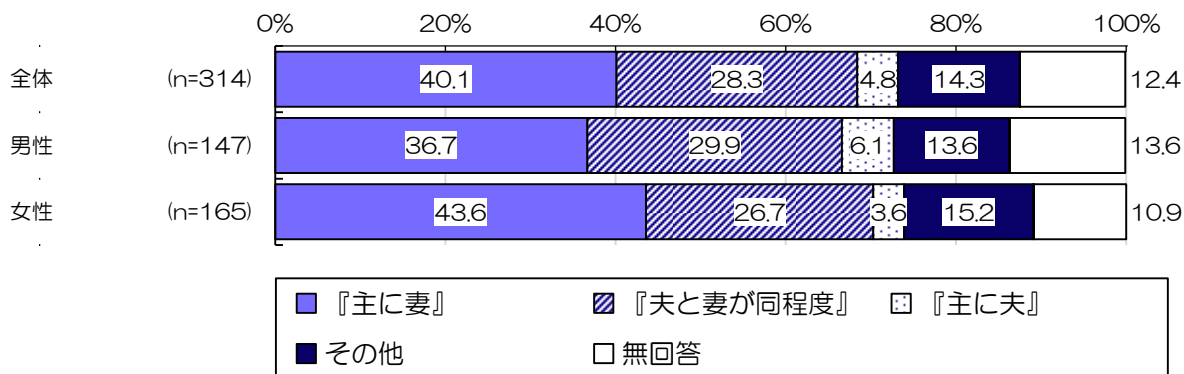
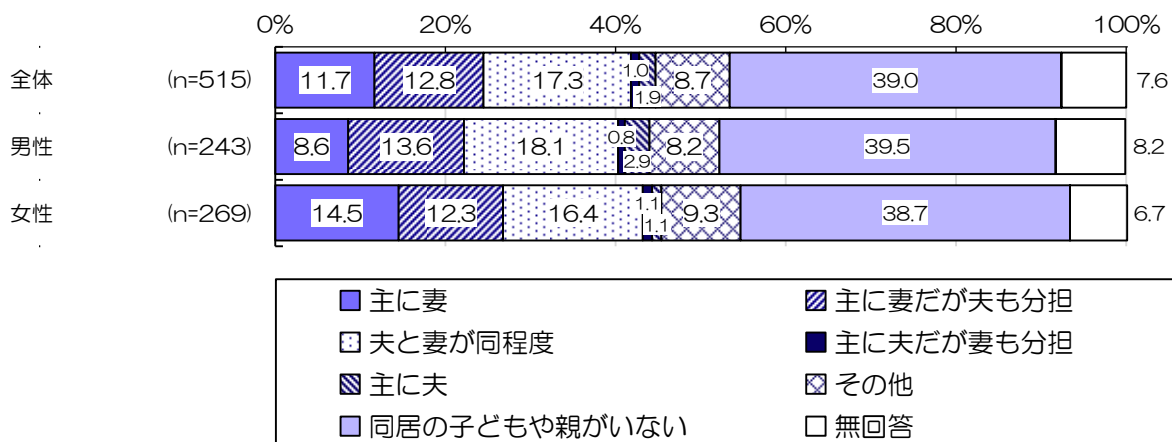
性・年代別でみると、30代男性は、『夫と妻が同程度』（41.2%）が多くなっています。

40代男性は、『主に夫』（15.0%、「主に夫」＋「主に夫だが妻も分担」）が多くなっています。30代女性は、『夫と妻が同程度』（41.2%）が多くなっています。60代女性は、『主に妻』（53.3%、「主に妻」＋「主に妻だが夫も分担」）が多くなっています。

経年比較でみると、『夫と妻が同程度』が緩やかな増加傾向にあり、前回調査から5ポイント以上増加しています。

20代男性は同年代の女性よりも『夫と妻が同程度』が多くなっています。

平成25年度以降、「夫と妻が同程度」「夫と妻が同程度」が増加傾向にあります。平成27年度以降、「主に妻」がやや減少傾向にあります。

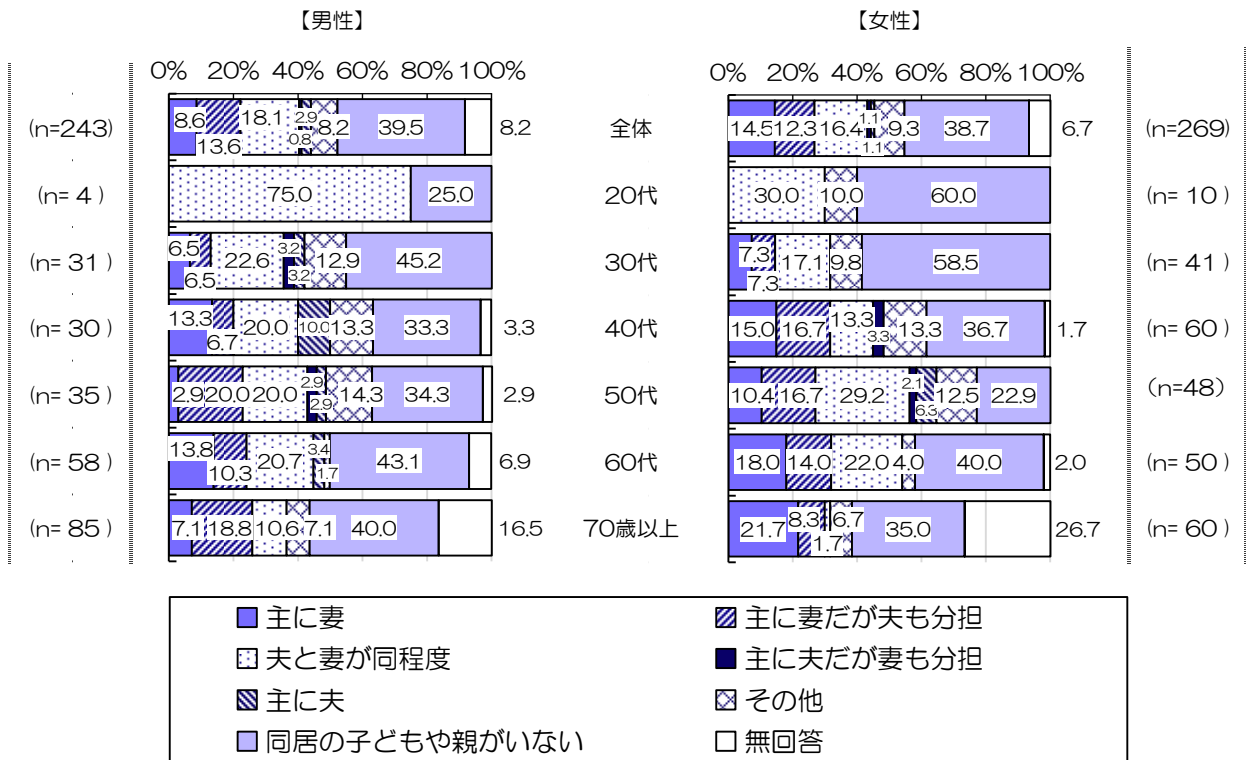


IV 調査結果

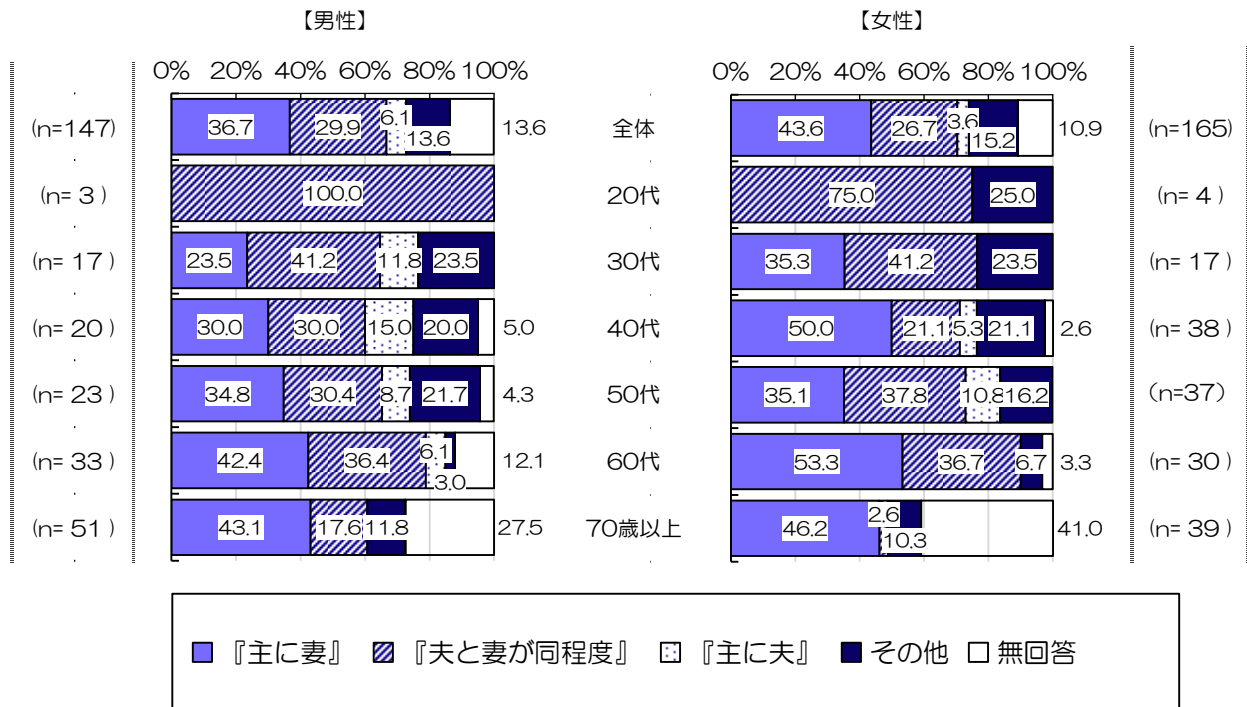
4 男女が共に子育てや介護等に主体的に関わることができる環境について

1 家庭での役割分担

【性・年代別】

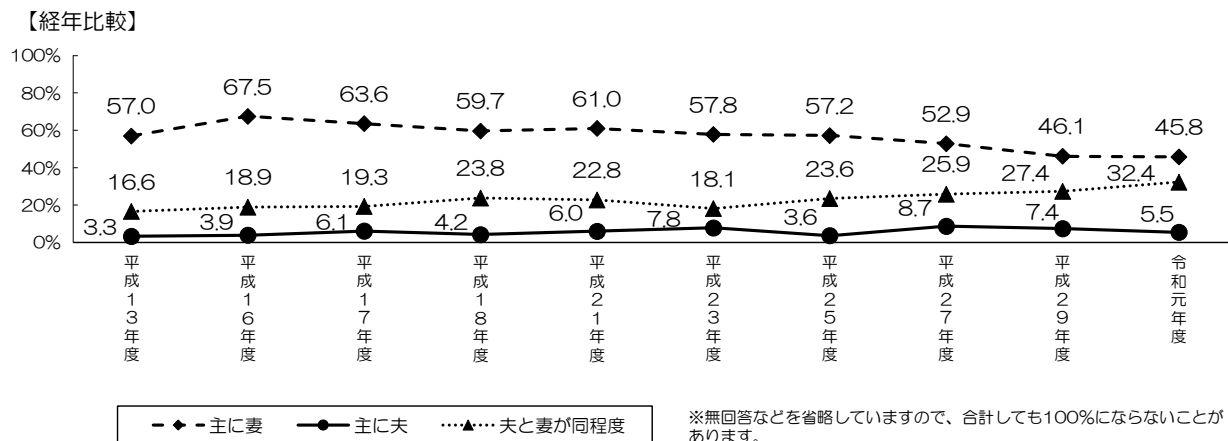


【性・年代別】



4 男女が共に子育てや介護等に主体的に関わることができる環境について

1 家庭での役割分担



	調査数	主に妻	主に妻だが夫も分担	夫と妻が同程度	主に夫だが妻も分担	主に夫	その他
平成13年度	474	34.4%	22.6%	16.6%	1.9%	1.4%	23.2%
平成16年度	344	41.2%	26.3%	18.9%	3.0%	0.9%	9.8%
平成17年度	367	37.7%	25.9%	19.3%	3.8%	2.3%	11.1%
平成18年度	261	33.3%	26.4%	23.8%	1.6%	2.6%	12.3%
平成21年度	302	31.5%	29.5%	22.8%	4.3%	1.7%	10.3%
平成23年度	204	31.9%	26.0%	18.1%	3.9%	3.9%	16.2%
平成25年度	276	36.6%	20.7%	23.6%	2.9%	0.7%	15.6%
平成27年度	367	28.6%	24.3%	25.9%	4.4%	4.4%	12.5%
平成29年度	310	24.8%	21.3%	27.4%	3.2%	4.2%	19.0%
令和元年度	275	21.8%	24.0%	32.4%	1.8%	3.6%	16.4%

※問10の全ての項目の条件を揃えるため、全体から「同居の子どもや親がいない」、「無回答」を除いて集計しています。

IV 調査結果

4 男女が共に子育てや介護等に主体的に関わることができる環境について

1 家庭での役割分担

⑦ 自治会・町内会などの地域活動を行う

『主に夫』が4割以上。60代男性ではおよそ6割、70代男性では『主に夫』が5割以上。

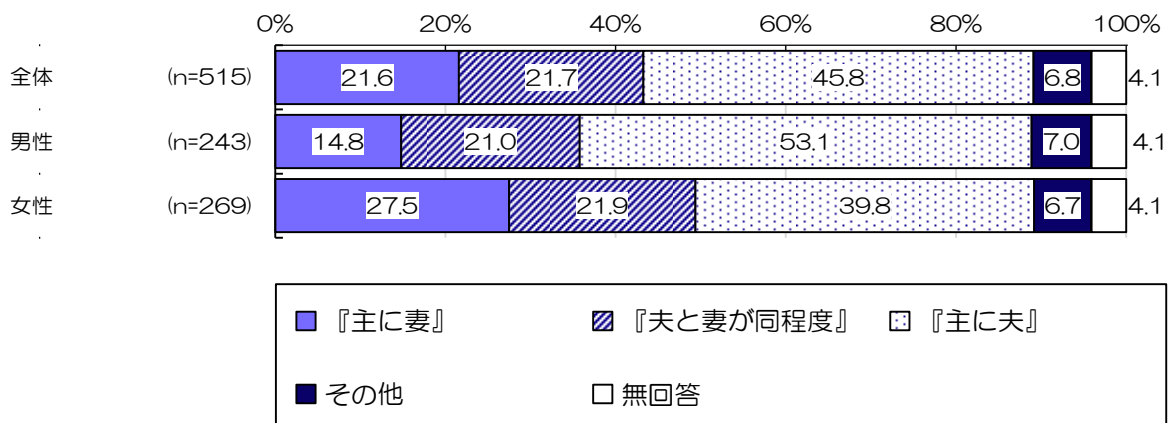
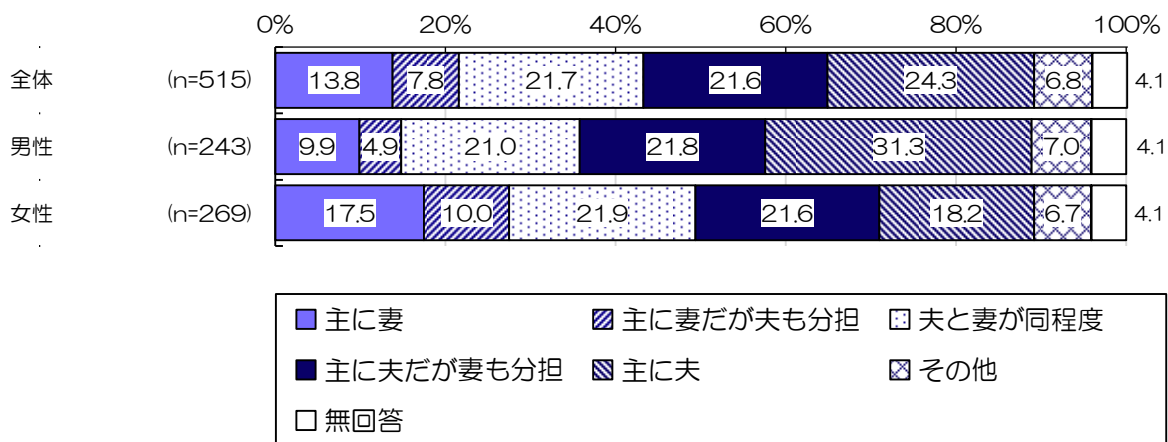
【⑦自治会・町内会などの地域活動を行う】では、『主に夫』(45.8%、「主に夫」+「主に夫だが妻も分担」)が最も多く、次に『夫と妻が同程度』(21.7%)、『主に妻』(21.6%、「主に妻」+「主に妻だが夫も分担」となっています。

性・年代別で見ると、60代男性は、『主に夫』(62.1%、「主に夫」+「主に夫だが妻も分担」)が多くなっています。70歳以上男性は、『主に夫』(57.6%、「主に夫」+「主に夫だが妻も分担」)が多くなっています。30代女性は、『主に妻』(34.1%、「主に妻」+「主に妻だが夫も分担」)が多くなっています。40代女性は、『主に妻』(33.3%、「主に妻」+「主に妻だが夫も分担」)が多くなっています。

経年比較で見ると、『夫と妻が同程度』は緩やかに増加しています。

20代男性は同年代の女性よりも『夫と妻が同程度』が多くなっています。30代男性は同年代の女性よりも『主に夫』が多くなっています。

平成27年度以降、「夫と妻が同程度」がやや増加傾向にあります。

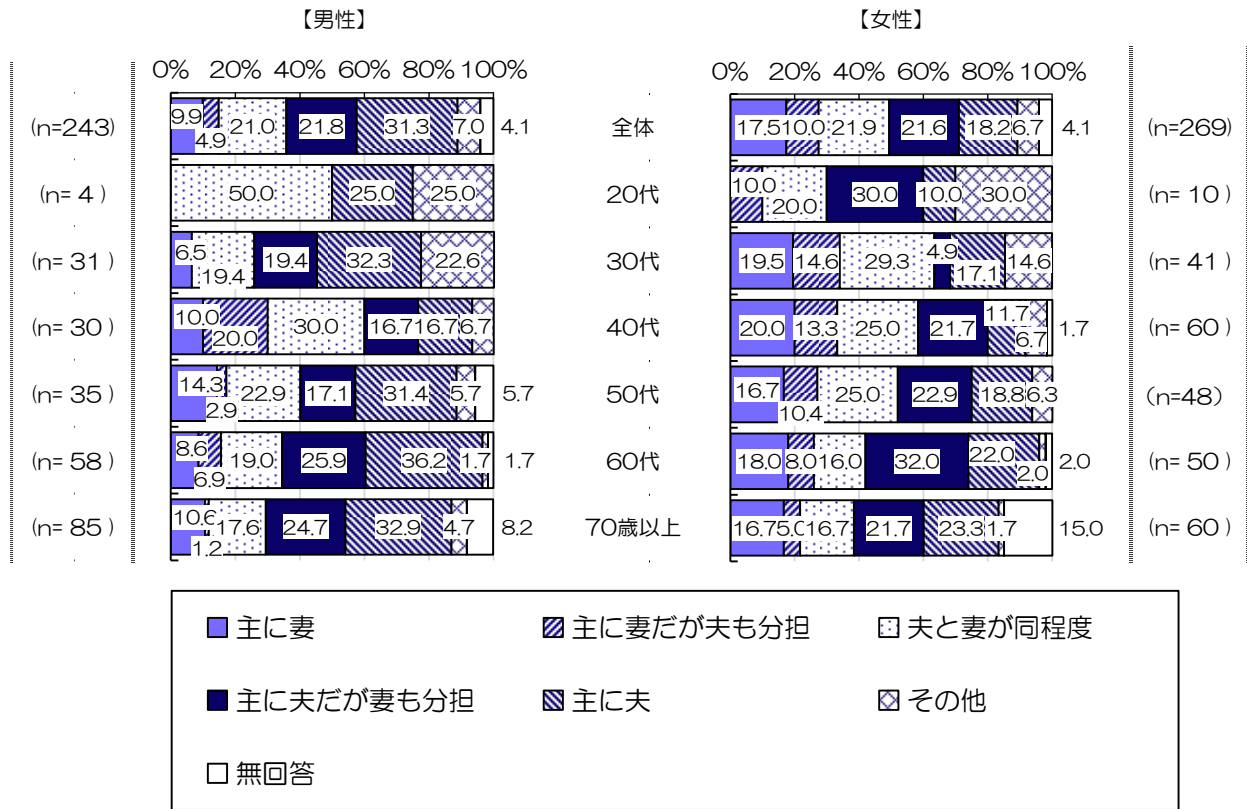




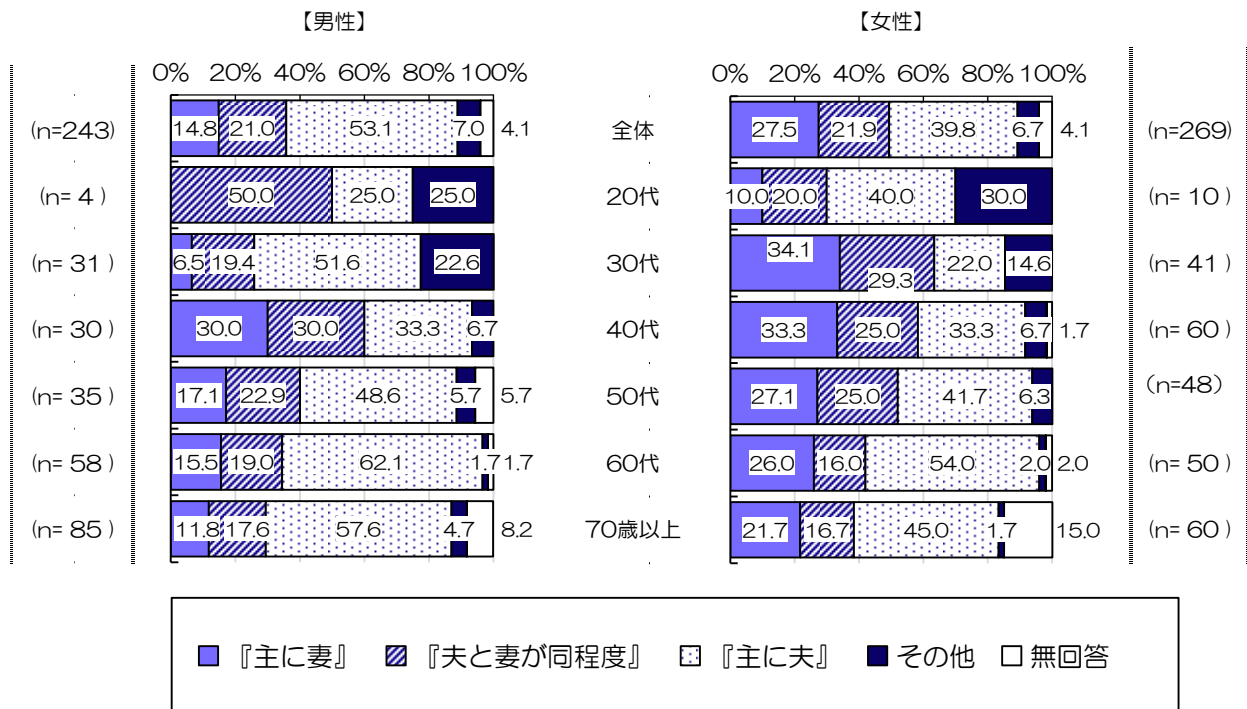
4 男女が共に子育てや介護等に主体的に関わることができる環境について

1 家庭での役割分担

【性・年代別】



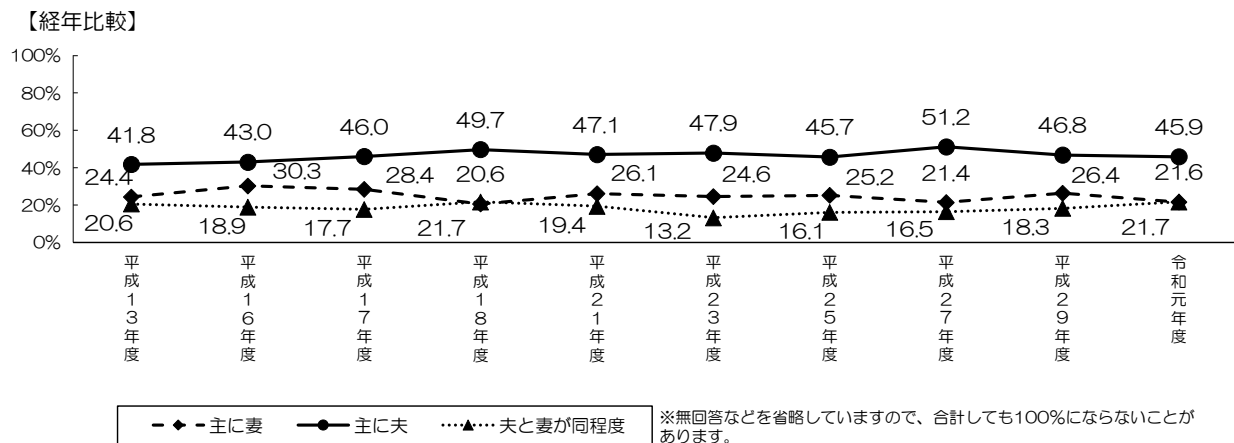
【性・年代別】



#### IV 調査結果

#### 4 男女が共に子育てや介護等に主体的に関わることができる環境について

#### 1 家庭での役割分担



	調査数	主に妻	主に妻だが夫も分担	夫と妻が同程度	主に夫だが妻も分担	主に夫	その他	無回答
平成13年度	916	13.5%	10.9%	20.6%	21.5%	20.3%	6.8%	6.3%
平成16年度	636	16.0%	14.3%	18.9%	19.7%	23.3%	3.1%	4.7%
平成17年度	637	16.2%	12.2%	17.7%	20.9%	25.1%	3.8%	4.1%
平成18年度	457	11.2%	9.4%	21.7%	21.7%	28.0%	4.2%	3.9%
平成21年度	536	15.7%	10.4%	19.4%	22.8%	24.3%	5.0%	2.4%
平成23年度	424	14.2%	10.4%	13.2%	19.8%	28.1%	6.6%	7.8%
平成25年度	571	14.5%	10.7%	16.1%	19.1%	26.6%	7.9%	5.1%
平成27年度	637	11.8%	9.6%	16.5%	21.7%	29.5%	5.2%	5.8%
平成29年度	547	16.3%	10.1%	18.3%	21.6%	25.2%	6.2%	2.4%
令和元年度	515	13.8%	7.8%	21.7%	21.6%	24.3%	6.8%	4.1%

4 男女が共に子育てや介護等に主体的に関わることができる環境について

1 家庭での役割分担

⑧ 子どもの教育方針や進学目標を決める

『夫と妻が同程度』がおおよそ5割。

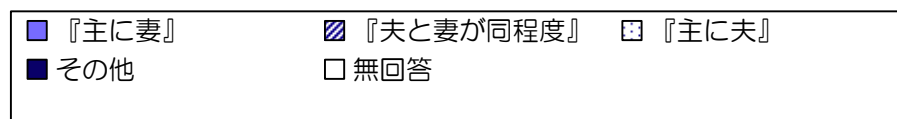
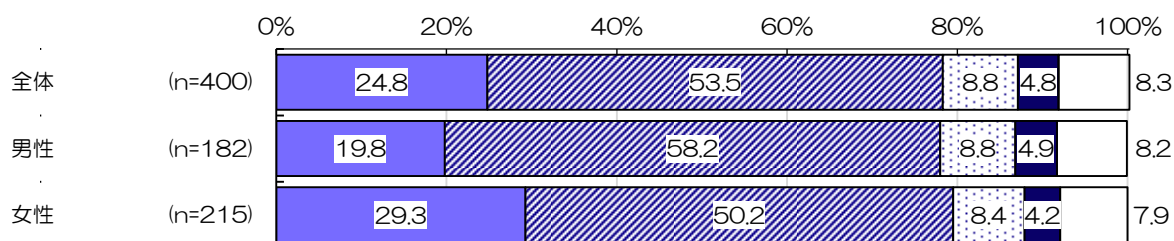
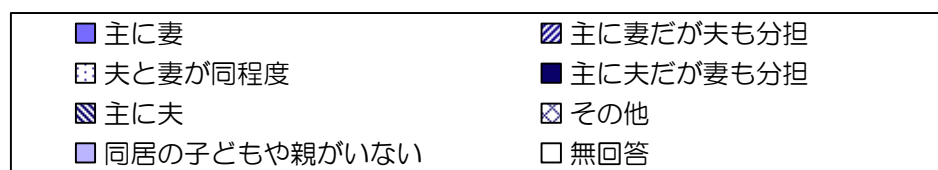
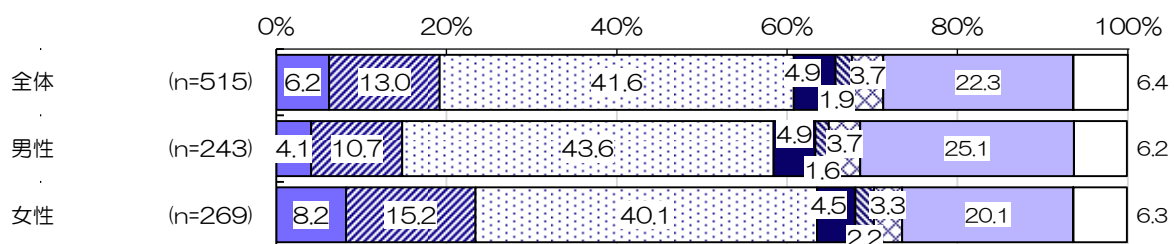
【⑧子どもの教育方針や進学目標を決める】では、『夫と妻が同程度』（53.5%）が最も多く、次に、『主に妻』（24.8%、「主に妻」＋「主に妻だが夫も分担」）となっています。

性・年代別でみると、30代男性は、『主に妻』（36.0%、「主に妻」＋「主に妻だが夫も分担」）が多くなっています。40代男性は、『主に夫』（23.3%、「主に夫」＋「主に夫だが妻も分担」）が多くなっています。50代男性は、『夫と妻が同程度』（67.9%）が多くなっています。30代女性は、『夫と妻が同程度』（63.6%）が多くなっています。40代女性は、『主に妻』（45.5%、「主に妻」＋「主に妻だが夫も分担」）が多くなっています。50代女性は、『主に妻』（38.1%、「主に妻」＋「主に妻だが夫も分担」）が多くなっています。

経年比較でみると、『夫と妻が同程度』が緩やかに増加しています。

20代男性は同年代の女性よりも『夫と妻が同程度』がかなり多くなっています。

平成21年度以降、「主に妻だが夫も分担」が増加傾向にあります。平成27年度以降、「主に妻」がやや減少傾向にあります。

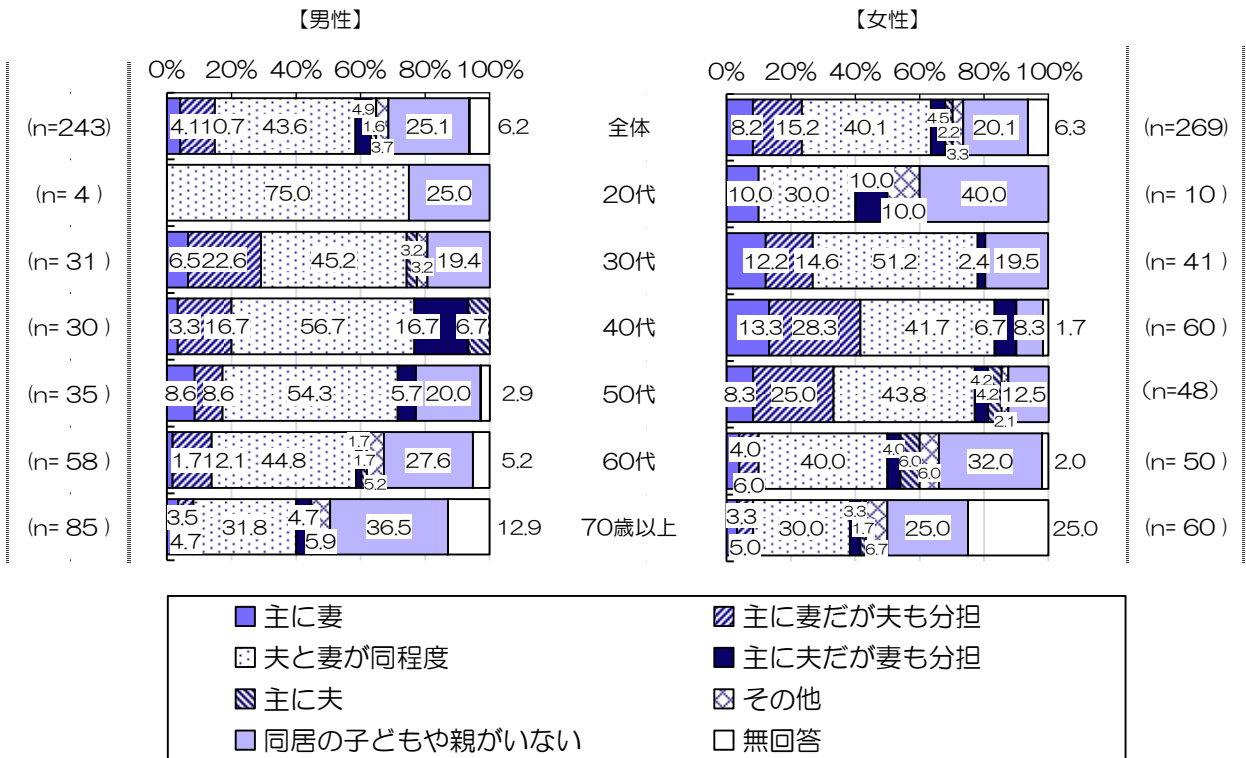


IV 調査結果

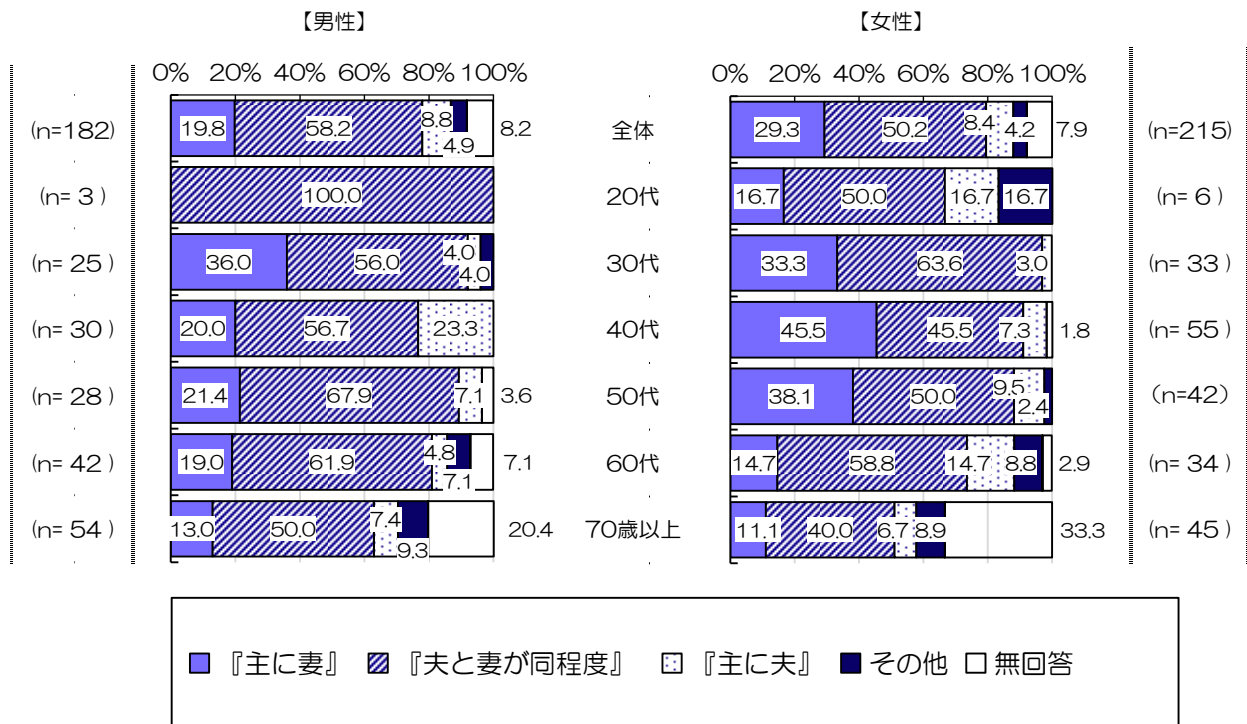
4 男女が共に子育てや介護等に主体的に関わることができる環境について

1 家庭での役割分担

【性・年代別】

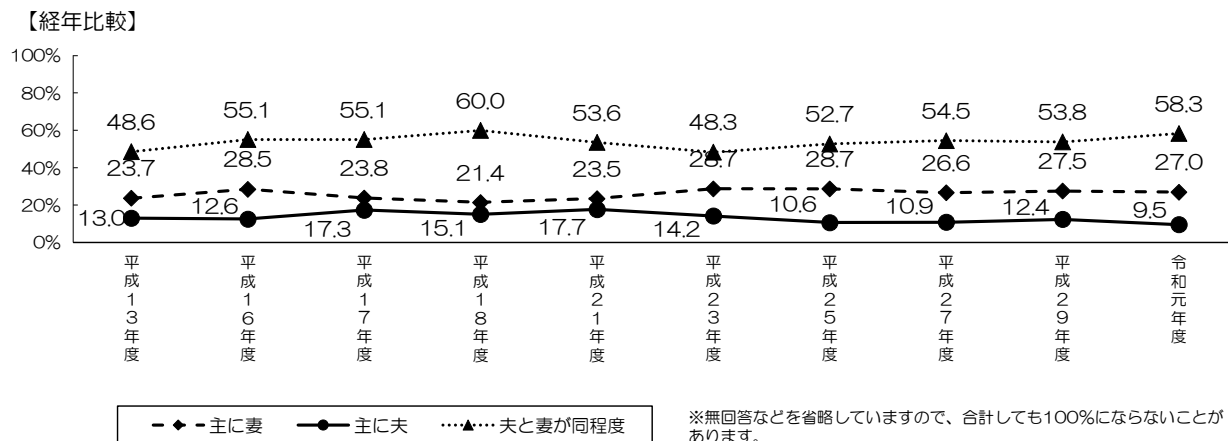


【性・年代別】



4 男女が共に子育てや介護等に主体的に関わることができる環境について

1 家庭での役割分担



	調査数	主に妻	主に妻だが夫も分担	夫と妻が同程度	主に夫だが妻も分担	主に夫	その他
平成13年度	763	8.3%	15.4%	48.6%	8.6%	4.4%	14.6%
平成16年度	485	10.4%	18.1%	55.1%	10.1%	2.5%	3.9%
平成17年度	490	11.2%	12.6%	55.1%	11.8%	5.5%	3.6%
平成18年度	345	6.6%	14.8%	60.0%	10.7%	4.4%	3.4%
平成21年度	418	8.4%	15.1%	53.6%	14.4%	3.3%	5.3%
平成23年度	296	12.2%	16.6%	48.3%	9.5%	4.7%	8.8%
平成25年度	404	14.1%	14.6%	52.7%	7.9%	2.7%	7.9%
平成27年度	451	11.3%	15.3%	54.5%	7.3%	3.5%	8.0%
平成29年度	403	10.9%	16.6%	53.8%	9.2%	3.2%	6.2%
令和元年度	367	8.7%	18.3%	58.3%	6.8%	2.7%	5.2%

※問10の全ての項目の条件を揃えるため、全体から「同居の子どもや親がいない」、「無回答」を除いて集計しています。

IV 調査結果

4 男女が共に子育てや介護等に主体的に関わることができる環境について

1 家庭での役割分担

⑨ 高額の商品や土地・家屋の購入を決める

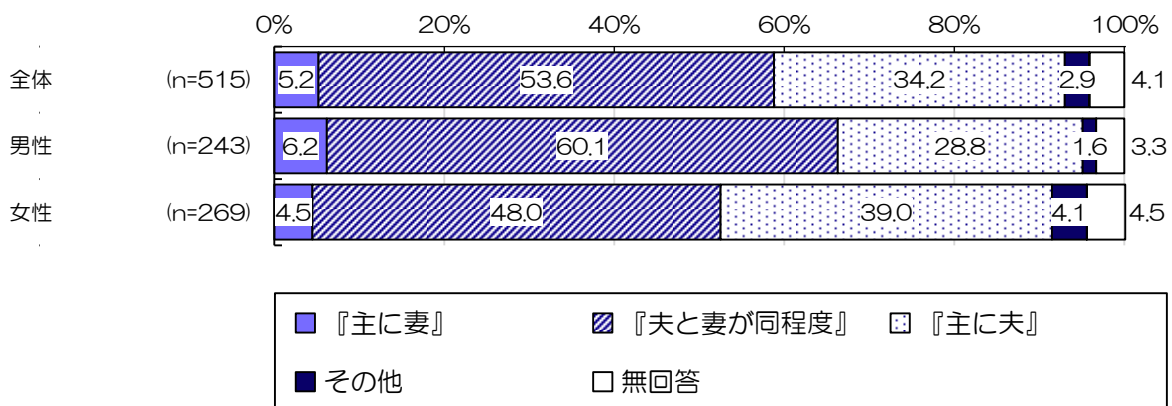
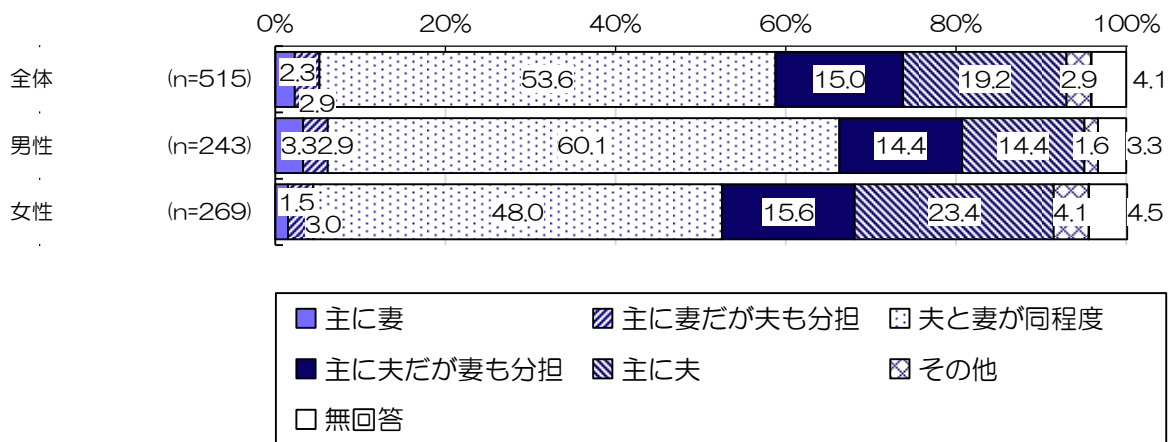
『夫と妻が同程度』がおおよそ5割。

【⑨高額の商品や土地・家屋の購入を決める】では、『夫と妻が同程度』(53.6%)が最も多く、次に『主に夫』(34.2%、「主に夫」+「主に夫だが妻も分担」)、『主に妻』(5.2%、「主に妻」+「主に妻だが夫も分担」)となっています。

性・年代別で見ると、40代男性は、『主に夫』(50.0%、「主に夫」+「主に夫だが妻も分担」)が多くなっています。50代男性は、『夫と妻が同程度』(74.3%)が多くなっています。60代男性は、『夫と妻が同程度』(69.0%)が多くなっています。20代女性は、『主に夫』(50.0%、「主に夫」+「主に夫だが妻も分担」)が多くなっています。50代女性は、『主に夫』(47.9%、「主に夫」+「主に夫だが妻も分担」)が多くなっています。

20代男性は同年代の女性よりも『主に妻』が多くなっています。50代男性、60代男性、70歳以上男性は同年代の女性よりも『夫と妻が同程度』が多くなっています。40代男性は同年代の女性よりも『主に夫』が多くなっています。

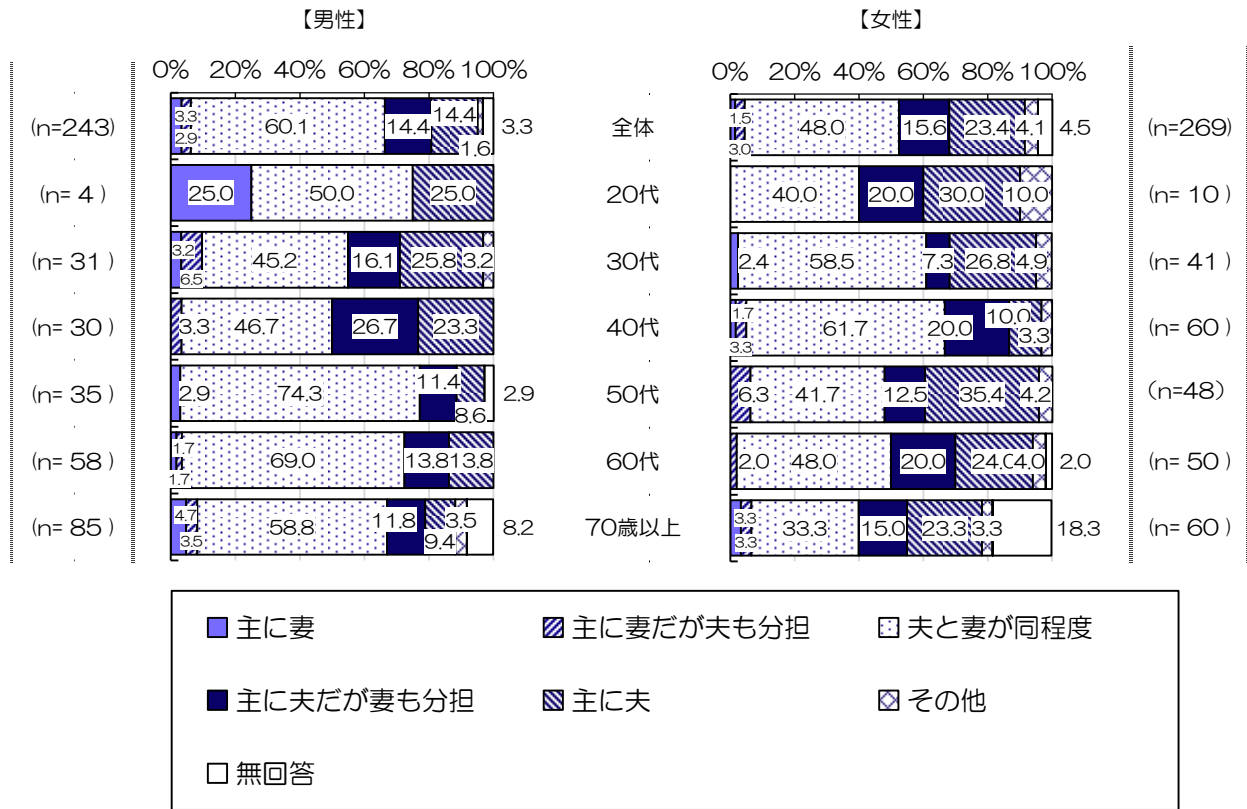
「夫と妻が同程度」「夫と妻が同程度」はやや増加しています。「主に夫」はやや減少しています。



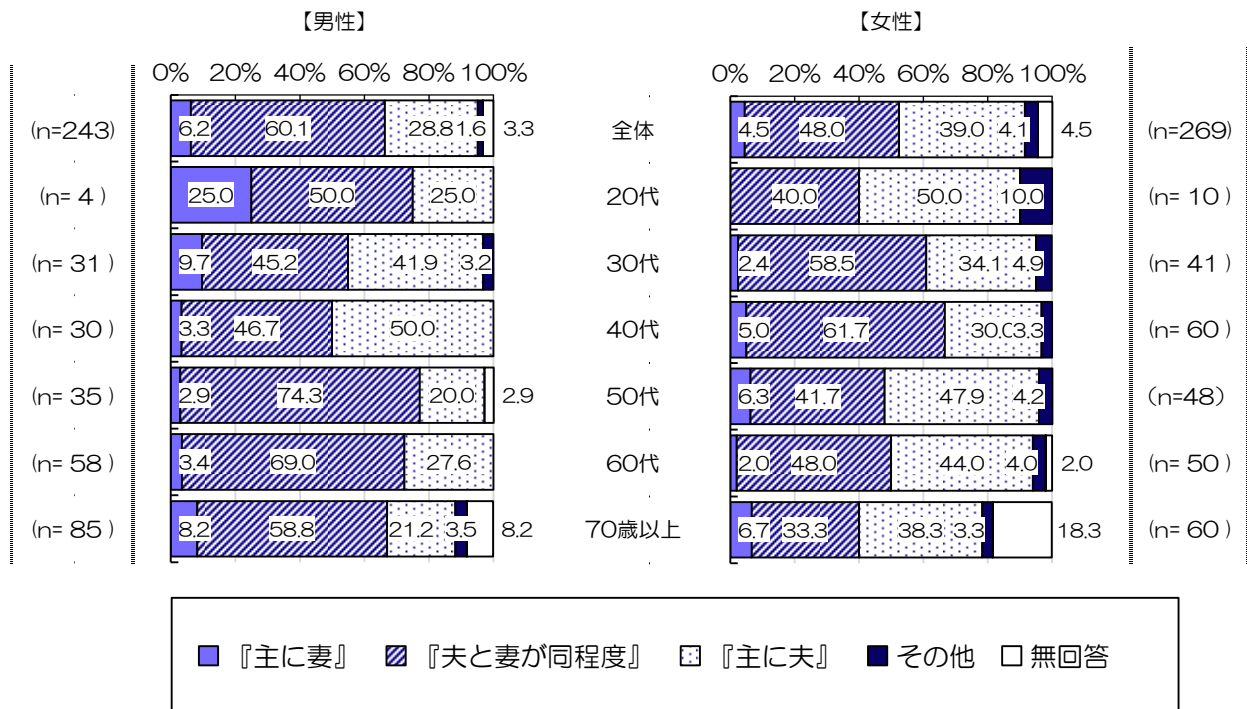
4 男女が共に子育てや介護等に主体的に関わることができる環境について

1 家庭での役割分担

【性・年代別】



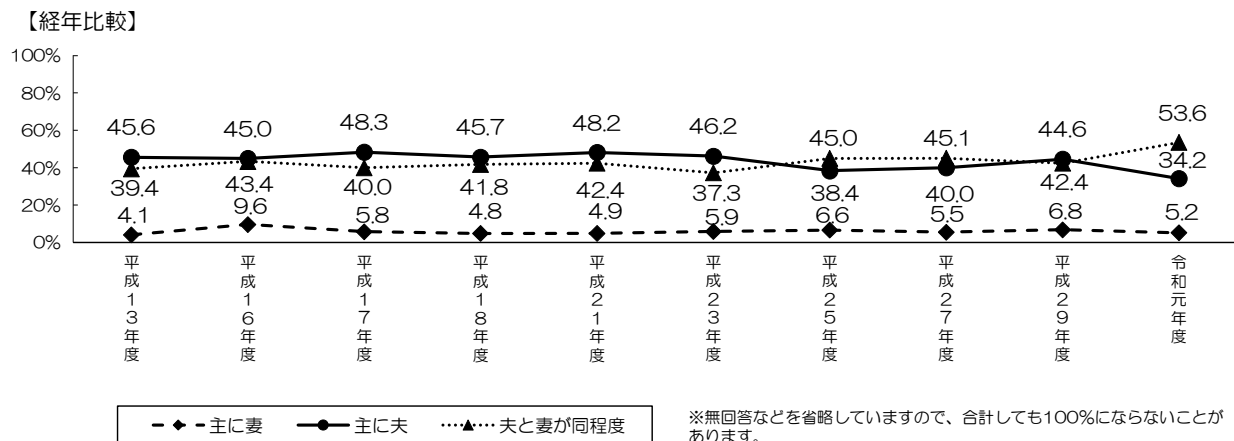
【性・年代別】



#### IV 調査結果

#### 4 男女が共に子育てや介護等に主体的に関わることができる環境について

#### 1 家庭での役割分担



	調査数	主に妻	主に妻だが夫も分担	夫と妻が同程度	主に夫だが妻も分担	主に夫	その他	無回答
平成13年度	916	2.0%	2.1%	39.4%	22.6%	23.0%	3.6%	7.3%
平成16年度	636	6.6%	3.0%	43.4%	19.2%	25.8%	2.0%	4.7%
平成17年度	637	2.5%	3.3%	40.0%	22.6%	25.7%	2.0%	3.8%
平成18年度	457	2.6%	2.2%	41.8%	23.4%	22.3%	2.6%	5.0%
平成21年度	536	2.1%	2.8%	42.4%	22.6%	25.6%	2.2%	2.4%
平成23年度	424	3.5%	2.4%	37.3%	20.0%	26.2%	2.8%	7.8%
平成25年度	571	2.6%	4.0%	45.0%	15.8%	22.6%	4.4%	5.6%
平成27年度	637	1.6%	3.9%	45.1%	16.8%	23.2%	2.2%	7.2%
平成29年度	547	3.1%	3.7%	42.4%	18.8%	25.8%	2.6%	3.7%
令和元年度	515	2.3%	2.9%	53.6%	15.0%	19.2%	2.9%	4.1%



4 男女が共に子育てや介護等に主体的に関わることができる環境について

1 家庭での役割分担

《家庭での役割分担まとめ》

経年比較でみると、家庭内での役割分担について「夫と妻が同程度」がやや増加傾向

各家庭での役割について特徴的な傾向を下表にまとめました。

	① 家計を支える (生活費を稼ぐ)	② 掃除、洗濯、食事のし たくなどの家事をする	③ 簡単な家事をする	④ ゴミ出しなどの 管理をする	⑤ 日々の家計の 管理をする	⑥ 育児、子どもの しつけをする	⑦ 親の世話(介護)をす る	⑧ 自治会・町内会など の地域活動を行う	⑨ 子どもの教育方針や 進学目標を決める	⑩ 高額の商品や土地・ 家屋の購入を決める
全体の傾向	『主に妻』が およそ1割	『主に妻』が 8割以上	『主に妻』が およそ5割	『主に妻』が 7割弱	『主に妻』が 5割以上	『主に妻』が 4割以上	『主に妻』が 2割強	『主に妻』が 2割以上	『主に妻』が 1割未満	
属性別の傾向・特徴	性別	・男性 『主に夫』 ・女性 『主に夫』	・男性 『主に妻』 ・女性 『主に妻』	・女性 『主に妻』	・男性 『主に妻』 ・女性 『主に妻』	・女性 『主に妻』	・なし	・男性 『主に夫』	・男性 『夫と妻 が同程度』 ・女性 『夫と妻 が同程度』	・男性 『夫と妻 が同程度』
	性・年代別	・全属性 『主に夫』	・全属性 『主に妻』	・男性20代 『夫と妻 が同程度』 『主に夫』 ・男性40代 『主に妻』 ・女性20代 『主に夫』 ・女性40代 から60代 『主に妻』	・女性20代 以外の 全属性 『主に妻』	・男性20代 『夫と妻 が同程度』 ・男性30代 40代 60代 『主に妻』 ・女性20代 『夫と妻 が同程度』 ・女性30代 から60代 『主に妻』	・男性20代 『夫と妻 が同程度』 ・女性20代 40代 60代 『主に妻』 ・女性40代 60代 『主に妻』	・男性20代 『夫と妻 が同程度』 ・男性30代 60代 『主に夫』 ・女性60代 『主に夫』	・男性 全ての年代 『夫と妻 が同程度』 ・女性20代 30代 50代 60代 『夫と妻 が同程度』	・男性20代 『夫と妻 が同程度』 ・男性 50代以上 『夫と妻 が同程度』 ・女性20代 30代 40代 『夫と妻 が同程度』
経年比較	『主に夫』 7割以上	『主に妻』 8割以上	『主に夫』 緩やかな増加	『主に妻』 緩やかな減少	『夫と妻 が同程度』 増加傾向	『夫と妻 が同程度』 増加傾向	『夫と妻 が同程度』 緩やかな増加	『夫と妻 が同程度』 緩やかな増加	『夫と妻 が同程度』 増加傾向	

#### IV 調査結果

- 4 男女が共に子育てや介護等に主体的に関わることができる環境について
- 2 子育てしやすい環境づくりに必要な行政の取組

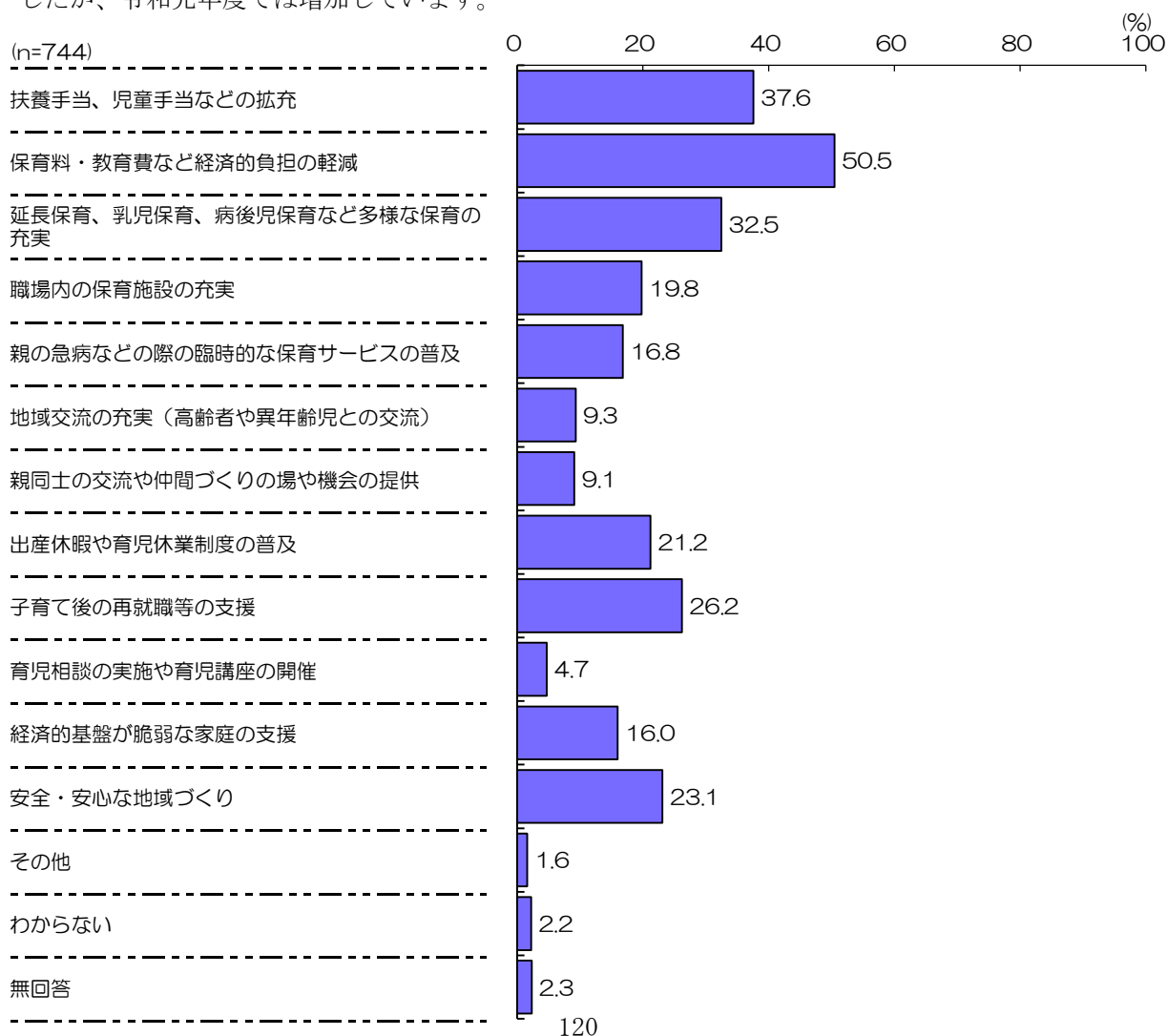
### 2 子育てしやすい環境づくりに必要な行政の取組

問11 子どもを育てやすい環境づくりをするには、行政としてどのような取組が必要だと思いますか。(3つまでに○)

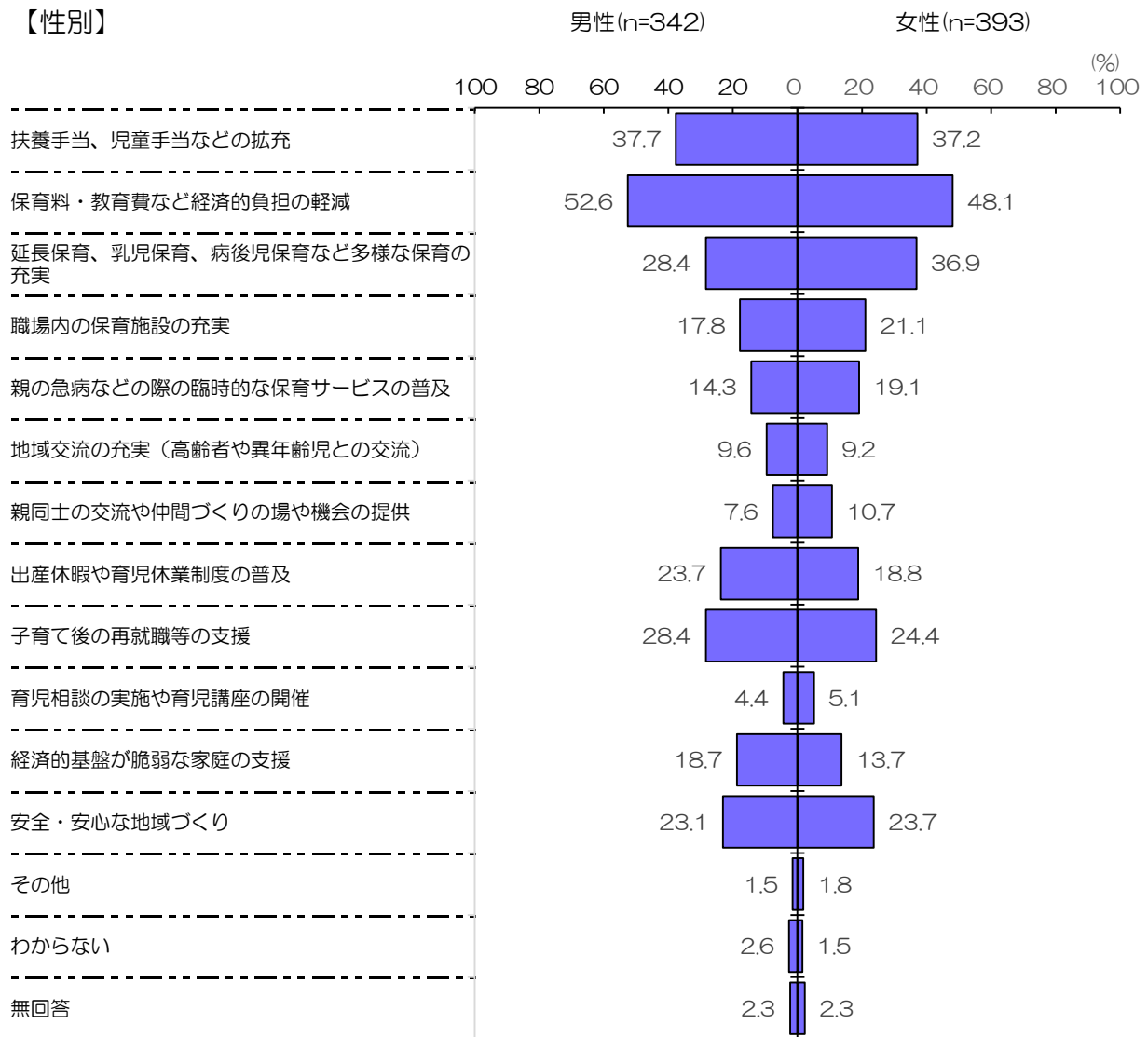
“経済的負担の軽減”、“手当の拡充”や“保育の充実”、“就労支援”のような経済的な支援や仕事と育児の両立のための具体的な施策が求められています。若い世代が経済・福祉支援を求めている一方で、70歳以上の女性では「地域交流の充実（高齢者や異年齢児との交流）」が多くなっています。

子育て環境改善のために必要な行政の取組では、「保育料・教育費など経済的負担の軽減」(50.5%)が最も多く、次に「扶養手当、児童手当などの拡充」(37.6%)、「延長保育、乳児保育、病後児保育など多様な保育の充実」(32.5%)、「子育て後の再就職等の支援」(26.2%)、「安全・安心な地域づくり」(23.1%)となっています。

平成25年度以降、「扶養手当、児童手当などの拡充」が増加傾向にあります。また、「地域交流の充実（高齢者や異年齢児との交流）」「親同士の交流や仲間づくりの場や機会の提供」は減少傾向でしたが、令和元年度では増加しています。



4 男女が共に子育てや介護等に主体的に関わることができる環境について  
2 子育てしやすい環境づくりに必要な行政の取組

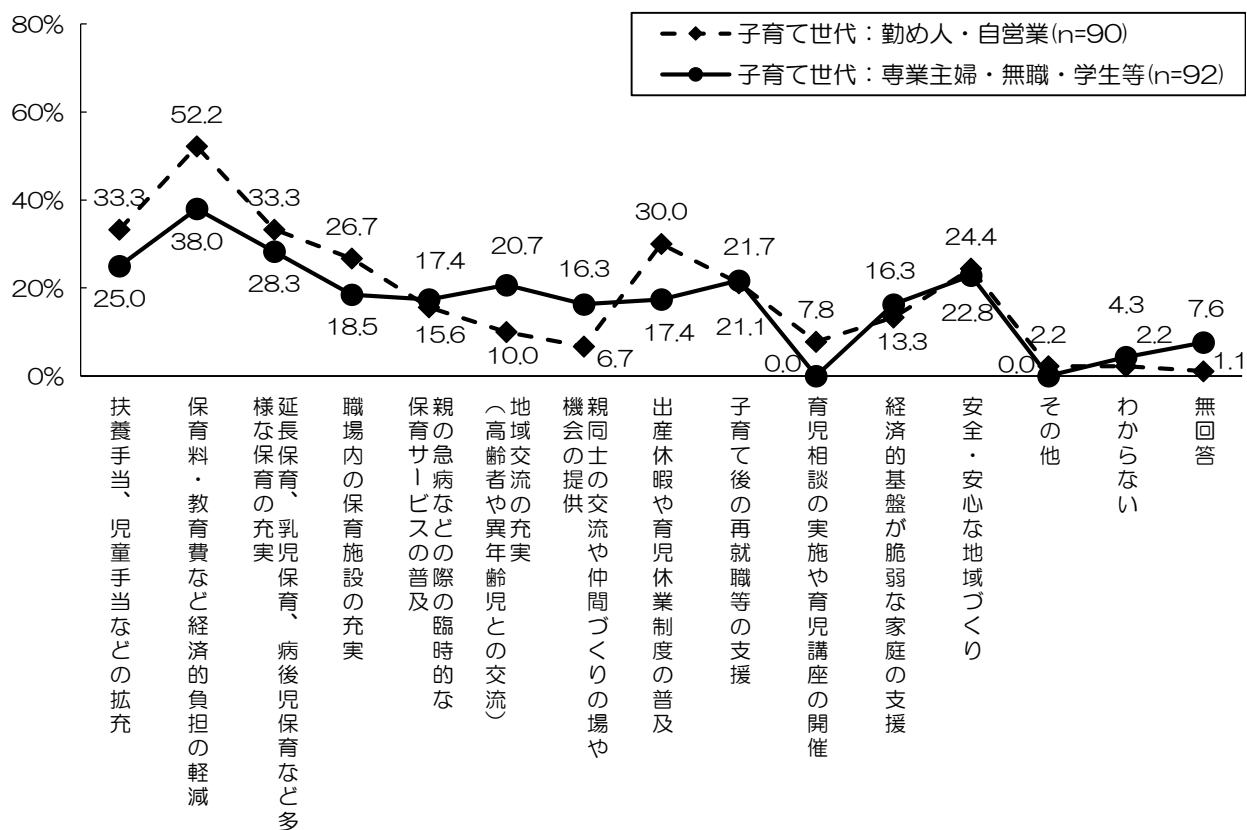


#### IV 調査結果

#### 4 男女が共に子育てや介護等に主体的に関わることができる環境について

#### 2 子育てしやすい環境づくりに必要な行政の取組

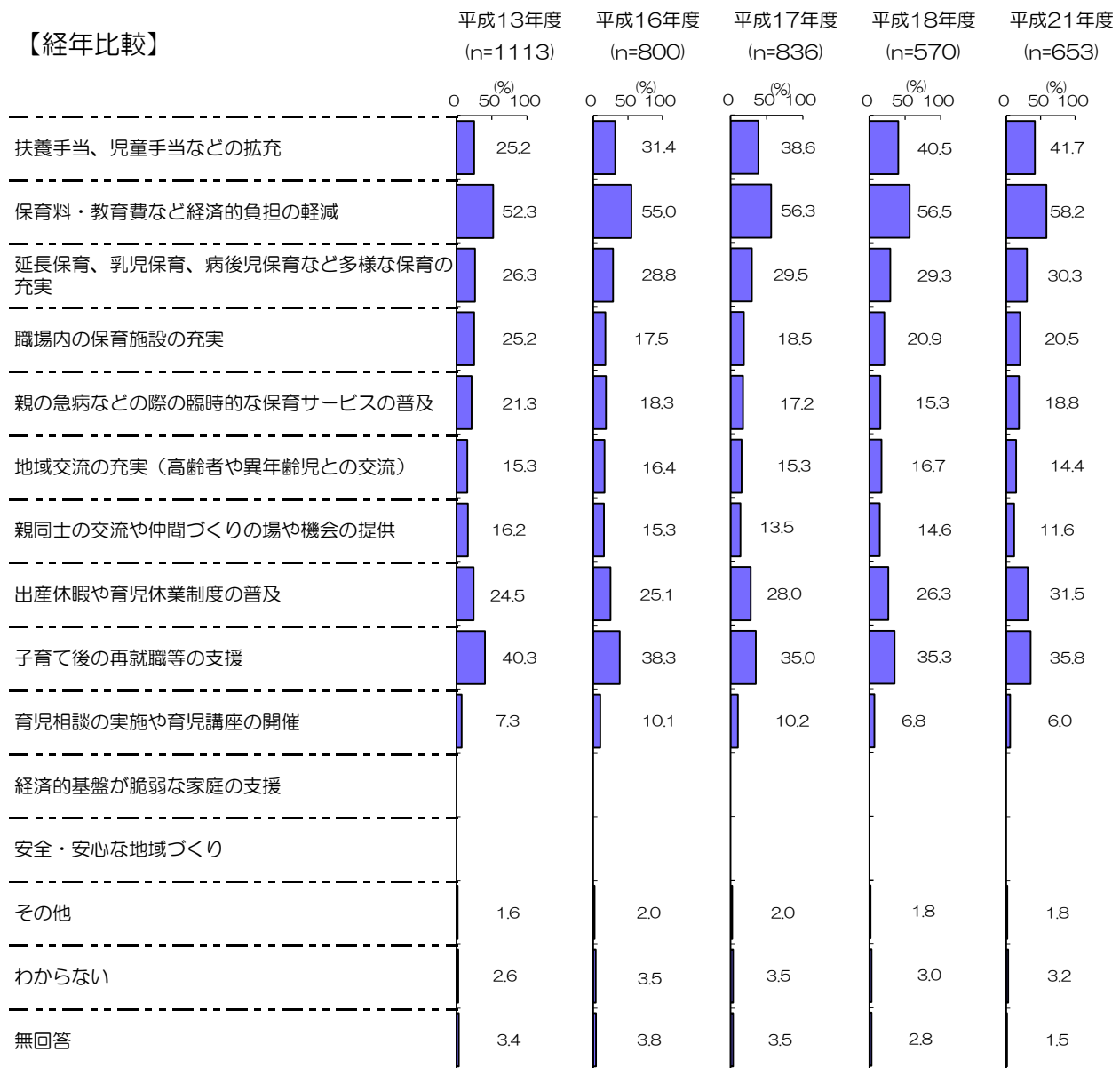
【女性の子育て世代・職業の有無別】



※無回答などを省略していますので、合計しても100%にならないことがあります。

#### 4 男女が共に子育てや介護等に主体的に関わることができる環境について

##### 2 子育てしやすい環境づくりに必要な行政の取組



※「経済的基盤が脆弱な家庭の支援」、「安全・安心な地域づくり」は平成23年度より追加

#### IV 調査結果

#### 4 男女が共に子育てや介護等に主体的に関わることができる環境について

#### 2 子育てしやすい環境づくりに必要な行政の取組



4 男女が共に子育てや介護等に主体的に関わることができる環境について  
 3 男性が家事・育児を行うことに対するイメージ

### 3 男性が家事・育児を行うことに対するイメージ

問12 男性が家事・育児を行うことについて、どのようなイメージをお持ちですか。

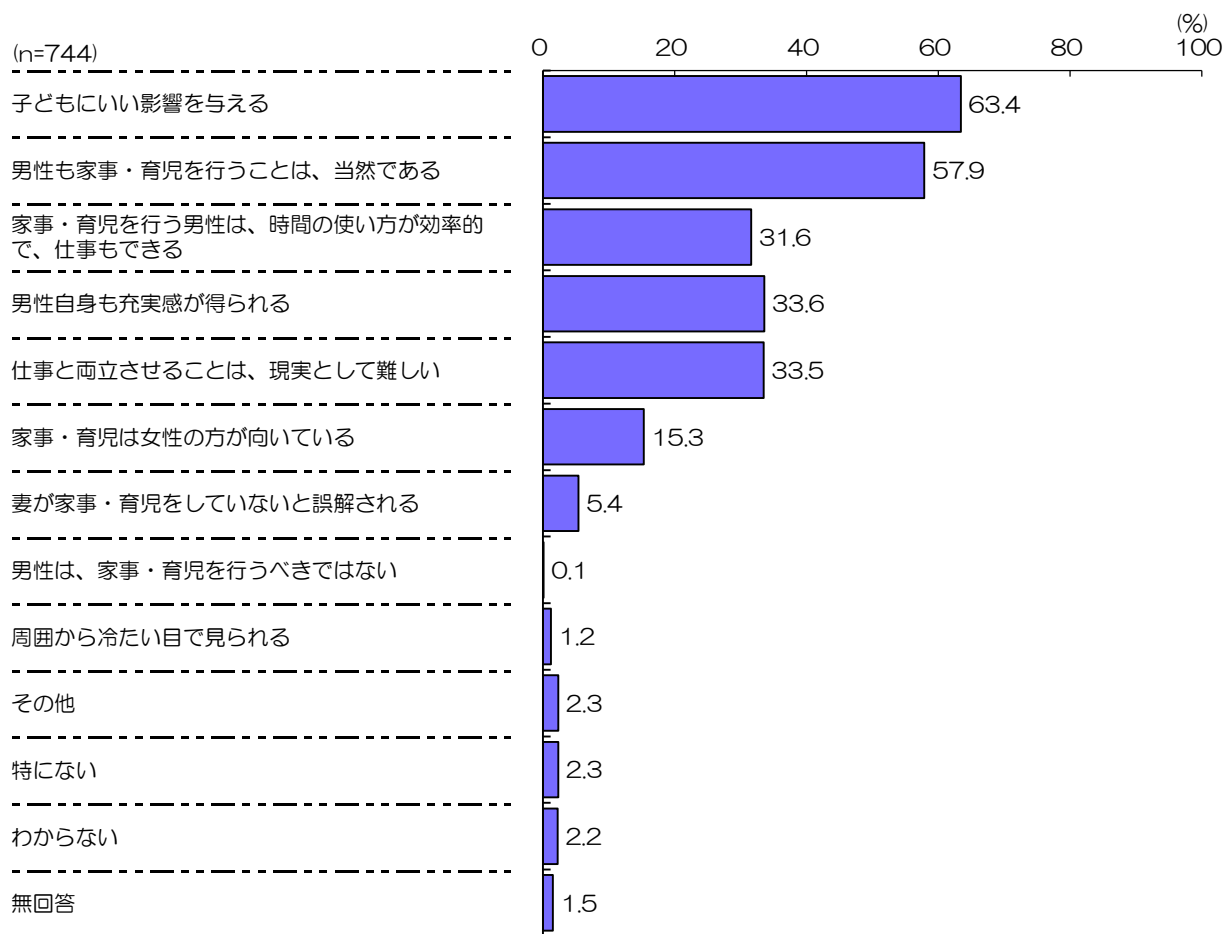
(あてはまるもの全てに○)

「子どもにいい影響を与える」が6割以上、「男性も家事・育児を行うことは、当然である」が5割以上。

男性が家事・育児を行うことへのイメージでは、「子どもにいい影響を与える」(63.4%)が最も多く、次に「男性も家事・育児を行うことは、当然である」(57.9%)、「男性自身も充実感が得られる」(33.6%)、「仕事と両立させることは、現実として難しい」(33.5%)、「家事・育児を行う男性は、時間の使い方が効率的で、仕事もできる」(31.6%)となっています。

性別でみると、女性は、「子どもにいい影響を与える」(75.8%)が多くなっています。

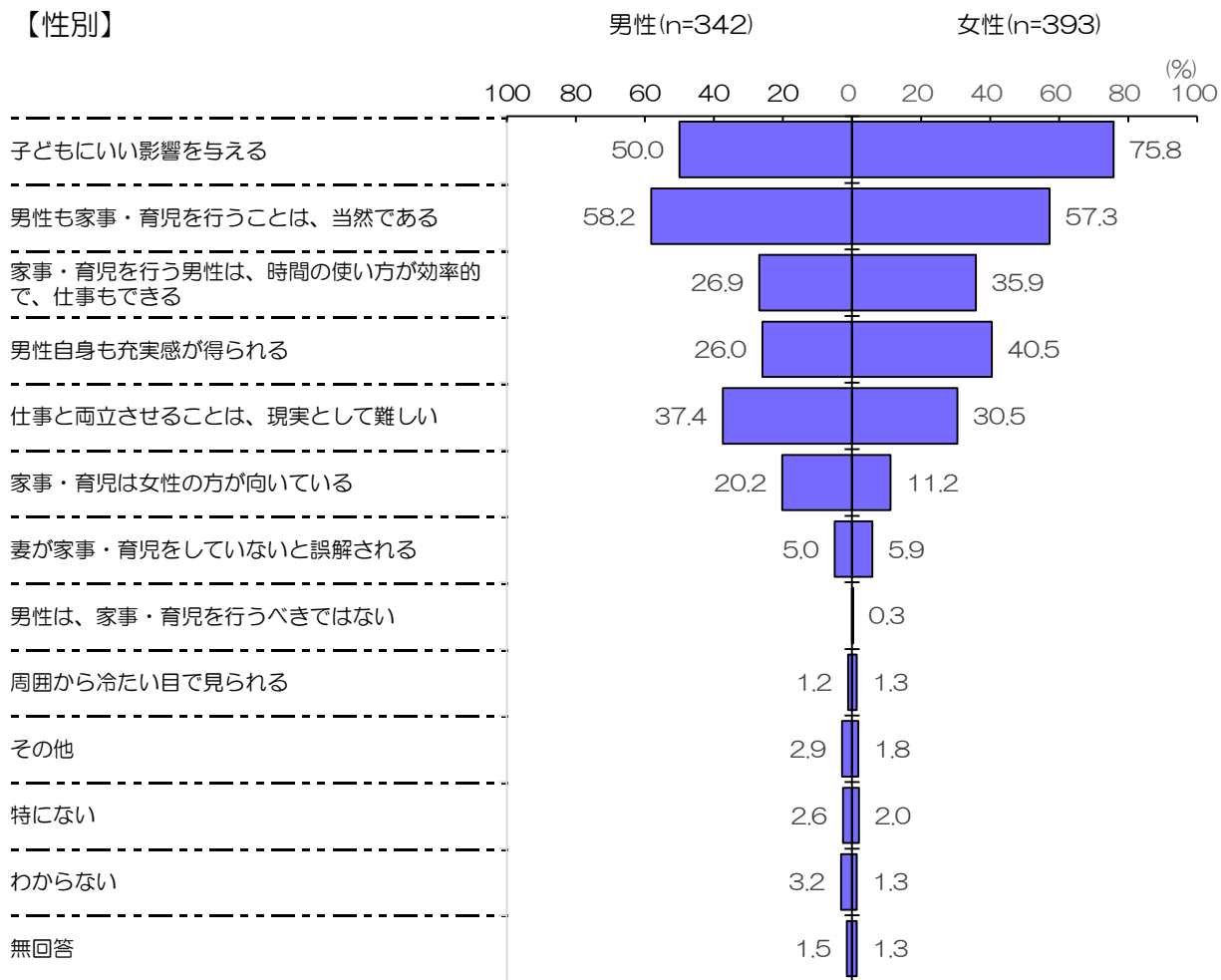
平成27年度以降、「子どもにいい影響を与える」が増加傾向にあります。



IV 調査結果

4 男女が共に子育てや介護等に主体的に関わることができる環境について

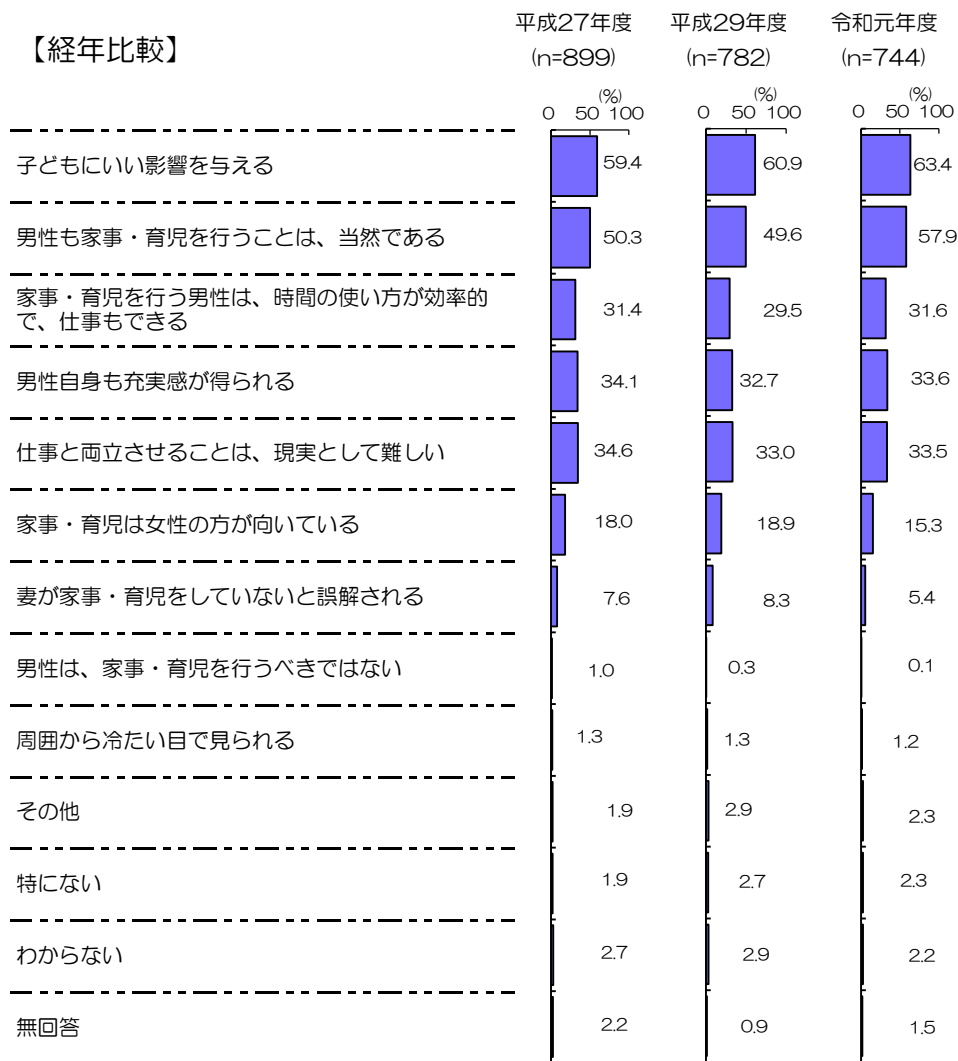
3 男性が家事・育児を行うことに対するイメージ





## 4 男女が共に子育てや介護等に主体的に関わることができる環境について

## 3 男性が家事・育児を行うことに対するイメージ



IV 調査結果

- 4 男女が共に子育てや介護等に主体的に関わることができる環境について
- 4 男性の育児休業や介護休業の取得について

4 男性の育児休業や介護休業の取得について

問13 育児や介護を行うために、育児休業や介護休業を取得できる制度があります。この制度を活用して男性が育児休業や介護休業を取ることに、あなたはどのように考えますか。  
(それぞれ1つに○)

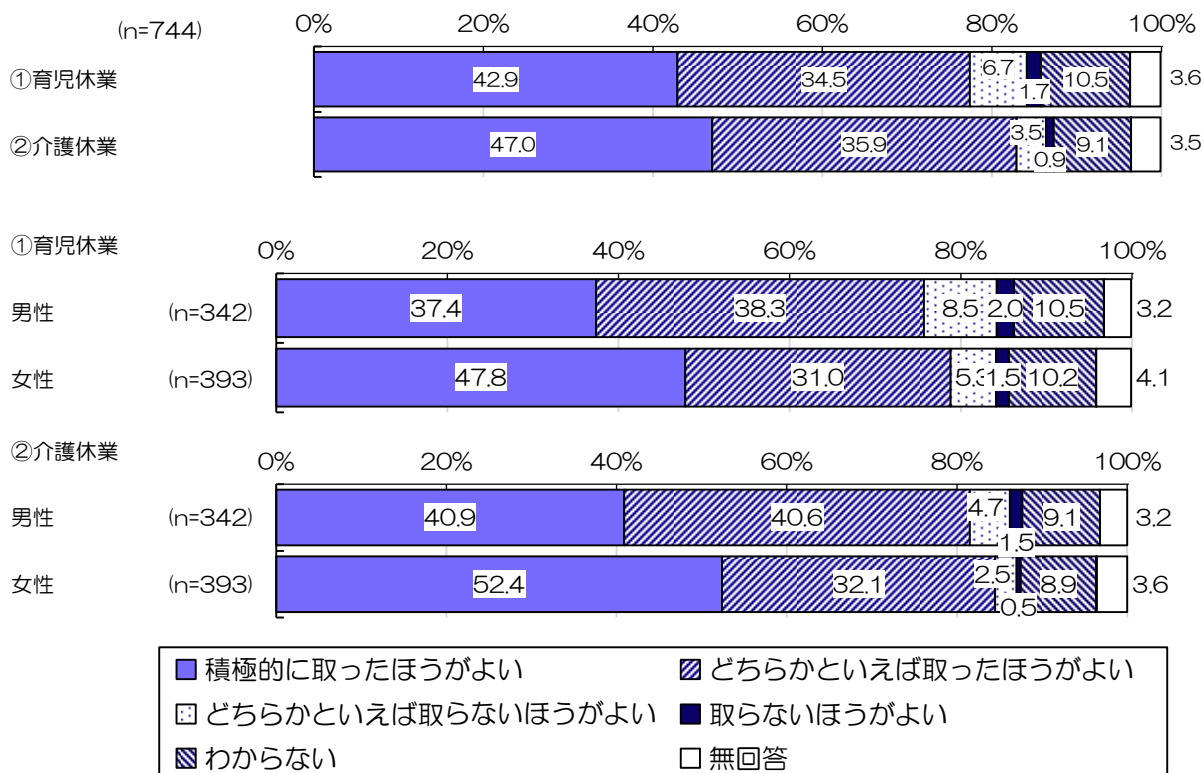
『取った方がよい』は、育児休業が7割以上、介護休業が8割以上。

【①育児休業】では、『取ったほうがよい』(77.4%、「取ったほうがよい」+「どちらかといえば取ったほうがよい」)が最も多く、次に『取らないほうがよい』(8.5%、「取らないほうがよい」+「どちらかといえば取らないほうがよい」)となっています。

平成25年度以降、「取らないほうがよい」がやや減少傾向にあります。また、「どちらかといえば取ったほうがよい」は増加傾向でしたが、令和元年度では減少しています。「積極的に取ったほうがよい」は減少傾向でしたが、令和元年度では増加しています。

【②介護休業】では、『取ったほうがよい』(82.9%、「取ったほうがよい」+「どちらかといえば取ったほうがよい」)が最も多く、次に『取らないほうがよい』(4.4%、「取らないほうがよい」+「どちらかといえば取らないほうがよい」)となっています。

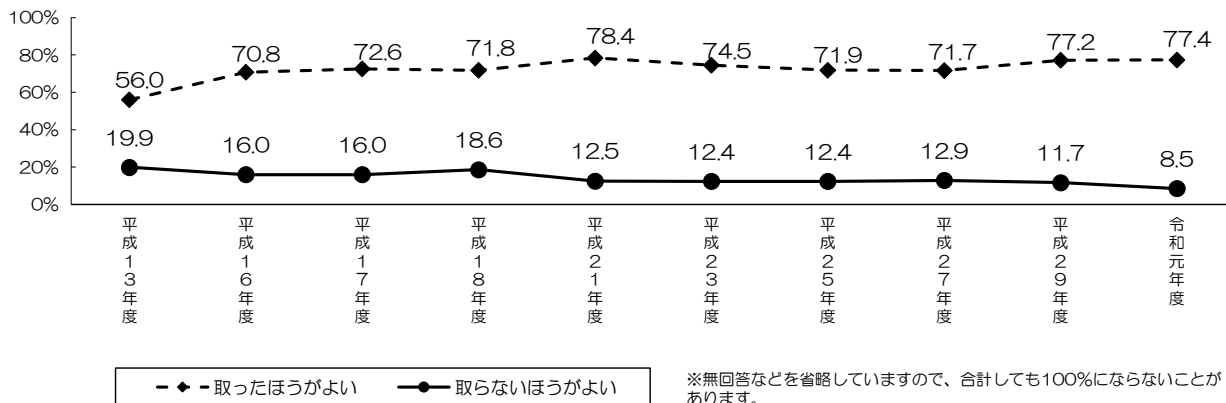
平成25年度以降、「取らないほうがよい」がやや減少傾向にあります。



4 男女が共に子育てや介護等に主体的に関わることができる環境について

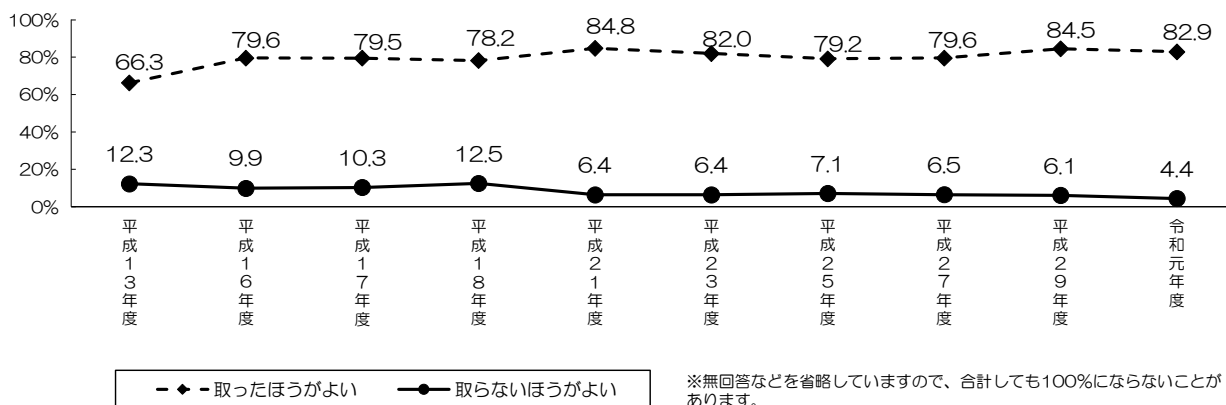
4 男性の育児休業や介護休業の取得について

【経年比較】 <<①育児休業>>



	調査数	積極的に取ったほうがよい	どちらかといえば取ったほうがよい	どちらかといえば取らないほうがよい	取らないほうがよい	わからない	無回答
平成13年度	1,133	25.6%	30.4%	14.7%	5.2%	8.3%	15.8%
平成16年度	800	35.9%	34.9%	11.5%	4.5%	8.8%	4.5%
平成17年度	836	34.6%	38.0%	11.8%	4.2%	8.0%	3.3%
平成18年度	570	35.1%	36.7%	12.6%	6.0%	5.8%	3.9%
平成21年度	653	42.6%	35.8%	10.0%	2.5%	6.7%	2.5%
平成23年度	577	39.3%	35.2%	8.8%	3.6%	8.7%	4.3%
平成25年度	793	35.8%	36.1%	9.0%	3.4%	11.1%	4.7%
平成27年度	899	35.0%	36.7%	9.8%	3.1%	10.9%	4.4%
平成29年度	782	34.1%	43.1%	9.0%	2.7%	9.7%	1.4%
令和元年度	744	42.9%	34.5%	6.7%	1.7%	10.5%	3.6%

【経年比較】 <<②介護休業>>



	調査数	積極的に取ったほうがよい	どちらかといえば取ったほうがよい	どちらかといえば取らないほうがよい	取らないほうがよい	わからない	無回答
平成13年度	1,133	32.3%	34.0%	10.2%	2.1%	6.3%	15.1%
平成16年度	800	40.6%	39.0%	7.6%	2.3%	6.5%	4.0%
平成17年度	836	38.8%	40.7%	8.0%	2.3%	6.9%	3.0%
平成18年度	570	38.2%	40.0%	10.2%	2.3%	6.1%	3.2%
平成21年度	653	47.6%	37.2%	5.5%	0.9%	6.3%	2.5%
平成23年度	577	44.0%	38.0%	5.2%	1.2%	8.0%	3.6%
平成25年度	793	42.5%	36.7%	5.5%	1.6%	9.3%	4.3%
平成27年度	899	40.3%	39.3%	5.3%	1.2%	10.0%	3.9%
平成29年度	782	41.4%	43.1%	4.6%	1.5%	8.2%	1.2%
令和元年度	744	47.0%	35.9%	3.5%	0.9%	9.1%	3.5%

IV 調査結果

5 意思決定の過程への女性の参画について

1 各分野における女性の意見の反映状況

## 5 意思決定の過程への女性の参画について

1 各分野における女性の意見の反映状況

問14 あなたは、次のような分野で女性の意見がどの程度反映されていると思いますか。  
(それぞれ1つに○)

【④PTAや町内会などの地域】では、『反映されている』が5割以上。【①国会、県議会、市町村議会などの政治】、【②国、県、市町村などの行政】、【③企業などの職場】では、『反映されていない』がおよそ4割以上。

【①国会、県議会、市町村議会などの政治】では、『反映されていない』(49.9%「ほとんど反映されていない+あまり反映されていない」)が最も多く、次に『反映されている』(28.1%、「十分反映されている」+「ある程度反映されている」)となっています。

年齢別でみると、60代は、『反映されていない』(60.9%「ほとんど反映されていない+あまり反映されていない」)が多くなっています。

【②国、県、市町村などの行政】では、『反映されていない』(47.8%「ほとんど反映されていない+あまり反映されていない」)が最も多く、次に『反映されている』(29.2%、「十分反映されている」+「ある程度反映されている」)となっています。

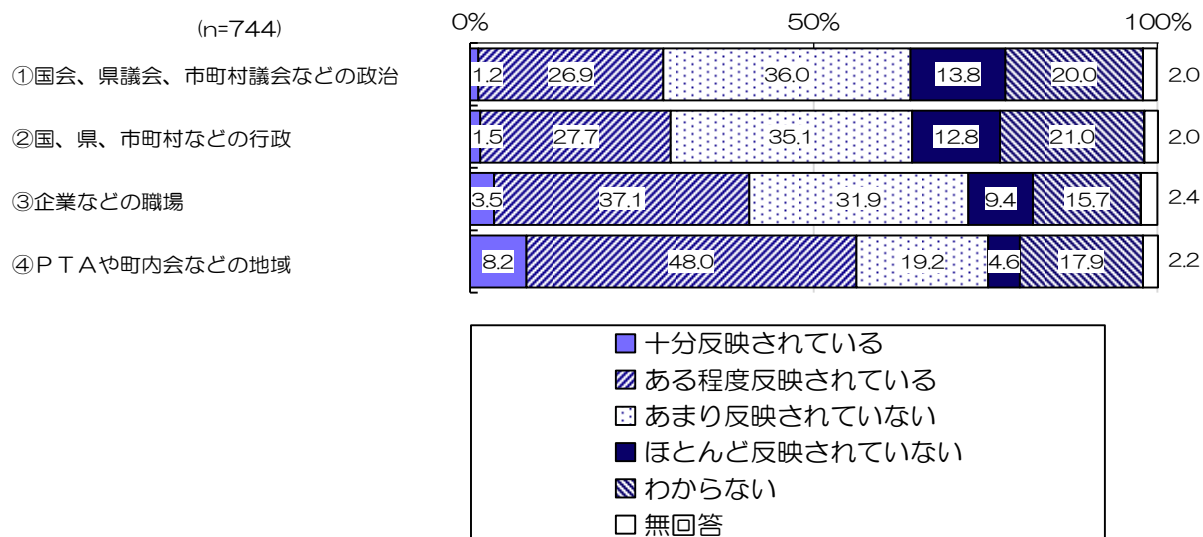
年齢別でみると、60代は、『反映されていない』(59.4%「ほとんど反映されていない+あまり反映されていない」)が多くなっています。

【③企業などの職場】では、『反映されていない』(41.3%「ほとんど反映されていない+あまり反映されていない」)が最も多く、次に『反映されている』(40.6%、「十分反映されている」+「ある程度反映されている」)となっています。

年齢別でみると、20代は、『反映されている』(52.9%、「十分反映されている」+「ある程度反映されている」)が多くなっています。60代は、『反映されていない』(53.1%「ほとんど反映されていない+あまり反映されていない」)が多くなっています。

【④PTAや町内会などの地域】では、『反映されている』(56.2%、「十分反映されている」+「ある程度反映されている」)が最も多く、次に『反映されていない』(23.8%「ほとんど反映されていない+あまり反映されていない」)となっています。

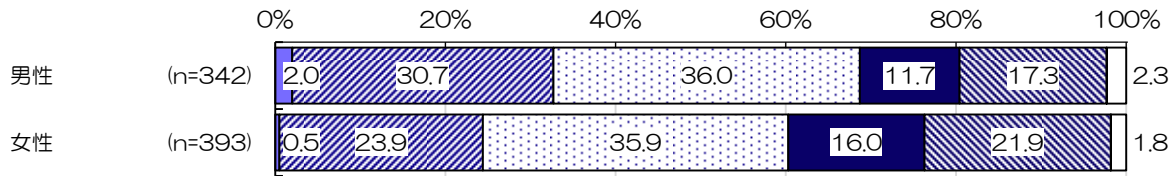
「反映されている」は減少傾向でしたが、令和元年度では増加しています。



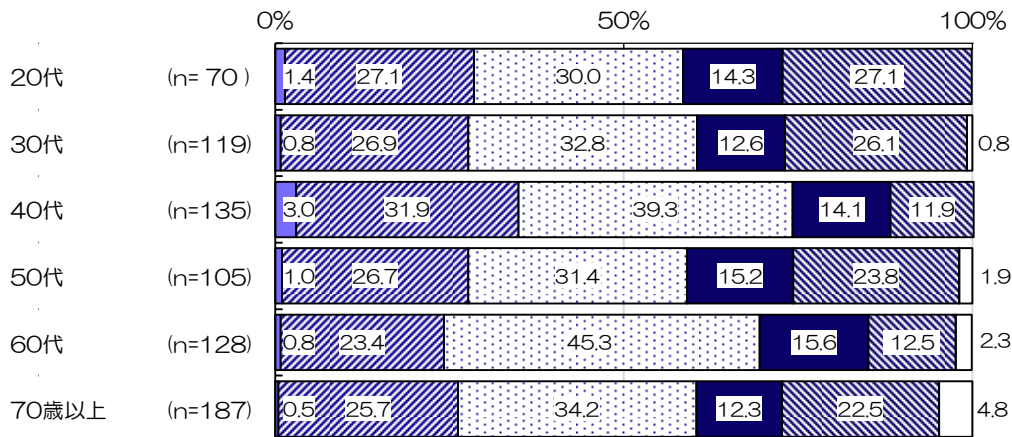
5 意思決定の過程への女性の参画について

1 各分野における女性の意見の反映状況

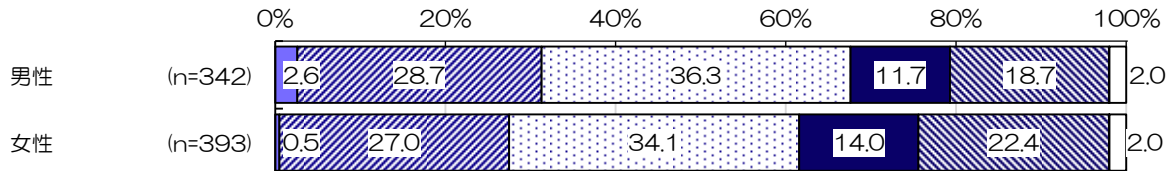
①国会、県議会、市町村議会などの政治



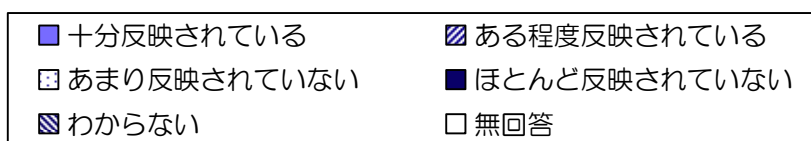
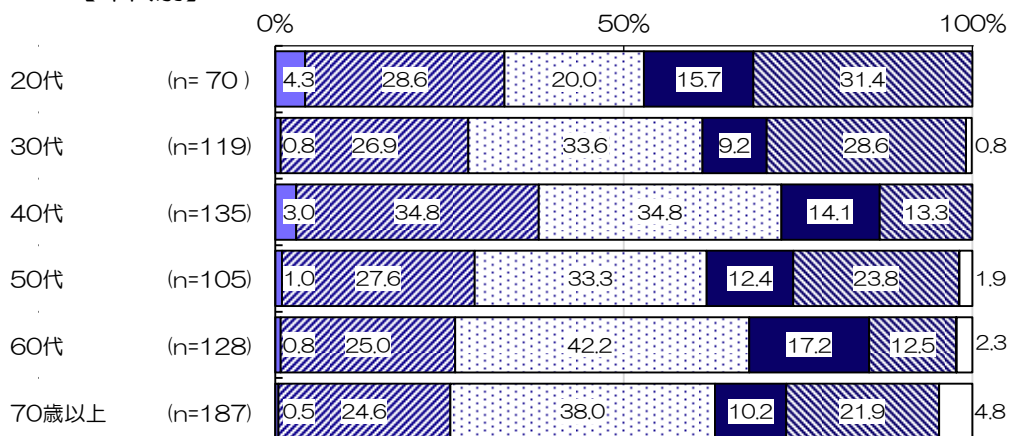
【年代別】



②国、県、市町村などの行政



【年代別】

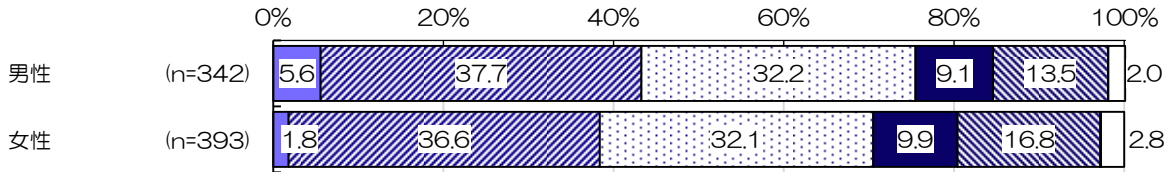


IV 調査結果

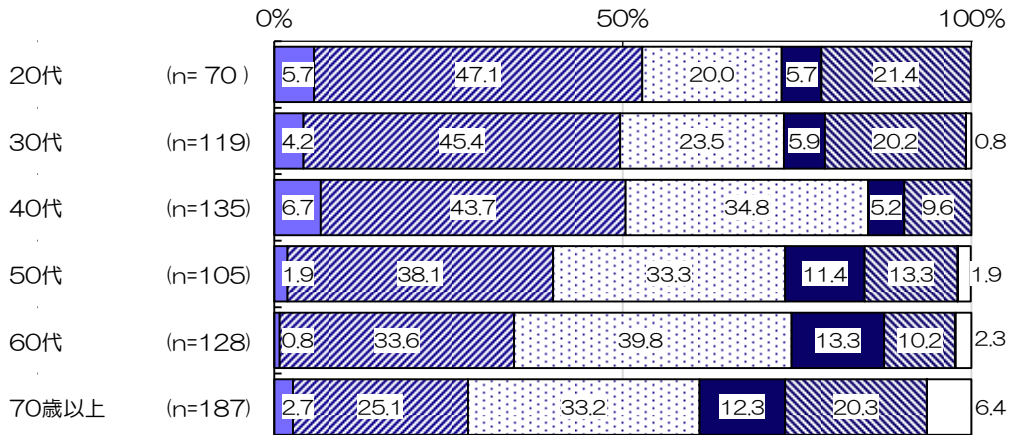
5 意思決定の過程への女性の参画について

1 各分野における女性の意見の反映状況

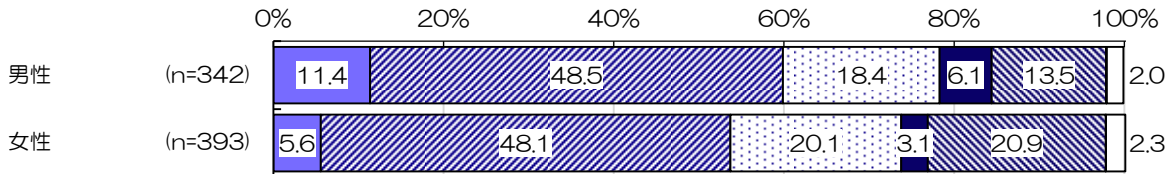
③企業などの職場



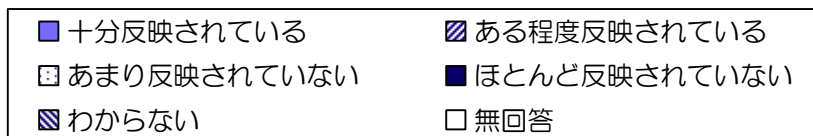
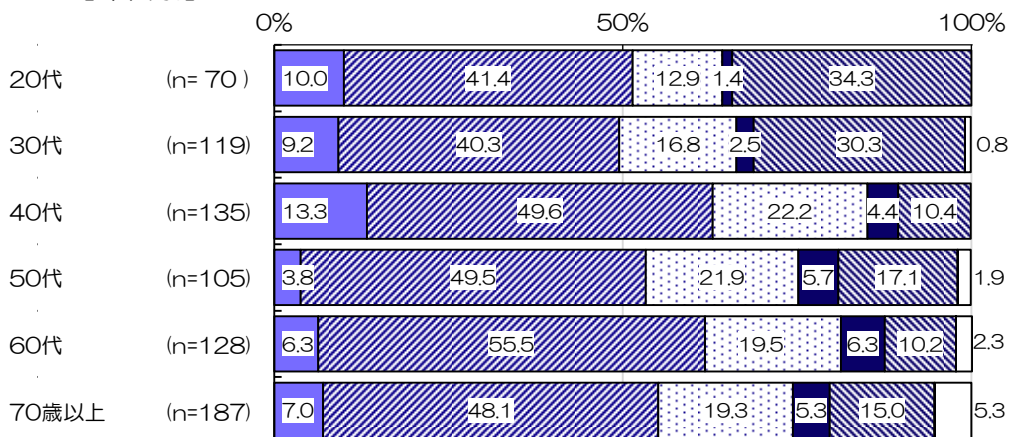
【年代別】



④PTAや町内会などの地域



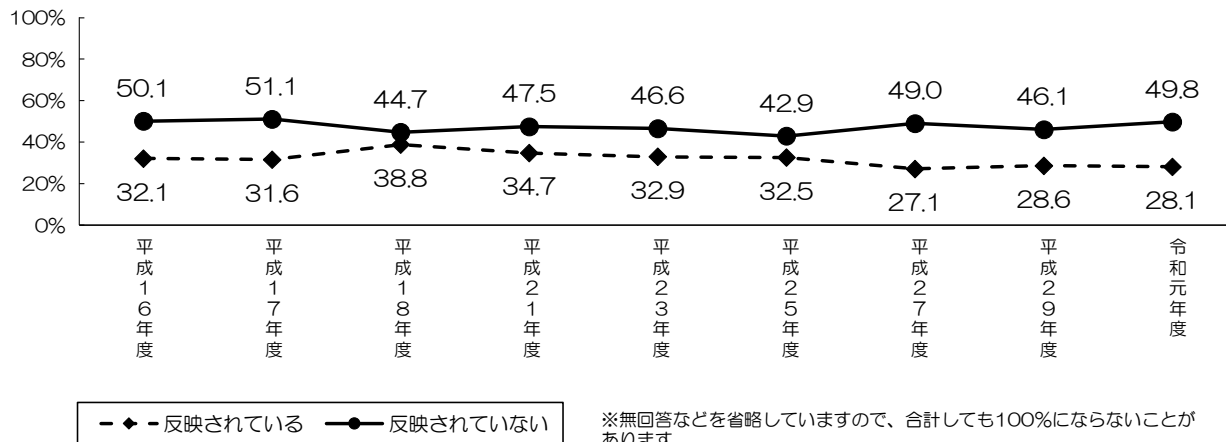
【年代別】



5 意思決定の過程への女性の参画について

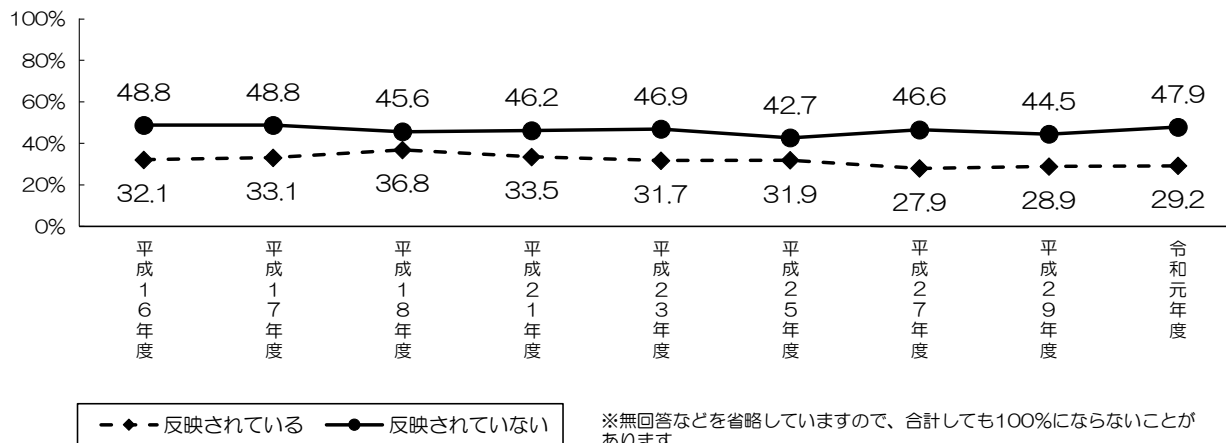
1 各分野における女性の意見の反映状況

【経年比較】《①国会、県議会、市町村議会などの政治》



	調査数	十分反映されている	ある程度反映されている	あまり反映されていない	ほとんど反映されていない	わからない	無回答
平成16年度	800	2.6%	29.5%	34.5%	15.6%	14.9%	2.9%
平成17年度	836	3.1%	28.5%	37.2%	13.9%	15.3%	2.0%
平成18年度	570	4.6%	34.2%	32.6%	12.1%	13.3%	3.2%
平成21年度	653	1.8%	32.9%	35.2%	12.3%	16.5%	1.2%
平成23年度	577	2.9%	30.0%	32.6%	14.0%	18.0%	2.4%
平成25年度	793	2.1%	30.4%	31.8%	11.1%	21.2%	3.4%
平成27年度	899	1.8%	25.3%	34.4%	14.6%	20.0%	4.0%
平成29年度	782	2.9%	25.7%	34.0%	12.1%	23.8%	1.4%
令和元年度	744	1.2%	26.9%	36.0%	13.8%	20.0%	2.0%

【経年比較】《②国、県、市町村などの行政》



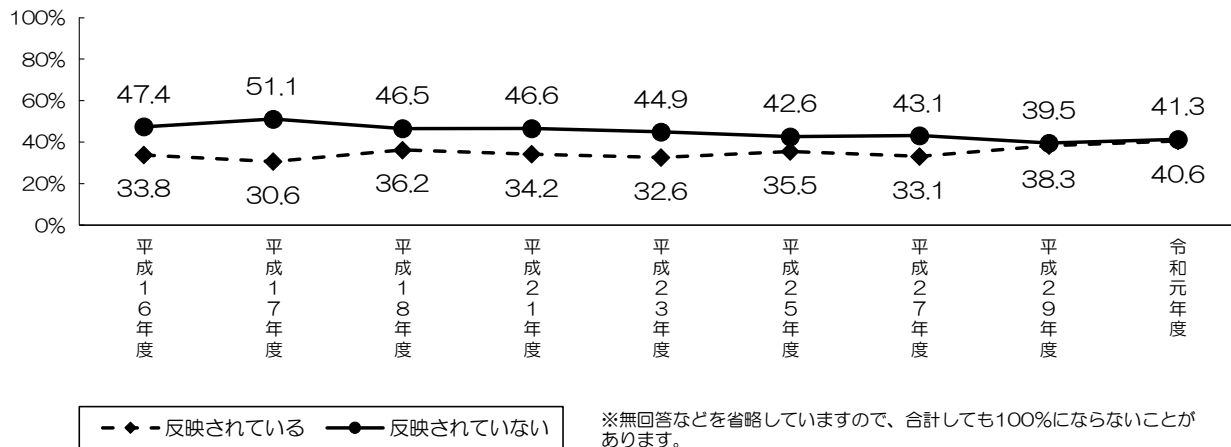
	調査数	十分反映されている	ある程度反映されている	あまり反映されていない	ほとんど反映されていない	わからない	無回答
平成16年度	800	1.8%	30.3%	37.0%	11.8%	15.4%	3.9%
平成17年度	836	2.8%	30.3%	37.4%	11.4%	15.8%	2.4%
平成18年度	570	4.2%	32.6%	34.2%	11.4%	14.0%	3.5%
平成21年度	653	2.1%	31.4%	34.6%	11.6%	17.8%	2.5%
平成23年度	577	2.8%	28.9%	32.9%	14.0%	19.1%	2.3%
平成25年度	793	1.9%	30.0%	32.5%	10.2%	21.3%	4.0%
平成27年度	899	1.2%	26.7%	32.7%	13.9%	21.5%	4.0%
平成29年度	782	2.6%	26.3%	33.8%	10.7%	25.1%	1.5%
令和元年度	744	1.5%	27.7%	35.1%	12.8%	21.0%	2.0%

#### IV 調査結果

##### 5 意思決定の過程への女性の参画について

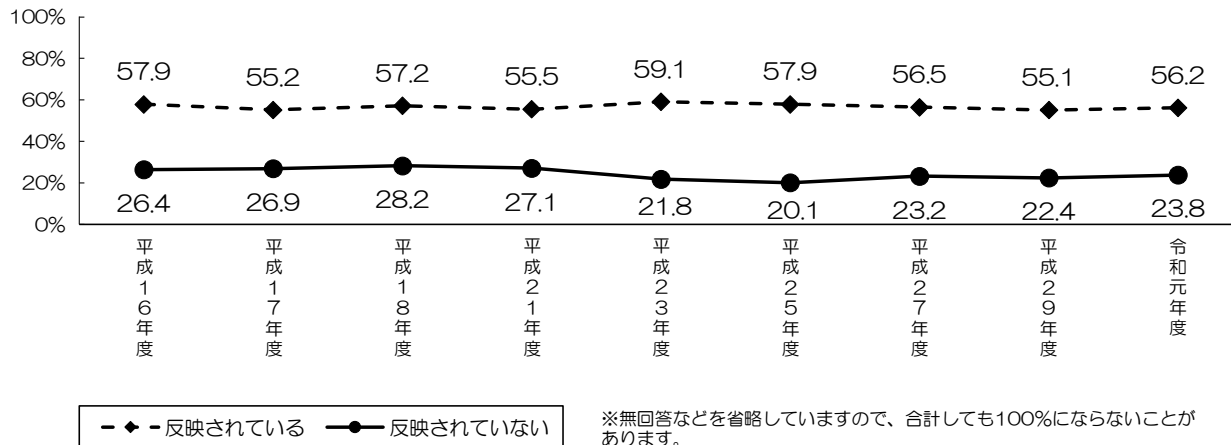
###### 1 各分野における女性の意見の反映状況

【経年比較】《③企業などの職場》



	調査数	十分反映されている	ある程度反映されている	あまり反映されていない	ほとんど反映されていない	わからない	無回答
平成16年度	800	2.4%	31.4%	35.5%	11.9%	14.9%	4.0%
平成17年度	836	1.9%	28.7%	37.3%	13.8%	15.4%	2.9%
平成18年度	570	3.2%	33.0%	35.8%	10.7%	12.8%	4.6%
平成21年度	653	2.8%	31.4%	35.4%	11.2%	16.4%	2.9%
平成23年度	577	2.4%	30.2%	34.8%	10.1%	18.4%	4.2%
平成25年度	793	3.0%	32.5%	29.9%	12.7%	16.5%	5.3%
平成27年度	899	2.3%	30.8%	32.0%	11.1%	18.4%	5.3%
平成29年度	782	3.8%	34.5%	30.2%	9.3%	19.6%	2.6%
令和元年度	744	3.5%	37.1%	31.9%	9.4%	15.7%	2.4%

【経年比較】《④PTAや町内会などの地域》



	調査数	十分反映されている	ある程度反映されている	あまり反映されていない	ほとんど反映されていない	わからない	無回答
平成16年度	800	6.6%	51.3%	20.4%	6.0%	12.0%	3.8%
平成17年度	836	8.5%	46.7%	22.1%	4.8%	15.2%	2.8%
平成18年度	570	9.8%	47.4%	22.8%	5.4%	11.1%	3.5%
平成21年度	653	7.7%	47.8%	21.6%	5.5%	15.5%	2.0%
平成23年度	577	8.0%	51.1%	17.5%	4.3%	15.1%	4.0%
平成25年度	793	9.6%	48.3%	16.4%	3.7%	16.8%	5.3%
平成27年度	899	7.7%	48.8%	17.7%	5.5%	15.8%	4.6%
平成29年度	782	9.1%	46.0%	17.3%	5.1%	20.6%	1.9%
令和元年度	744	8.2%	48.0%	19.2%	4.6%	17.9%	2.2%



## 2 意思決定の場に女性が参画すること

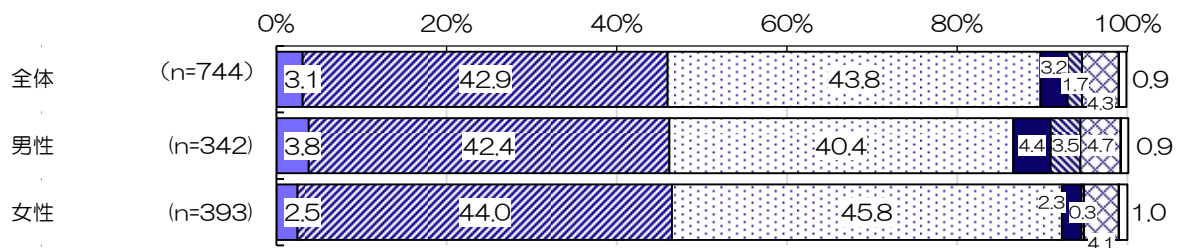
問15 あなたは、意思決定の場に女性が参画することについて、どのように考えますか。

(1つに○)

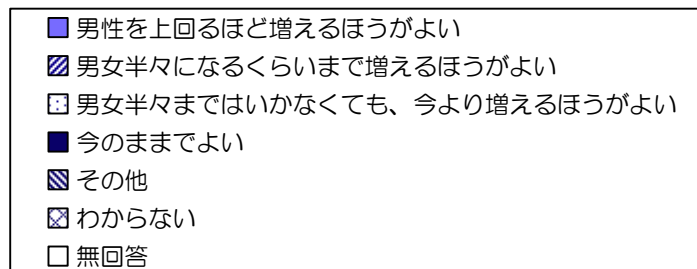
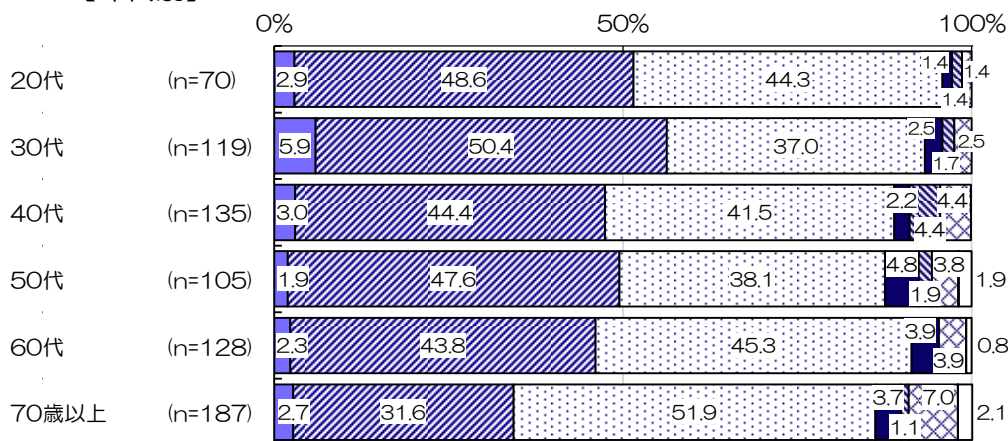
「男女半々まではいかなくても、今より増えるほうがよい」がおよそ4割を占め、意思決定の場で女性と男性が均等になることを求めている人を上回っています。

女性が意思決定の場に参画する望ましい水準では、「男女半々まではいかなくても、今より増えるほうがよい」(43.8%)が最も多く、次に「男女半々になるくらいまで増えるほうがよい」(42.9%)、「今のままでよい」(3.2%)、「男性を上回るほど増えるほうがよい」(3.1%)となっています。

70歳以上男性は同年代の女性よりも「男女半々になるくらいまで増えるほうがよい」が多くなっています。70歳以上男性は同年代の女性よりも「男女半々まではいかなくても、今より増えるほうがよい」が少なくなっています。



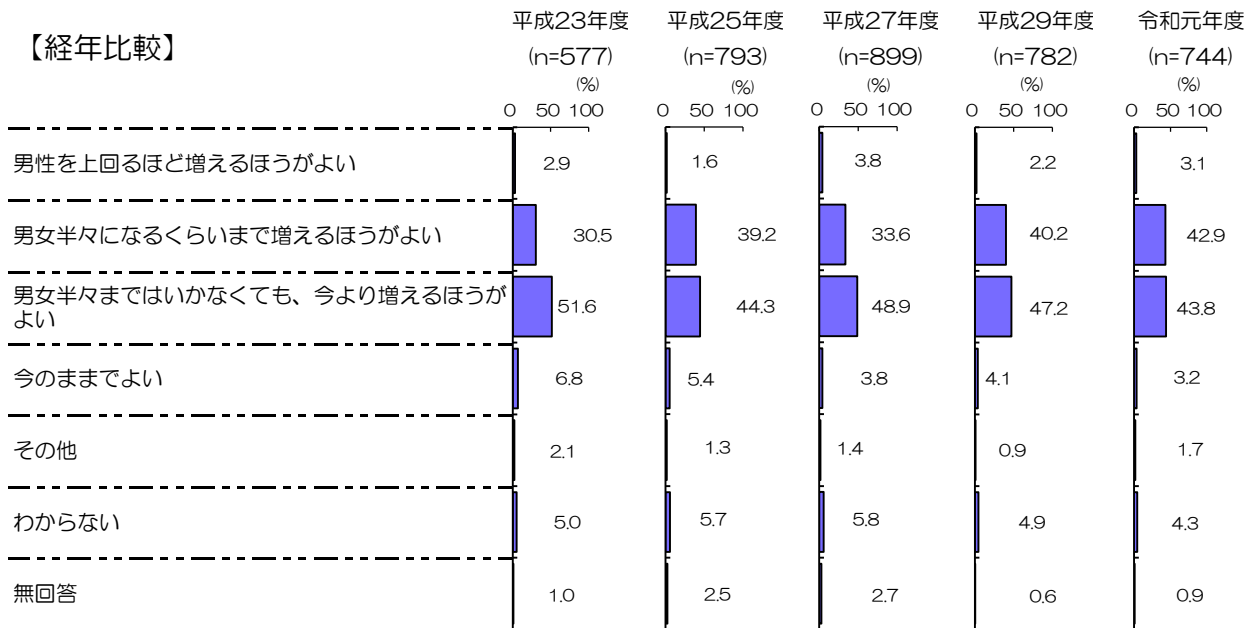
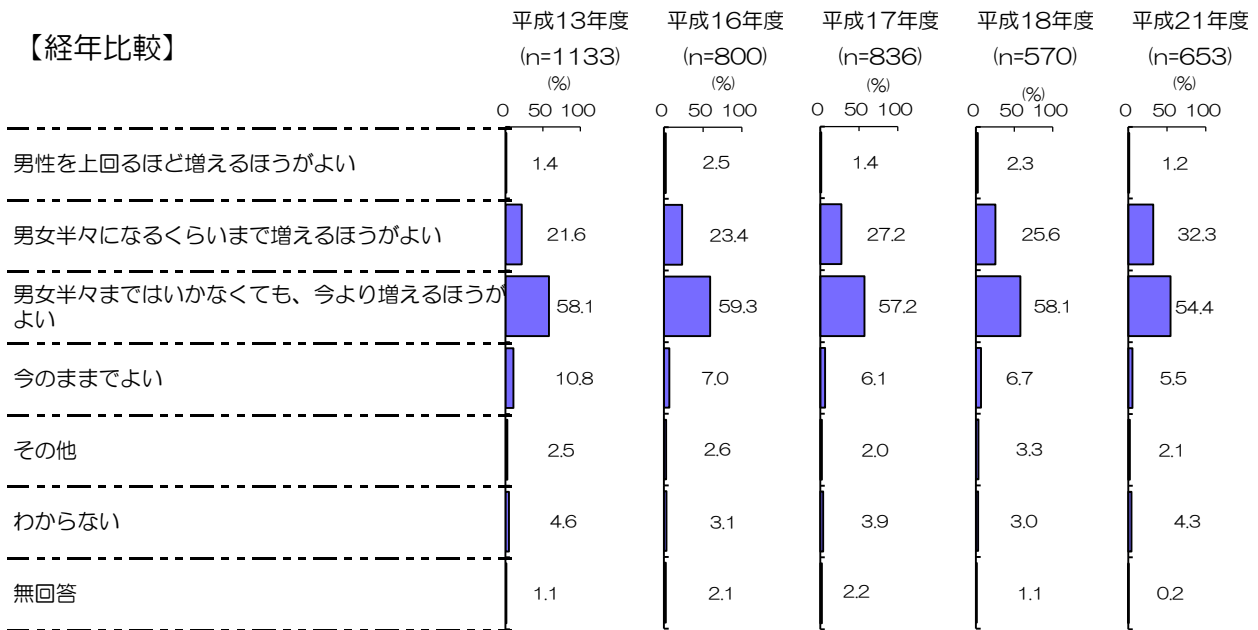
### 【年代別】



IV 調査結果

5 意思決定の過程への女性の参画について

2 意思決定の場に女性が参画すること



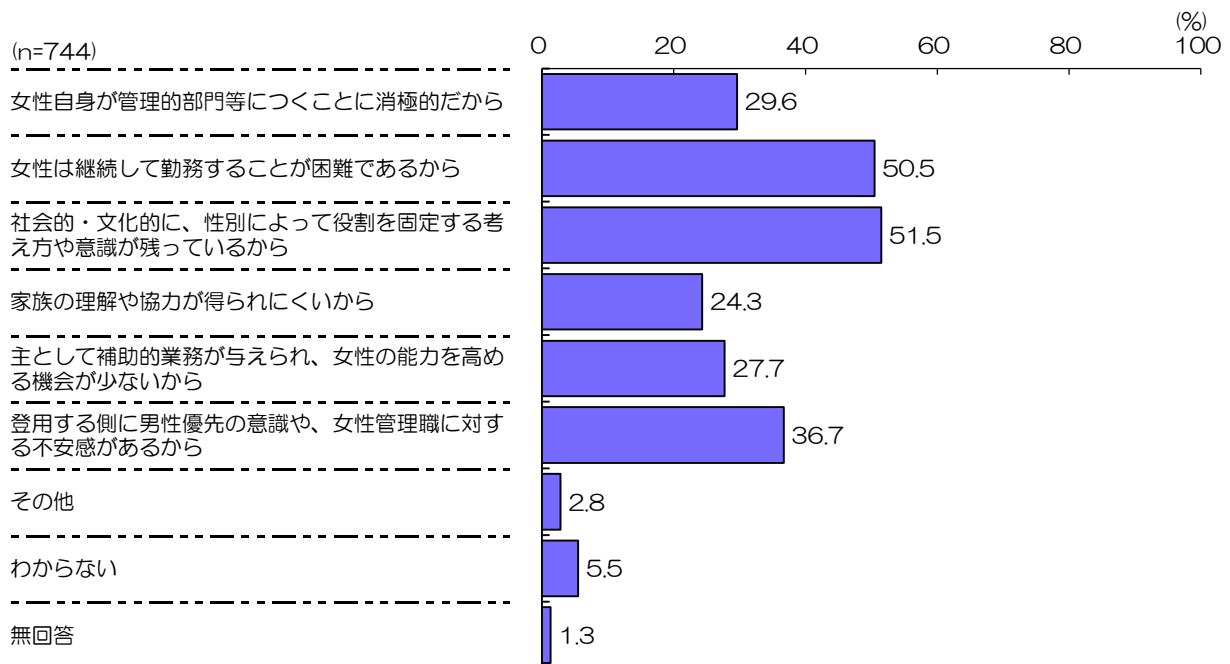
### 3 管理的部門や指導的地位への女性登用が少ない理由

問16 現状では、意思決定を行う管理的部門や指導的地位への女性登用が未だ少ない状況にあります。あなたは、その理由としてどのようなものがあると考えますか。(3つまでに○)

「社会的・文化的に、性別によって役割を固定する考え方や意識が残っているから」、「女性は継続して勤務することが困難であるから」が5割以上。

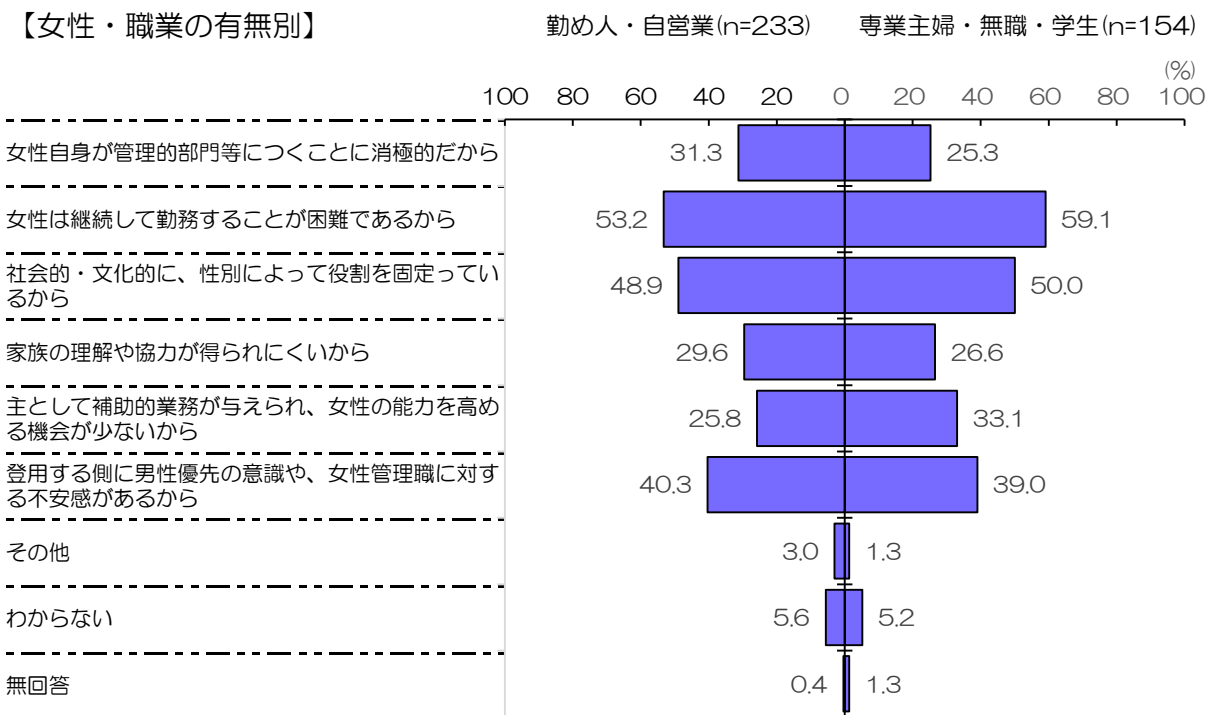
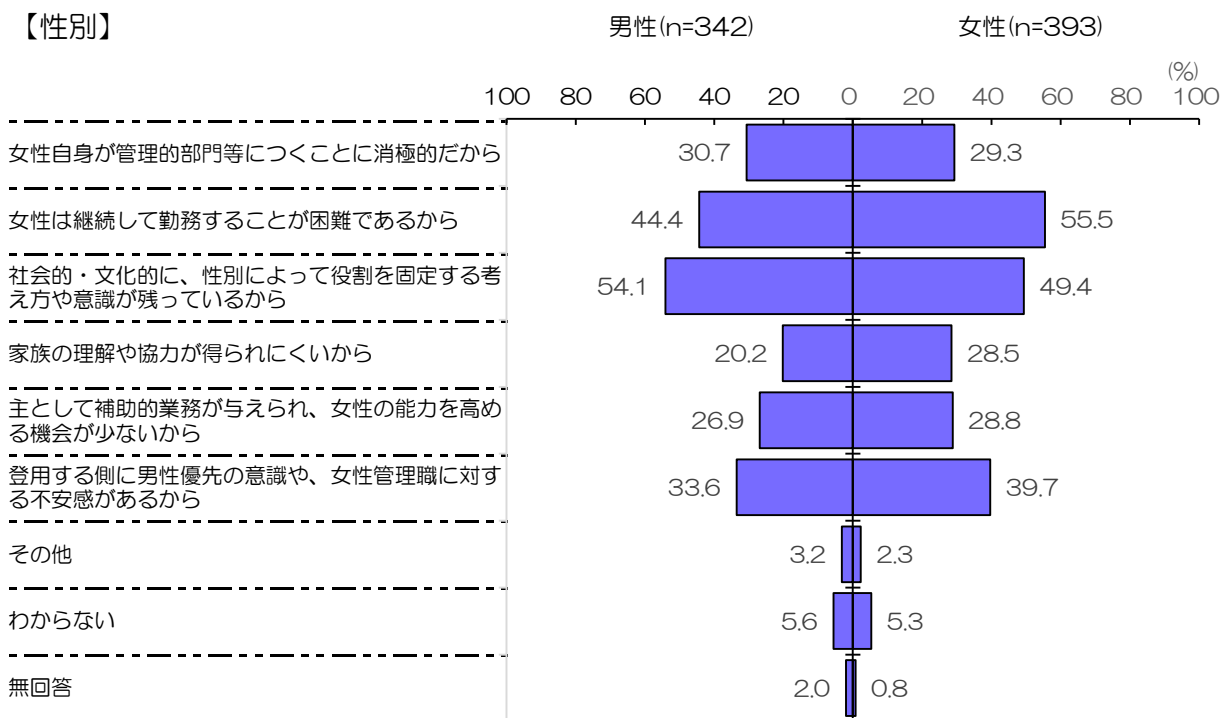
管理的部門や指導的地位への女性登用が少ない理由についての現状認識では、「社会的・文化的に、性別によって役割を固定する考え方や意識が残っているから」(51.5%)が最も多く、次に「女性は継続して勤務することが困難であるから」(50.5%)、「登用する側に男性優先の意識や、女性管理職に対する不安感があるから」(36.7%)、「女性自身が管理的部門等につくことに消極的だから」(29.6%)、「主として補助的業務が与えられ、女性の能力を高める機会が少ないから」(27.7%)となっています。

平成27年度以降、「主として補助的業務が与えられ、女性の能力を高める機会が少ないから」が減少傾向にあります。また、「女性自身が管理的部門等につくことに消極的だから」はやや増加傾向でしたが、令和元年度では減少しています。「登用する側に男性優先の意識や、女性管理職に対する不安感があるから」は減少傾向でしたが、令和元年度では増加しています。



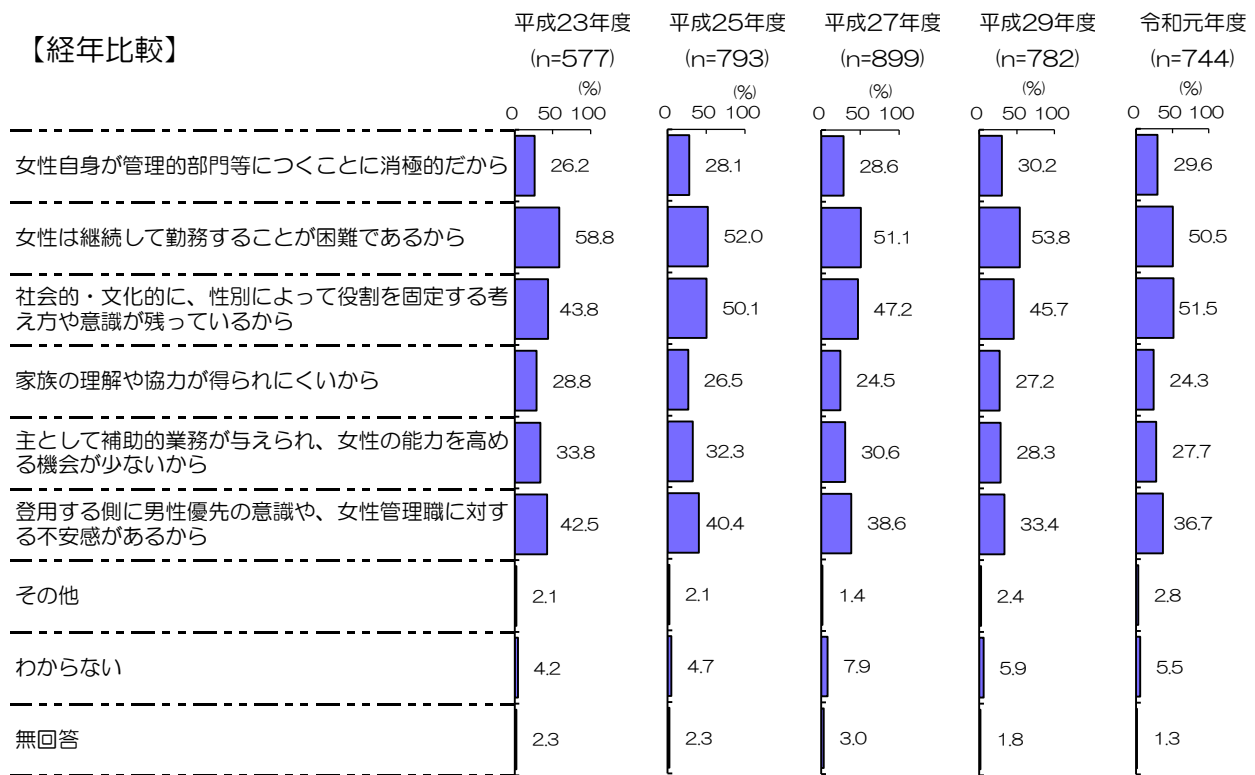
IV 調査結果

- 5 意思決定の過程への女性の参画について
- 3 管理的部門や指導的地位への女性登用が少ない理由



5 意思決定の過程への女性の参画について

3 管理的部門や指導的地位への女性登用が少ない理由



IV 調査結果

6 男女が共に能力を発揮できる就業環境について

1 女性が職業を持つこと

**6 男女が共に能力を発揮できる就業環境について**

1 女性が職業を持つこと

問17 一般的に女性が職業を持つことについて、どう考えますか。(1つに○)

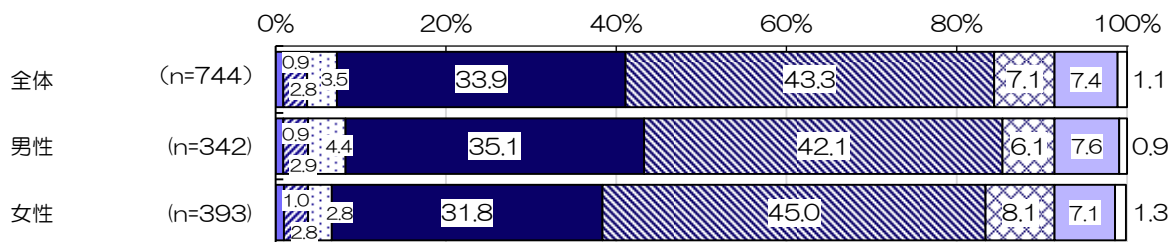
「ずっと職業を続けるほうがよい」が4割以上。

女性の就労への賛否では、「ずっと職業を続けるほうがよい」(43.3%)が最も多く、次に「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つほうがよい」(33.9%)、「子どもができるまでは職業を持つほうがよい」(3.5%)となっています。

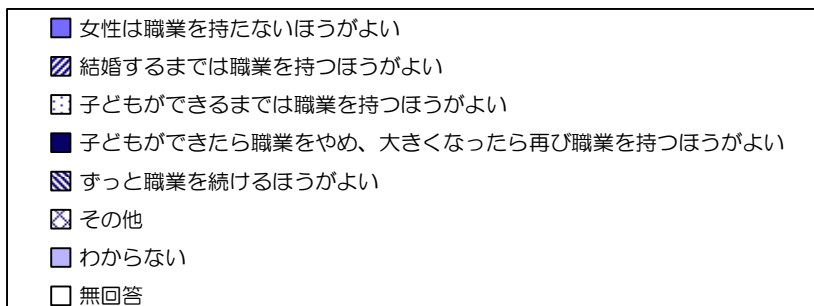
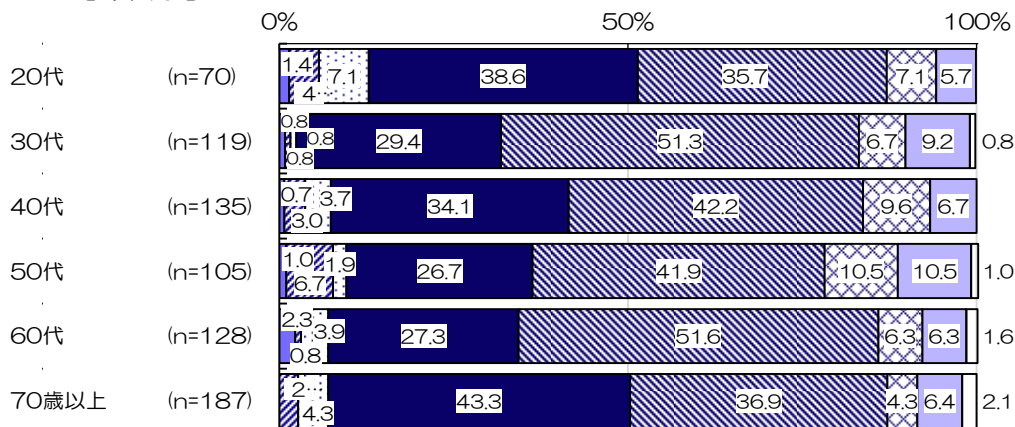
経年比較でみると、「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つほうがよい」が緩やかな減少傾向にあり、「ずっと職業を続けるほうがよい」が緩やかな増加傾向にあります。

20代男性は同年代の女性よりも「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つほうがよい」が多くなっています。

平成27年度以降、「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つほうがよい」が減少傾向にあります。

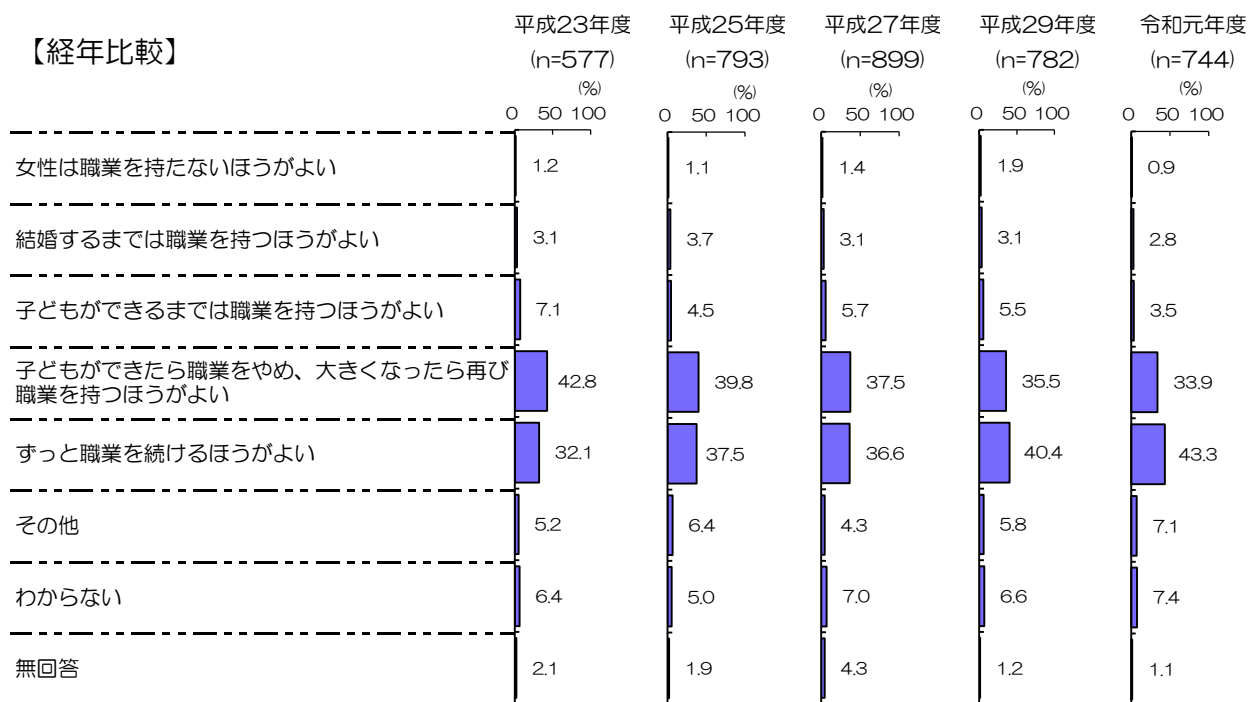
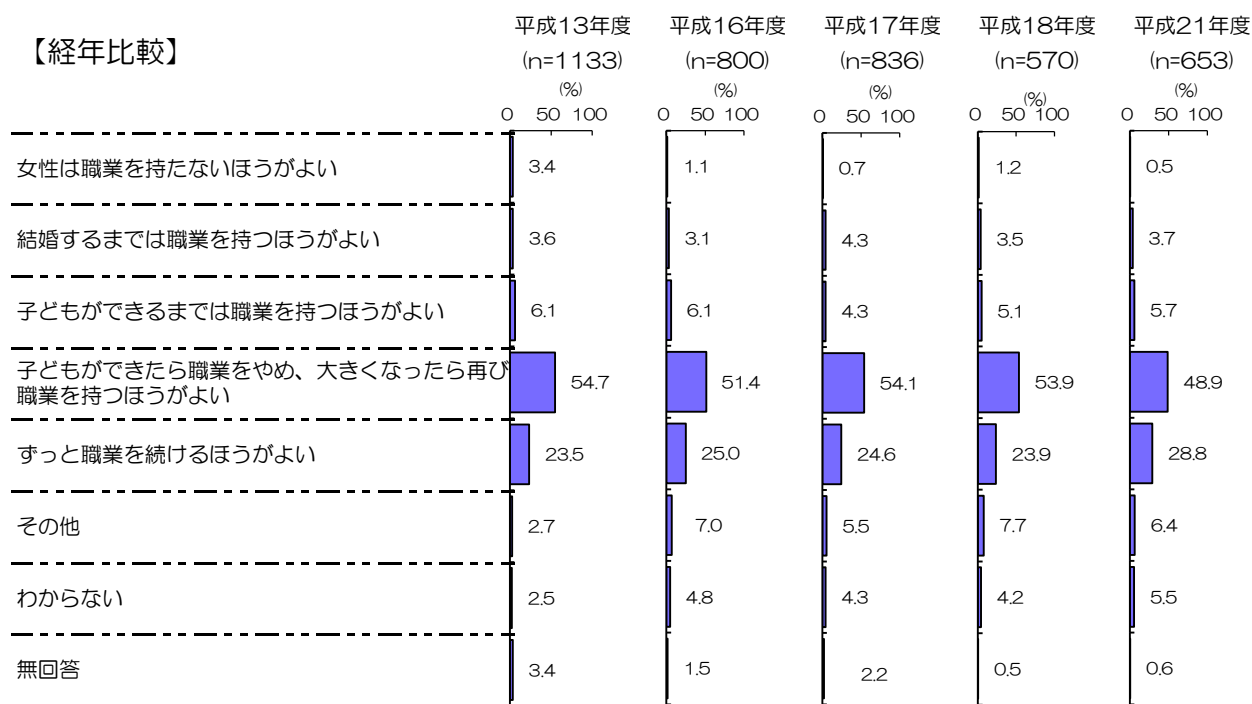


【年代別】



6 男女が共に能力を発揮できる就業環境について

1 女性が職業を持つこと



IV 調査結果

- 6 男女が共に能力を発揮できる就業環境について
- 2 女性が職業を持つことの現実

2 女性が職業を持つことの現実

問17-2 女性が職業を持つことについて、あなたの現実に当てはまるもの(当てはまると予想されるもの)はどれですか。(1つに○)

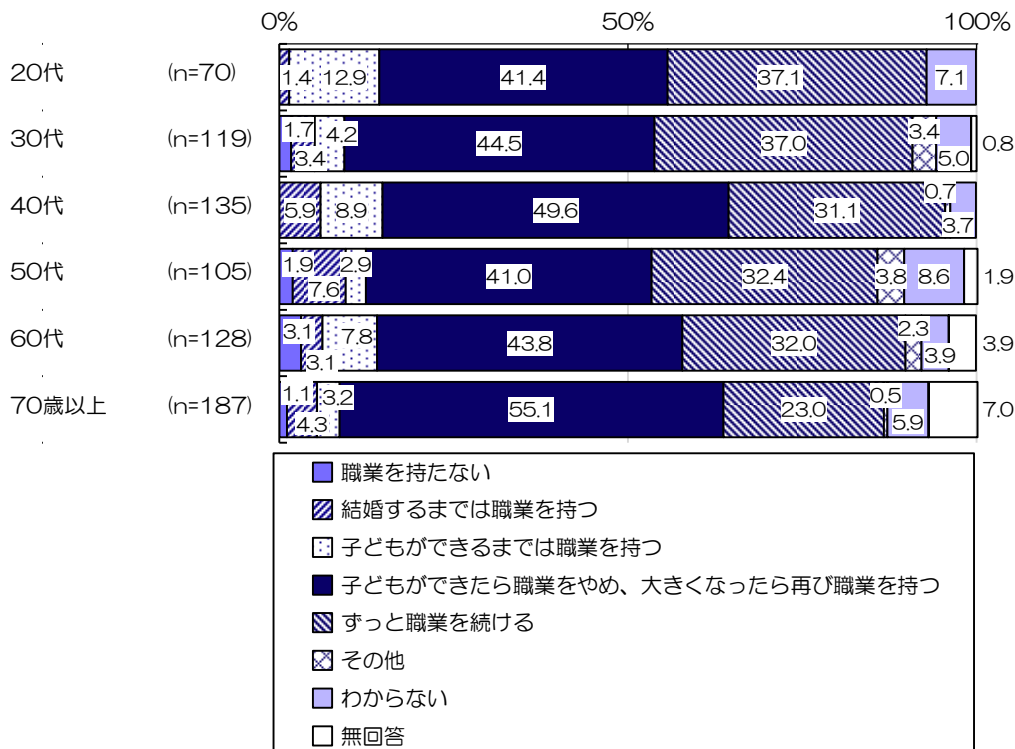
女性の就労のM字カーブ（女性の労働が結婚・出産期に当たる年代に一旦低下し、育児が落ち着いた時期に再び上昇すること）を自分自身の現実に当てはまる（当てはまると予想される）と受け止めている人が半数近くいます。

女性の就労状況についての現状認識では、「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ」(47.2%) が最も多く、次に「ずっと職業を続ける」(30.9%)、「子どもができるまでは職業を持つ」(6.0%)、「結婚するまでは職業を持つ」(4.4%) となっています。

20代男性は同年代の女性よりも「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ」が多くなっています。20代男性は同年代の女性よりも「ずっと職業を続ける」が少なくなっています。



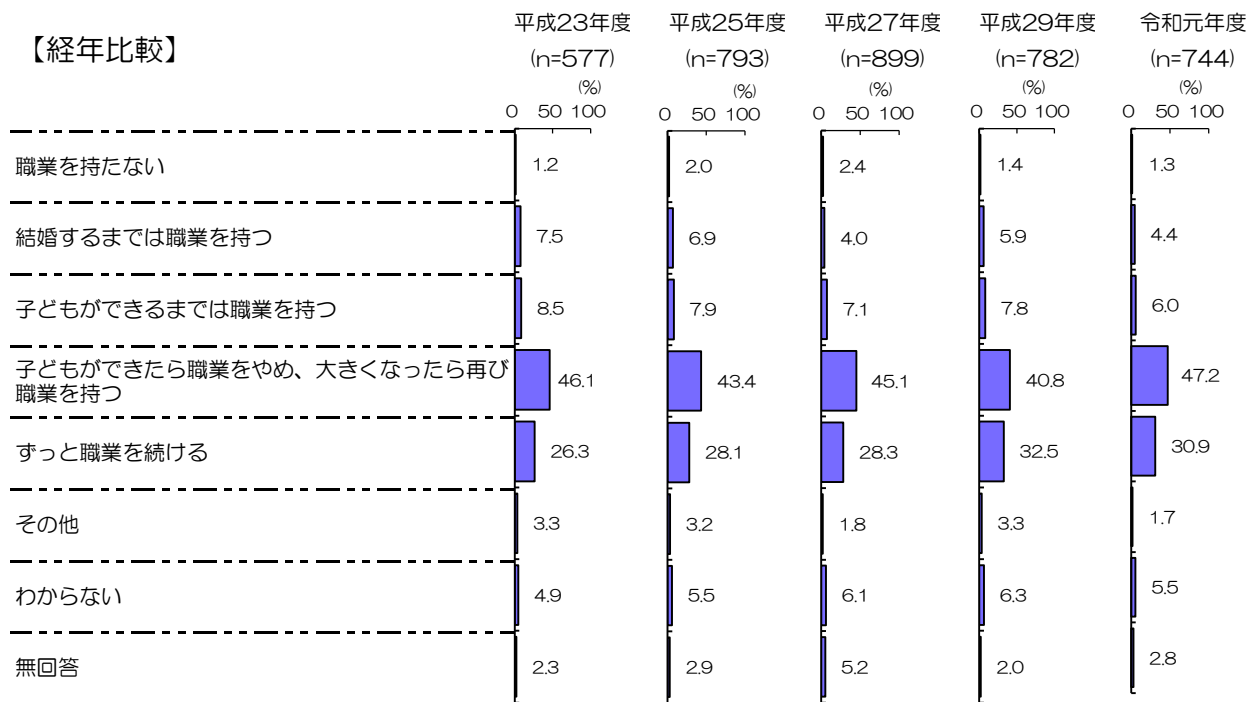
【年代別】





6 男女が共に能力を発揮できる就業環境について

2 女性が職業を持つことの現実



#### IV 調査結果

- 6 男女が共に能力を発揮できる就業環境について
- 3 女性が働く上で障害となること

### 3 女性が働く上で障害となること

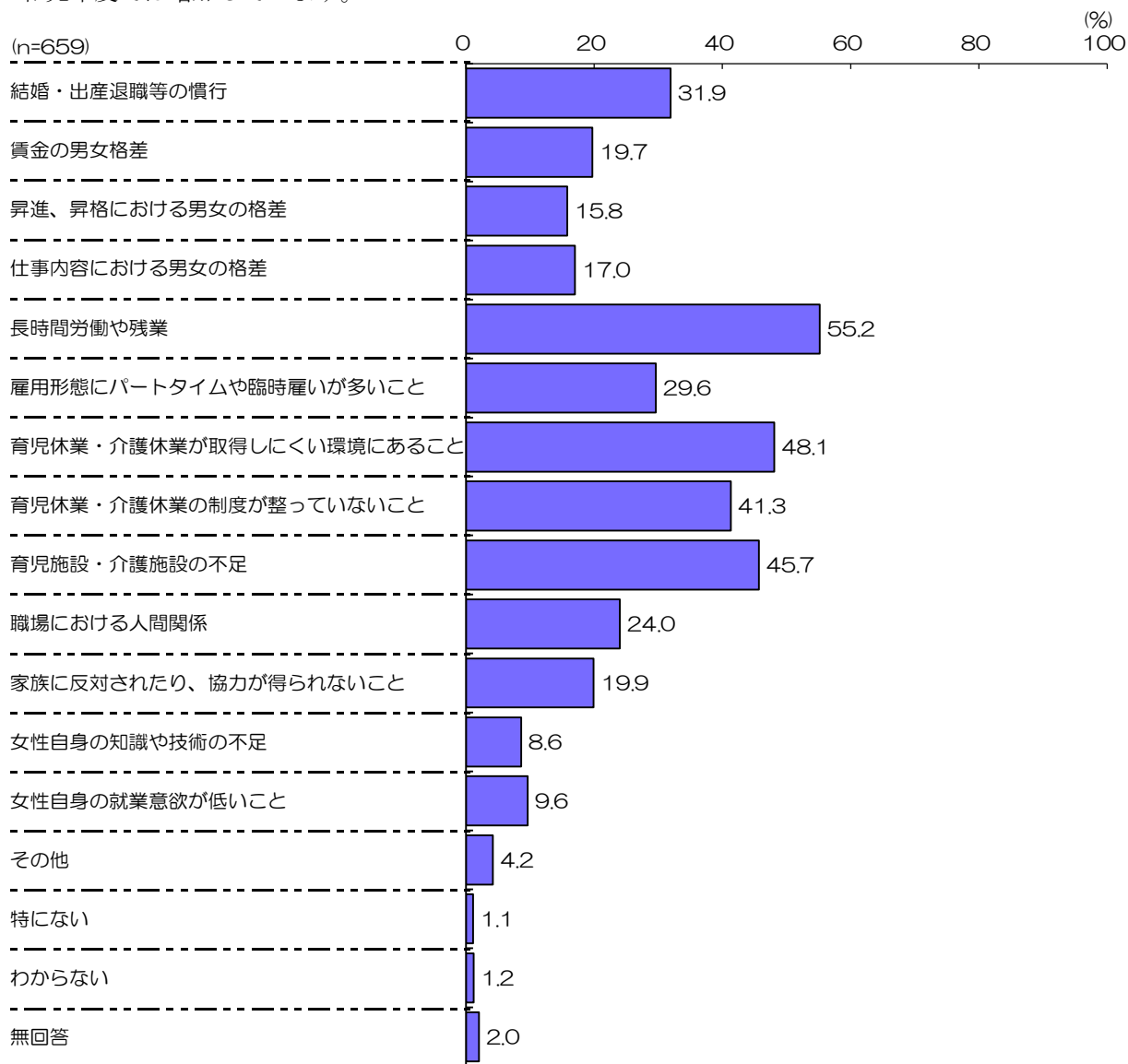
問17-3 問17-2で「2」「3」「4」または「5」と答えた方に伺います。

継続して女性が働く上での障害は何だと思えますか。(あてはまるもの全てに○)

「長時間労働や残業」が5割以上。更に、女性の場合は、「育児休業・介護休業が取得しにくい環境にあること」、「育児施設・介護施設の不足」、「育児休業・介護休業の制度が整っていないこと」が整わなければ継続して働きにくいと思われています。

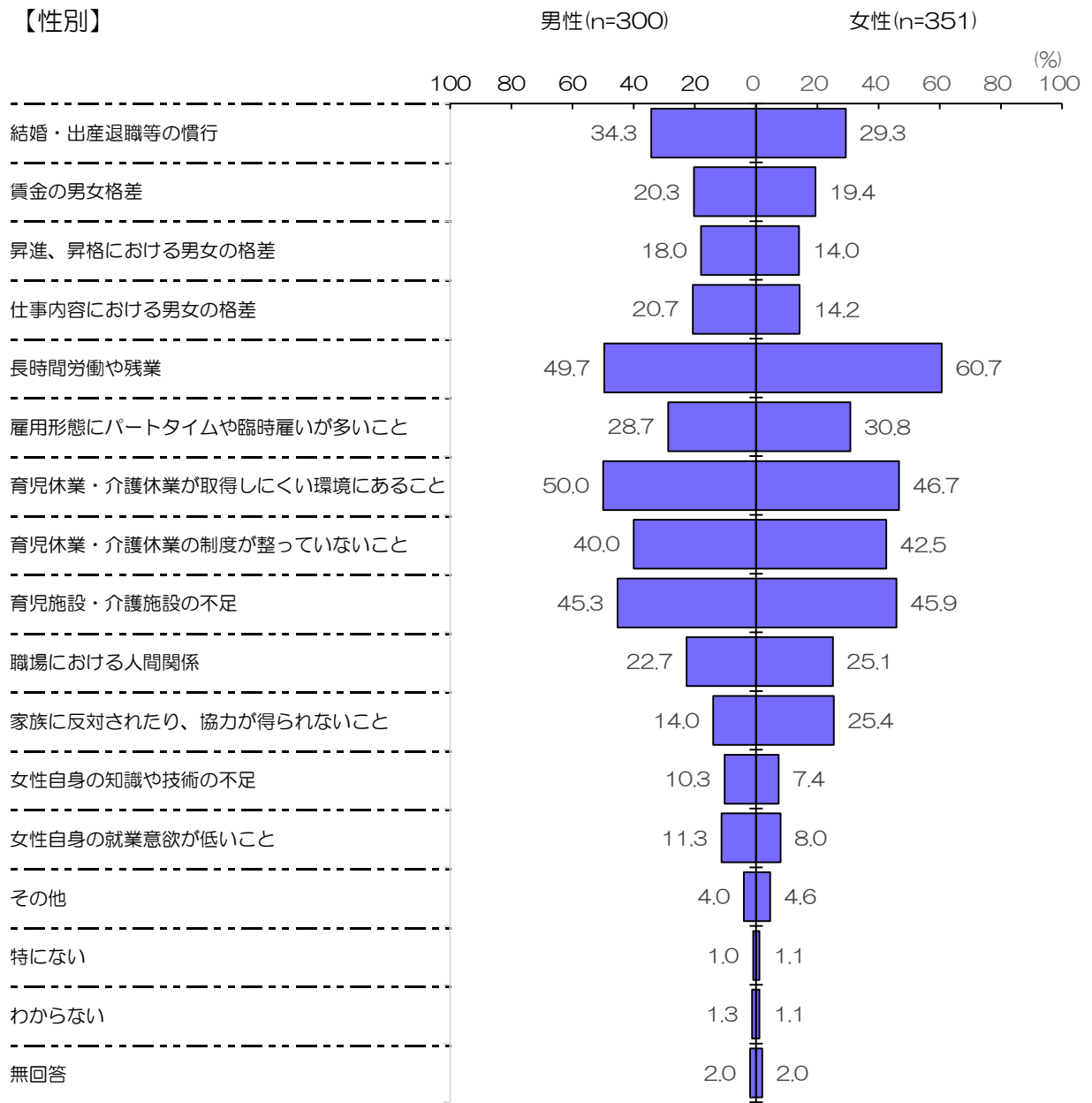
女性の就労継続の障害についての現状認識では、「長時間労働や残業」(55.2%)が最も多く、次に「育児休業・介護休業が取得しにくい環境にあること」(48.1%)、「育児施設・介護施設の不足」(45.7%)、「育児休業・介護休業の制度が整っていないこと」(41.3%)、「結婚・出産退職等の慣行」(31.9%)となっています。

平成27年度以降、「雇用形態にパートタイムや臨時雇いが多いこと」がやや減少傾向にあります。また、「女性自身の知識や技術の不足」「女性自身の就業意欲が低いこと」は減少傾向でしたが、令和元年度では増加しています。



## 6 男女が共に能力を発揮できる就業環境について

## 3 女性が働く上で障害となること



IV 調査結果

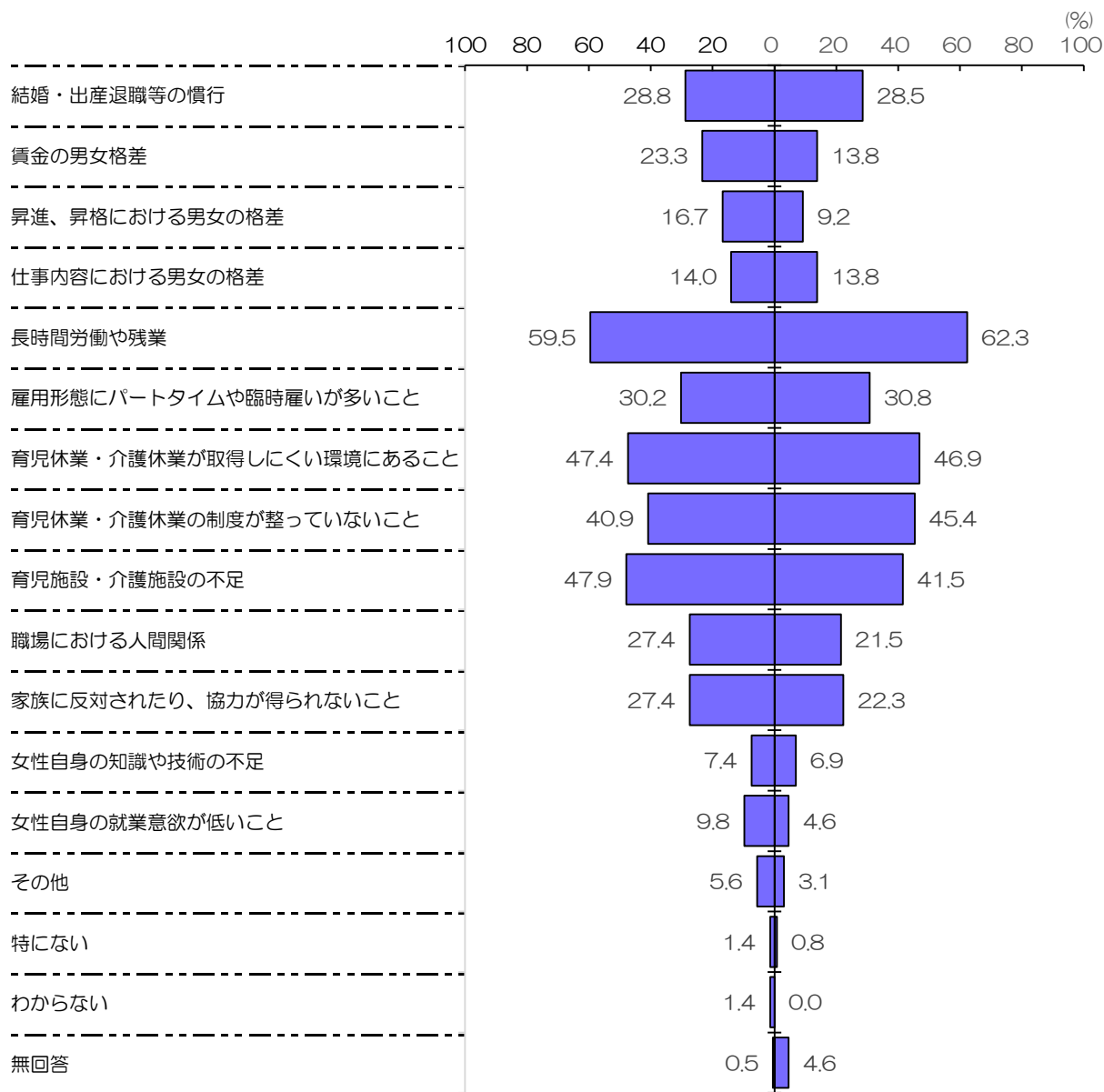
6 男女が共に能力を発揮できる就業環境について

3 女性が働く上で障害となること

【女性・職業の有無別】

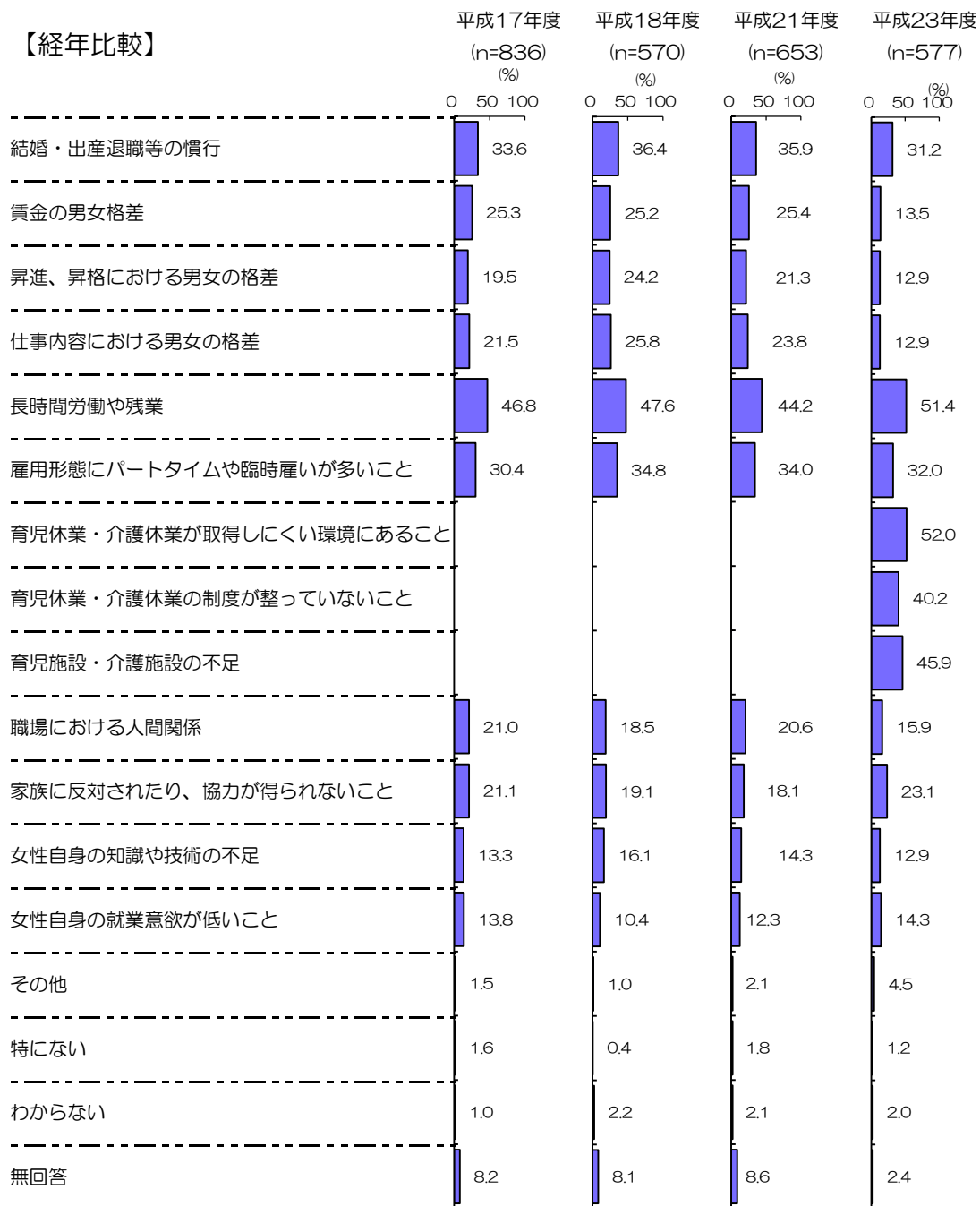
勤め人・自営業(n=215)

専業主婦・無職・学生(n=130)



## 6 男女が共に能力を発揮できる就業環境について

## 3 女性が働く上で障害となること

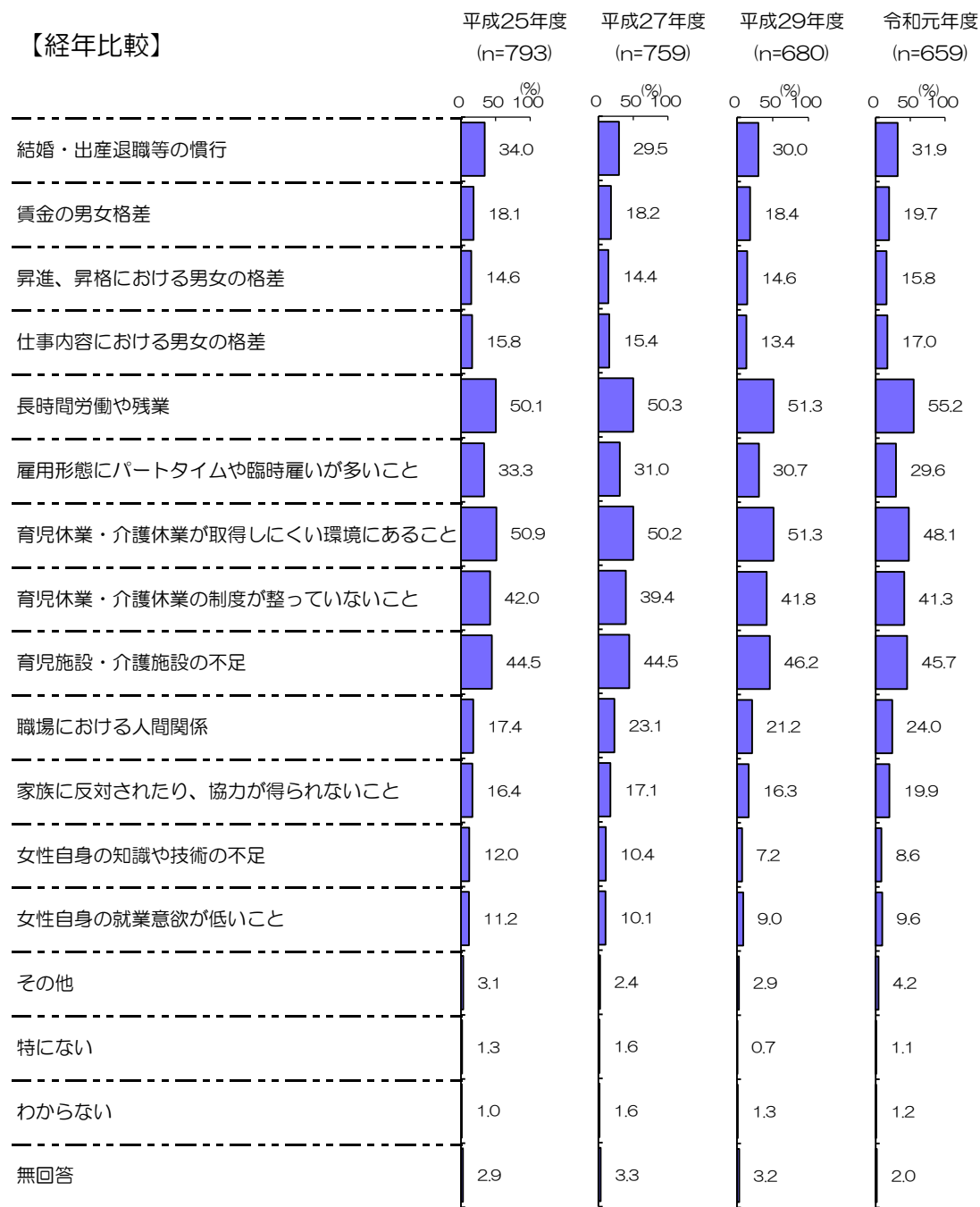


※「育児休業・介護休業が取得しにくい環境にあること」、「育児休業・介護休業の制度が整っていないこと」、「育児施設・介護施設の不足」は平成23年度より追加

IV 調査結果

6 男女が共に能力を発揮できる就業環境について

3 女性が働く上で障害となること



6 男女が共に能力を発揮できる就業環境について  
4 女性の社会参画を進めるために必要な行政の取組み

## 4 女性の社会参画を進めるために必要な行政の取組み

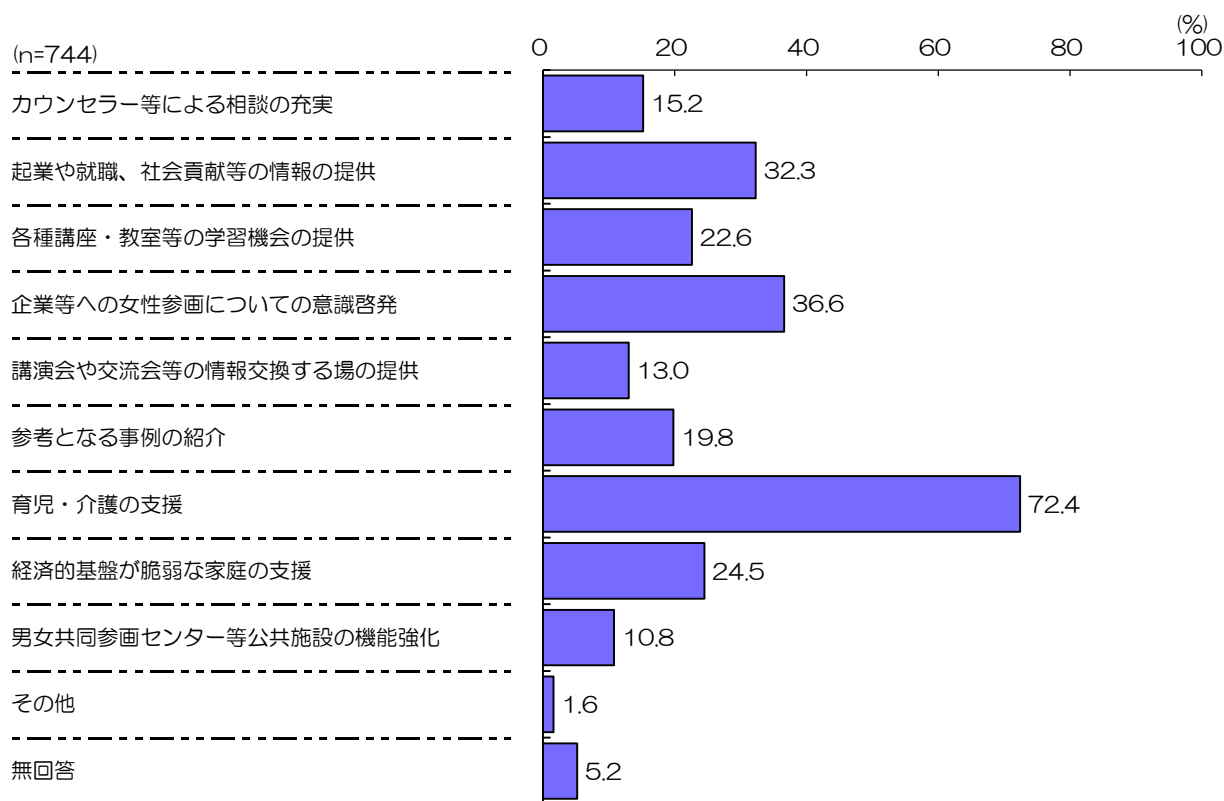
問18 女性の社会参画を進めるため、行政としてどのような取組が必要だと思いますか。

(あてはまるもの全てに○)

「育児・介護の支援」を求める人が7割を超えており、「企業等への女性参画についての意識啓発」、「起業や就職、社会貢献等の情報の提供」などよりも3割以上多くなっています。

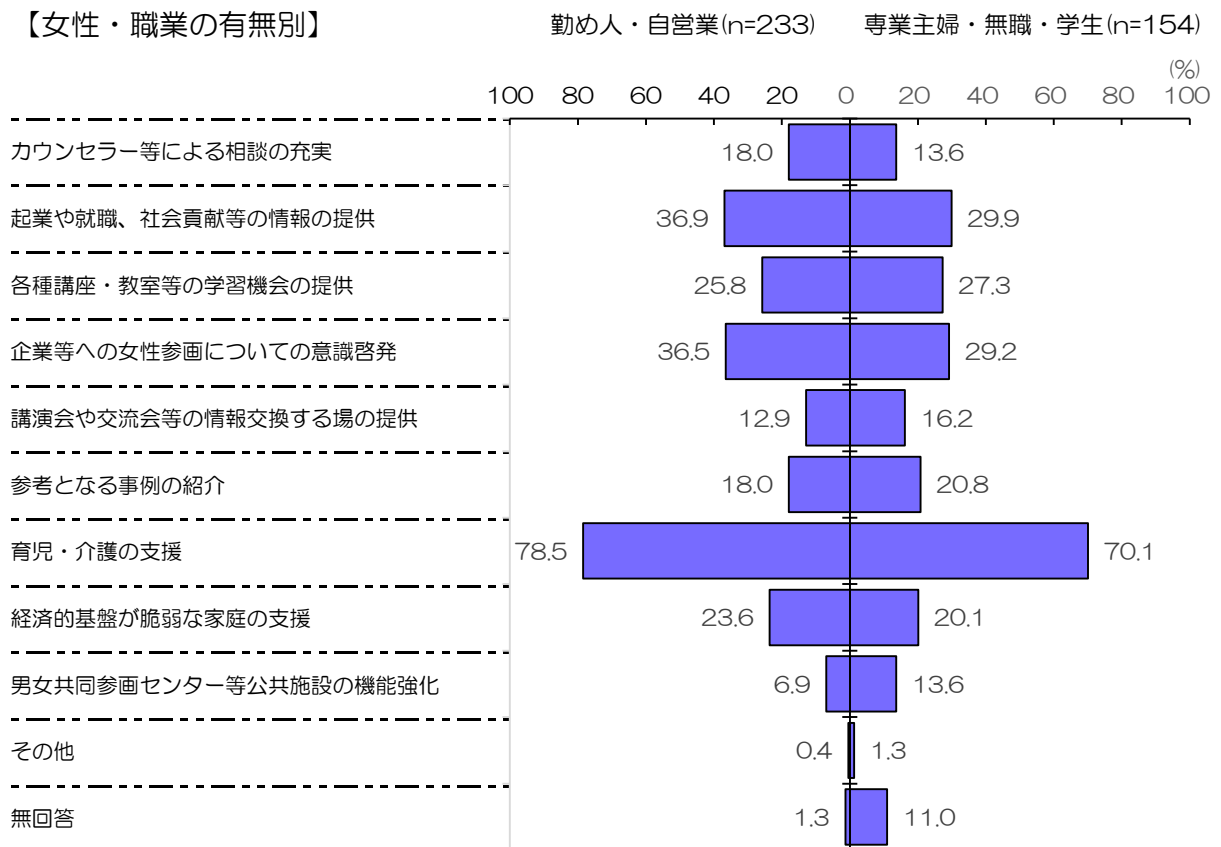
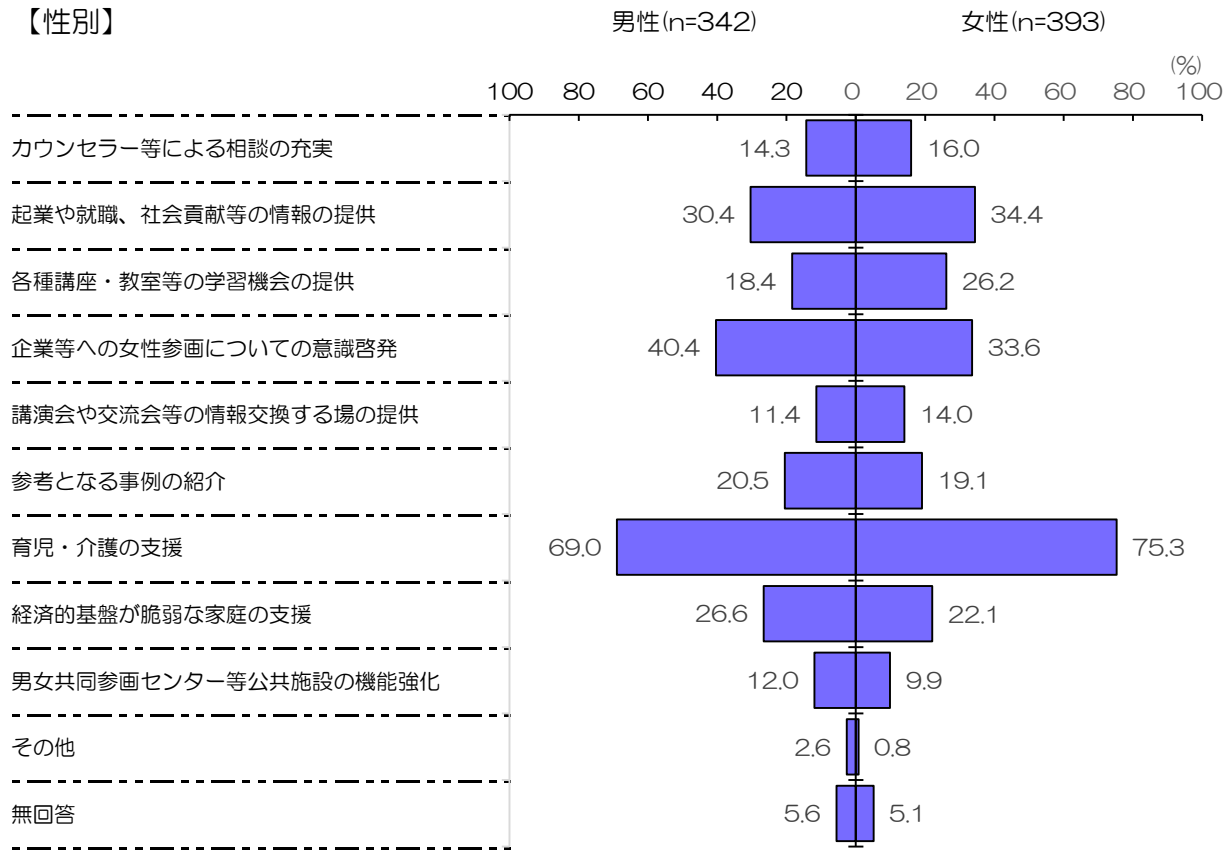
女性の社会参画促進に必要な行政の取組では、「育児・介護の支援」(72.4%)が最も多く、次に「企業等への女性参画についての意識啓発」(36.6%)、「起業や就職、社会貢献等の情報の提供」(32.3%)、「経済的基盤が脆弱な家庭の支援」(24.5%)、「各種講座・教室等の学習機会の提供」(22.6%)となっています。

平成25年度以降、「カウンセラー等による相談の充実」がやや増加傾向にあります。



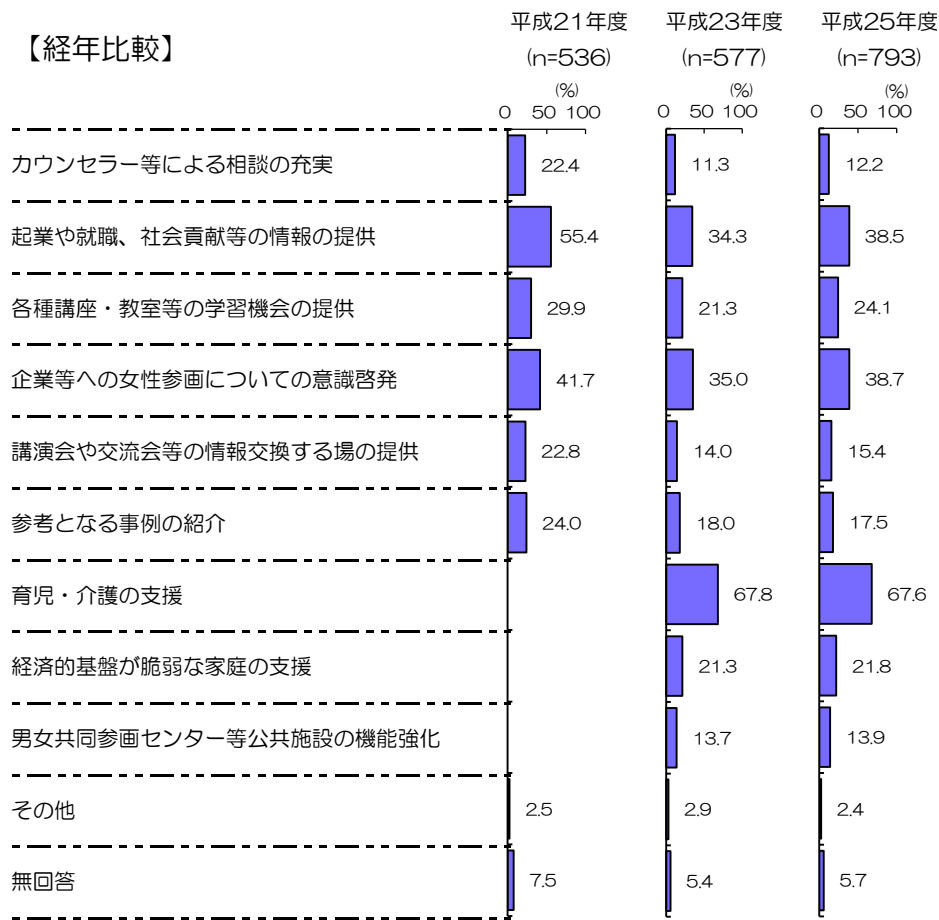
IV 調査結果

- 6 男女が共に能力を発揮できる就業環境について
- 4 女性の社会参画を進めるために必要な行政の取組み





6 男女が共に能力を発揮できる就業環境について  
4 女性の社会参画を進めるために必要な行政の取組み

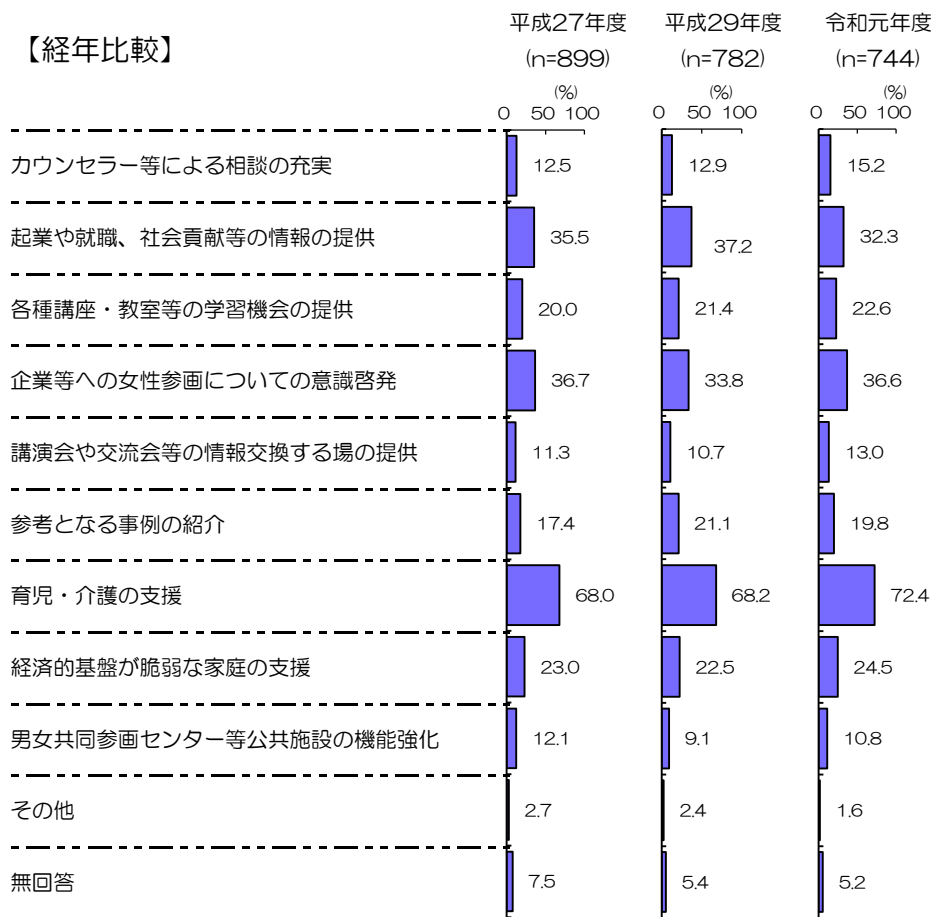


※「育児・介護の支援」、「経済的基盤が脆弱な家庭の支援」、「男女共同参画センター等公共施設の機能強化」は平成23年度より追加

IV 調査結果

6 男女が共に能力を発揮できる就業環境について

4 女性の社会参画を進めるために必要な行政の取組み



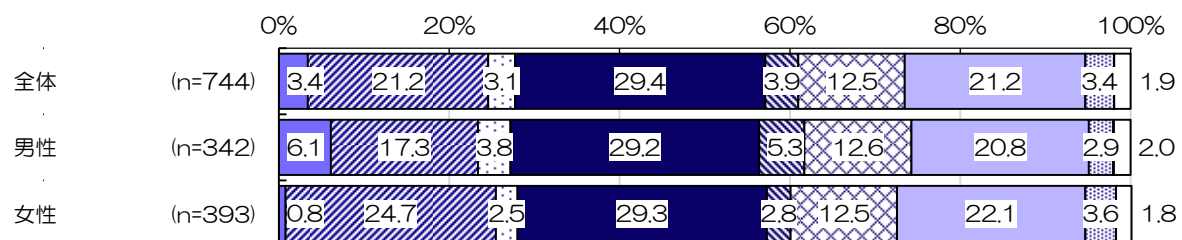
## 7 地域社会の一員としての活動について

### 1 仕事と家庭生活・地域活動の希望優先度

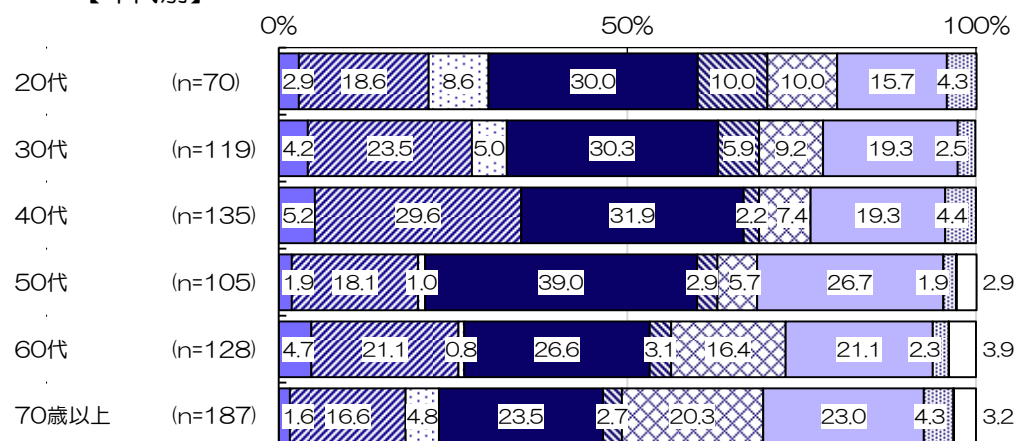
問19 生活の中での、「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味・付き合い）の優先度について、あなたの希望に最も近いものはどれですか。（1つに○）

「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」のいずれかを優先するのではなく、両立したい人が多くなっています。

生活の中で優先度の最も高いものでは、「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい（29.4%）が最も多く、次に「家庭生活」を優先したい（21.2%）、「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい（21.2%）、「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい（12.5%）、「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい（3.9%）となっています。



#### 【年代別】

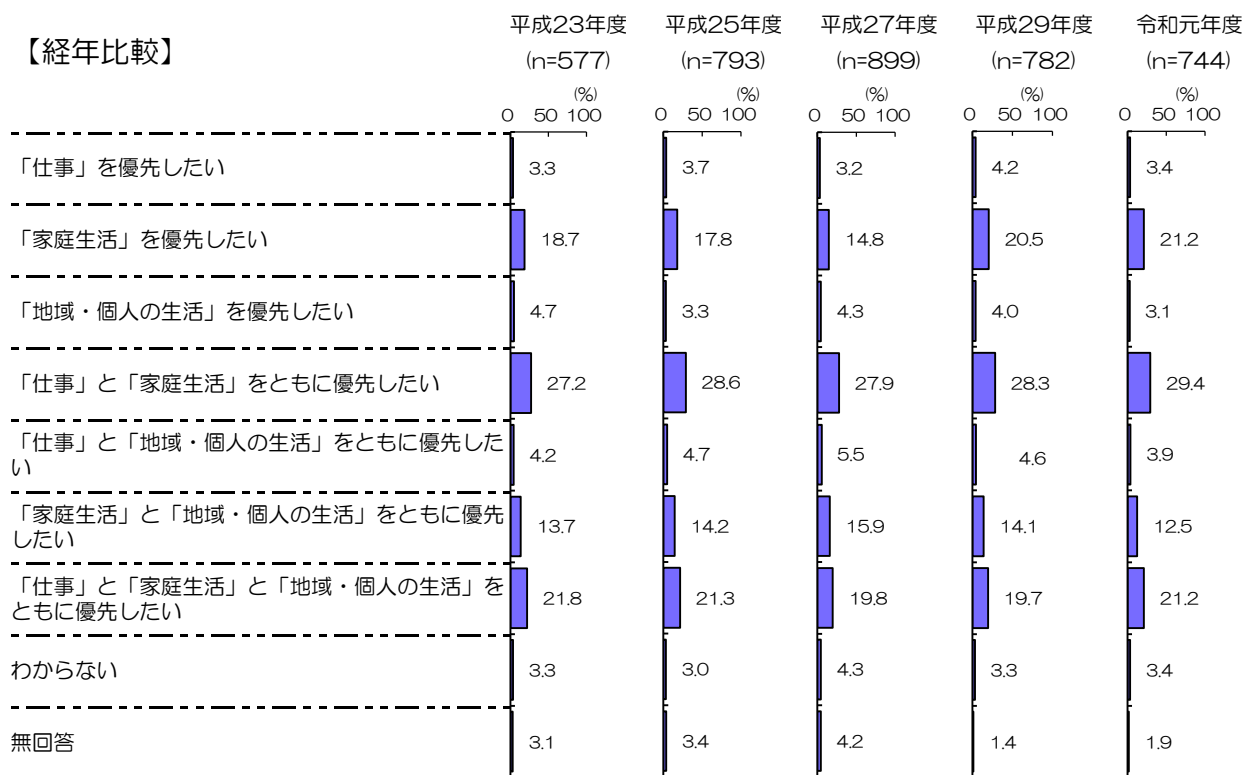


- 「仕事」を優先したい
- 「家庭生活」を優先したい
- 「地域・個人の生活」を優先したい
- 「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい
- 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
- 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
- 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい
- わからない
- 無回答

#### IV 調査結果

##### 7 地域社会の一員としての活動について

##### 1 仕事と家庭生活・地域活動の希望優先度



2 仕事と家庭生活・地域活動の現実優先度

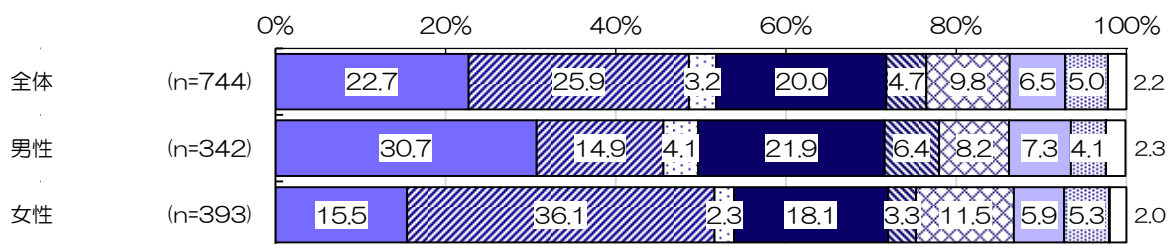
問19-2 それでは、あなたの現実（現状）に最も近いものはどれですか。（1つに○）

女性では「家庭生活」を優先しているが多くなっています。

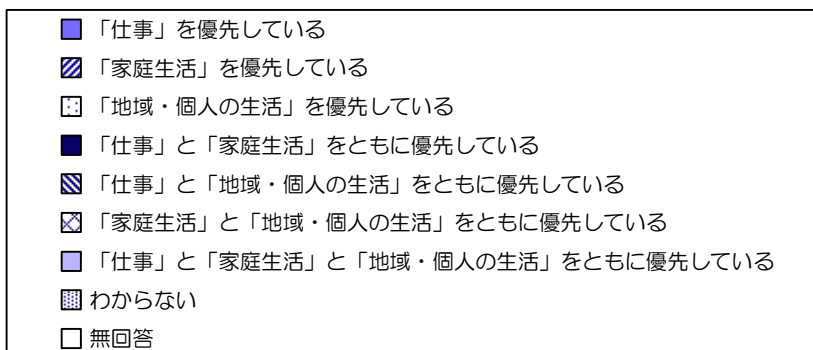
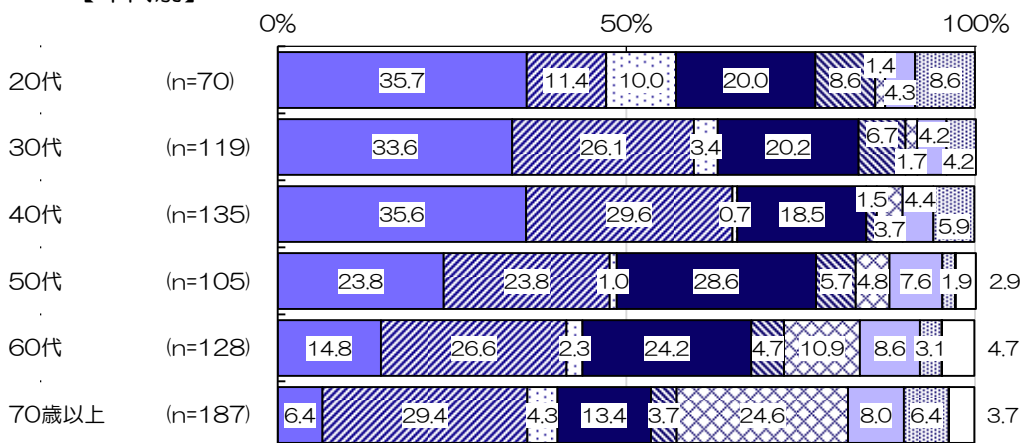
生活の中で現実に優先されるものでは、「家庭生活」を優先している（25.9%）が最も多く、次に「仕事」を優先している（22.7%）、「仕事」と「家庭生活」とともに優先している（20.0%）、「家庭生活」と「地域・個人の生活」とともに優先している（9.8%）、「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」とともに優先している（6.5%）となっています。

性別で見ると、女性は、「家庭生活」を優先している（36.1%）が多くなっています。

年齢別で見ると、20代は、「仕事」を優先している（35.7%）が多くなっています。30代は、「仕事」を優先している（33.6%）が多くなっています。40代は、「仕事」を優先している（35.6%）が多くなっています。70歳以上は、「家庭生活」と「地域・個人の生活」とともに優先している（24.6%）が多くなっています。



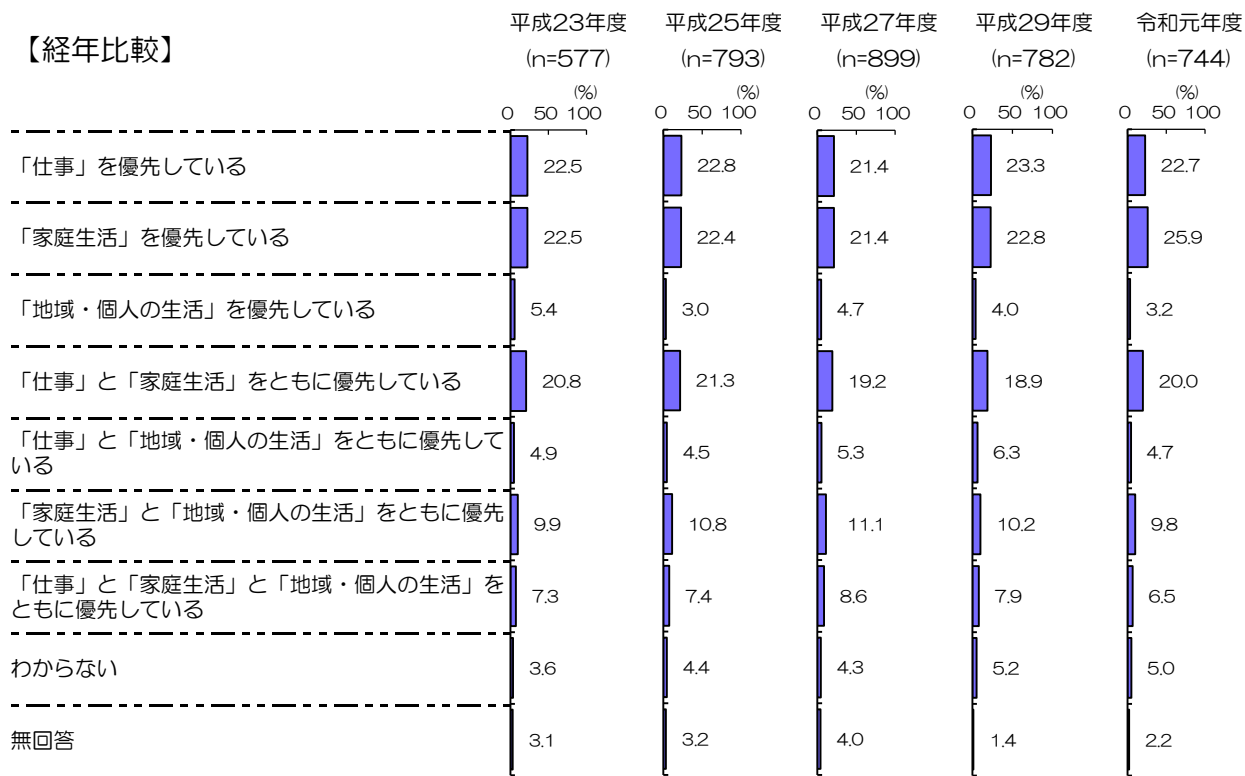
【年代別】



IV 調査結果

7 地域社会の一員としての活動について

2 仕事と家庭生活・地域活動の現実優先度

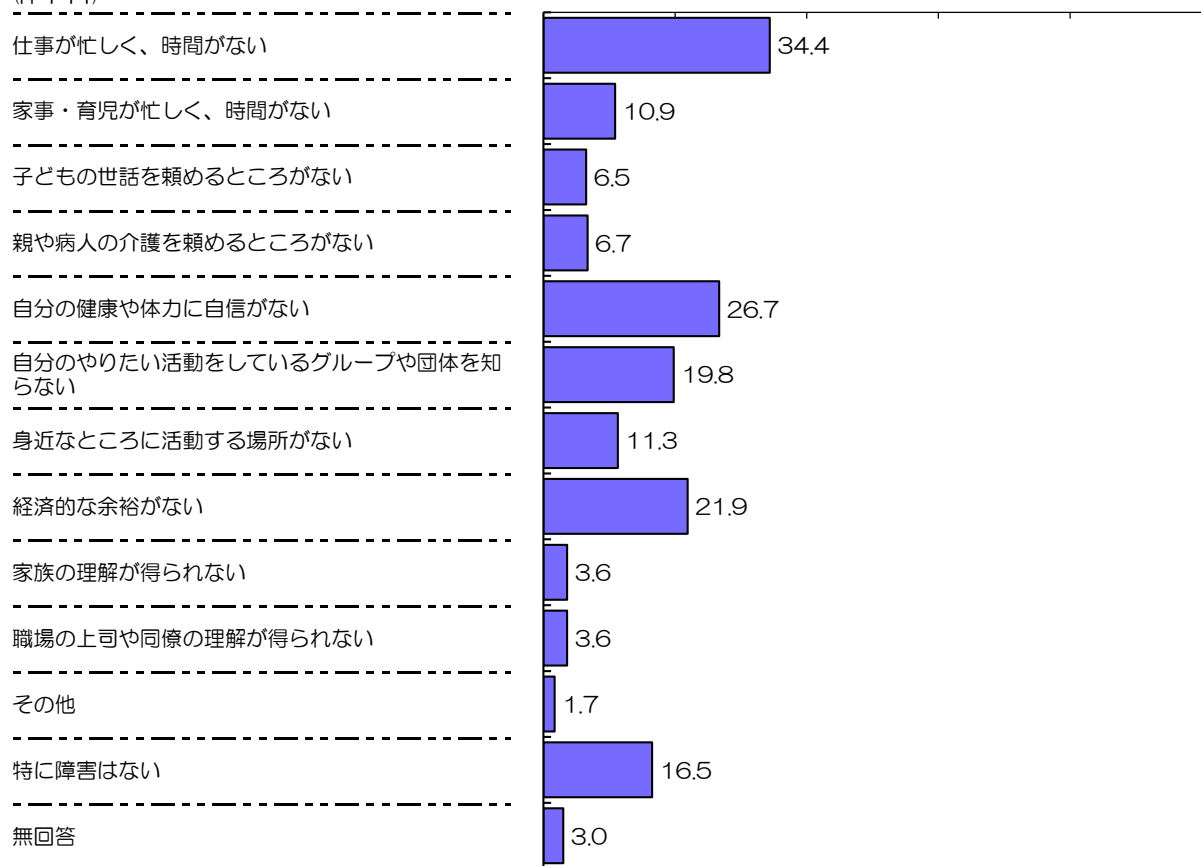


## 3 地域活動に参加しようとするとき障害となること

問20 あなたが現在（あるいは今後）、地域活動に参加しようとする時、何か障害になるようなことがありますか。（あてはまるもの全てに○）

「仕事が忙しく、時間がない」が3割以上。

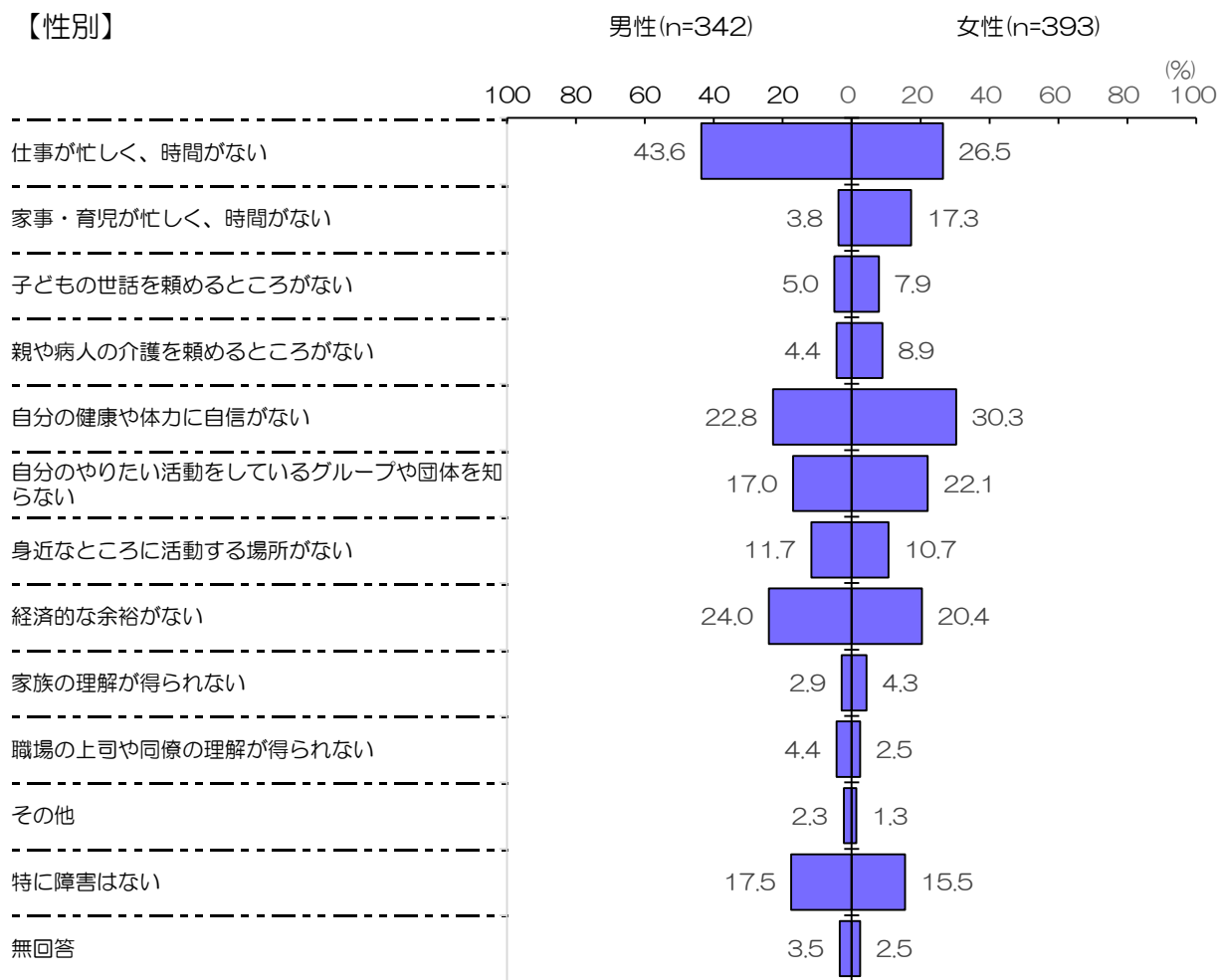
地域活動への参加の障害では、「仕事が忙しく、時間がない」（34.4％）が最も多く、次に「自分の健康や体力に自信がない」（26.7％）、「経済的な余裕がない」（21.9％）、「自分のやりたい活動をしているグループや団体を知らない」（19.8％）、「特に障害はない」（16.5％）となっています。（％）  
(n=744)



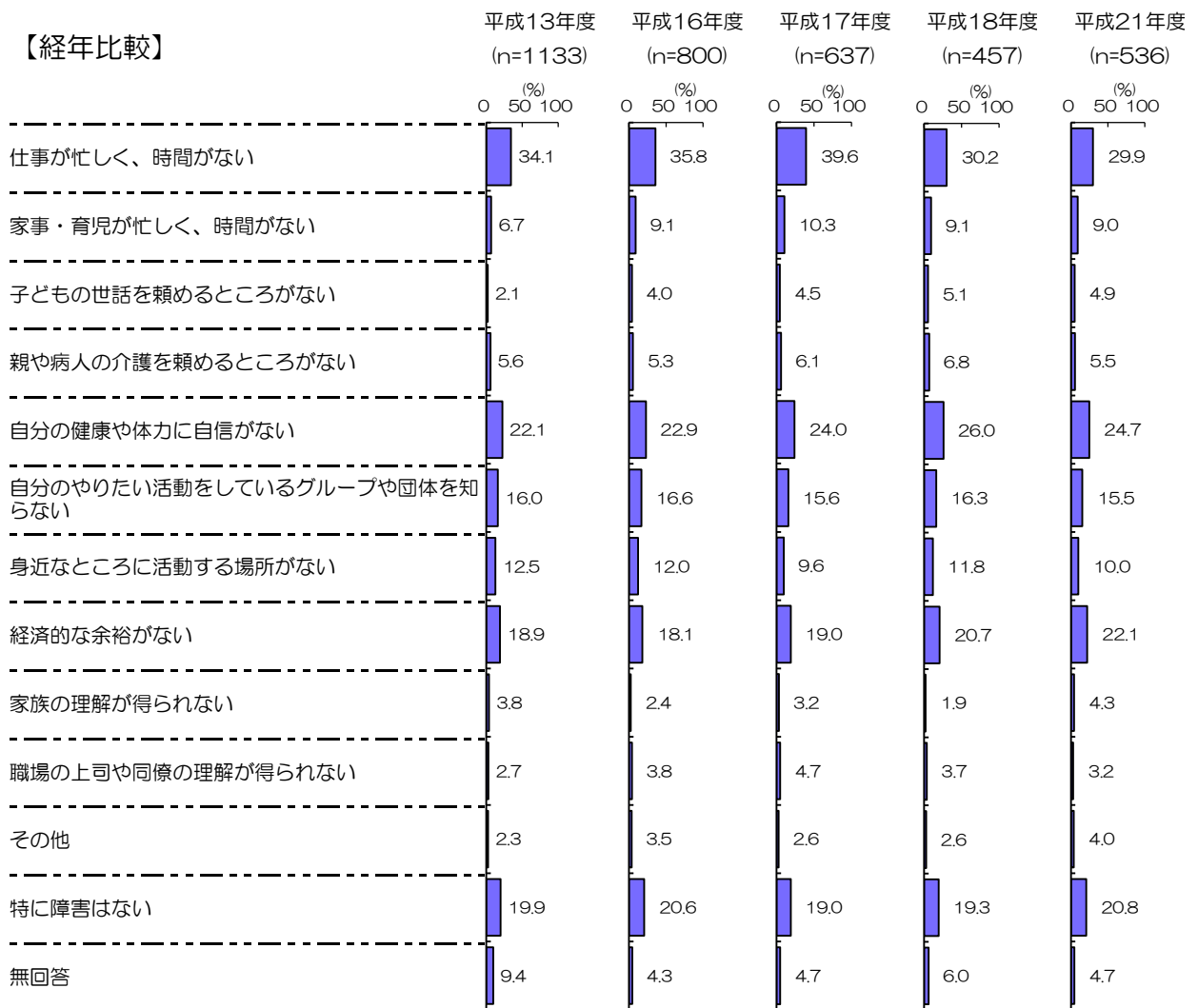
IV 調査結果

7 地域社会の一員としての活動について

3 地域活動に参加しようとするとき障害となること



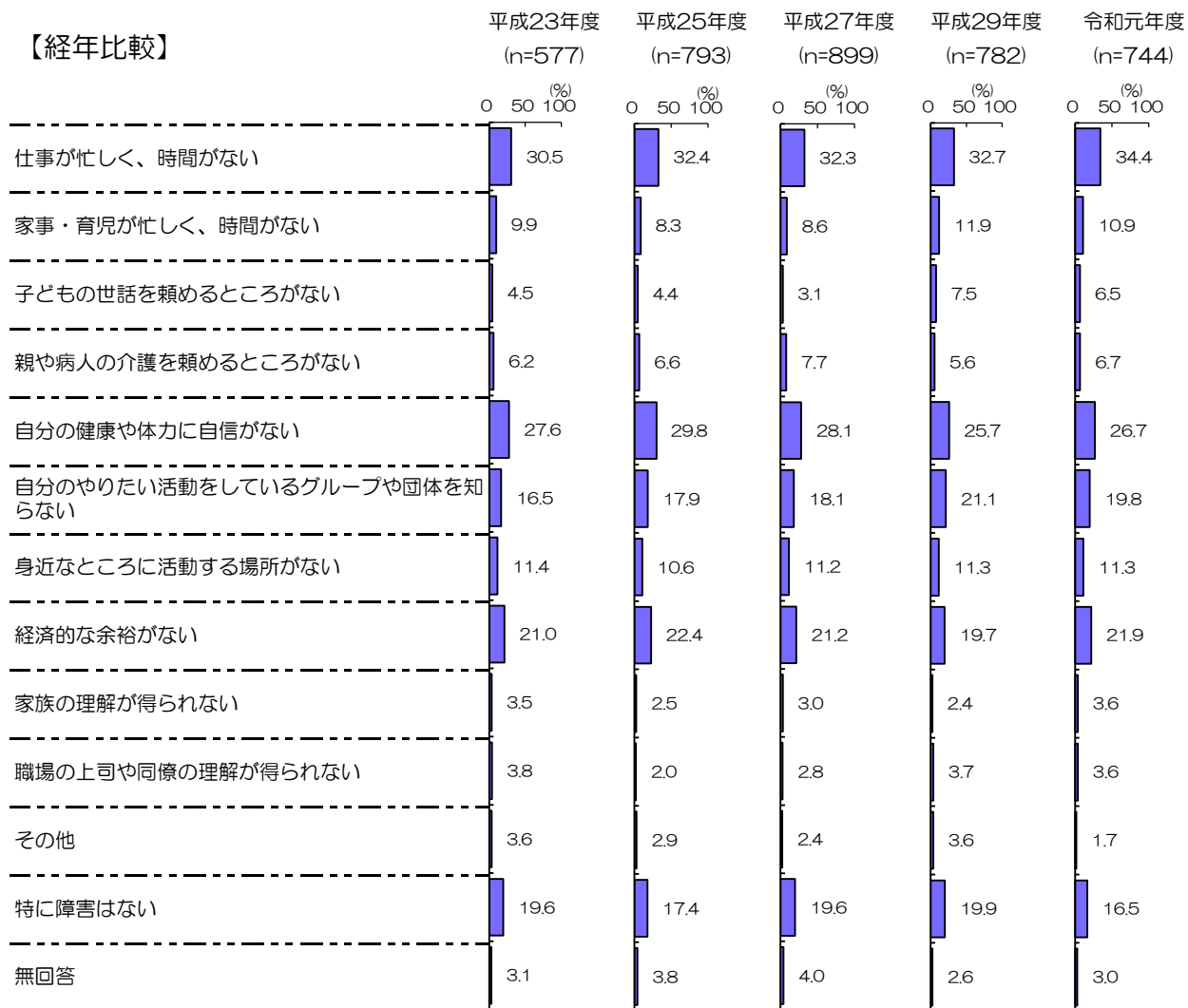




#### IV 調査結果

##### 7 地域社会の一員としての活動について

##### 3 地域活動に参加しようとするとき障害となること



## 4 女性が自治会の長などの役職に就くことが少ない理由

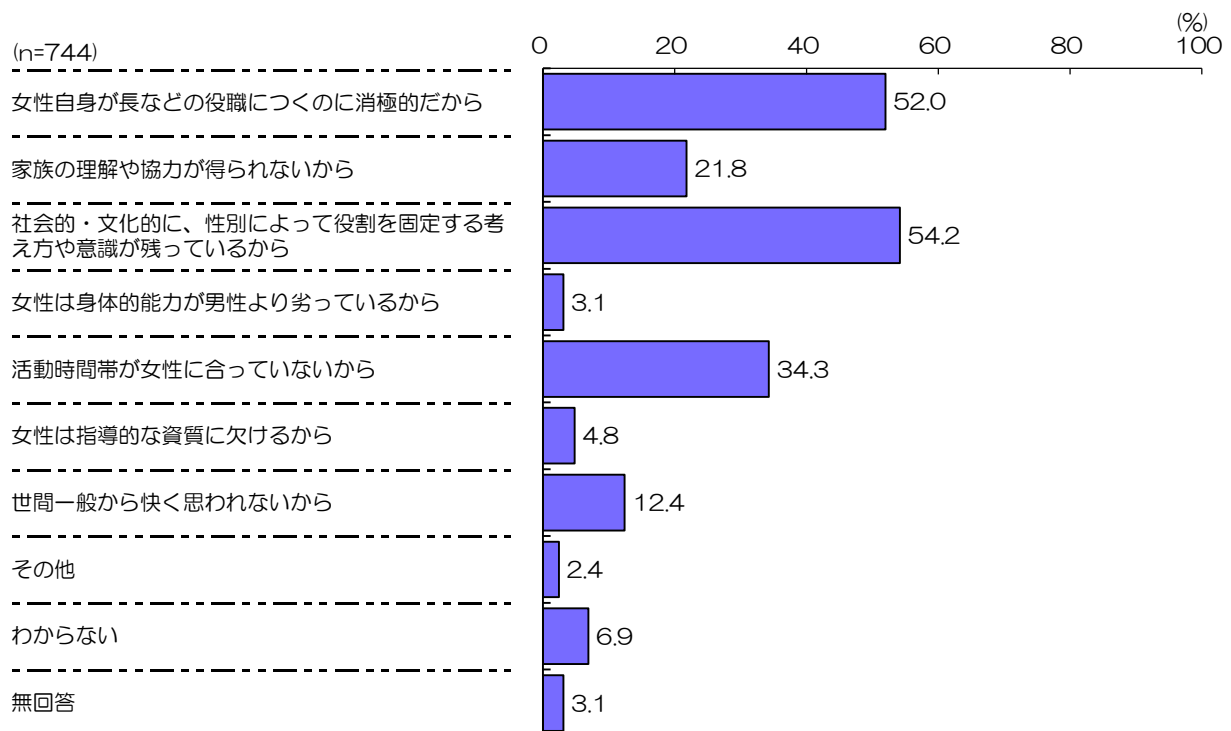
問21 地域活動において、女性が自治会の長などの役職につくことが少ないのが現状です。この主な理由は何だと思えますか。(3つまでに○)

「社会的・文化的に、性別によって役割を固定する考え方や意識が残っているから」、「女性自身が長などの役職につくのに消極的だから」がともに5割以上になっています。

地域活動で女性が役職につくことが少ない理由についての現状認識では、「社会的・文化的に、性別によって役割を固定する考え方や意識が残っているから」(54.2%)が最も多く、次に「女性自身が長などの役職につくのに消極的だから」(52.0%)、「活動時間帯が女性に合っていないから」(34.3%)、「家族の理解や協力が得られないから」(21.8%)、「世間一般から快く思われないから」(12.4%)となっています。

性別でみると女性は、「活動時間帯が女性に合っていないから」(40.5%)が多くなっています。

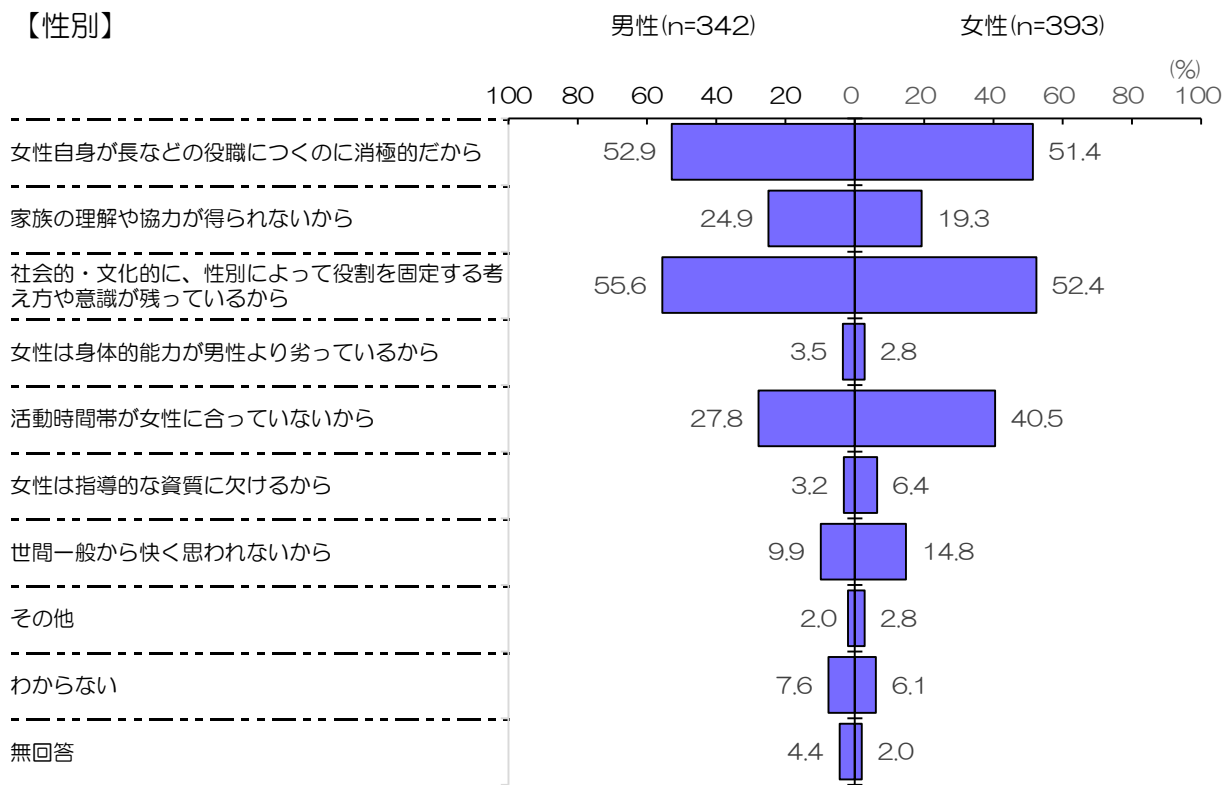
平成29年度以降、「活動時間帯が女性に合っていないから」がやや増加傾向にあります。平成25年度以降、「世間一般から快く思われないから」が減少傾向にあります。



IV 調査結果

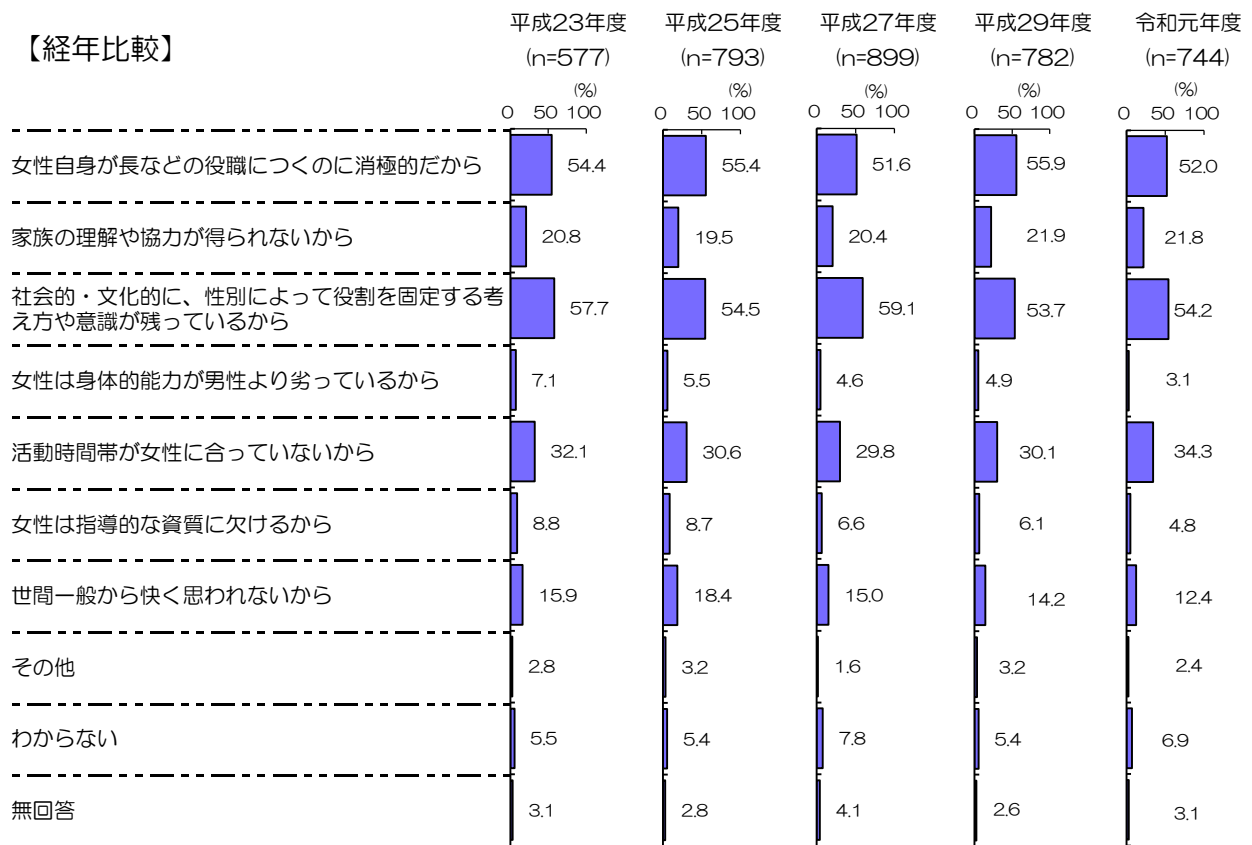
7 地域社会の一員としての活動について

4 女性が自治会の長などの役職に就くことが少ない理由



## 7 地域社会の一員としての活動について

## 4 女性が自治会の長などの役職に就くことが少ない理由



IV 調査結果

8 実践的な取組の推進について

1 「静岡県男女共同参画センターあざれあ」の利用有無

**8 実践的な取組の推進について**

1 「静岡県男女共同参画センターあざれあ」の利用有無

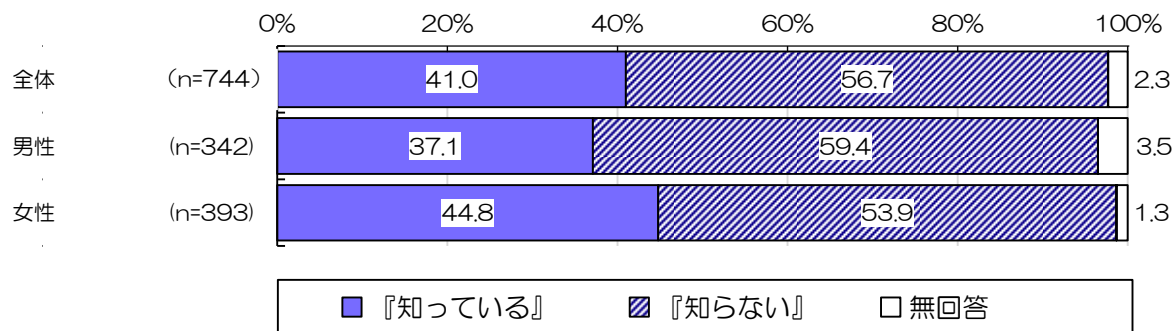
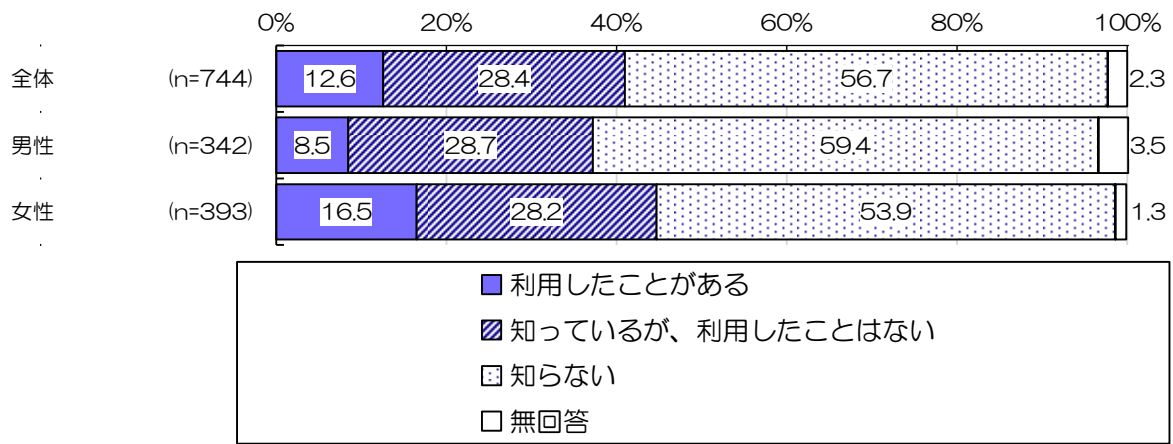
問22 「静岡県男女共同参画センターあざれあ」を利用したことがありますか。(1つに○)

『知らない』がおおよそ6割となっています。

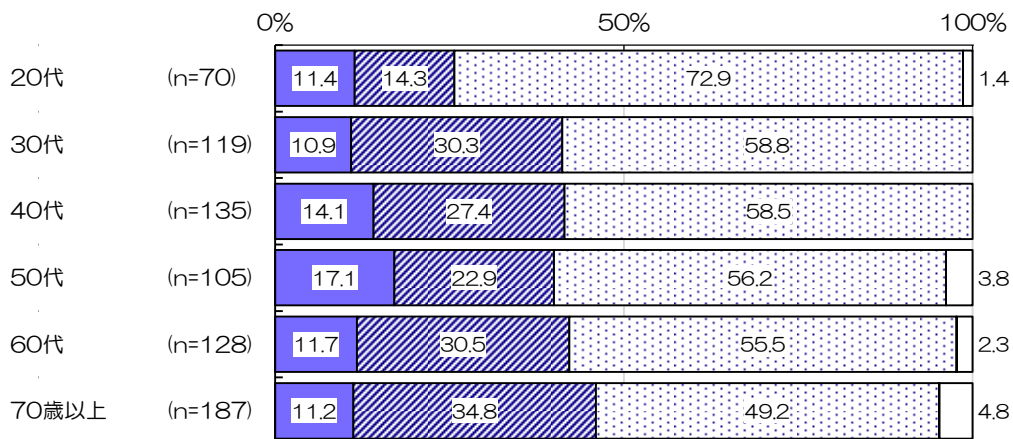
「静岡県男女共同参画センターあざれあ」の認知では、『知らない』(56.7%)が最も多く、次に『知っている』(41.0%、「利用したことがある」+「知っているが、利用したことはない」となっています。

年齢別でみると、20代は、『知らない』(72.9%)が多くなっています。

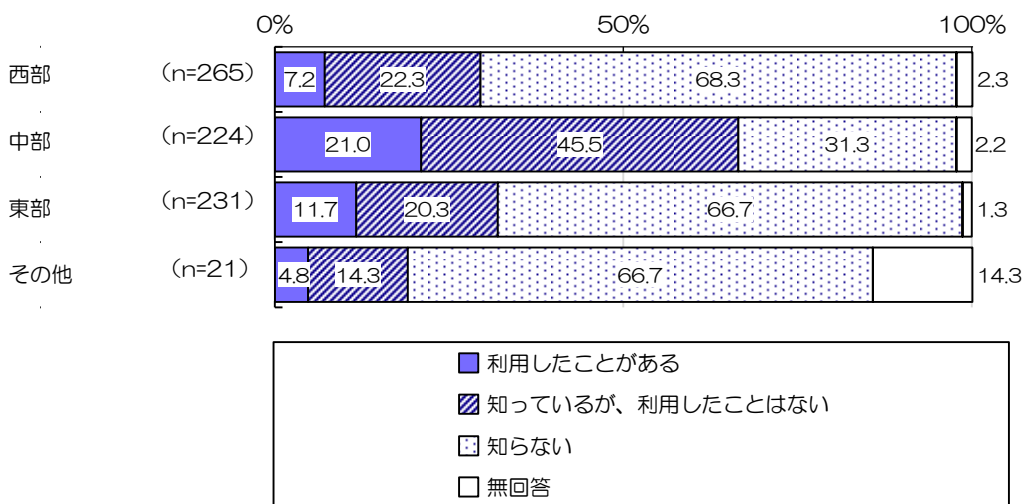
地域名別でみると、西部は、『知らない』(68.3%)が多くなっています。中部は、『知っている』(66.5%、「利用したことがある」+「知っているが、利用したことはない」)が多くなっています。



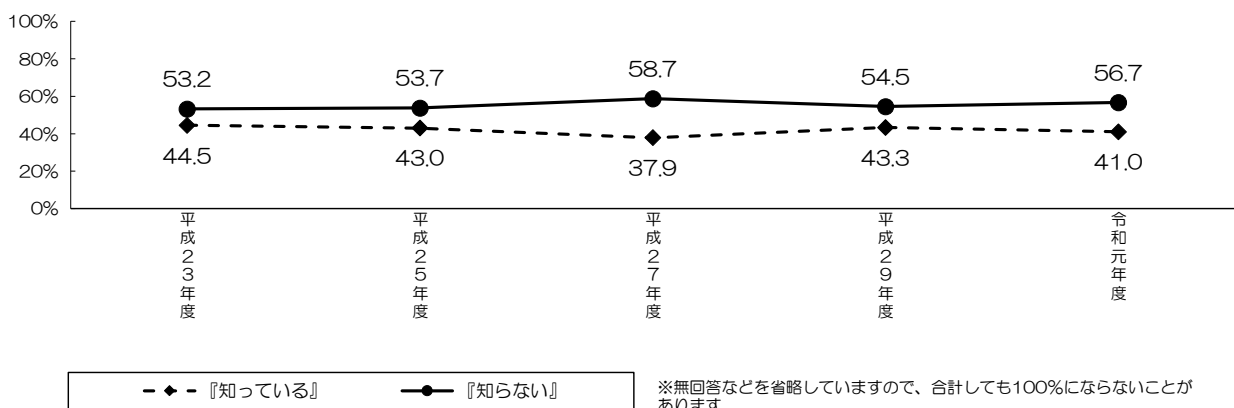
【年代別】



【地域別比較】



【経年比較】



#### IV 調査結果

##### 8 実践的な取組の推進について

##### 2 「静岡県男女共同参画センターあざれあ」に期待している役割

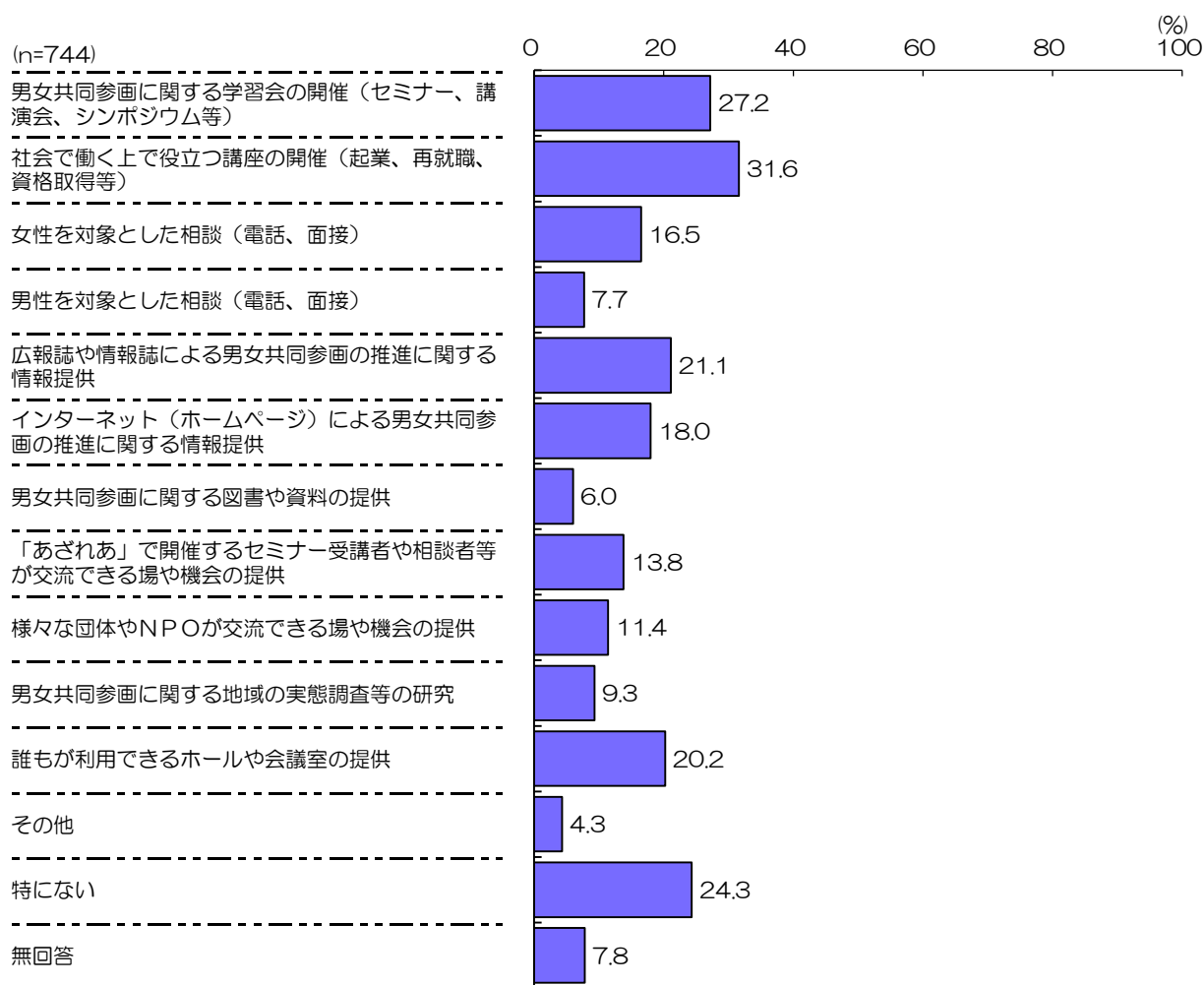
### 2 「静岡県男女共同参画センターあざれあ」に期待している役割

問22-2 「静岡県男女共同参画センターあざれあ」について、あなたは、この施設にどのような役割を期待していますか。(あてはまるもの全てに○)

「社会で働く上で役立つ講座の開催（起業、再就職、資格取得等）」を3割以上が期待しています。

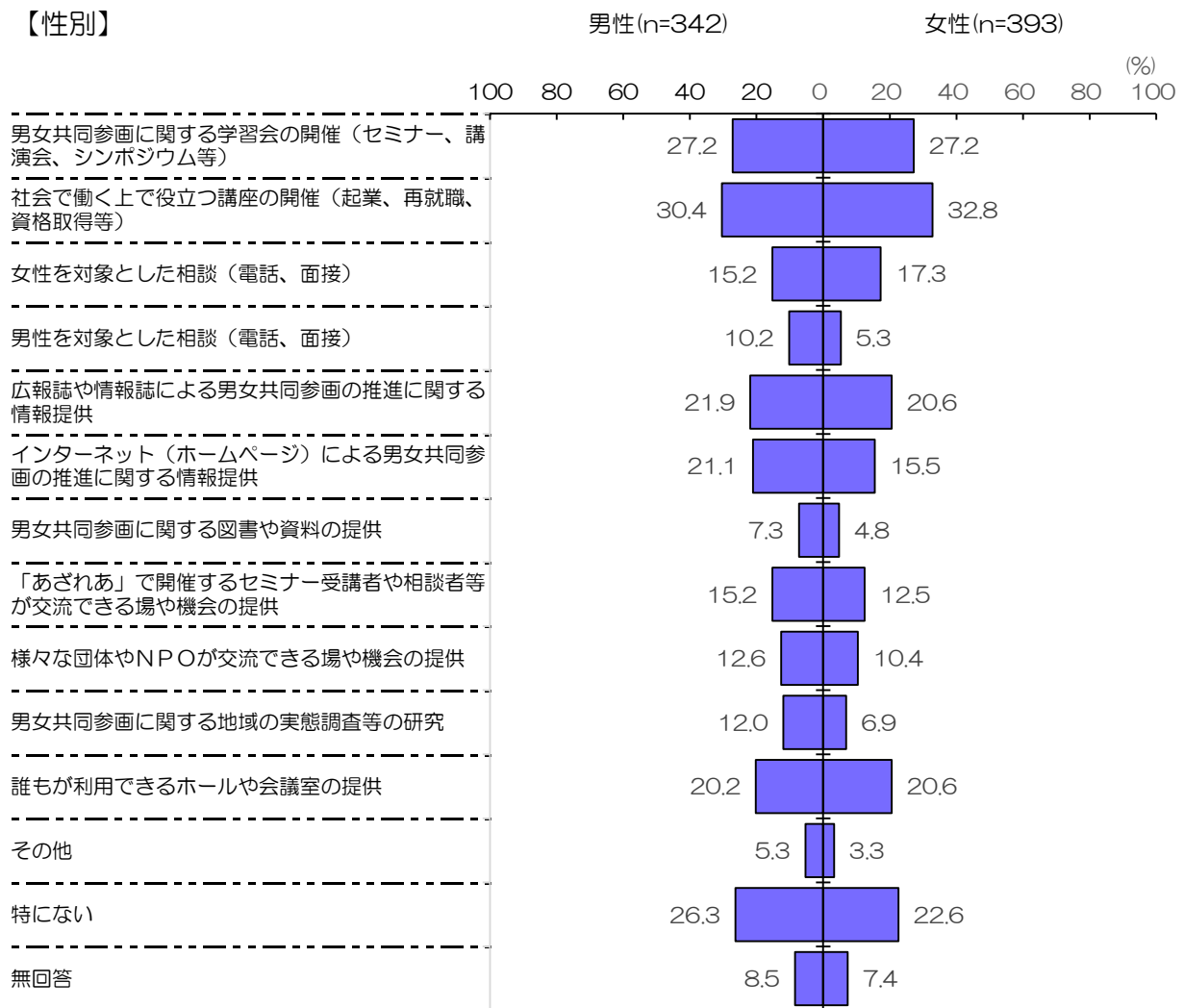
「あざれあ」に期待する役割では、「社会で働く上で役立つ講座の開催（起業、再就職、資格取得等）」(31.6%)が最も多く、次に「男女共同参画に関する学習会の開催（セミナー、講演会、シンポジウム等）」(27.2%)、「特にない」(24.3%)、「広報誌や情報誌による男女共同参画の推進に関する情報提供」(21.1%)、「誰もが利用できるホールや会議室の提供」(20.2%)となっています。

平成27年度以降、「あざれあ」で開催するセミナー受講者や相談者等が交流できる場や機会の提供」「誰もが利用できるホールや会議室の提供」がやや減少傾向にあります。平成27年度以降、「社会で働く上で役立つ講座の開催（起業、再就職、資格取得等）」が減少傾向にあります。





## 2 「静岡県男女共同参画センターあざれあ」に期待している役割



IV 調査結果

8 実践的な取組の推進について

2 「静岡県男女共同参画センターあざれあ」に期待している役割



## 2 「静岡県男女共同参画センターあざれあ」に期待している役割



- IV 調査結果
- 9 その他（男女共同参画関係）
- 1 男女共同参画社会に関する知識

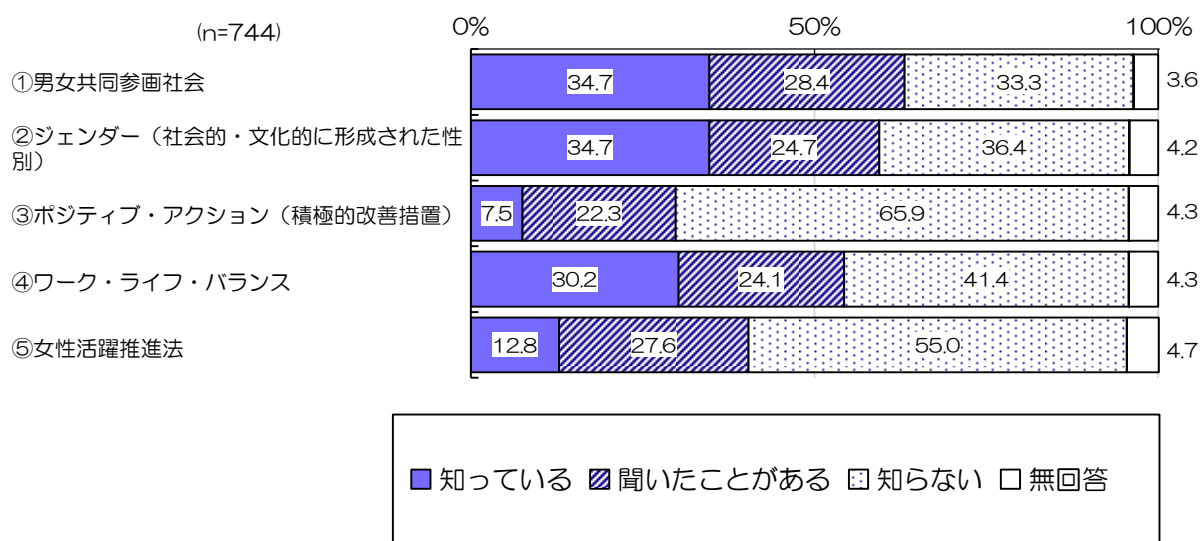
## 9 その他（男女共同参画関係）

### 1 男女共同参画社会に関する知識

問23 あなたは次のことがらを知っていますか。（それぞれ1つに○）

【①男女共同参画社会】、【②ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）】、【④ワーク・ライフ・バランス】は「知っている」が3割以上。一方で、【③ポジティブ・アクション（積極的改善措置）】を「知っている」人は1割未満です。

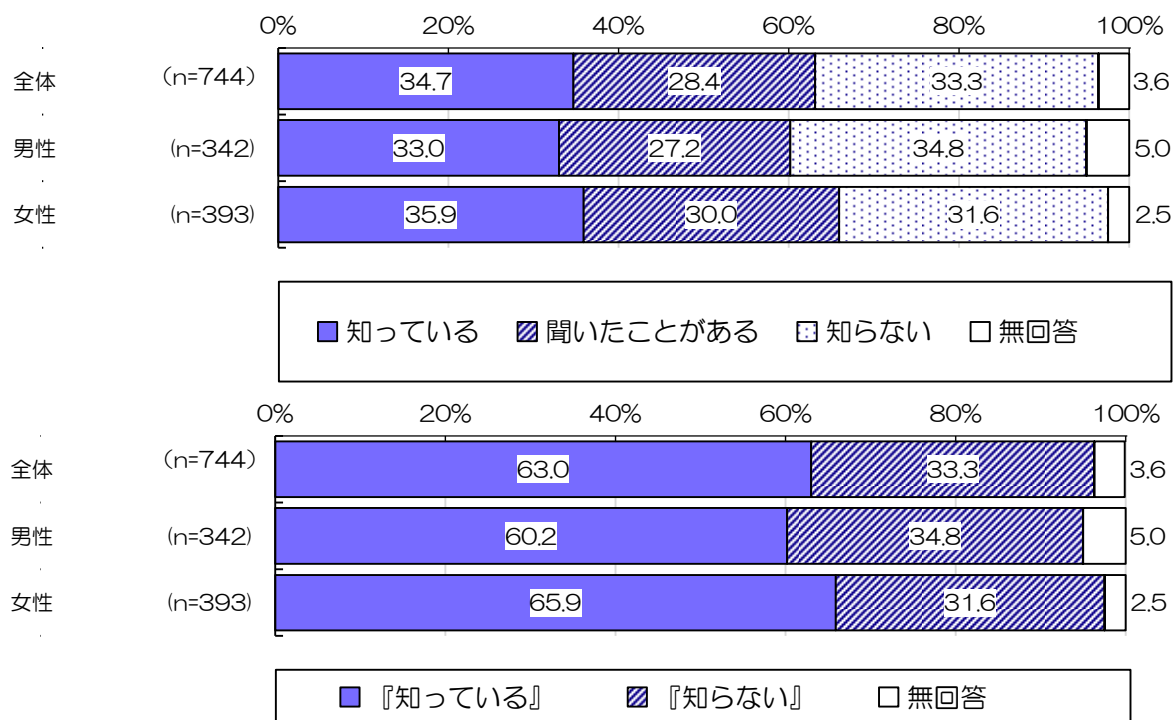
男女共同参画に関することから最も「知っている」が多かったのは【①男女共同参画社会】と【②ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）】で34.7%でした。次に、【④ワーク・ライフ・バランス】が30.2%でした。



## ① 男女共同参画社会

20代の認知度が7割以上。

【①男女共同参画社会】では、『知っている』（63.0%、「知っている」＋「聞いたことがある」）が最も多く、次に『知らない』（33.3%）となっています。

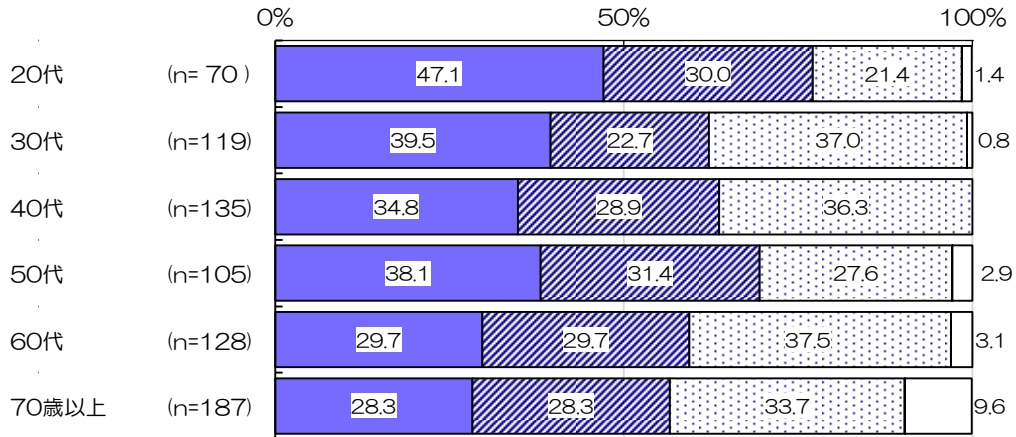


IV 調査結果

9 その他（男女共同参画関係）

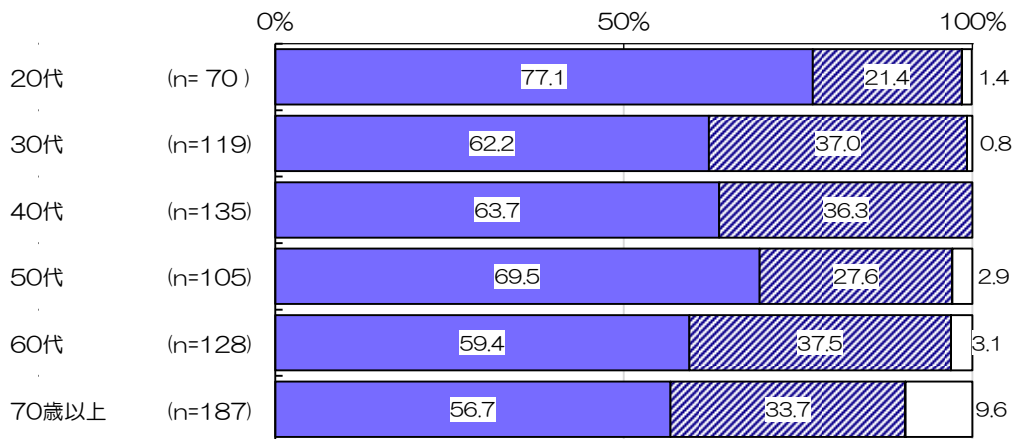
1 男女共同参画社会に関する知識

【年代別】



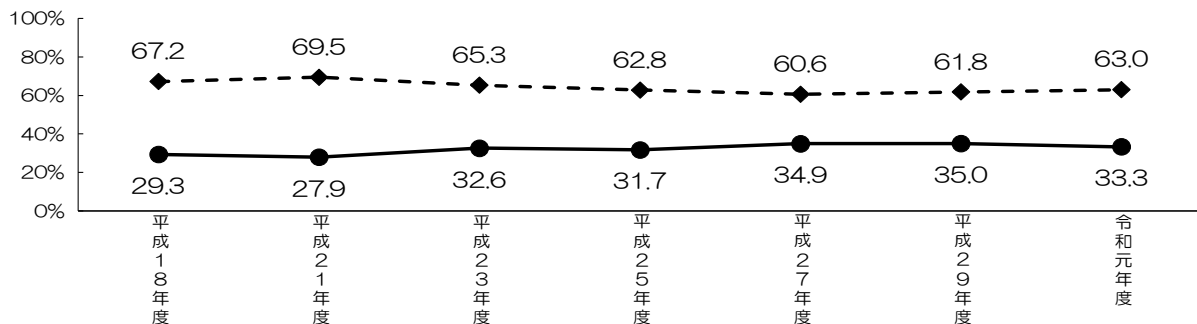
■ 知っている ■ 聞いたことがある ■ 知らない □ 無回答

【年代別】



■ 『知っている』 ■ 『知らない』 □ 無回答

【経年比較】



---◆ 『知っている』    —● 『知らない』

※無回答などを省略していますので、合計しても100%にならないことがあります。

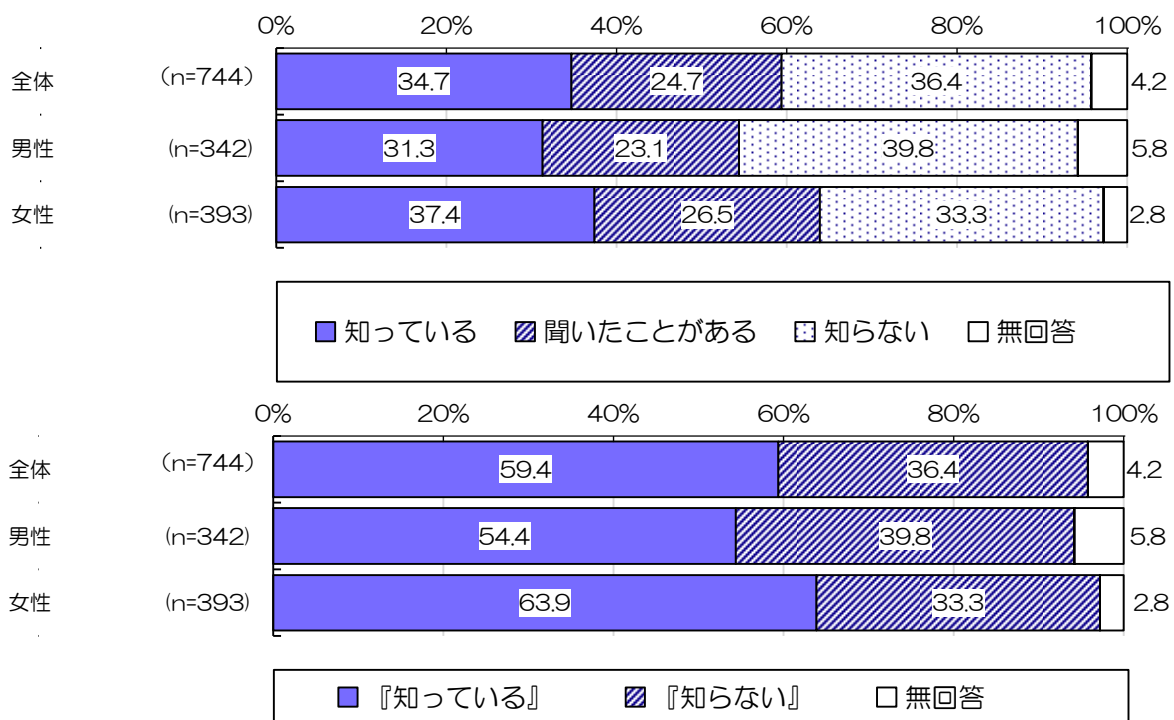
## ② ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）

『知っている』がおよそ6割。

【②ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）】では、『知っている』（59.4%、「知っている」＋「聞いたことがある」）が最も多く、次に『知らない』（36.4%）となっています。

経年比較でみると『知っている』（「知っている」＋「聞いたことがある」）が増加傾向にあります。

平成27年度以降、『知っている』が増加傾向にあります。平成27年度以降、『知らない』が減少傾向にあります。

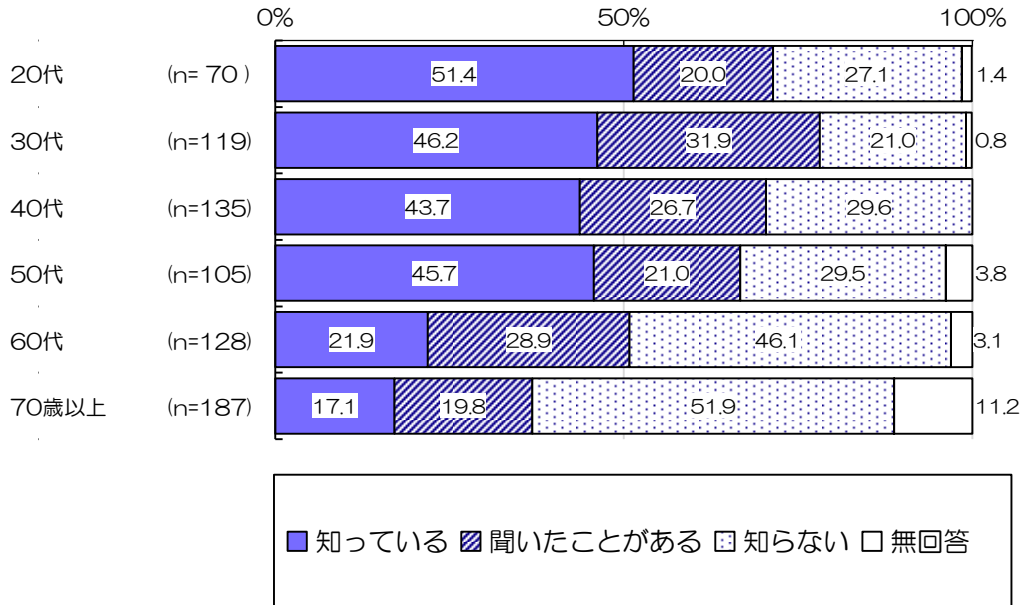


IV 調査結果

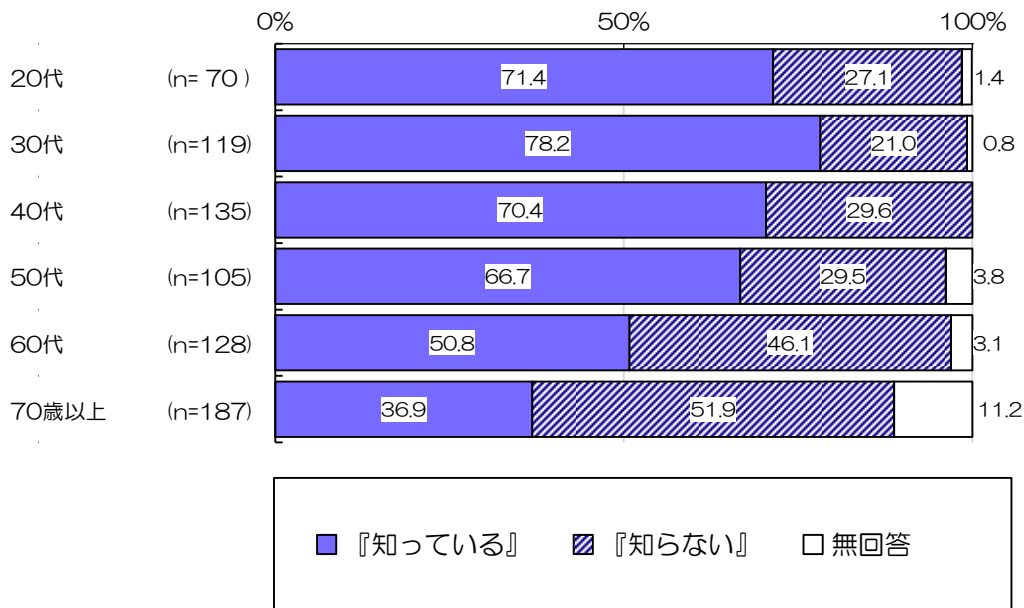
9 その他（男女共同参画関係）

1 男女共同参画社会に関する知識

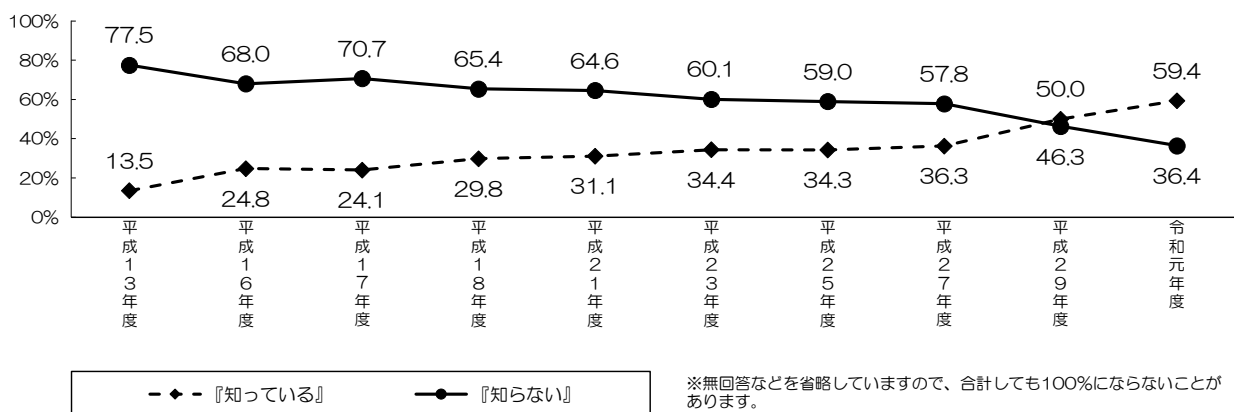
【年代別】



【年代別】



【経年比較】

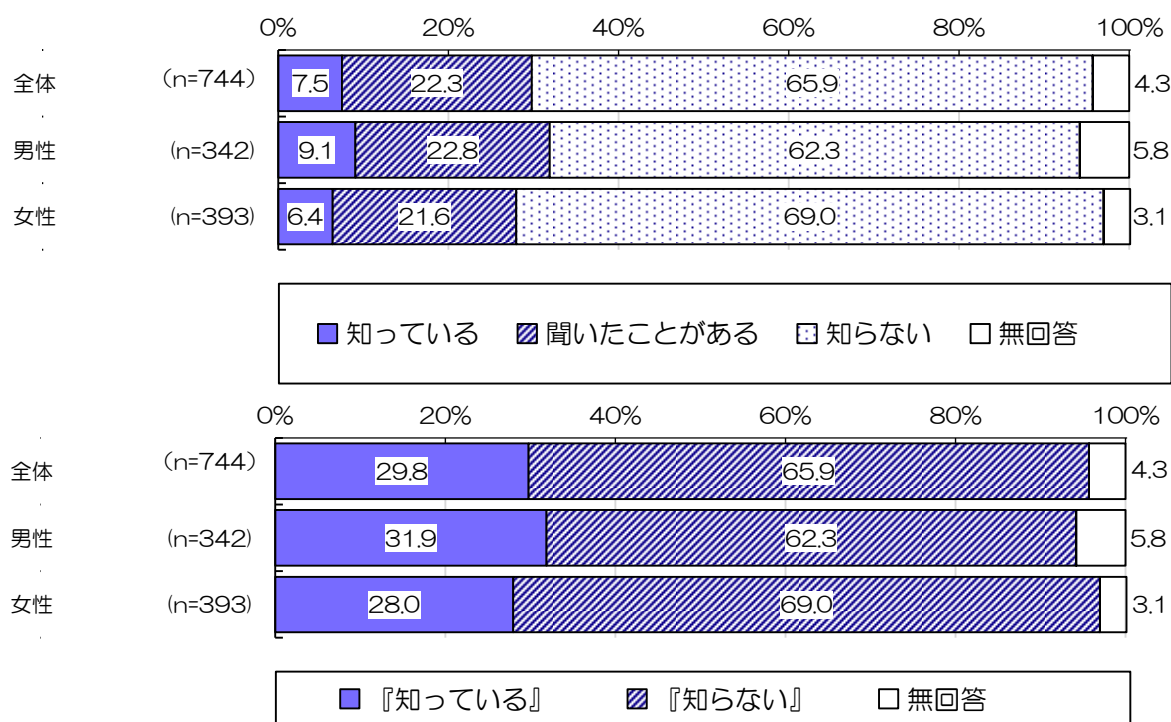




## ③ ポジティブ・アクション（積極的改善措置）

『知らない』が6割以上。

【③ポジティブ・アクション（積極的改善措置）】では、『知らない』（65.9%）が最も多く、次に『知っている』（29.8%、「知っている」＋「聞いたことがある」）となっています。

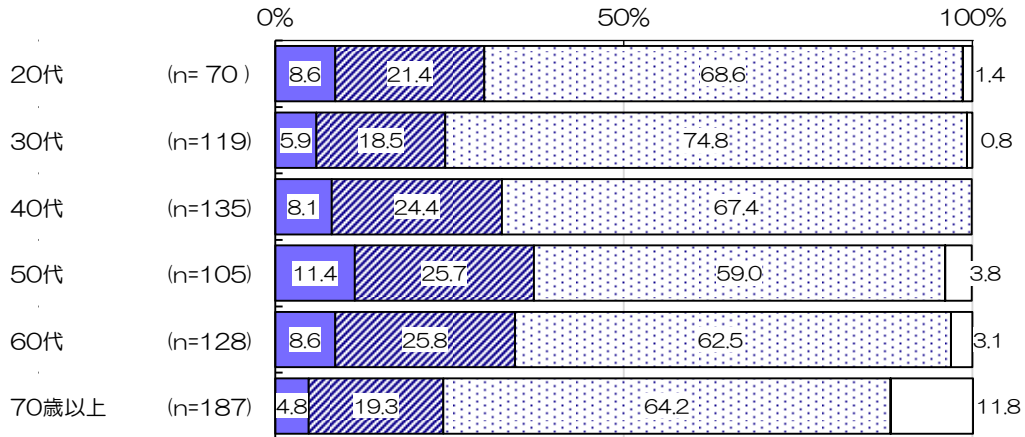


IV 調査結果

9 その他（男女共同参画関係）

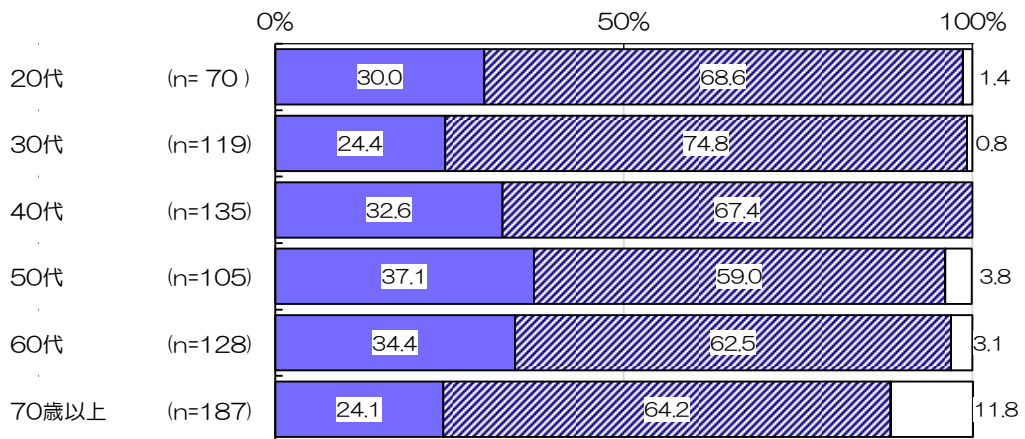
1 男女共同参画社会に関する知識

【年代別】



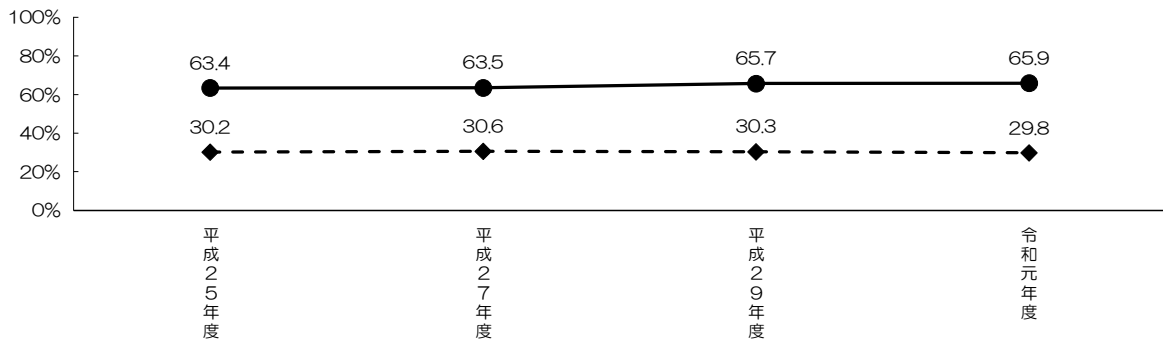
■ 知っている ■ 聞いたことがある ■ 知らない □ 無回答

【年代別】



■ 『知っている』 ■ 『知らない』 □ 無回答

【経年比較】



- ◆ - 『知っている』    ● - 『知らない』

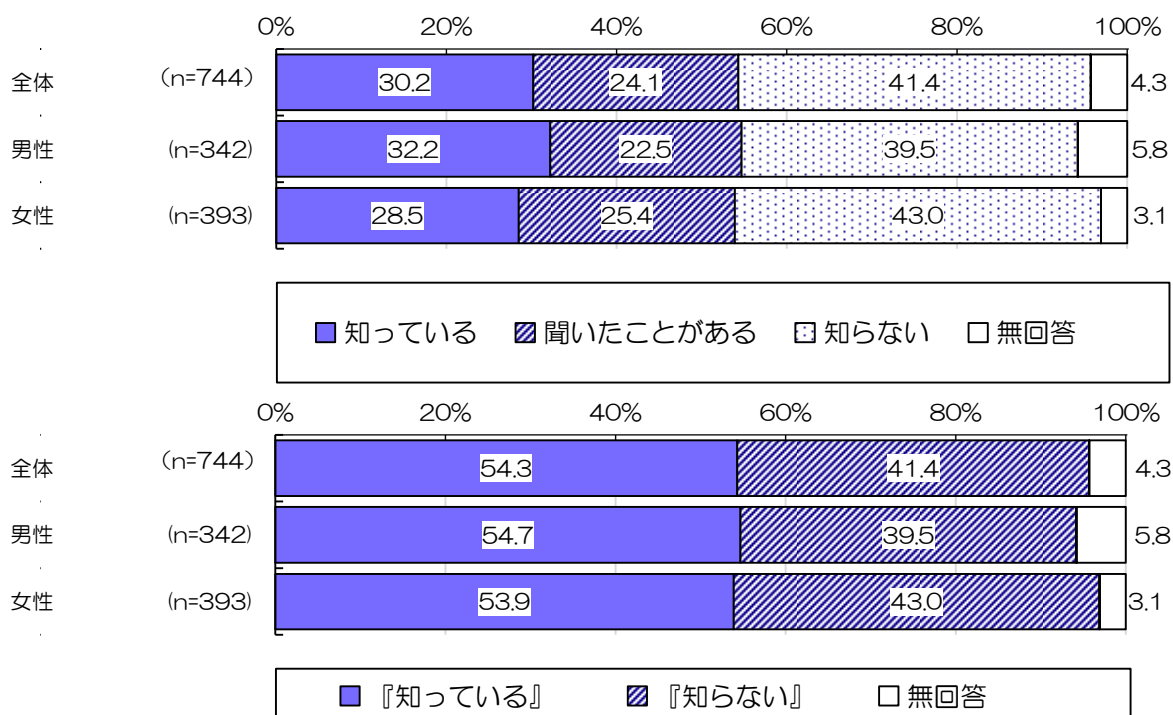
※無回答などを省略していますので、合計しても100%にならないことがあります。

## ④ ワーク・ライフ・バランス

『知っている』が5割以上。30代、40代、50代では『知っている』が6割以上。

【④ワーク・ライフ・バランス】では、『知っている』（54.3%、「知っている」＋「聞いたことがある」）が最も多く、次に『知らない』（41.4%）となっています。

平成25年度以降、『知っている』が増加傾向にあります。

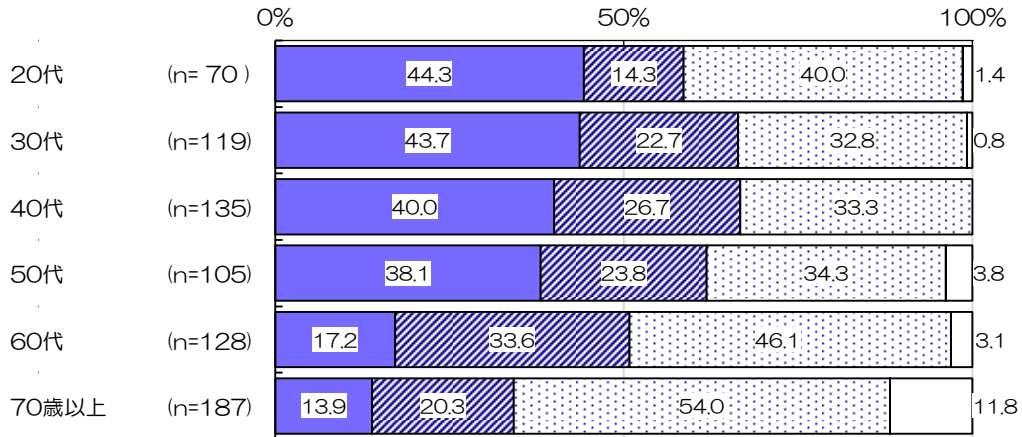


IV 調査結果

9 その他（男女共同参画関係）

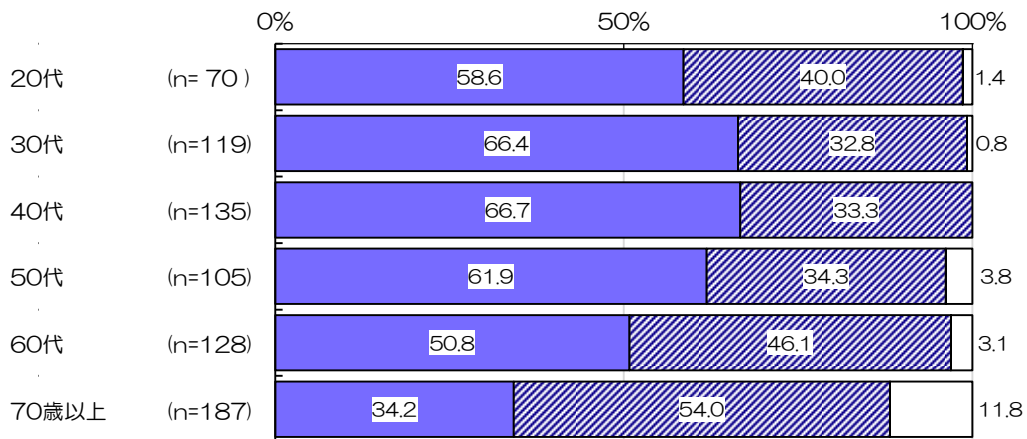
1 男女共同参画社会に関する知識

【年代別】



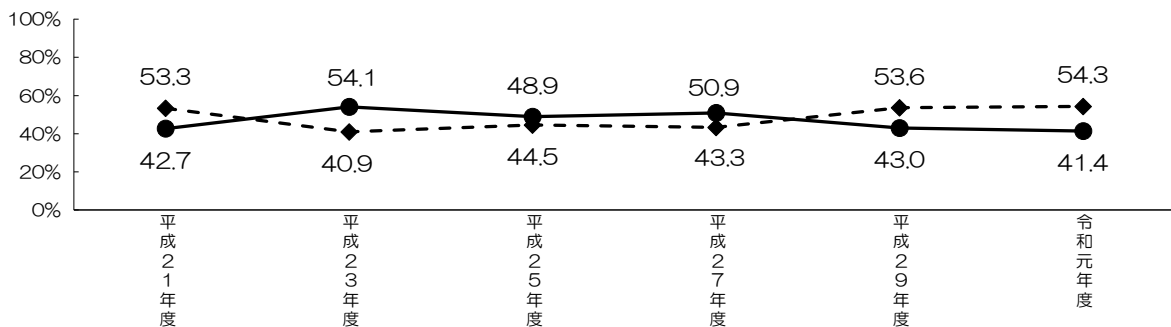
■ 知っている ■ 聞いたことがある ■ 知らない □ 無回答

【年代別】



■ 『知っている』 ■ 『知らない』 □ 無回答

【経年比較】



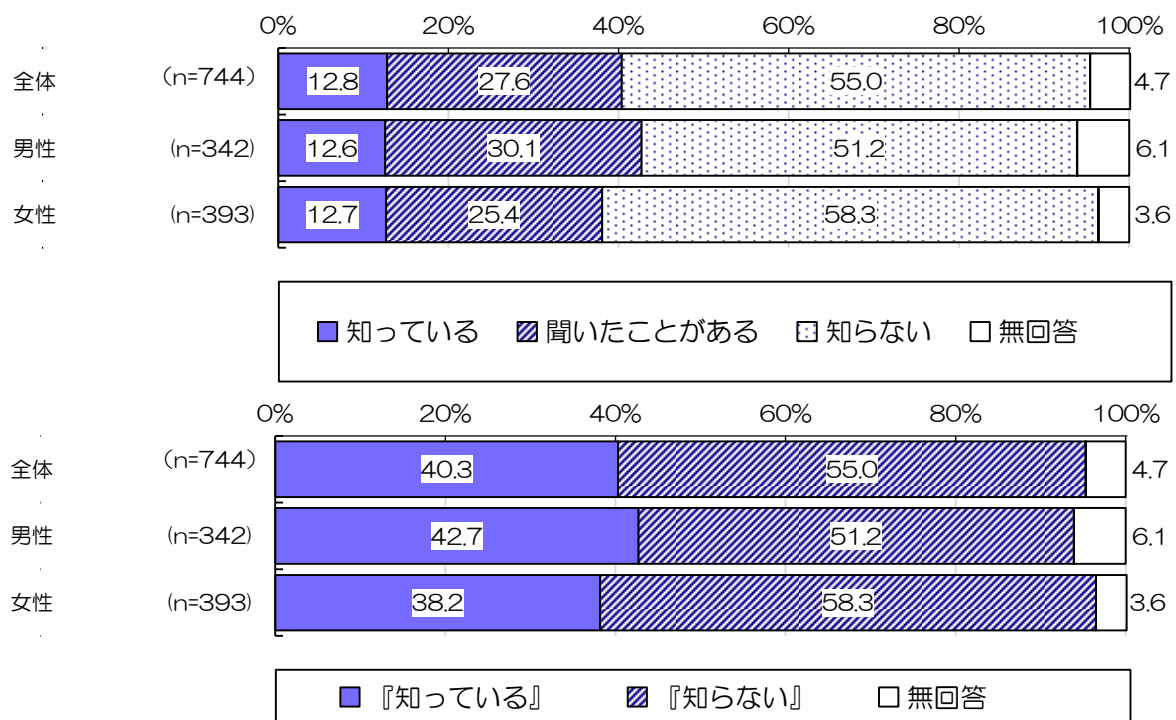
- ◆ - 『知っている』    ● 『知らない』

※無回答などを省略していますので、合計しても100%にならないことがあります。

## ⑤ 女性活躍推進法

『知らない』が5割以上。

【⑤女性活躍推進法】では、『知らない』（55.0%）が最も多く、次に『知っている』（40.3%、「知っている」+「聞いたことがある」）となっています。

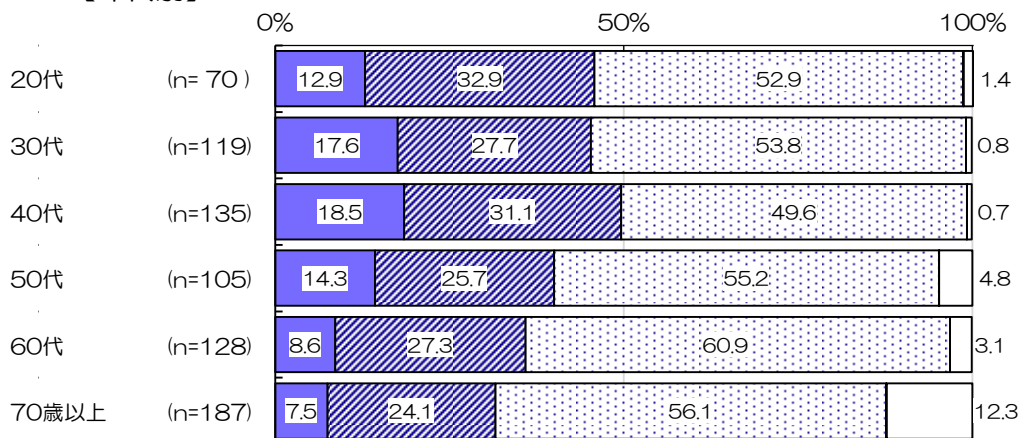


IV 調査結果

9 その他（男女共同参画関係）

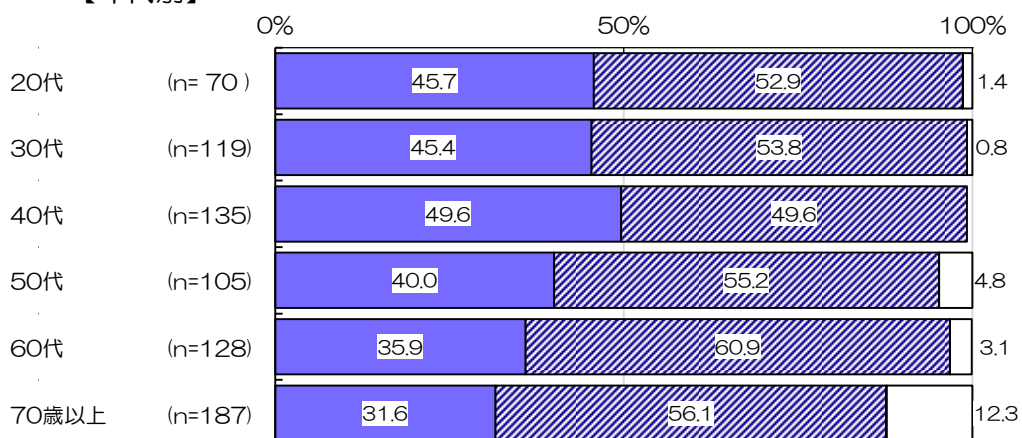
1 男女共同参画社会に関する知識

【年代別】



■ 知っている ■ 聞いたことがある ■ 知らない □ 無回答

【年代別】



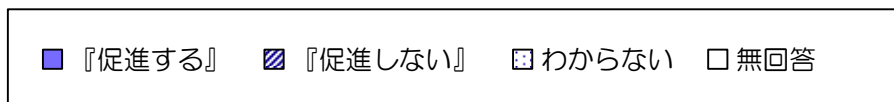
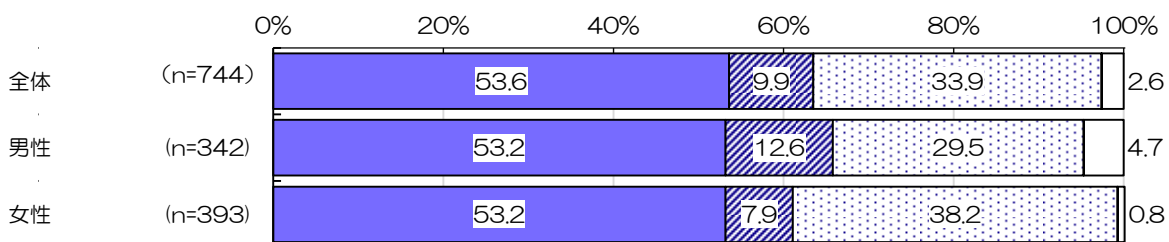
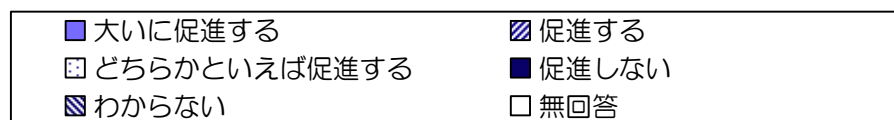
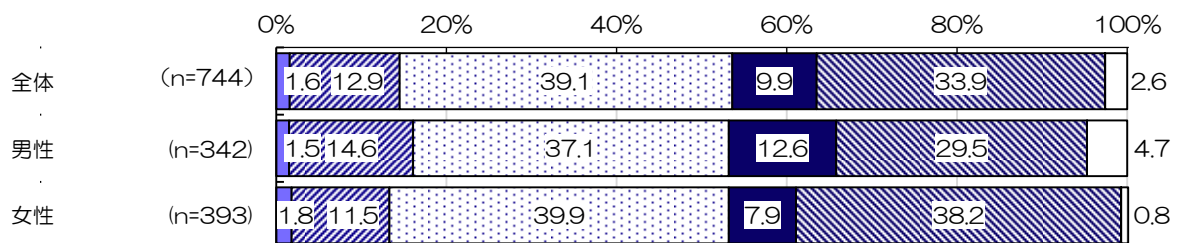
■ 『知っている』 ■ 『知らない』 □ 無回答

2 女性活躍推進法による今後の女性の活躍について

問24 国・地方公共団体や民間企業等に数値目標等の策定・公表を義務づけた女性活躍推進法により、今後、女性の活躍が促進すると思いますか。（1つに○）

『促進する』が5割以上。

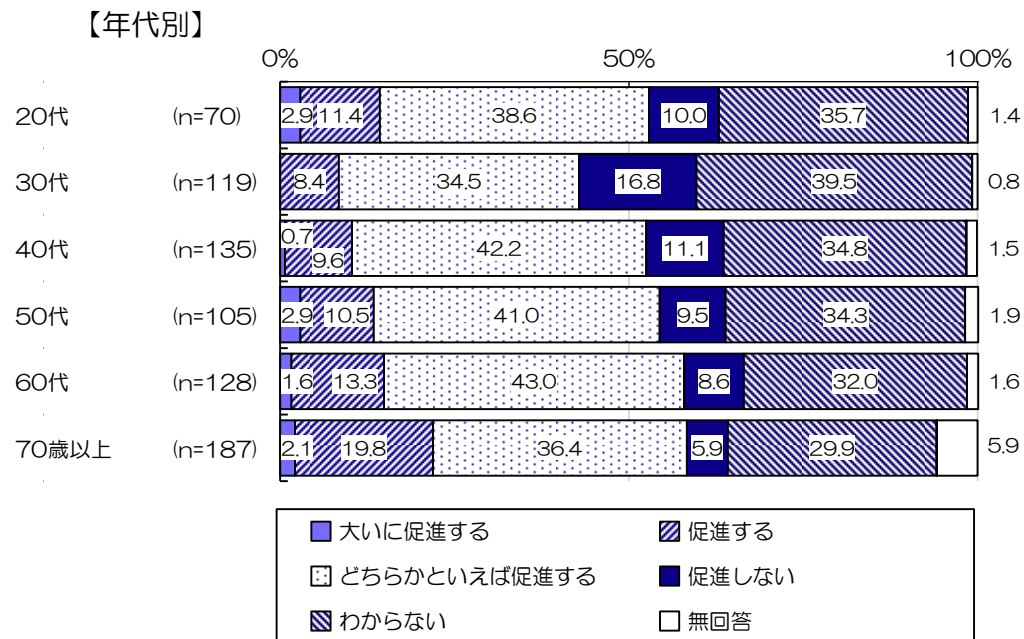
女性活躍推進法が女性の活躍を促進する程度についての認識では、『促進する』（53.6%、「大いに促進する」+「促進する」+「どちらかといえば促進する」）が最も多くなっています。



IV 調査結果

9 その他（男女共同参画関係）

2 女性活躍推進法による今後の女性の活躍について





## 3 男女共同参画社会の実現のために重要な取組

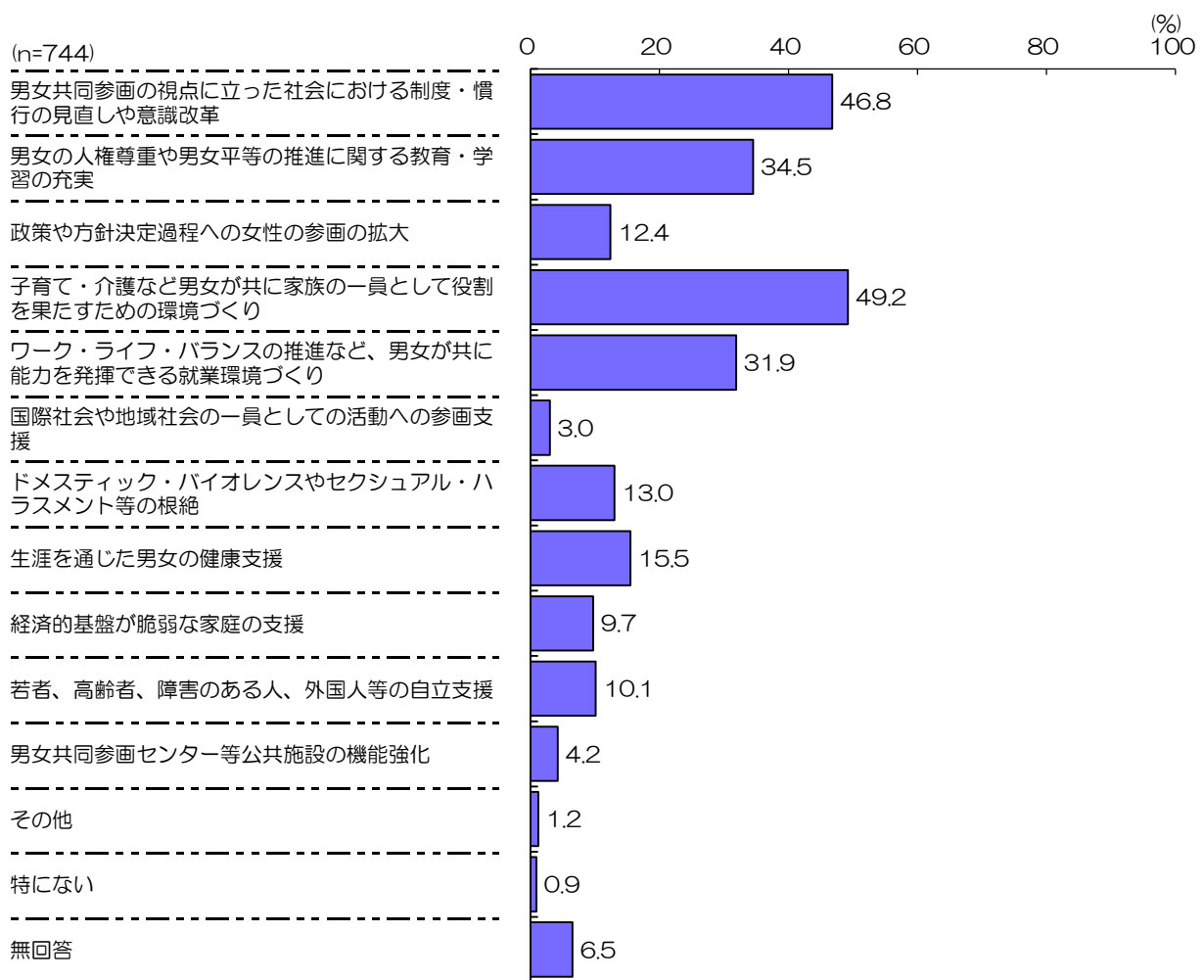
問25 男女共同参画社会の実現に向けて、重要だと思われる取組は何だと思いますか。

（3つまでに○）

「子育て・介護など男女が共に家族の一員として役割を果たすための環境づくり」、「男女共同参画の視点に立った社会における制度・慣行の見直しや意識改革」が4割以上。

男女共同参画を実現するために重要なことでは、「子育て・介護など男女が共に家族の一員として役割を果たすための環境づくり」（49.2%）が最も多く、次に「男女共同参画の視点に立った社会における制度・慣行の見直しや意識改革」（46.8%）、「男女の人権尊重や男女平等の推進に関する教育・学習の充実」（34.5%）、「ワーク・ライフ・バランスの推進など、男女が共に能力を發揮できる就業環境づくり」（31.9%）、「生涯を通じた男女の健康支援」（15.5%）となっています。

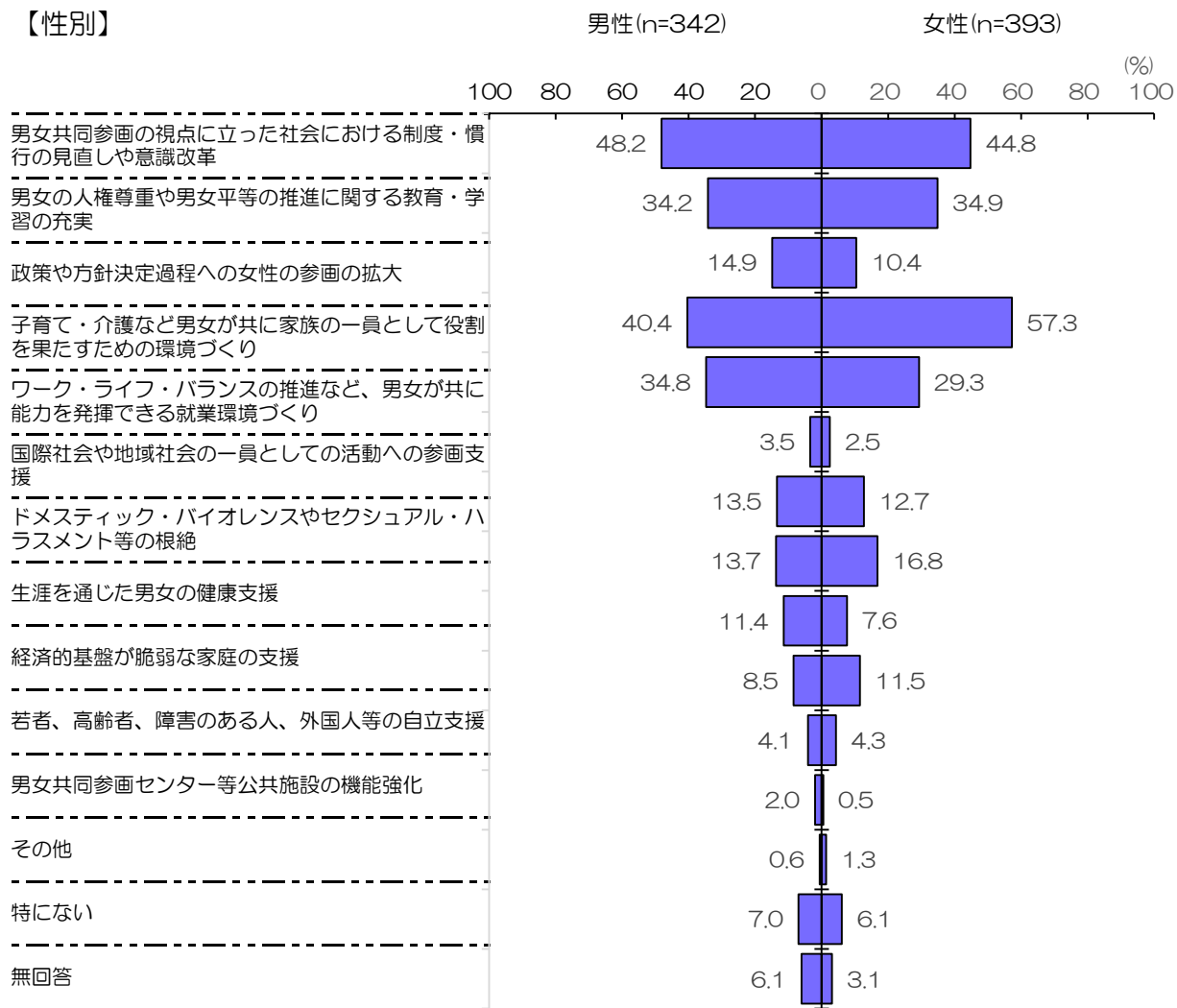
平成27年度以降、「政策や方針決定過程への女性の参画の拡大」がやや減少傾向にあります。



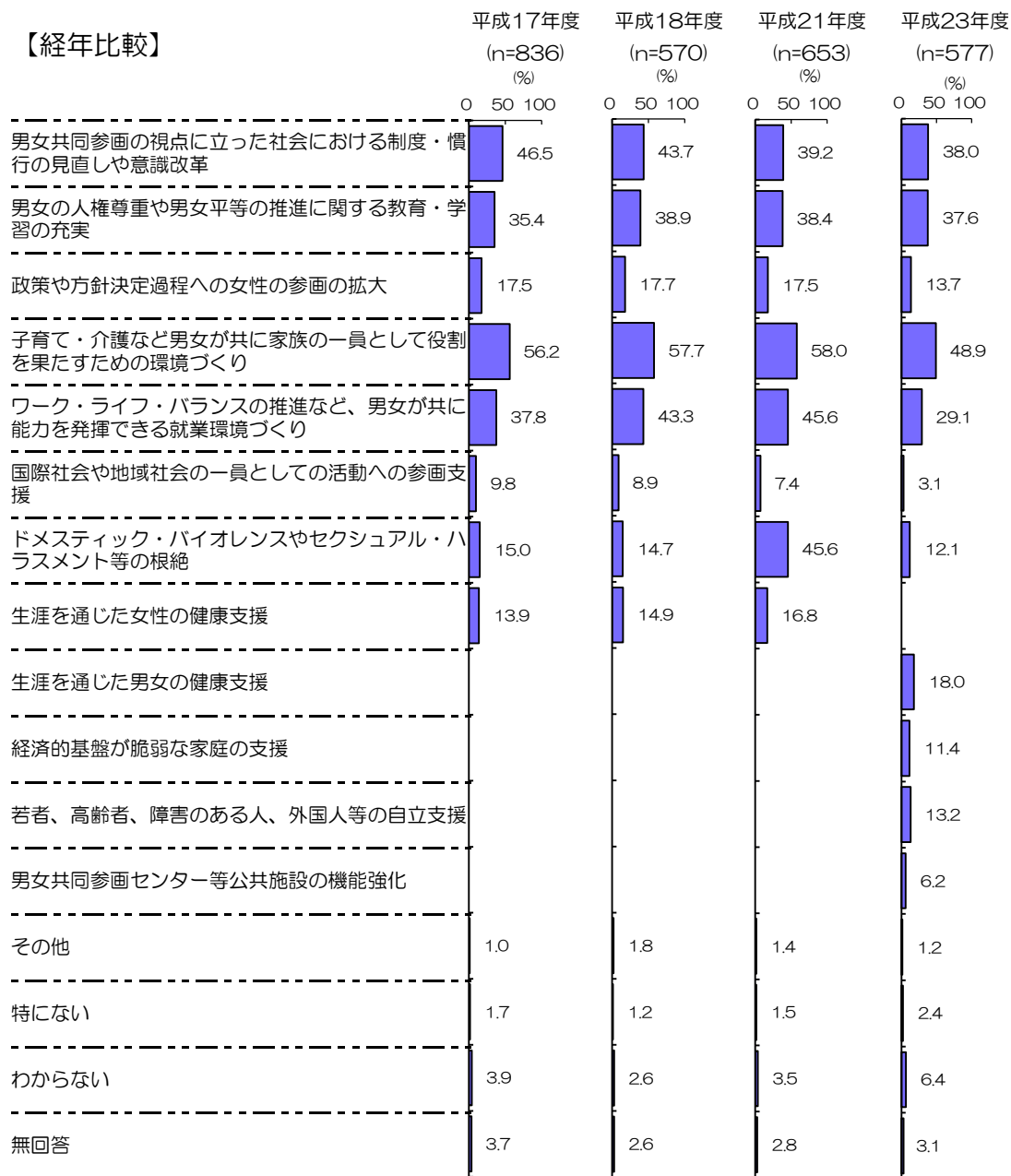
IV 調査結果

9 その他（男女共同参画関係）

3 男女共同参画社会の実現のために重要な取組



## 3 男女共同参画社会の実現のために重要な取組

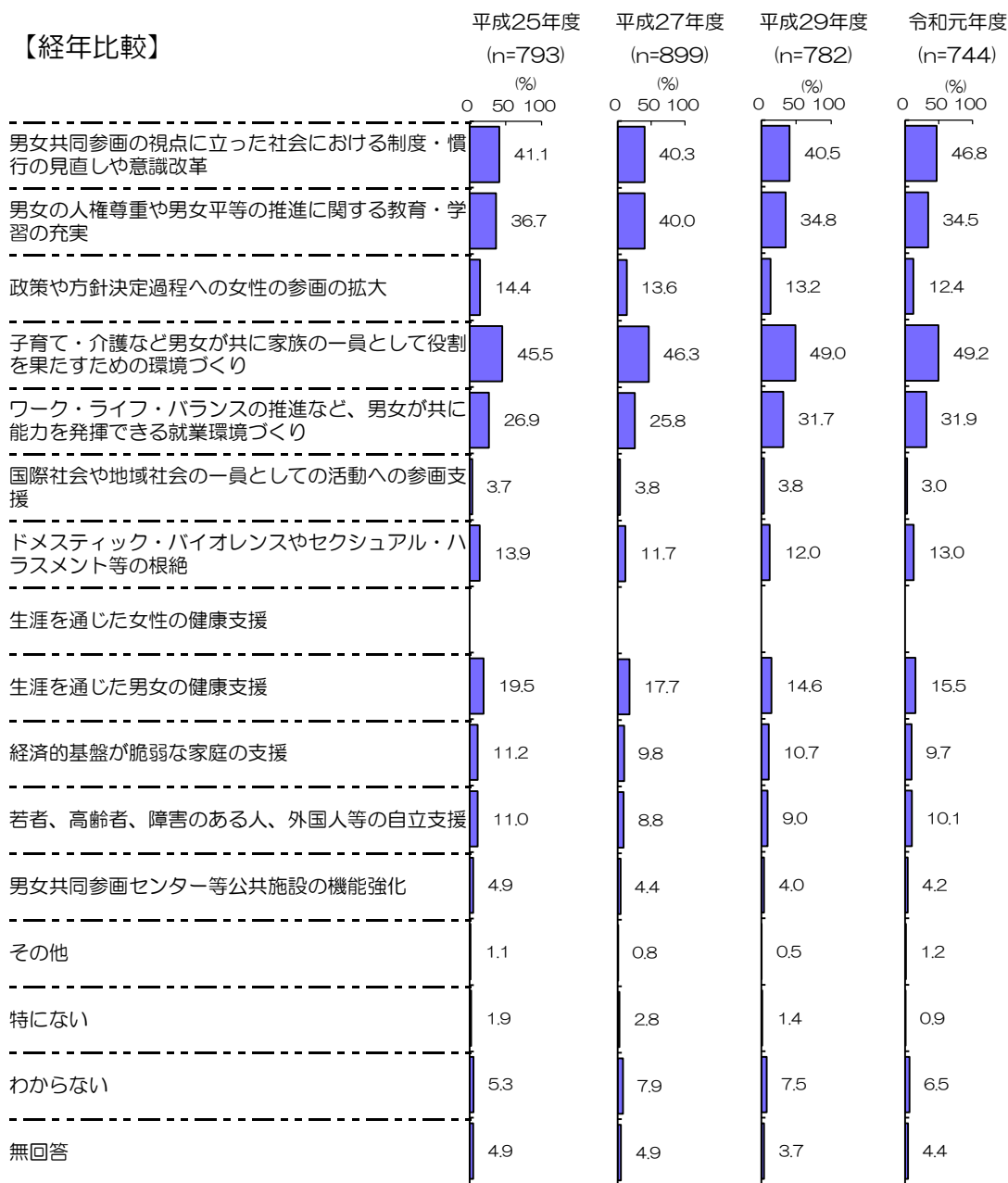


※「生涯を通じた女性の健康支援」は平成23年度より「生涯を通じた男女の健康支援」に変更  
 ※「経済的基盤が脆弱な家庭の支援」、「若者、高齢者、障害のある人、外国人等の自立支援」、「男女共同参画センター等公共施設の機能強化」は平成23年度より追加

IV 調査結果

9 その他（男女共同参画関係）

3 男女共同参画社会の実現のために重要な取組



※「生涯を通じた女性の健康支援」は平成23年度より「生涯を通じた男女の健康支援」に変更  
 ※「経済的基盤が脆弱な家庭の支援」、「若者、高齢者、障害のある人、外国人等の自立支援」、「男女共同参画センター等公共施設の機能強化」は平成23年度より追加